

令和4年度

墨田区介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

墨田区在宅介護実態調査 報告書

令和5年3月

墨田区

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3
(1) 調査の設計	3
(2) 調査項目	3
(3) 回収結果	3
3. 在宅介護実態調査	4
(1) 調査の設計	4
(2) 調査項目	4
(3) 回収結果	4
4. 報告書を利用するにあたって	5
第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	7
1. 基本属性	9
(1) 調査票の記入者	9
(2) 性別	9
(3) 年齢	10
(4) 要支援認定の状況	10
2. 家族や生活状況について	11
(1) 家族構成	11
(2) 介護・介助の状況	11
(3) 生活の状況	14
3. からだを動かすことについて	16
(1) 運動器機能リスク該当者	16
(2) 転倒リスク該当者	17
(3) 閉じこもりリスク該当者	18
(4) 外出の状況	19
4. 食べることについて	24
(1) 低栄養状態リスク該当者	24
(2) 口腔機能リスク該当者	25
(3) 歯の状況	26
(4) 孤食の状況	28
5. 毎日の生活について	29
(1) 認知症リスク該当者	29
(2) 手段的日常生活動作（IADL）	30
(3) 知的能動性の状況	31
(4) 社会的役割の状況	31
(5) 老研式活動能力指標を用いた総合評価	32
(6) 趣味や生きがいについて	33
(7) スマートフォン（スマホ）やパソコンの利用について	35
(8) 収入と介護保険サービス・介護保険料	38
(9) コロナ禍による生活の変化	40

6. 地域での活動について.....	41
(1) 地域活動への参加状況.....	41
(2) 地域活動への参加時間・場所.....	45
(3) 地域活動へ参加していない理由.....	47
(4) 地域づくりへの参加意向.....	48
7. たすけあいについて.....	49
(1) 情緒的支援者.....	49
(2) 手段的支援者.....	51
(3) 家族や友人・知人以外の相談相手.....	53
(4) 友人・知人.....	54
8. 健康について.....	56
(1) 主観的健康感.....	56
(2) 主観的幸福感.....	56
(3) うつリスク該当者.....	57
(4) 飲酒と喫煙の状況.....	58
(5) 現在治療中、または後遺症のある病気.....	59
9. 認知症について.....	61
(1) 本人または家族の認知症の有無.....	61
(2) 認知症に関する相談窓口の認知度.....	61
(3) 認知症の症状のある人にとっての地域の住みやすさ.....	62
(4) 成年後見制度の認知度.....	62
10. 住まいについて.....	63
(1) 住まいや住環境で困っていること.....	63
(2) 住まいの建築時期.....	65
(3) 風呂について困っていること.....	66
(4) 公衆浴場を利用する際に困っていること.....	68
(5) 公衆浴場を利用するにあたり希望すること.....	69
11. 地域のつながりについて.....	70
(1) 地域のつながり.....	70
(2) 地域活動や支え合い活動への参加状況.....	71
12. 地域で受けている手助けについて.....	77
(1) 現在受けている手助け.....	77
(2) 受けたいと思う手助け.....	79
13. 災害時や緊急時の避難、急病時の対応について.....	83
(1) 災害時や緊急時の避難の可否.....	83
(2) 災害時や緊急時の避難、急病時に手助けを頼める人.....	84
(3) 「救急医療情報キット」配布の認知度.....	85
14. 今後の生活について.....	86
(1) 「かかりつけ医」「かかりつけ歯科医」「かかりつけ薬剤師」の有無.....	86
(2) 在宅医療の認知度.....	87
(3) 介護予防教室や活動への参加頻度.....	90
(4) 参加してみたい介護予防活動.....	94
(5) 今後介護が必要になった際の生活場所.....	95
(6) 特別養護老人ホームなどの施設に入所することになった場合に重要視する点.....	96
(7) 在宅療養について.....	97
(8) 人生の最終段階に受けたい医療やケアの相談状況.....	99

(9) 人生会議 ACP の認知度	100
第3章 在宅介護実態調査	101
1. 基本属性	103
(1) 調査票の記入者	103
(2) 本人の性別	103
(3) 本人の年齢	104
(4) 本人の居住地区	104
(5) 要支援・要介護認定の状況	104
(6) 世帯類型	105
2. 本人の介護等の状況について	106
(1) 受けている介護の頻度	106
(2) 主な介護者について	108
(3) サービスの利用状況等について	113
(4) 人生の最終段階で受きたい医療やケアについて	121
(5) 介護保険サービスと介護保険料についての考え方	125
(6) 風水害発生時の避難行動想定について	127
3. 主な介護者の介護の継続性について	130
(1) 就労の有無及び現在の勤務形態	130
(2) 働き方の調整等の実施状況	131
(3) 仕事と介護の両立に有効な勤め先からの支援策	132
(4) 働きながらの介護の継続見込	133
(5) 主な介護者が不安に感じる介護等	134
(6) 在宅介護の負担を軽減する援助サービス等の利用状況	136
第4章 自由回答のまとめ	137
1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	139
2. 在宅介護実態調査	145
使用した調査票	149

第1章

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和5年度に策定を予定している「墨田区高齢者福祉総合計画・第9期介護保険事業計画」の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

(1) 調査の設計

本調査は、厚生労働省が提示した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」を基に実施した。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、令和4年10月現在、区内に在住する65歳以上の高齢者を対象に、厚生労働省の示す調査項目に区独自の調査項目を加えて実施した。

①調査対象者

調査対象者数は、日常生活圏域ごとに各500人とし、合計4,000人である。このうち要支援・要介護認定を受けていない高齢者は3,760人、要支援1・要支援2の認定者は各120人である。

■調査対象者数

(単位：人)

認定なし	要支援1	要支援2	合計
3,760	120	120	4,000

②抽出方法

65歳以上の要支援・要介護認定を受けていない高齢者は、住民基本台帳から無作為抽出した。
要支援認定者は、介護保険台帳から無作為抽出した。

③調査方法

郵送配布・郵送回収又はインターネット回答(礼状形式の督促1回実施)

④調査時期

令和4年10月3日(月)～10月17日(月)

(2) 調査項目

厚生労働省の調査項目 (オプション項目を含む64問)	区独自の調査項目 (53問)
<ul style="list-style-type: none">○家族や生活状況について○からだを動かすことについて○食えることについて○毎日の生活について○地域での活動について○たすけあいについて○健康について○認知症にかかる相談窓口について	<ul style="list-style-type: none">○家族や生活状況について○毎日の生活について○地域での活動について○認知症について○住まいについて○地域のつながりについて○地域での手助けについて○災害時や緊急時の避難、急病時の対応について○今後の生活について

(3) 回収結果

回収結果は、以下のとおりである。

■回収結果

配布数 A	有効回収数 B	有効回収率 C(B/A)
4,000	2,399	60.0%

有効回収数のうちインターネット回答数104件

3. 在宅介護実態調査

(1) 調査の設計

本調査は、要介護者の方の在宅生活の継続や、介護者の方の就労継続に有効なサービスのあり方を検討することを目的として、厚生労働省が提示した「在宅介護実態調査実施のための手引き」に基づき実施した。

① 調査対象者

要支援・要介護認定を受けている区民のうち、在宅で生活しており、かつ、令和4年4月以後に更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた方

② 抽出方法

介護保険課が保有する認定情報を用いて調査対象者要件に該当する方を1,200人抽出

③ 調査方法

郵送配布・郵送回収（未回収者に対して督促1回実施）

④ 調査期間

令和4年10月3日(月)～10月17日(月)

(2) 調査項目

厚生労働省の示す基本調査項目及びオプション調査項目から19問を選択し、これに墨田区の独自調査項目を9問加えた。

	厚生労働省項目 (19問(オプション項目含む))	区独自調査項目 (9問)
調査票A票 本人の概況	<input type="checkbox"/> 世帯類型について <input type="checkbox"/> 受けている介護の頻度について <input type="checkbox"/> 施設等への入所・入居の検討状況について <input type="checkbox"/> 介護保険サービスの利用状況について	<input type="checkbox"/> 人生の最終段階で受けたい医療やケアについて <input type="checkbox"/> 介護保険サービスと介護保険料について <input type="checkbox"/> 風水害発生時の避難想定について
調査票B票 主な介護者の就労状況	<input type="checkbox"/> 介護者の勤務形態について <input type="checkbox"/> 働きながらの介護の継続性について <input type="checkbox"/> 介護者が不安に感じる介護について	<input type="checkbox"/> 在宅介護の負担を軽減する援助サービス等の利用状況について

(3) 回収結果

回収結果は、以下のとおりである。

配布数 A	有効回収数 B	有効回収率 C(B/A)
1,200	669	55.8%

4. 報告書を利用するにあたって

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査における図・表中の n とは、基数となる実数のことである。
- 回答はn、回答事業所数を 100%として百分率で算出してある。小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- 図・表中の－は回答者が皆無のものである。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。
- 属性別のクロス集計結果は、回答者の属性が無回答の場合は除外して表示しているため、属性別の人数の合計が回答者の総数と一致しないことがある。
- 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。
- 地区別の分析にあたっては、次の高齢者支援総合センターの担当地区(日常生活圏域)とした。

■高齢者支援総合センターの担当地区

高齢者支援総合センター名	担当地区(日常生活圏域)
みどり	両国、千歳、緑、立川、菊川、江東橋
同愛	横網、亀沢、石原、本所、東駒形、吾妻橋
なりひら	錦糸、太平、横川、業平
こうめ	向島、押上
むこうじま	東向島一、二、三、五、六丁目、京島
うめわか	堤通、墨田、東向島四丁目
ぶんか	文花、立花
八広はなみずき	八広、東墨田

第2章

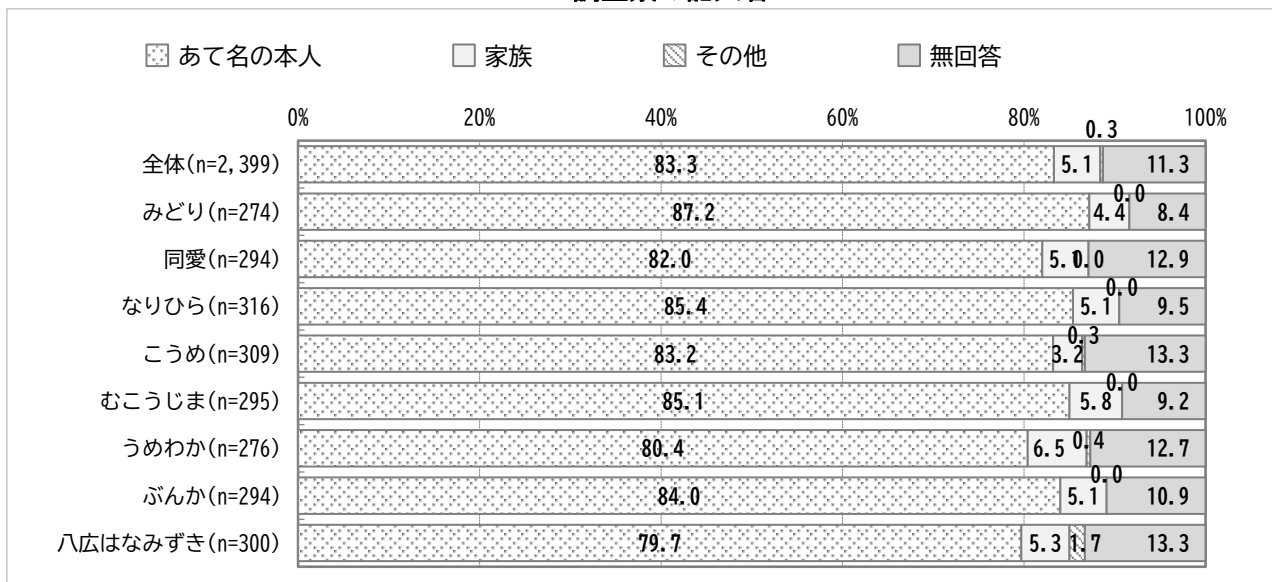
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 基本属性

(1) 調査票の記入者

調査票の記入者は、「あて名の本人」が 83.3%、「家族」が 5.1%、「その他」が 0.3%となっている。地区別にみると、「あて名の本人」では、みどり地区(87.2%)が最も多い。

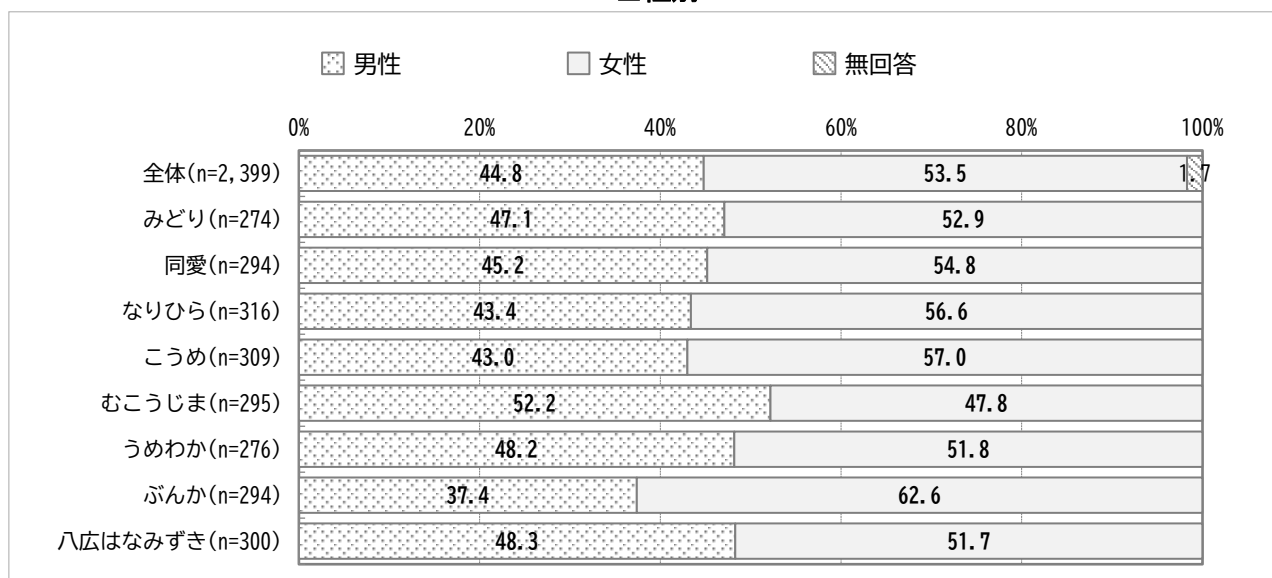
■調査票の記入者



(2) 性別

性別は、「男性」が 44.8%、「女性」が 53.5%となっている。地区別にみると、「男性」では、むこうじま地区(52.2%)、「女性」では、ぶんか地区(62.6%)が最も多い。

■性別

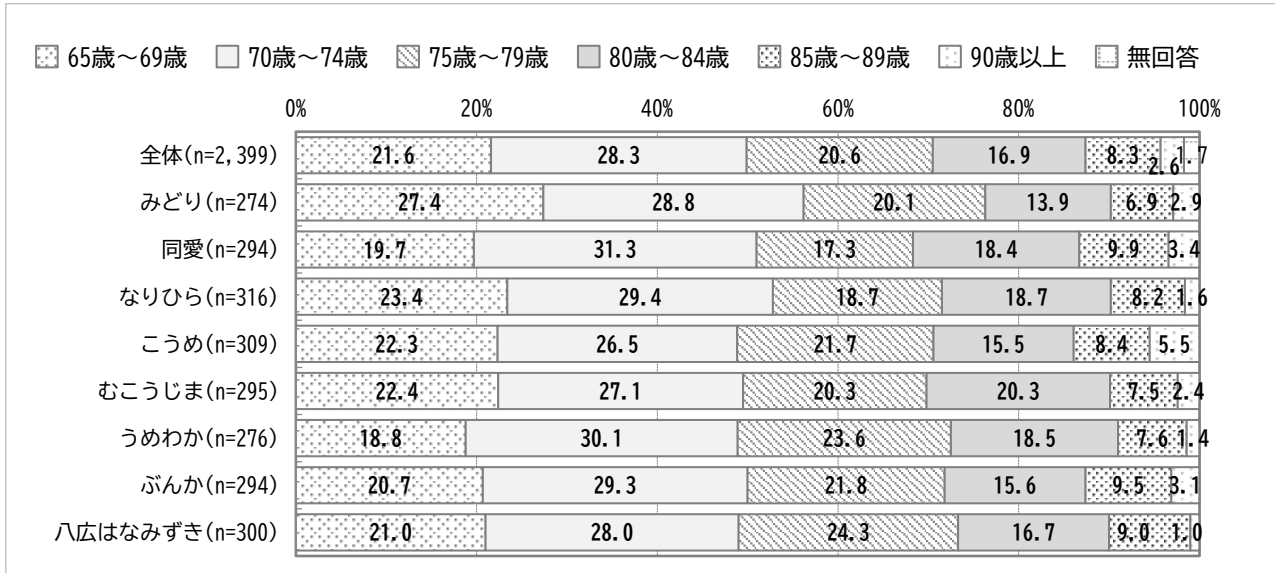


(3) 年齢

年齢は、「70～74歳」が28.3%で最も多く、次いで「65～69歳」が21.6%、「75～79歳」が20.6%、「80～84歳」が16.9%、「85～89歳」が8.3%、「90歳以上」が2.6%となっている。また、年齢を“65～74歳”“75～84歳”“85歳以上”の3区分とすると、“65～74歳”が49.9%、“75～84歳”が37.5%、“85歳以上”が10.9%となっている。

地区別にみると、「70～74歳」では、同愛地区(31.3%)が最も多い。

■年齢

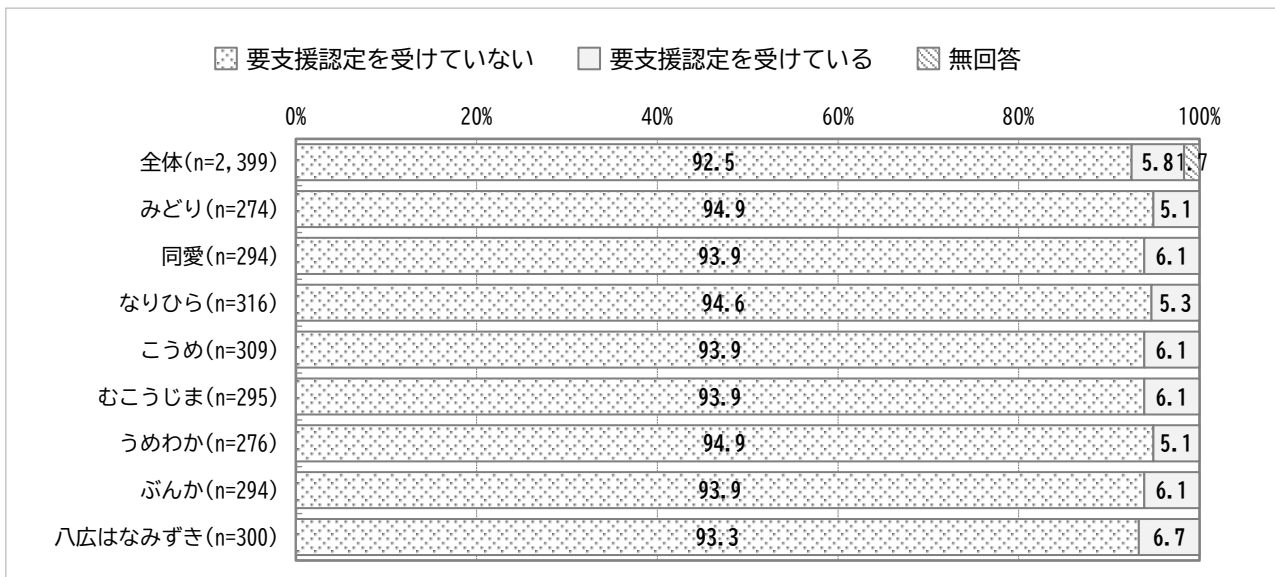


(4) 要支援認定の状況

要支援認定の状況は、「要支援認定を受けていない」が92.5%、「要支援認定を受けている」が5.8%となっている。

地区別にみると、「要支援認定を受けている」では、八広はなみずき地区(6.7%)が最も多く、みどり地区とうめわか地区(それぞれ5.1%)が最も少ない。

■要支援認定の状況

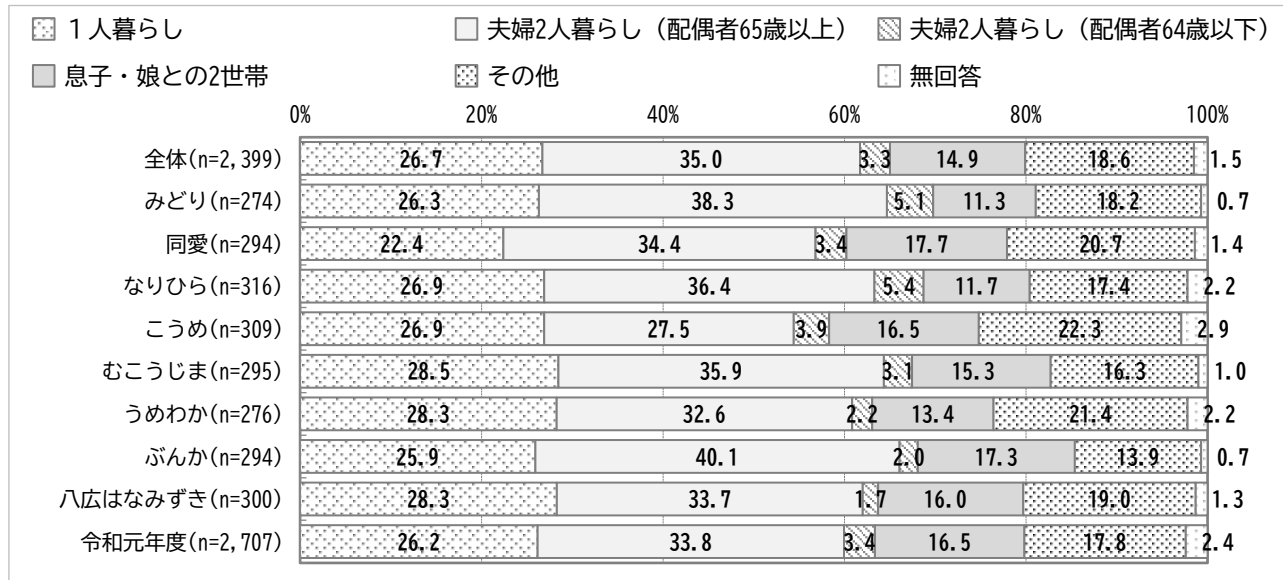


2. 家族や生活状況について

(1) 家族構成

家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 35.0%で最も多く、「夫婦2人暮らし(配偶者 64 歳以下)」(3.3%)と回答した人も含めると、「夫婦2人暮らし」が 38.3%を占めている。次いで「1人暮らし」が 26.7%、「息子・娘との2世帯」が 14.9%となっている。令和元年度と概ね同様の構成となっている。
地区別にみると、すべての地区で「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が最も多い。

■家族構成



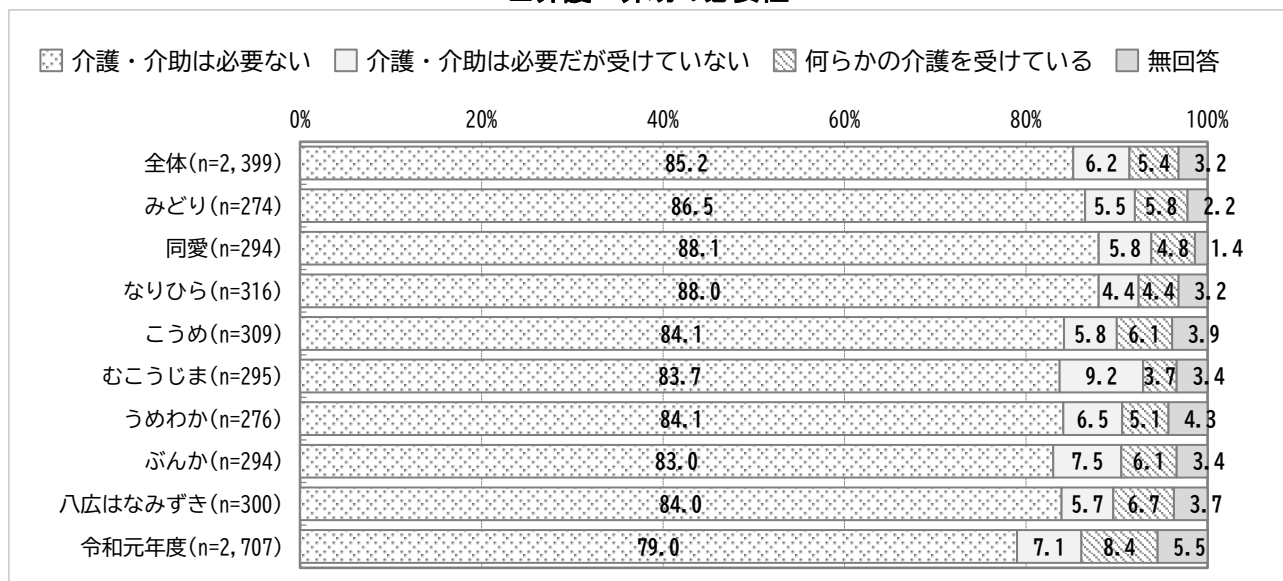
(2) 介護・介助の状況

①介護・介助の必要性

介護・介助の必要性は、「介護・介助は必要ない」が 85.2%で最も多く、「介護・介助は必要だが受けていない」と「何らかの介護を受けている」を合わせた「介護・介助が必要である」と回答した人が 11.6%となっている。対象者に占める要支援1・2の割合が令和元年度 12.0%に対して、今回は国の示す手引きに従い 6.0%に変更したため、「介護・介助が必要である」が令和元年度の 15.5%より 3.9ポイント減少した。

地区別にみると、「介護・介助が必要である」では、ぶんか地区(13.6%)が最も多い。

■介護・介助の必要性

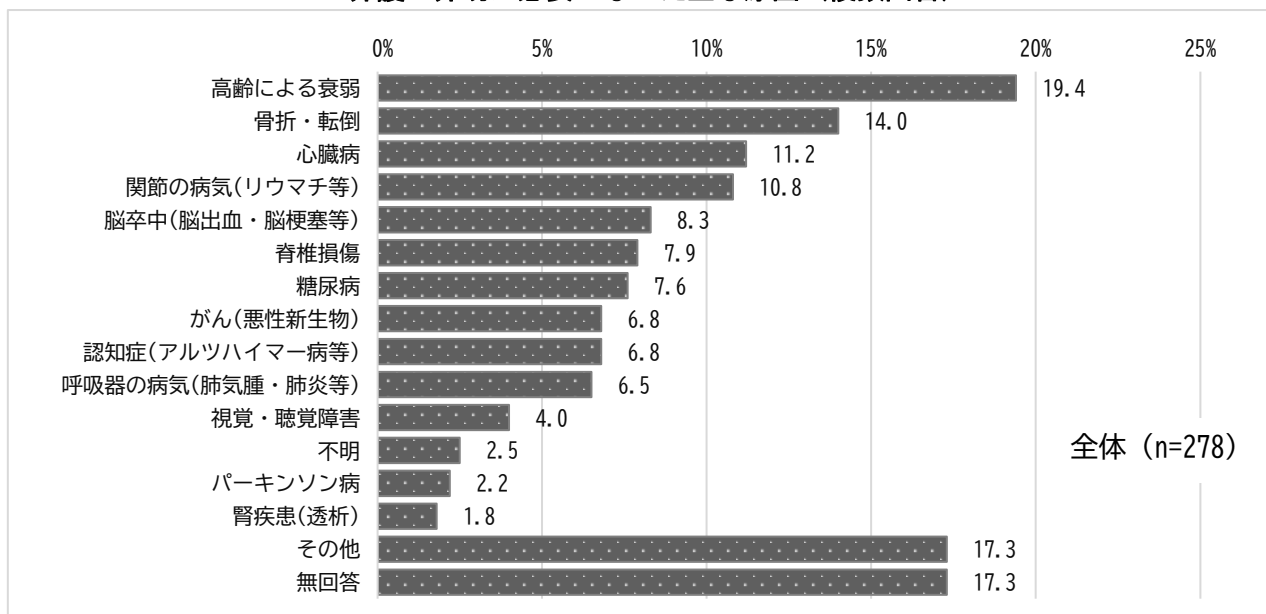


②介護・介助が必要になった主な原因

「介護・介助が必要である」と回答した人の介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」が19.4%で最も多く、次いで、「その他」が17.3%、「骨折・転倒」が14.0%、「心臓病」が11.2%となっている。「その他」については、メニエール病、脊髄小脳変性症、脊柱管狭窄症、歩行困難等であった。

性別にみると、男性では「高齢による衰弱」(20.0%)、「その他」(14.4%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(13.6%)、女性では「その他」(19.5%)、「高齢による衰弱」(18.8%)、「骨折・転倒」(16.8%)の順となっている。

■介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）



■介護・介助が必要になった主な原因（性別）

(単位:%)

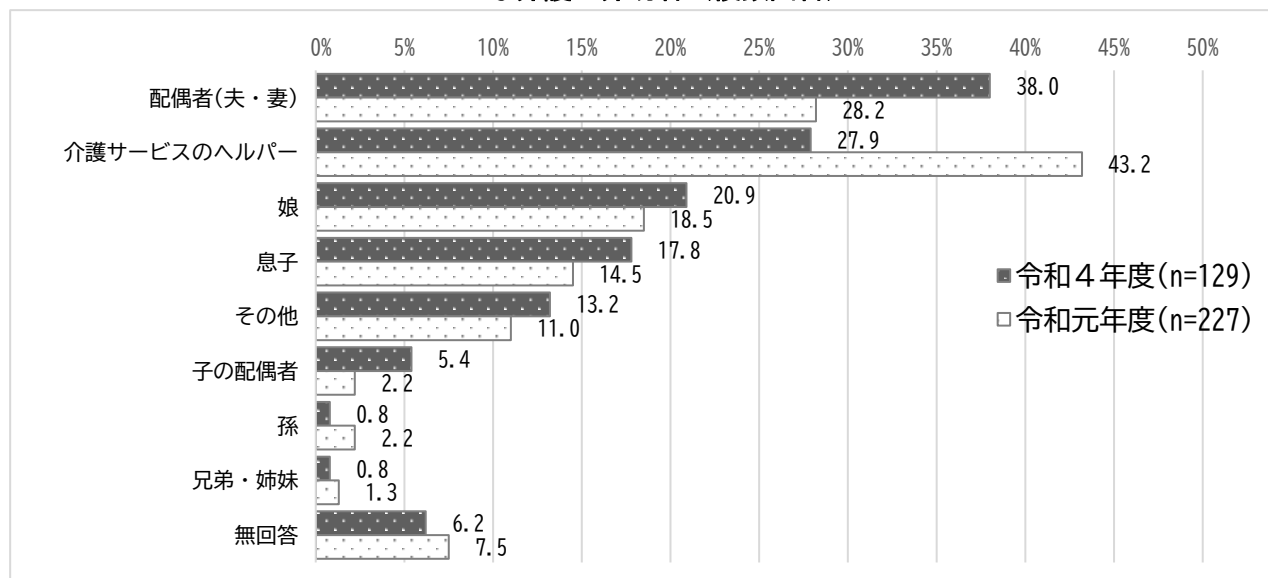
区分	回答者数(人)	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	心臓病	がん(悪性新生物)	呼吸器の病気 (肺気腫・肺炎等)	関節の病気(リウマチ等)	認知症 (アルツハイマー病等)	パーキンソン病
全体	278	8.3	11.2	6.8	6.5	10.8	6.8	2.2
男性	125	13.6	12.8	8.0	7.2	9.6	8.0	1.6
女性	149	4.0	9.4	6.0	6.0	12.1	6.0	2.7

区分	糖尿病	腎疾患 (透析)	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明
全体	7.6	1.8	4.0	14.0	7.9	19.4	17.3	2.5
男性	8.8	2.4	4.8	10.4	8.8	20.0	14.4	2.4
女性	6.7	1.3	3.4	16.8	6.7	18.8	19.5	2.7

③主な介護・介助者

“現在、何らかの介護を受けている”と回答した人の主な介護・介助者は、「配偶者(夫・妻)」が38.0%で最も多く、次いで、「介護サービスのヘルパー」が27.9%、「娘」が20.9%、「息子」が17.8%となっている。令和元年度調査と比較すると、「介護サービスのヘルパー」が減少し、「配偶者(夫・妻)」が増加した。

■主な介護・介助者（複数回答）



■主な介護・介助者（地区別）

(単位:%)

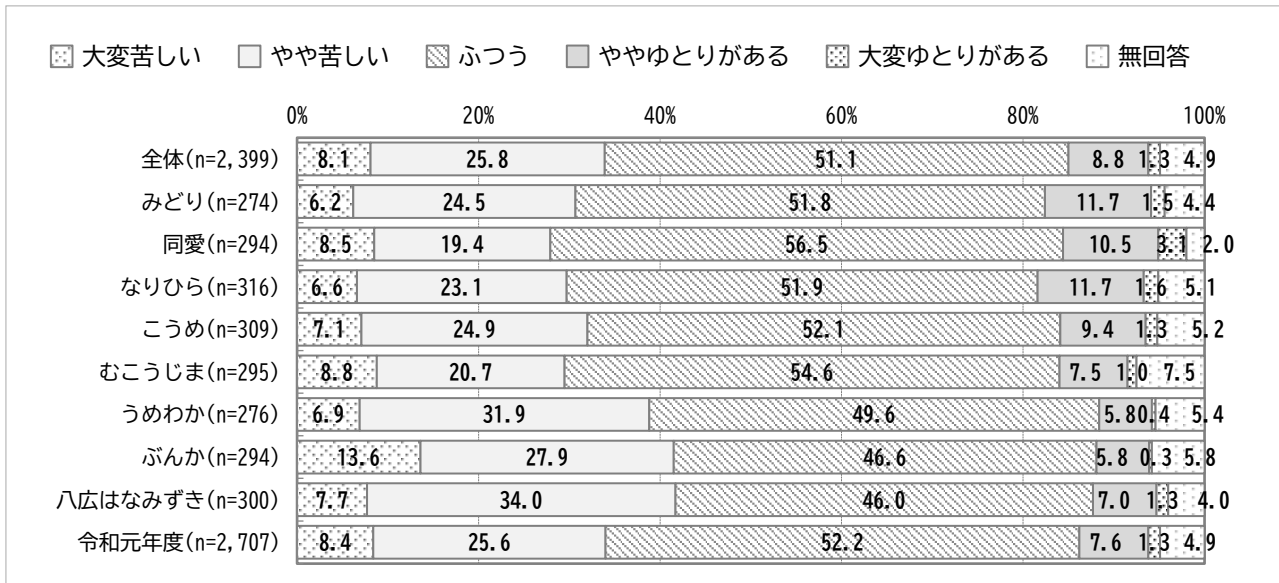
区分	回答者数(人)	配偶者(夫・妻)	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	介護サービスのヘルパー	その他	無回答
全体	129	38.0	17.8	20.9	5.4	0.8	0.8	27.9	13.2	6.2
みどり	16	37.5	18.8	31.3	6.3	-	6.3	18.8	12.5	6.3
同愛	14	35.7	35.7	14.3	-	-	-	28.6	14.3	-
なりひら	14	14.3	14.3	35.7	-	-	-	28.6	7.1	14.3
こうめ	19	47.4	10.5	15.8	-	-	-	26.3	15.8	5.3
むこうじま	11	45.5	18.2	-	9.1	9.1	-	36.4	9.1	-
うめわか	14	35.7	14.3	14.3	14.3	-	-	21.4	21.4	14.3
ぶんか	18	44.4	11.1	22.2	11.1	-	-	38.9	5.6	5.6
八戸はなみずき	20	35.0	25.0	25.0	5.0	-	-	30.0	20.0	5.0

(3) 生活の状況

①経済的な暮らし向きの感じ方

経済的な暮らし向きの感じ方は、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた“苦しい”が 33.9%、「ふつう」が 51.1%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた“ゆとりがある”が 10.1%となっている。令和元年度と比較すると、ほぼ同様の傾向を示している。

■経済的な暮らし向きの感じ方

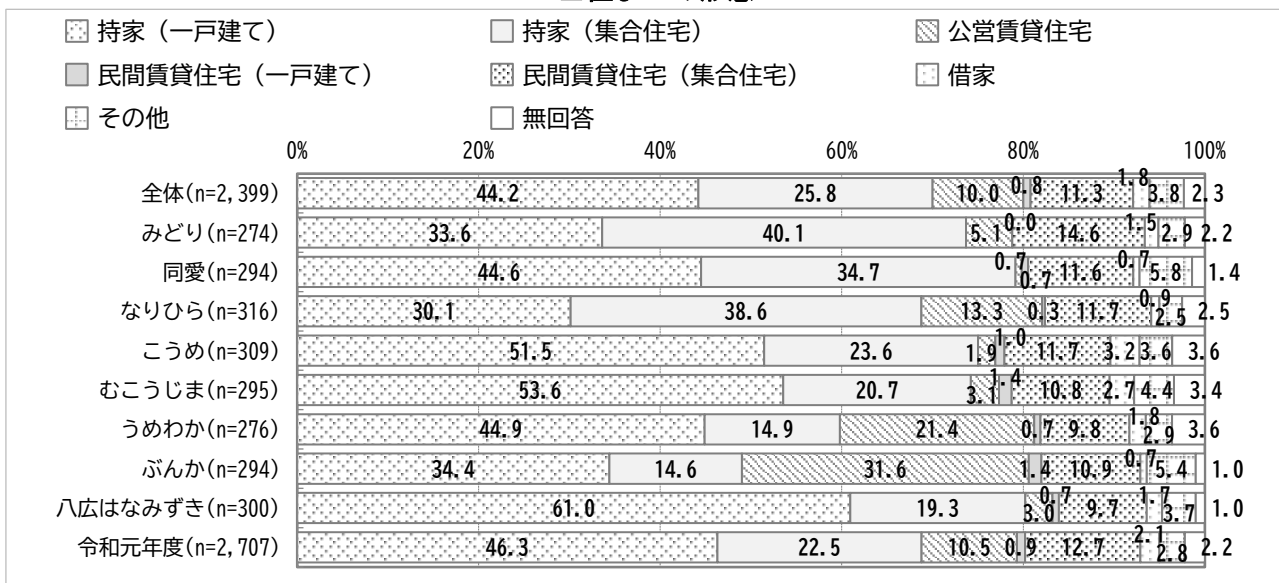


②住まいの形態

住まいの形態は、「持家(一戸建て)」が 44.2%で最も多く、「持家(集合住宅)」(25.8%)と回答した人も含めると、“持家”が 70.0%を占めており、次いで「民間賃貸住宅(集合住宅)」が 11.3%、「公営賃貸住宅」が 10.0%となっている。令和元年度と比較して「持家(一戸建て)」が 2.1 ポイント減少して、「持家(集合住宅)」が 3.3 ポイント増加した。

地区別にみると、「持家(一戸建て)」では、八広はなみずき地区(61.0%)が最も多い。

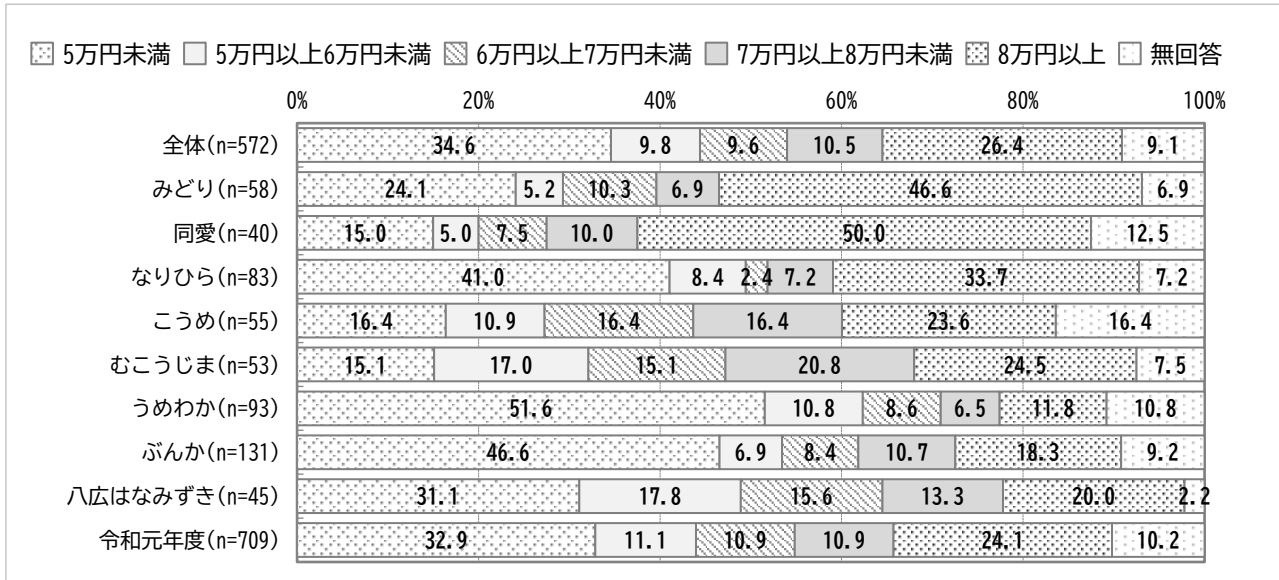
■住まいの形態



③負担可能な家賃及び共益費の月額

賃貸住宅および借家と回答した人の負担可能な家賃及び共益費の月額は、「5万円未満」が34.6%で最も多く、次いで「8万円以上」が26.4%、「7万円以上8万円未満」が10.5%となっている。令和元年度と比較して「8万円以上」が2.3ポイント増加した。

■負担可能な家賃及び共益費の月額



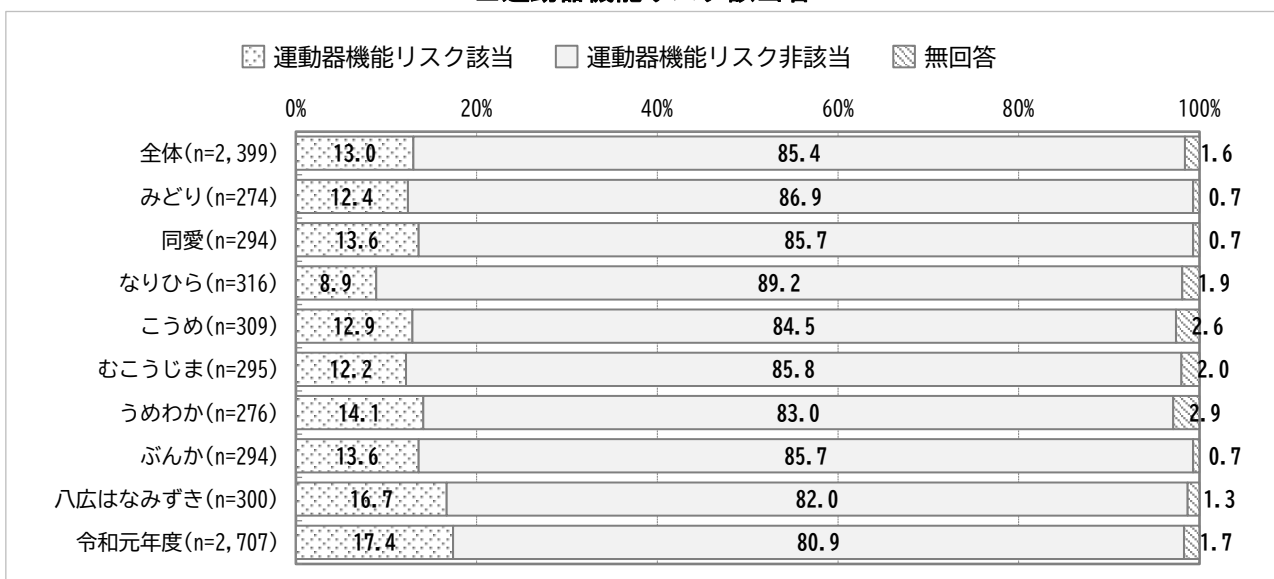
3. からだを動かすことについて

(1) 運動器機能リスク該当者

調査票第2の(1)階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか、(2)いすに座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか、(3)15分くらい続けて歩いていますかの設問でいずれも「できない」、(4)過去1年間に転んだ経験がありますかの設問で「何度もある」「1度ある」、(5)転倒に対する不安は大きいのですかの設問で「とても不安である」「やや不安である」と回答した人のうち、3問以上該当する選択肢を回答した人を運動器機能リスク該当者とした場合、該当者は13.0%となっている。令和元年度と比較して、運動器機能リスク該当者は4.4ポイント減少した。ただし、これは対象者に占める要支援1・2の割合が令和元年度12.0%に対して、今回は国の示す手引きに従い6.0%に変更したことの影響と考えられる。

地区別にみると、八広はなみずき地区(16.7%)が最も多く、なりひら地区(8.9%)が最も少ない。

■運動器機能リスク該当者

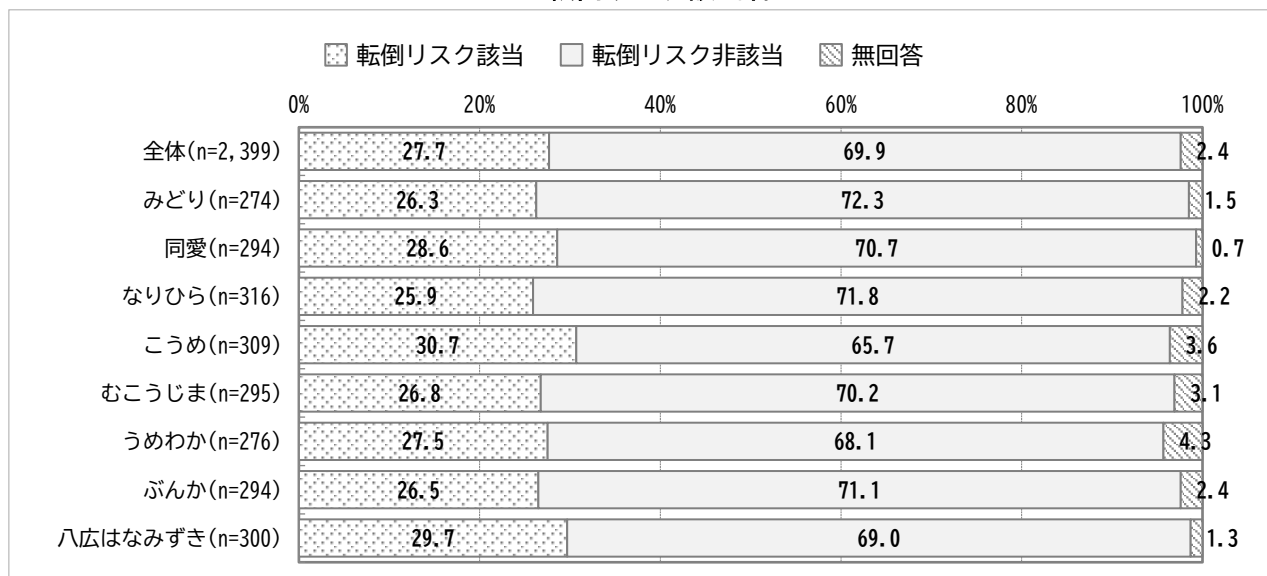


(2) 転倒リスク該当者

調査票第2の(4)過去1年間に転んだ経験がありますかの設問で「何度もある」「1度ある」と回答した人を転倒リスク該当者とした場合、該当者は27.7%となっている。なお、今回調査から国のリスク判定基準に変更したため令和元年度との比較はできない。

地区別にみると、こうめ地区(30.7%)が最も多く、なりひら地区(25.9%)が最も少ない。

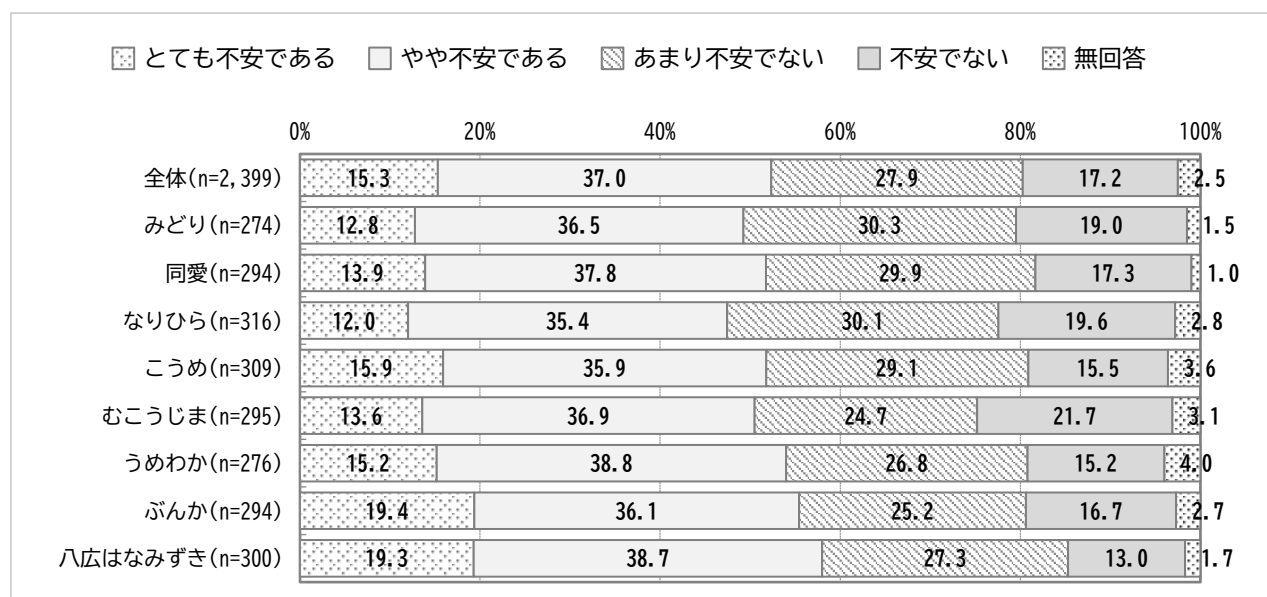
■転倒リスク該当者



転倒に対する不安は大きいのですかの設問で「とても不安である」「やや不安である」と回答した人を“転倒不安がある”とした場合、“転倒不安がある”は52.3%であった。

地区別にみると、“転倒不安がある”では、八広はなみずき地区(58.0%)が最も多く、なりひら地区(47.4%)が最も少ない。

■転倒に対する不安

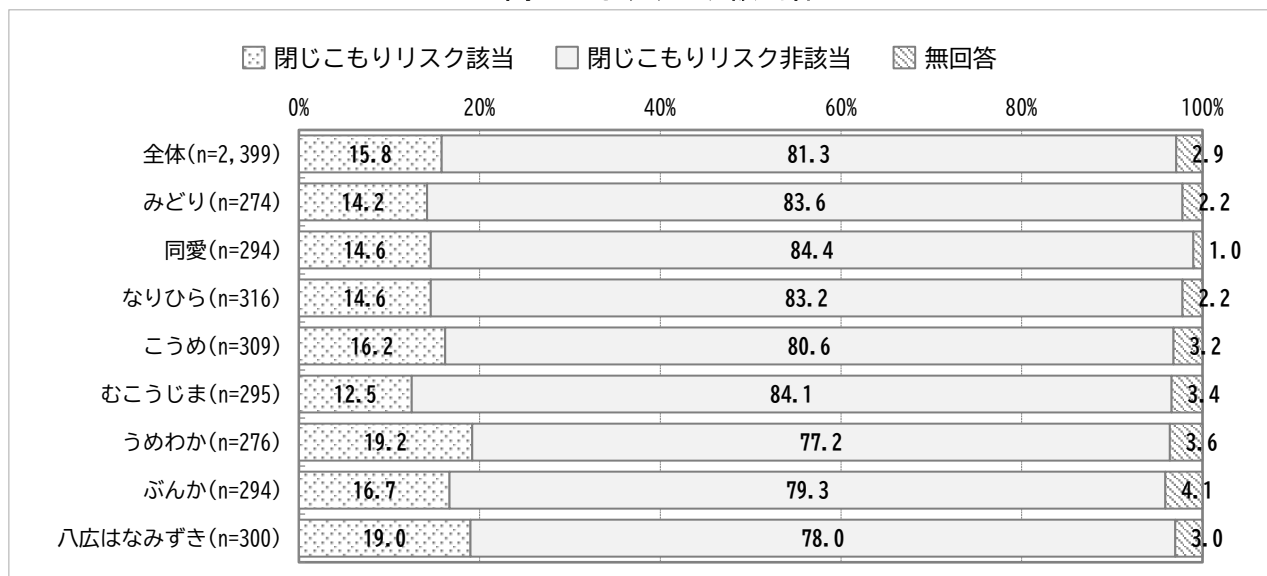


(3) 閉じこもりリスク該当者

調査票第2の(6)週に1回以上は外出していますかの設問で「ほとんど外出しない」「週1回」と回答した人を閉じこもりリスク該当者とした場合、該当者は15.8%となっている。なお、今回調査から国のリスク判定基準に変更したため令和元年度との比較はできない。

地区別にみると、うめわか地区(19.2%)が最も多く、むこうじま地区(12.5%)が最も少ない。

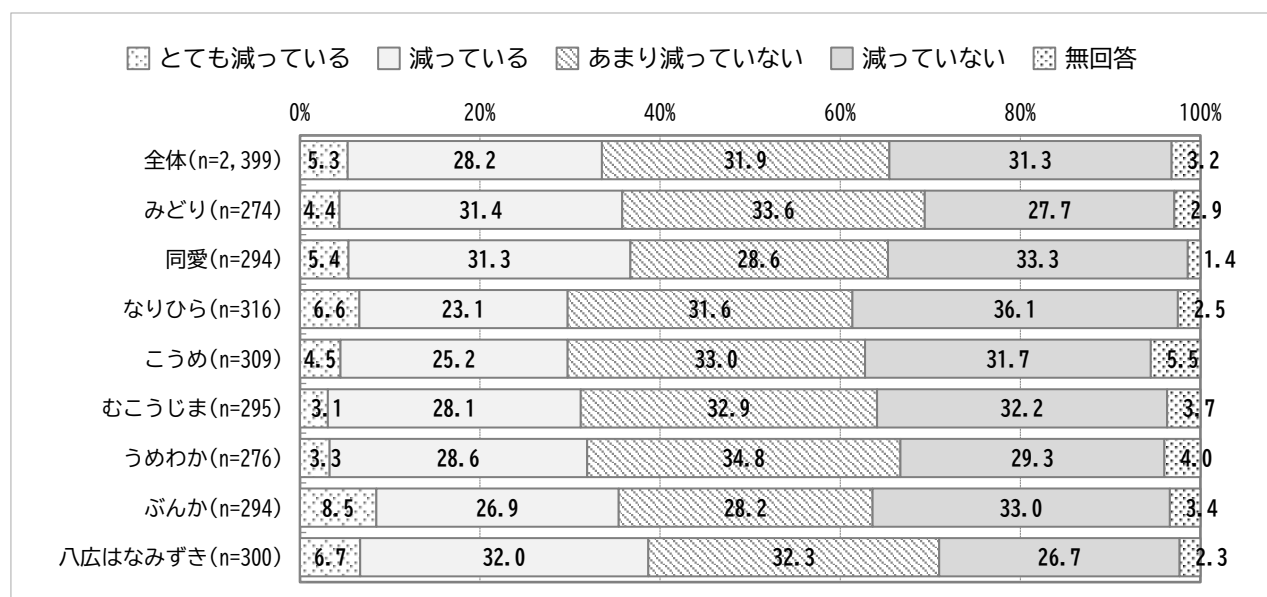
■閉じこもりリスク該当者



昨年と比べて外出の回数が減っていますかの設問で「とても減っている」「減っている」と回答した“外出が減っている”は、33.5%となっている。

地区別にみると、“外出が減っている”は、八広はなみずき地区(38.7%)が最も多く、なりひら地区およびこうめ地区(それぞれ29.7%)が最も少ない。

■昨年と比べて外出の頻度



(4) 外出の状況

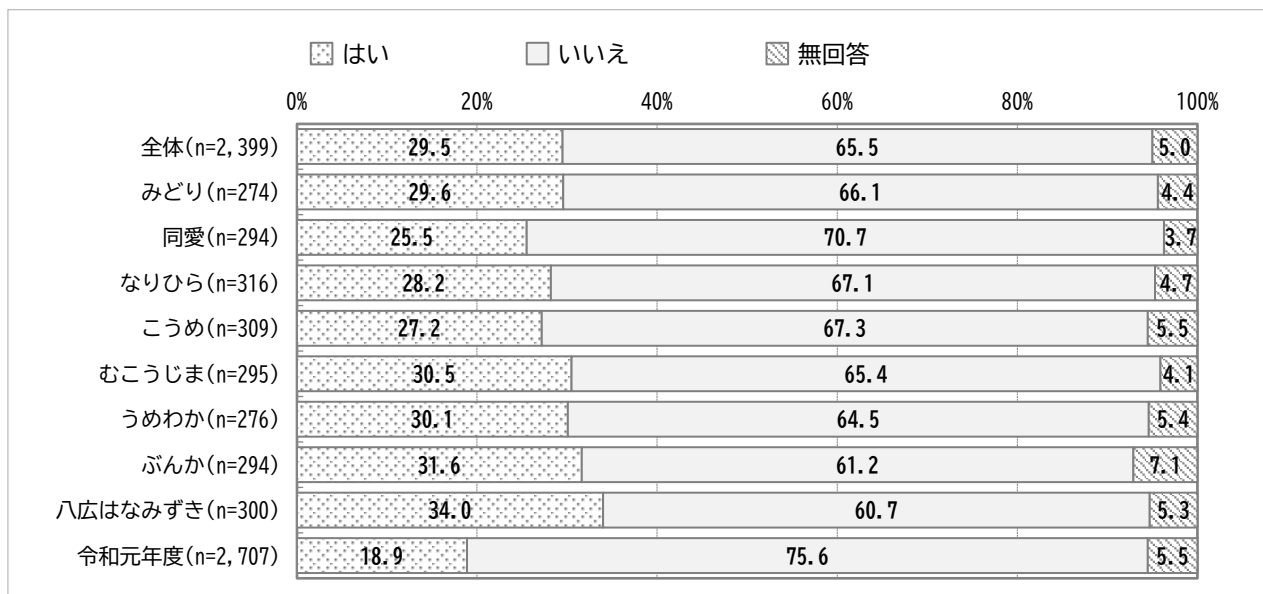
①外出の控え

外出を控えている人は 29.5%、外出を控えていない人は 65.5%となっており、外出を控えている人は令和元年度(18.9%)より 10.6 ポイント増加した。

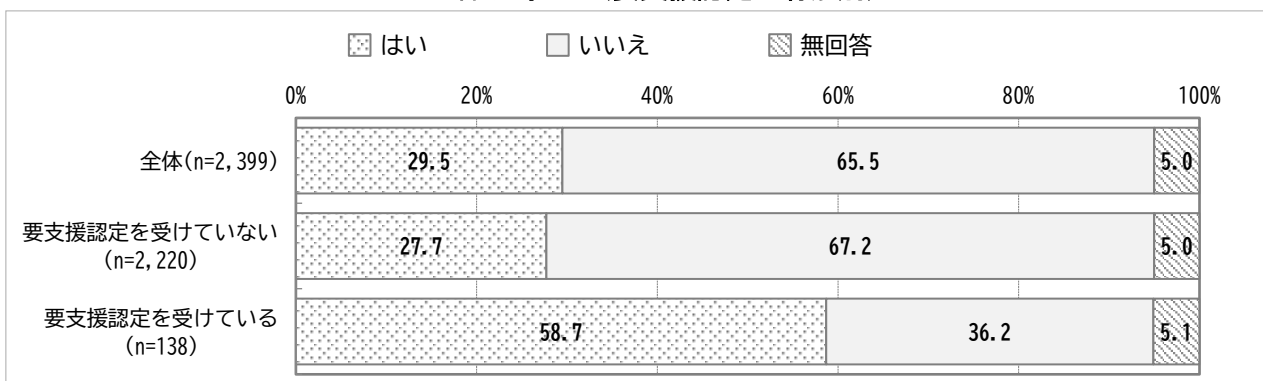
地区別にみると、外出を控えている人では、八広はなみずき地区(34.0%)が最も多く、同愛地区(25.5%)が最も少ない。

要支援認定の有無別にみると、要支援認定を受けている人は、受けていない人に比べて、外出を控えている人(58.7%)が多い。

■外出の控え



■外出の控え（要支援認定の有無別）



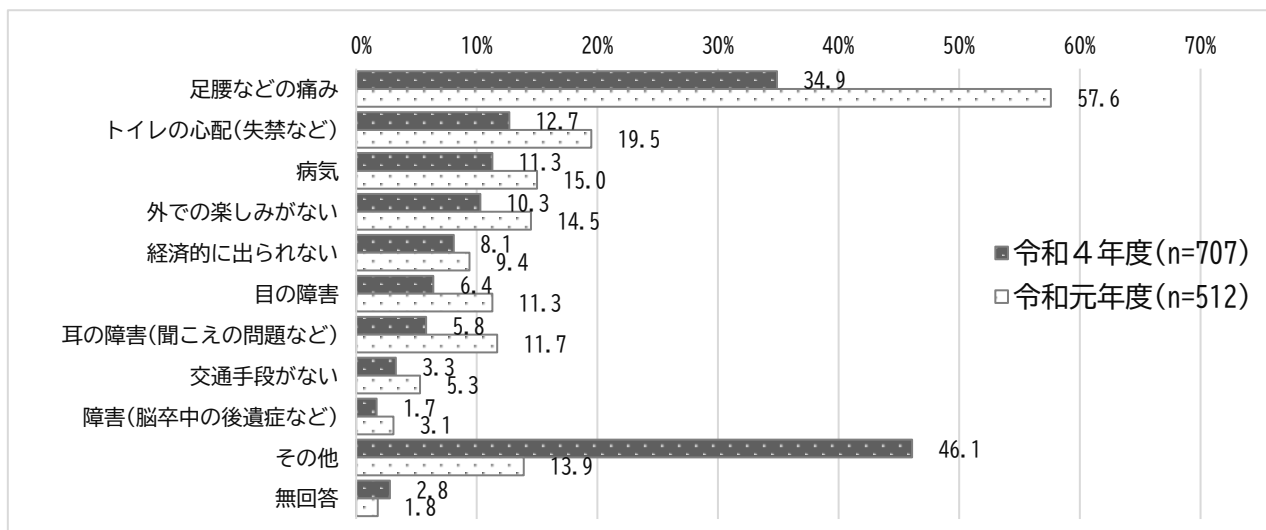
②外出を控えている理由

前問で外出を控えていると回答した人の外出を控えている理由は、「その他」以外では、「足腰などの痛み」が34.9%で最も多く、次いで「トイレの心配(失禁など)」が12.7%、「病気」が11.3%となっている。

地区別にみると、「その他」以外では、すべての地区で「足腰の痛み」が最多となり、「トイレの心配(失禁など)」と「病気」が上位になった。

「その他」(46.1%)は、令和元年度(13.9%)より32.2ポイント増加しており、その約8割が新型コロナウイルス感染症リスク対策であった。

■外出を控えている理由（複数回答）



■外出を控えている理由（地区別）

(単位：%)

区分	回答者数(人)	病気	障害(脳卒中の後遺症など)	足腰などの痛み	トイレの心配(失禁など)	耳の障害(聞こえの問題など)	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
全体	707	11.3	1.7	34.9	12.7	5.8	6.4	10.3	8.1	3.3	46.1	2.8
みどり	81	8.6	-	24.7	8.6	7.4	3.7	8.6	3.7	2.5	56.8	1.2
同愛	75	6.7	1.3	36.0	13.3	4.0	6.7	12.0	8.0	5.3	45.3	1.3
なりひら	89	16.9	3.4	38.2	9.0	5.6	10.1	6.7	5.6	-	40.4	4.5
こうめ	84	10.7	-	45.2	19.0	6.0	4.8	13.1	6.0	2.4	45.2	2.4
むこうじま	90	8.9	3.3	22.2	7.8	5.6	10.0	6.7	10.0	2.2	54.4	3.3
うめわか	83	19.3	-	32.5	12.0	2.4	3.6	9.6	8.4	4.8	47.0	3.6
ぶんか	93	9.7	2.2	41.9	16.1	5.4	6.5	14.0	15.1	6.5	39.8	2.2
八広はなみずき	102	8.8	2.9	38.2	12.7	7.8	5.9	12.7	7.8	2.9	41.2	3.9

【要支援認定の有無別】

要支援認定の有無別にみると、要支援認定を受けている人は、受けていない人に比べて、「足腰などの痛み」(55.6%)が多く、その差は23.3ポイントである。

■外出を控えている理由（要支援認定の有無別）

(単位：%)

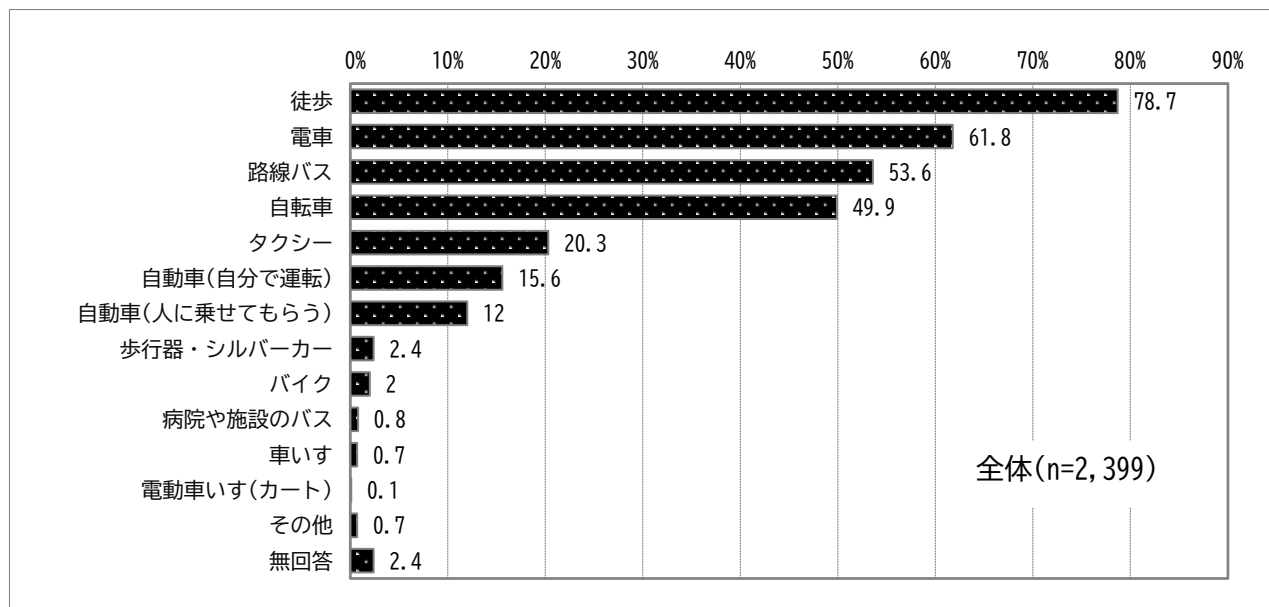
区分	回答者数 (人)	病 気	障 害 (脳 卒 中 の 後 遺 症 な ど)	足 腰 な ど の 痛 み	禁 ト イ レ の 心 配 (失 禁 な ど)	耳 の 障 害 (聞 こ え の 問 題 な ど)	目 の 障 害	外 で の 楽 し み が な い	経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い	そ の 他	無 回 答
全体	707	11.3	1.7	34.9	12.7	5.8	6.4	10.3	8.1	3.3	46.1	2.8
要支援認定を 受けていない	616	11.0	1.3	32.3	11.4	5.2	5.2	11.0	8.9	2.6	49.7	2.9
要支援認定を 受けている	81	12.3	4.9	55.6	19.8	8.6	16.0	6.2	2.5	8.6	18.5	2.5

③外出する際の移動手段

外出する際の移動手段は、「徒歩」が78.7%で最も多く、次いで「電車」が61.8%、「路線バス」が53.6%、「自転車」が49.9%となっている。

地区別にみると、上位4項目に全体と大きな違いはない。それ以外について、「タクシー」では、みどり地区(25.9%)が最も多い。

■外出する際の移動手段（複数回答）



【要支援認定の有無別】

要支援認定の有無別にみると、要支援認定を受けている人は、受けていない人に比べて、「タクシー」(47.1%)が多く、その差は28.5ポイントである。

■外出する際の移動手段（要支援認定の有無別）

(単位：%)

区分	回答者数(人)	徒歩	自転車	バイク	自動車(自分で運転)	自動車(人に乗せてもらう)	電車	路線バス
全体	2,399	78.7	49.9	2.0	15.6	12.0	61.8	53.6
要支援認定を受けていない	2,220	80.1	51.8	2.0	16.5	11.8	64.0	54.5
要支援認定を受けている	138	56.5	17.4	0.7	1.4	15.2	27.5	37.7
区分	病院や施設のバス	車いす	電動車いす(カート)	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答	
全体	0.8	0.7	0.1	2.4	20.3	0.7	2.4	
要支援認定を受けていない	0.5	0.5	-	1.1	18.6	0.6	2.4	
要支援認定を受けている	5.1	4.3	1.4	23.9	47.1	0.7	2.2	

■外出する際の移動手段（地区別）

（単位：％）

区分	回答者数（人）	徒歩	自転車	バイク	自動車 （自分で運転）	自動車（人に 乗せてもらう）	電車	路線バス
全体	2399	78.7	49.9	2.0	15.6	12.0	61.8	53.6
みどり	274	82.5	44.2	1.1	17.2	10.6	66.4	54.7
同愛	294	84.0	44.2	1.0	21.1	14.3	59.9	63.3
なりひら	316	82.6	39.9	0.9	12.7	11.7	60.4	64.6
こうめ	309	82.2	49.8	2.6	17.8	10.0	63.4	51.1
むこうじま	295	76.6	52.9	1.7	12.9	9.2	64.1	44.1
うめわか	276	73.6	62.7	4.3	13.0	11.2	65.6	40.6
ぶんか	294	75.9	48.0	1.4	13.9	14.3	59.2	51.7
八広はなみずき	300	72.3	57.3	2.3	16.7	14.7	56.3	56.3
区分	施設や 病院や 施設のバス	車いす	電動車いす （カート）	歩行器・ シルバーカー	タクシー	その他	無回答	
全体	0.8	0.7	0.1	2.4	20.3	0.7	2.4	
みどり	0.7	1.5	0.4	1.8	25.9	0.4	1.8	
同愛	-	0.3	-	3.4	22.4	0.3	1.4	
なりひら	0.3	0.6	0.3	2.8	20.9	0.3	3.2	
こうめ	0.6	0.3	0.3	2.3	21.7	0.6	2.6	
むこうじま	0.7	0.3	-	3.7	18.6	0.7	2.7	
うめわか	0.4	0.7	-	0.7	13.8	0.4	3.3	
ぶんか	1.4	1.4	-	2.4	21.1	2.0	2.0	
八広はなみずき	2.0	0.7	-	2.0	17.3	0.3	2.0	

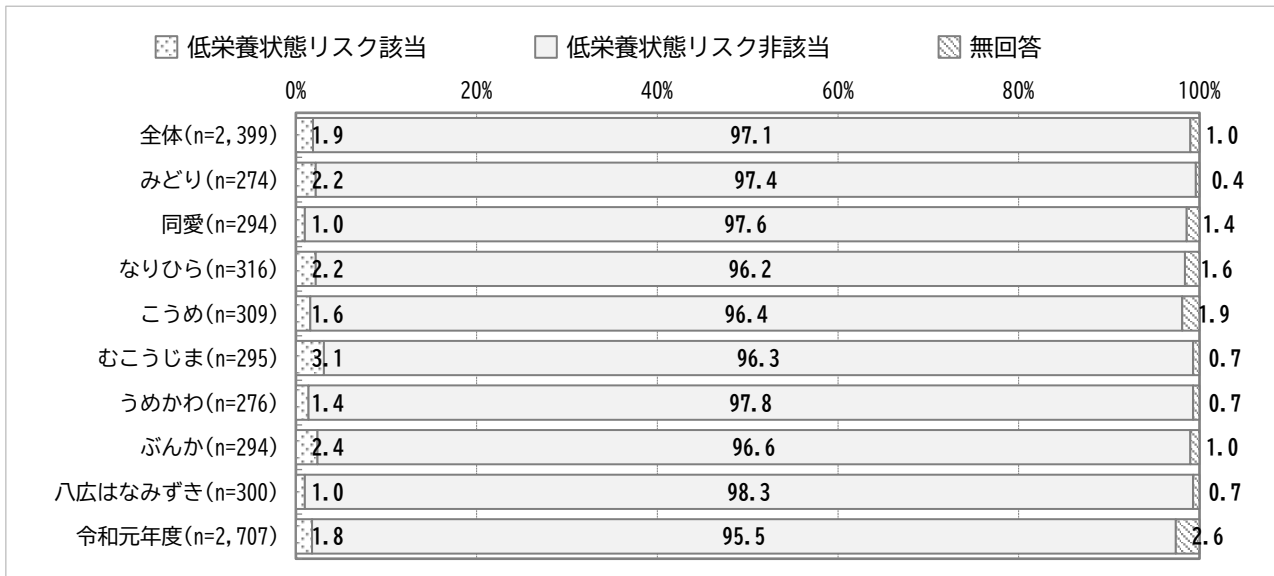
4. 食べることについて

(1) 低栄養状態リスク該当者

調査票第3の(1)身長と体重からBMI(体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)})が18.5以下で、かつ(7)6か月間で2～3kg体重減少があったとの回答を低栄養状態リスク該当者とした場合、該当者は1.9%となっている。令和元年度と同様の傾向を示している。

地区別にみると、むこうじま地区(3.1%)が最も多く、同愛地区および八広はなみずき地区(それぞれ1.0%)が最も少ない。

■低栄養状態リスク該当者

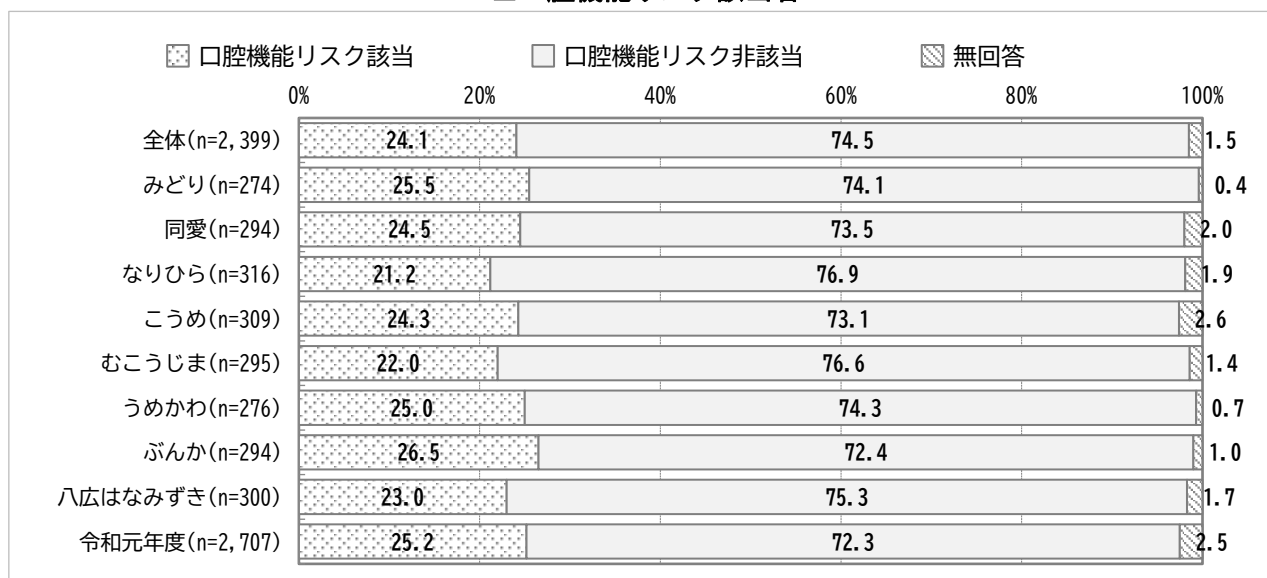


(2) 口腔機能リスク該当者

調査票第3の(2)半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか、(3)お茶や汁物等でむせることはありますか、(4)口の渇きが気になりますかの設問で2問以上「はい」と回答した人を口腔機能リスク該当者とした場合、該当者は24.1%となっている。令和元年度と比較して、口腔機能リスク該当者は1.1ポイント減少した。ただし、これは対象者に占める要支援1・2の割合が令和元年度12.0%に対して、今回は国の示す手引きに従い6.0%に変更したことの影響と考えられる。

地区別にみると、ぶんか地区(26.5%)が最も多く、なりひら地区(21.2%)が最も少ない。

■ 口腔機能リスク該当者



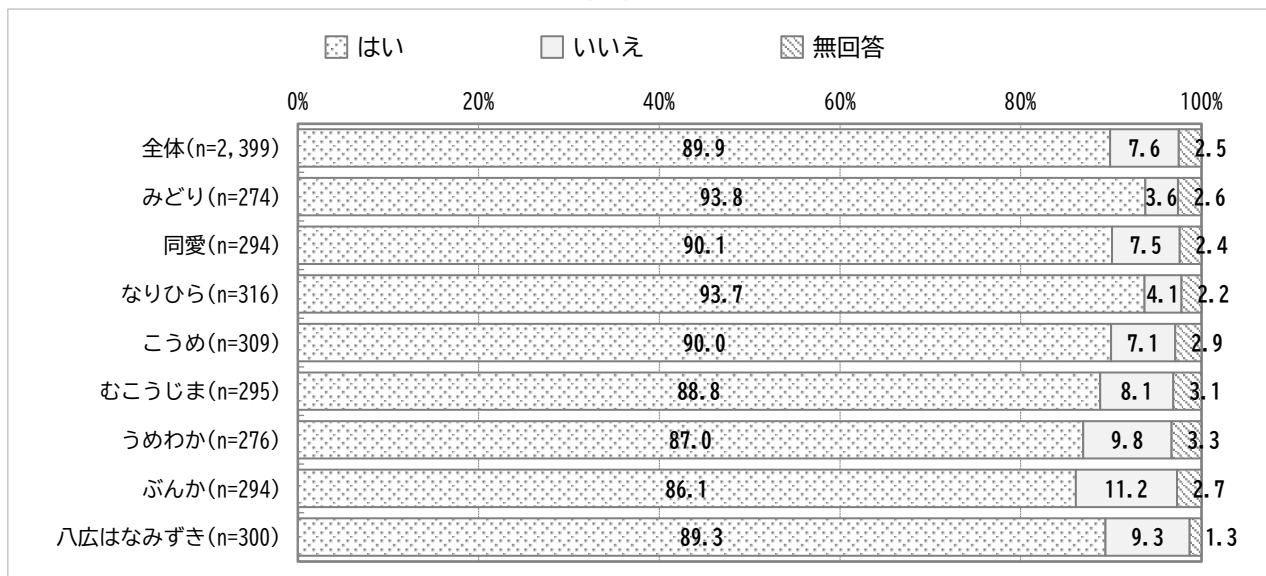
(3) 歯の状況

①歯磨きの状況

歯磨きを毎日している人は89.9%、していない人は7.6%となっている。

地区別にみると、歯磨きを毎日している人はみどり地区(93.8%)が最も多く、ぶんか地区(86.1%)が最も少ない。

■歯磨きの状況

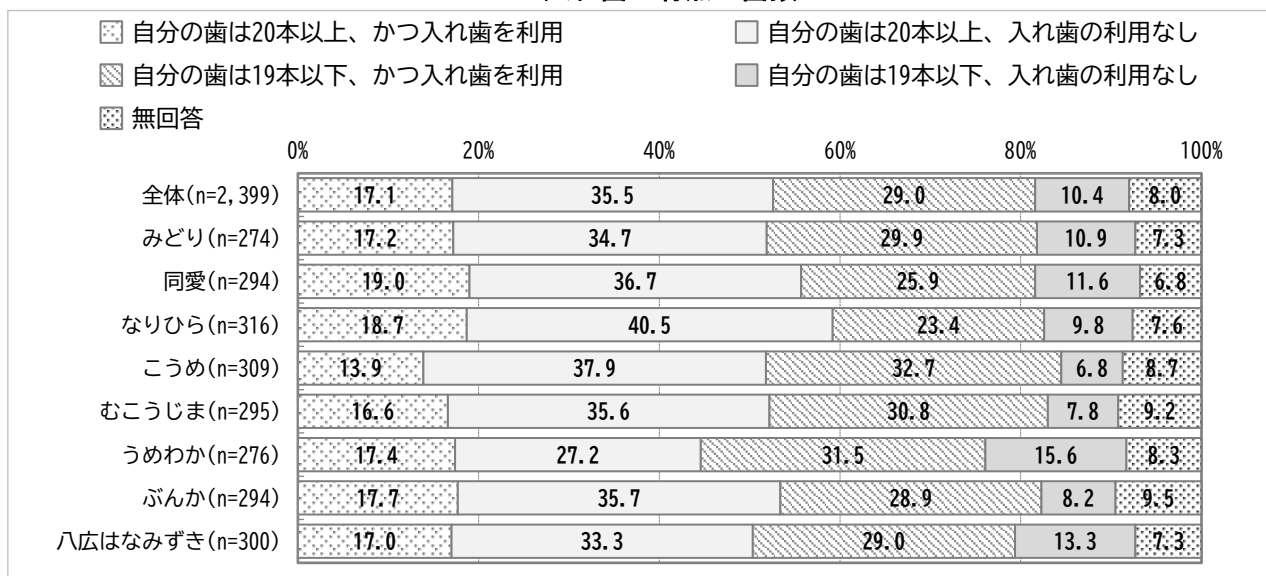


②入れ歯の有無と歯数

入れ歯の有無と歯数は、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が35.5%で最も多く、次いで、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が29.0%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が17.1%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が10.4%となっている。

地区別にみると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」では、なりひら地区(40.5%)が最も多く、うめわか地区(27.2%)が最も少ない。

■入れ歯の有無と歯数



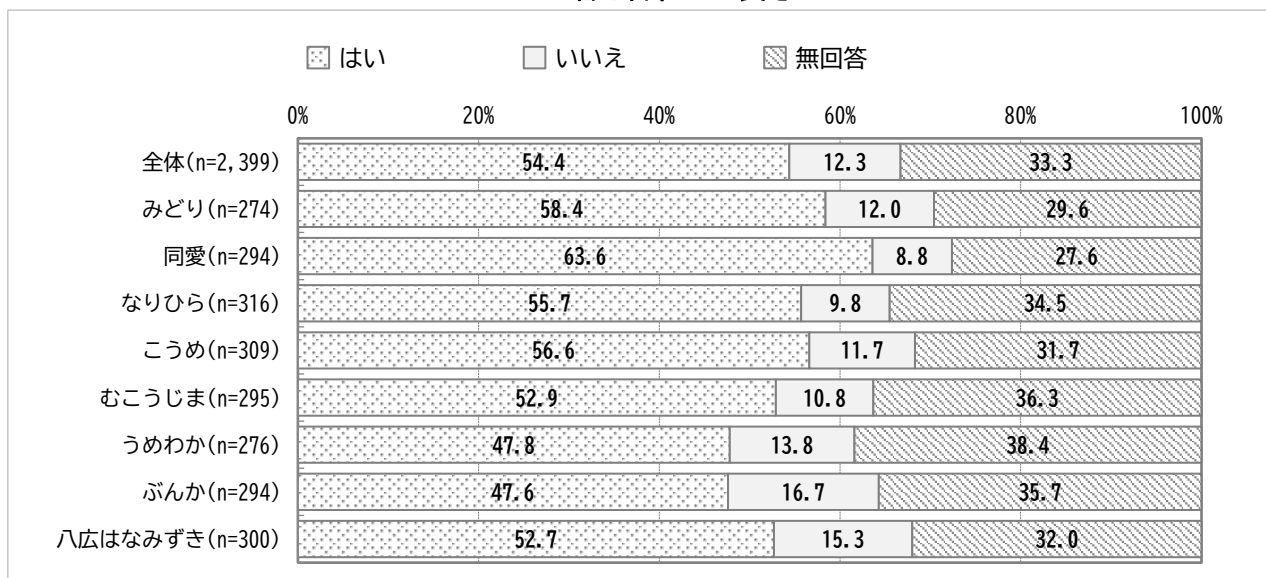
③噛み合わせと入れ歯の手入れの状況

ア. 噛み合わせの良さ

噛み合わせが良い人は54.4%、噛み合わせが悪い人は12.3%となっている。

地区別にみると、噛み合わせが良い人では、同愛地区(63.6%)が最も多く、ぶんか地区(47.6%)が最も少ない。

■噛み合わせの良さ

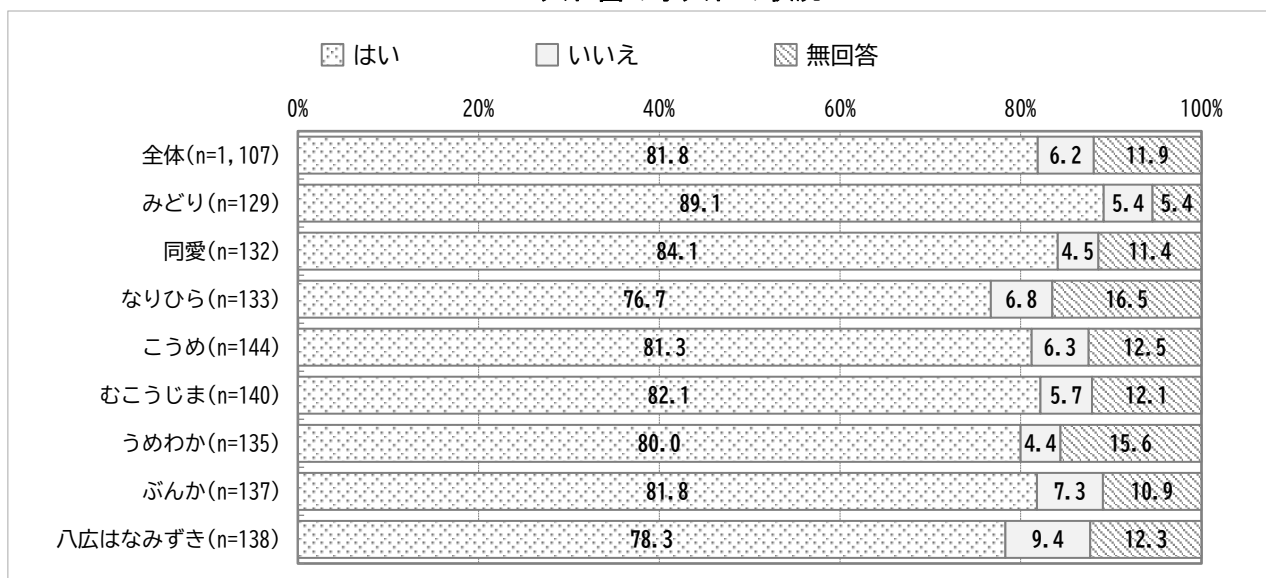


イ. 入れ歯の手入れの状況

毎日入れ歯の手入れをしている人は81.8%、手入れをしていない人は6.2%となっている。

地区別にみると、毎日入れ歯の手入れをしている人では、みどり地区(89.1%)が最も多く、なりひら地区(76.7%)が最も少ない。

■入れ歯の手入れの状況



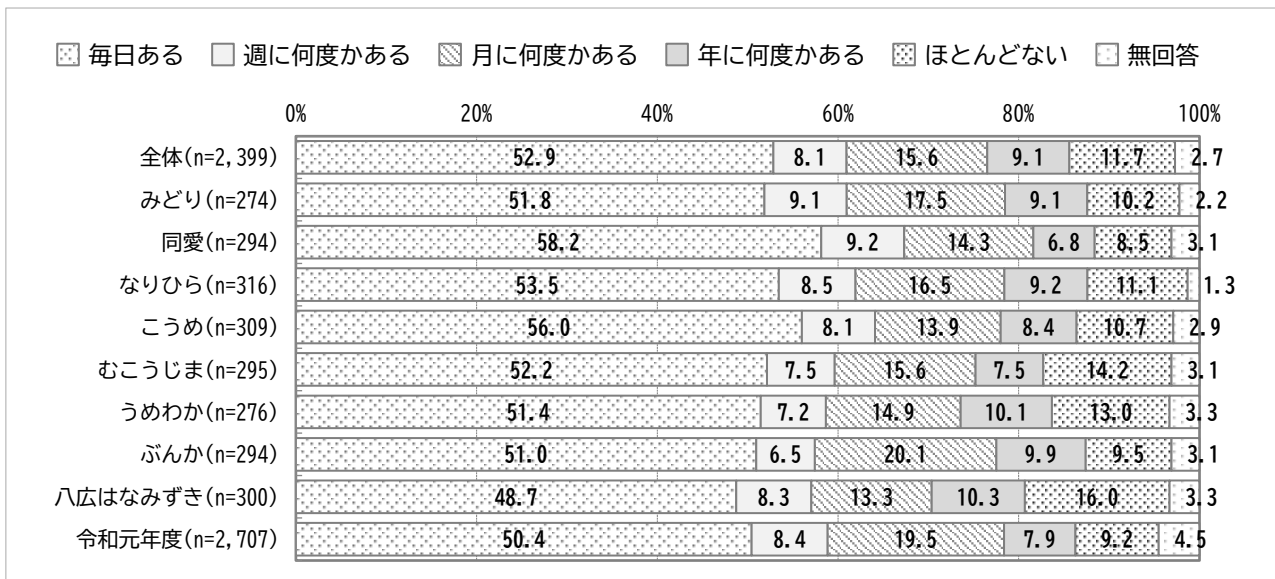
(4) 孤食の状況

誰かと食事をとむにする機会が「毎日ある」人が 52.9%で最も多く、さらに、「週に何度かある」と「月に何度かある」を合わせた“食事をとむにする機会がある”人は 76.6%になった。これに対し、「年に何度かある」と「ほとんどない」を合わせた“孤食傾向にある”人は 20.8%となった。令和元年度と比較して“孤食傾向にある”人は 3.7ポイント増加した。

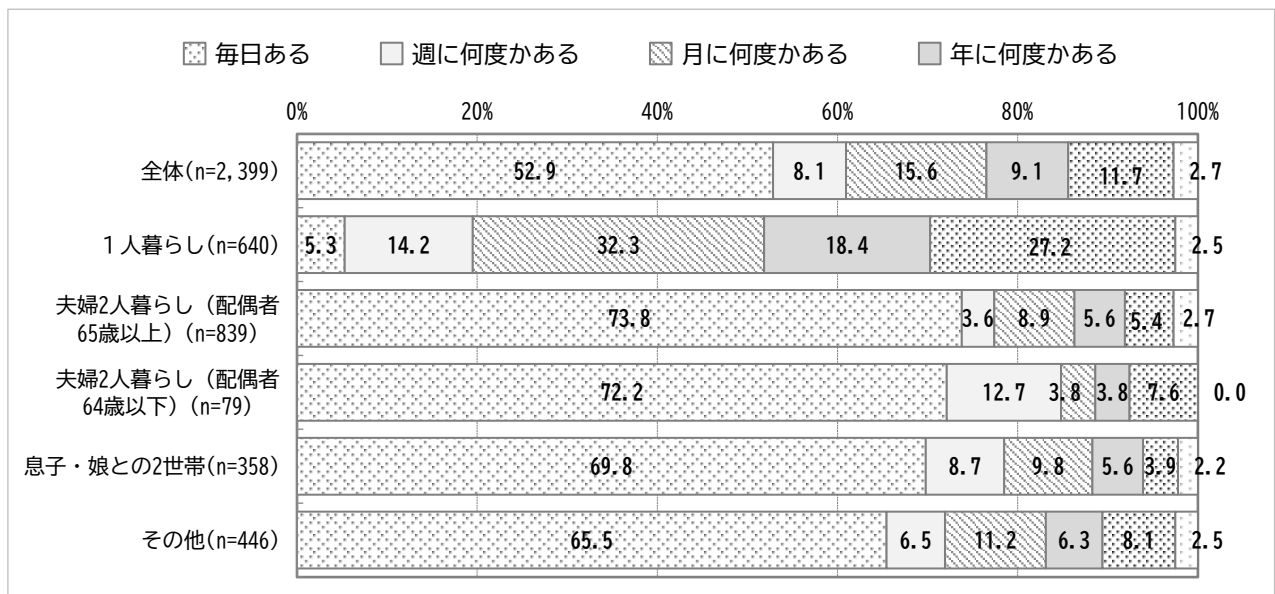
地区別にみると、“食事をとむにする機会がある”では、同愛地区(81.7%)が最も多く、“孤食傾向にある”では、八広はなみずき地区(26.3%)が最も多い。

家族構成別にみると、1人暮らしでは、「月に何度かある」(32.3%)が最も多く、1人暮らしで“孤食傾向にある”人は 45.6%と、全体と比べて 24.8ポイント多い。

■食事をとむにする機会（孤食の状況）



■食事をとむにする機会（家族構成別）



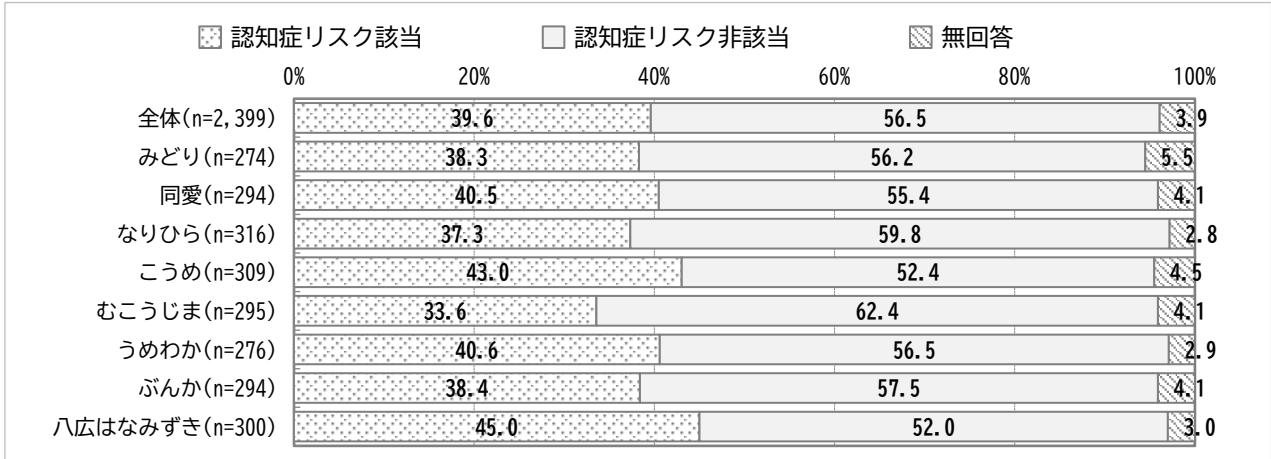
5. 毎日の生活について

(1) 認知症リスク該当者

調査票の第4の(1)物忘れが多いと感じますかの設問で「はい」と回答した人を認知症リスク該当者とした場合、該当者は39.6%となっている。なお、今回調査から国のリスク判定基準に変更したため令和元年度との比較はできない。

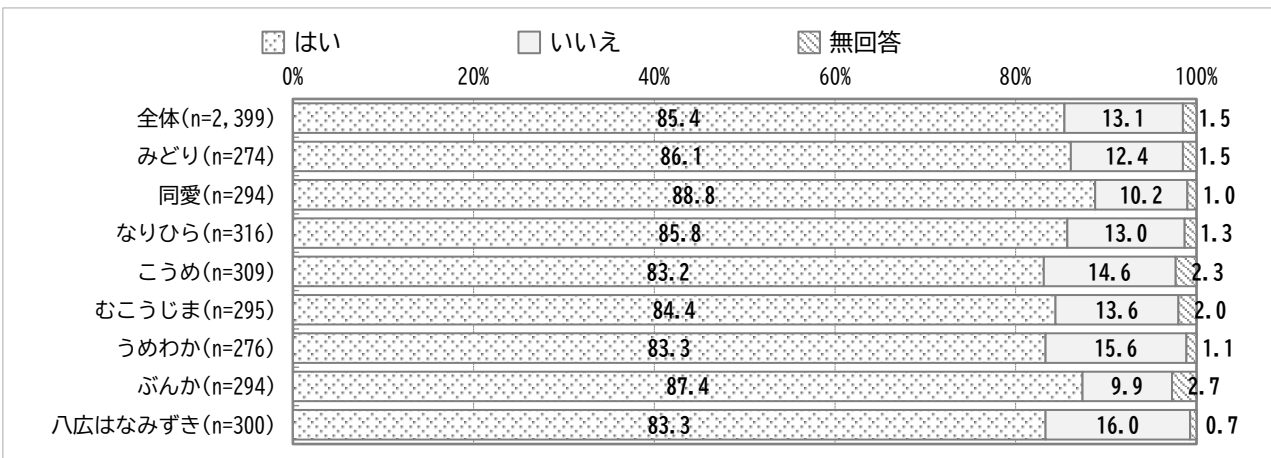
地区別にみると、八広はなみずき地区(45.0%)が最も多く、むこうじま地区(33.6%)が最も少ない。

■認知症リスク該当者



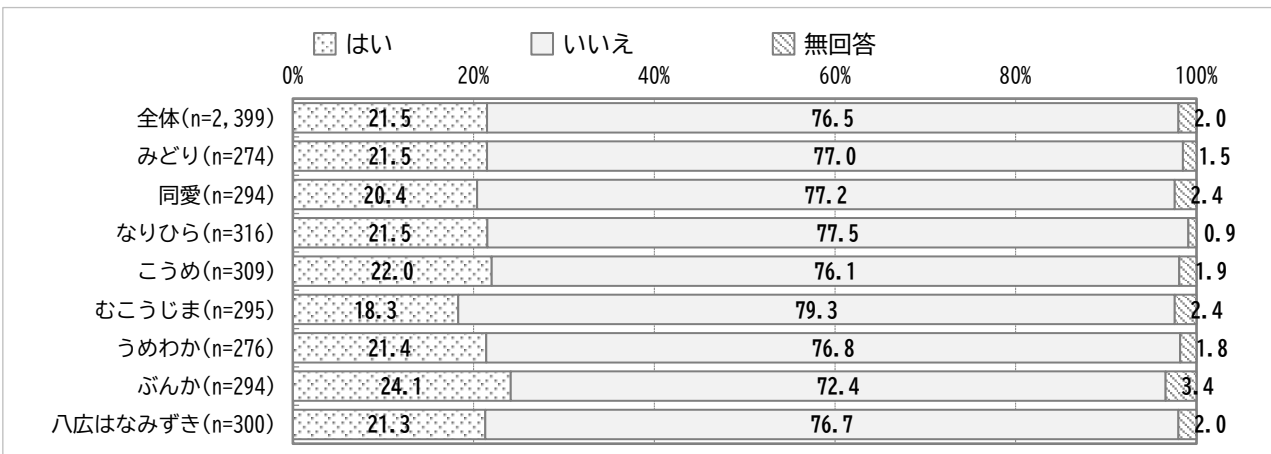
自分で電話番号を調べて電話をかけていないは、13.1%であった。

■自分で電話番号を調べて架電している



今日が何月何日かわからないときがあるは、21.5%であった。

■今日が何月何日かわからないときがある



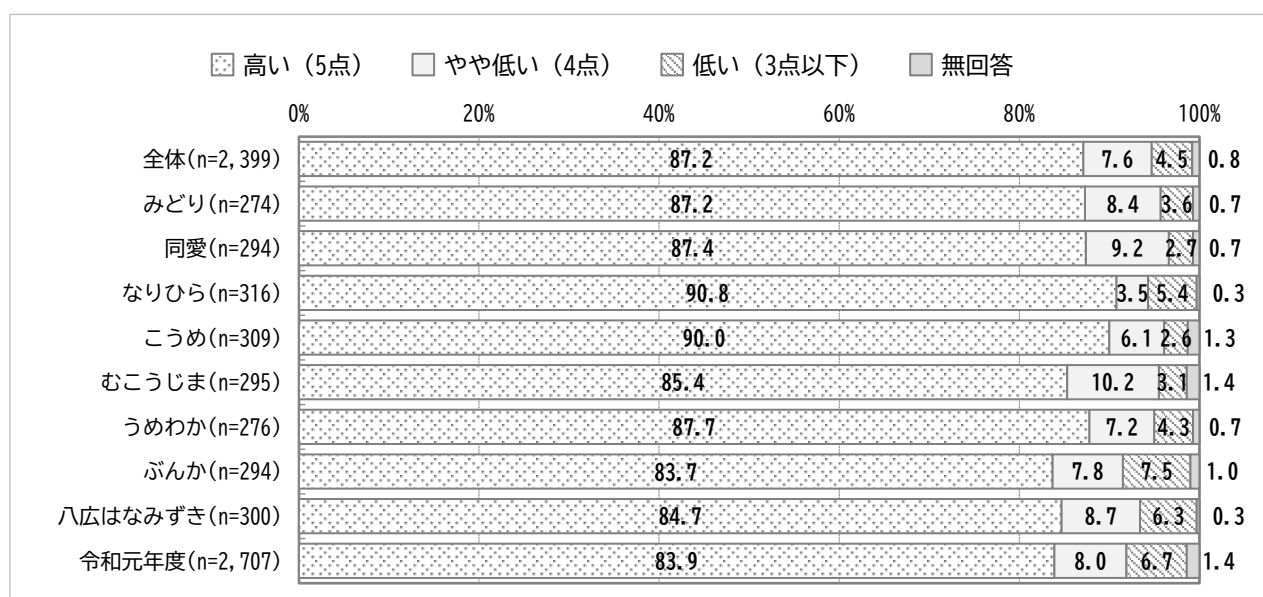
(2) 手段的日常生活動作 (IADL※)

調査票の第4の(4)バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)、(5)自分で食品・日用品の買物をしていますか、(6)自分で食事の用意をしていますか、(7)自分で請求書の支払いをしていますか、(8)自分で預貯金の出し入れをしていますかの設定で「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した人に1点、「できない」と回答した人に0点とし、5点が「高い」、4点が「やや低い」、0～3点が「低い」とした。「高い」は、令和元年度(83.9%)より3.3ポイント増加している。

手段的日常生活動作が「高い」は87.2%、「やや低い」と「低い」を合わせた“低い”は12.1%となっている。地区別にみると、「高い」では、なりひら地区(90.8%)が最も多く、ぶんか地区(83.7%)が最も少ない。

※IADL(InstrumentalActivitiesofDailyLiving の略)とは、モノや道具を使ってする生活能力のことをいう。ADL(日常生活動作)が、自立して生活するための基本的な身体的動作(食事、入浴、排泄など)を指しているのに対し、IADLはより広義で、日常の動作より応用的な動作が必要な活動(バスに乗って買い物に行く、食事の支度をする、電話をかけるなど)を指している。

■手段的日常生活動作



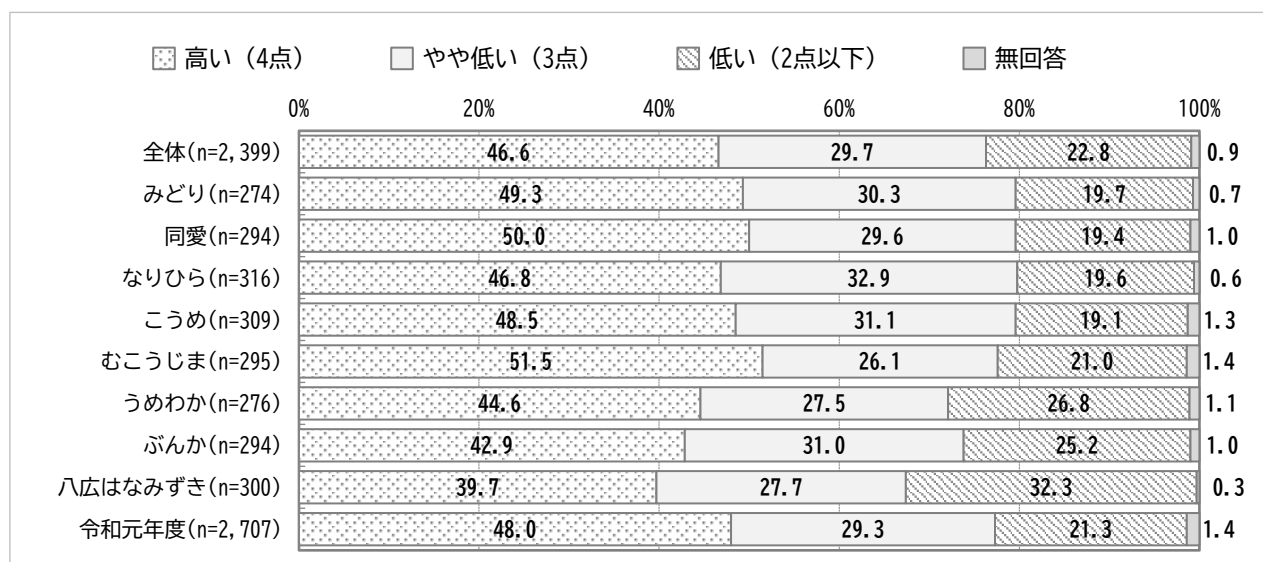
(3) 知的能動性の状況

調査票第4の(9)年金などの書類が書けますか、(10)新聞を読んでいますか、(11)本や雑誌を読んでいますか、(12)健康についての記事や番組に関心がありますかの設問で「はい」に1点、「いいえ」に0点とし、4点が「高い」、3点が「やや低い」、0～2点が「低い」とした。

知的能動性が「高い」は46.6%、「やや低い」と「低い」をあわせた“低い”は52.5%となっている。「高い」は、令和元年度(48.0%)より1.4ポイント減少した。

地区別にみると、「高い」では、むこうじま地区(51.5%)が最も多く、八広はなみずき地区(39.7%)が最も少ない。

■知的能動性の状況



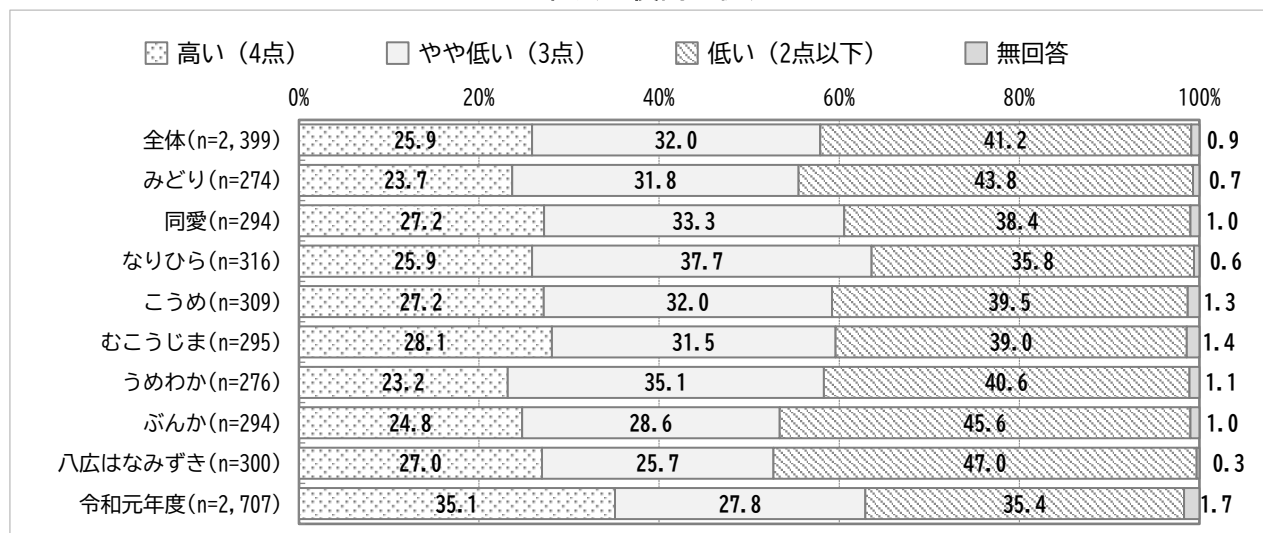
(4) 社会的役割の状況

調査票第4の(13)友人の家を訪ねていますか、(14)家族や友人の相談にのっていますか、(15)病人を見舞うことができますか、(16)若い人に自分から話しかけることがありますかの設問で「はい」に1点、「いいえ」に0点とし、4点が「高い」、3点が「やや低い」、0～2点が「低い」とした。

社会的役割の状況が「高い」は25.9%、「やや低い」と「低い」を合わせた“低い”が73.2%となっている。「高い」は、令和元年度(35.1%)より9.2ポイント減少した。

地区別にみると、「高い」では、むこうじま地区(28.1%)が最も多く、うめわか地区(23.2%)が最も少ない。

■社会的役割の状況



(5) 老研式活動能力指標※を用いた総合評価

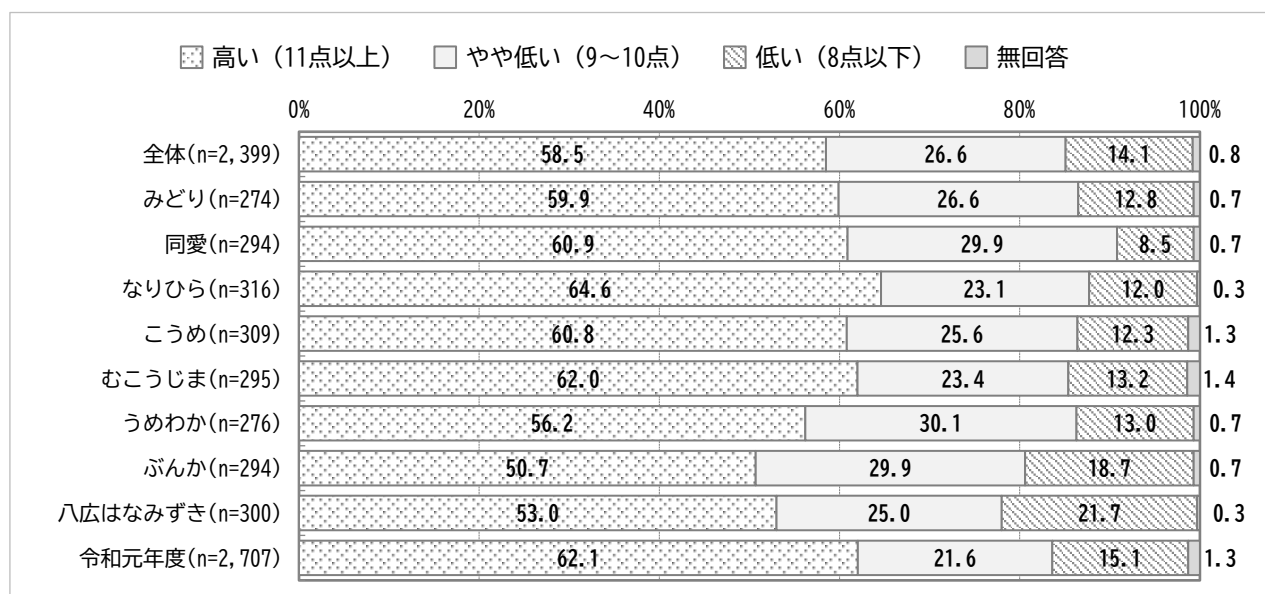
これまでの(2)手段的日常生活動作(IADL)、(3)知的能動性、(4)社会的役割の状況の評価項目の合計点(13点満点)で評価し、11点以上が「高い」、9~10点が「やや低い」、8点以下が「低い」として評価した。

老研式活動能力指標を用いた総合評価が「高い」は58.5%、「やや低い」と「低い」を合わせた“低い”は40.7%となっている。「高い」は、令和元年度(62.1%)より3.6ポイント減少した。

地区別にみると、「高い」では、なりひら地区(64.6%)が最も多く、ぶんか地区(50.7%)が最も少ない。

※老研式活動能力指標とは、ADL(日常生活活動テスト)の測定では捉えられない、高次の生活能力を評価するために開発された多次元尺度のことである。バスや電車の利用、買い物、食事の用意、請求書の支払い、預金・貯金のお出し入れ、書類記入、新聞を読む、本や雑誌を読む、健康についての関心、友人宅への訪問、相談に乗る、お見舞いに行く、若い人に話しかけるの13項目の質問から成り、はい・いいえで回答し、点数が高いほど自立度が高くなる。

■老研式活動能力指標を用いた総合評価



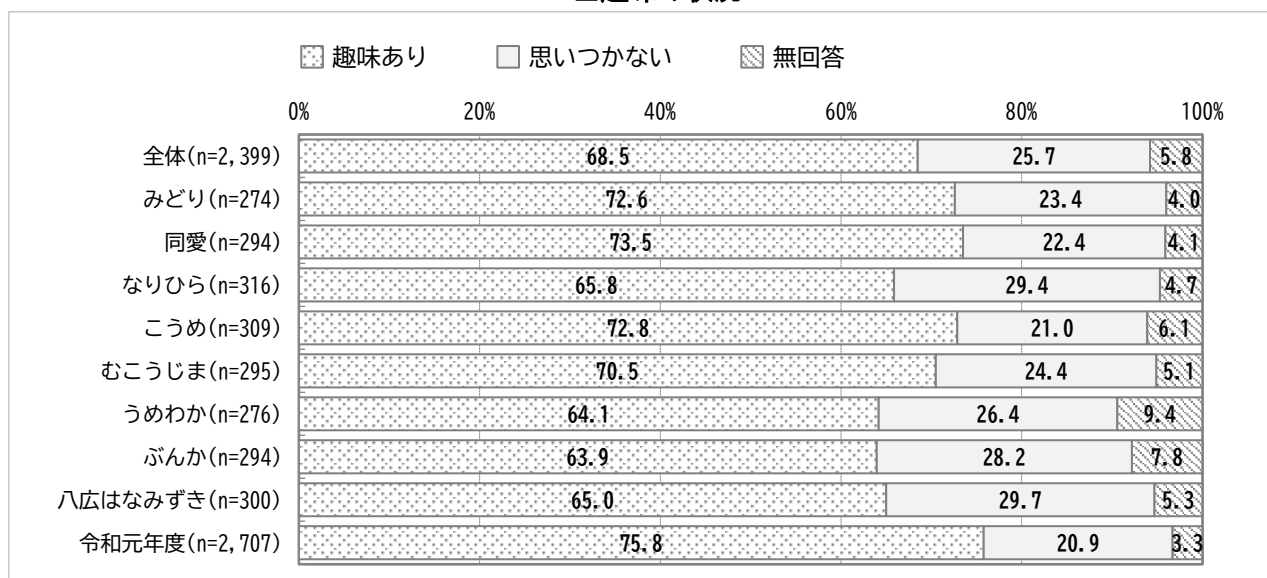
(6) 趣味や生きがいについて

①趣味の状況

趣味が「ある」人は 68.5%、「思いつかない」人は 25.7%である。趣味が「ある」人は、令和元年度(75.8%)より 7.3 ポイント減少した。

地区別にみると、同愛地区(73.5%)が最も多く、ぶんか地区(63.9%)が最も少ない。

■趣味の状況

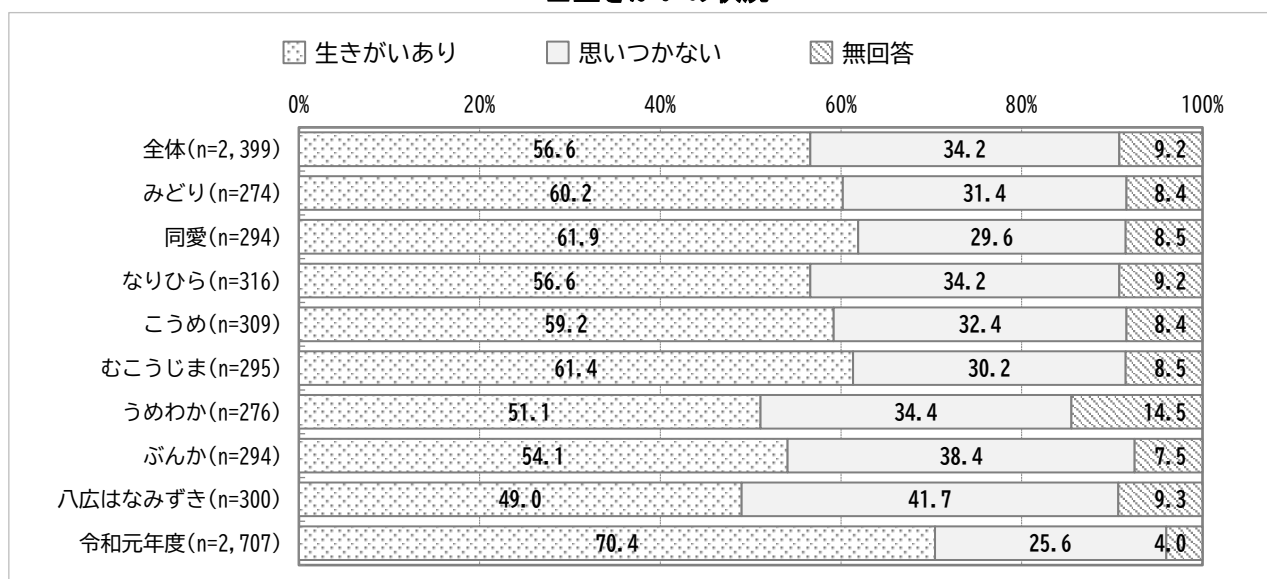


②生きがいの状況

生きがいが「ある」人は 56.6%、「思いつかない」人は 34.2%である。生きがいが「ある」人は、令和元年度(70.4%)より 13.8 ポイント減少した。

地区別にみると、「ある」では、同愛地区(61.9%)が最も多く、八広はなみずき地区(49.0%)が最も少ない。

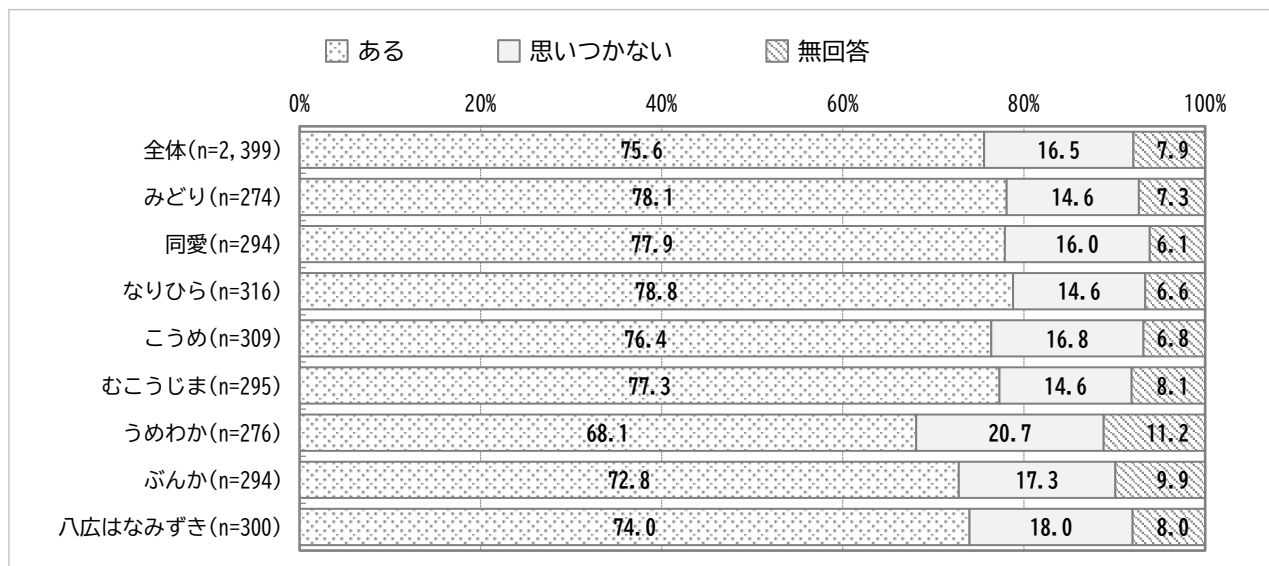
■生きがいの状況



③生きがいとしてやってみたいこと

生きがいとしてやってみたいことが「ある」人は75.6%、「思いつかない」人は16.5%である。
 地区別にみると、「ある」では、なりひら地区(78.8%)が最も多く、うめわか地区(68.1%)が最も少ない。

■生きがいとしてやってみたいことの有無



生きがいとしてやってみたいことが「ある」人について、やってみたいことは「趣味やスポーツ、レジャー」が54.4%で最も多く、次いで「友人との交流」が46.2%、「健康づくり、介護予防」が31.3%、「仕事、軽作業」が26.1%、「勉強、生涯学習、パソコン教室」が23.9%であった。

地区別にみると、上位3位の順番に地域差はなかったが、うめわか地区では、「仕事、軽作業」が「健康づくり、介護予防」と並んで同率3位を占めた。

■生きがいとしてやってみたいこと（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	趣味やスポーツ、レジャー	家族やペットとの交流	仕事、軽作業	勉強、生涯学習、パソコン教室	友人との交流	健康づくり、介護予防	ボランティア活動、社会貢献	無回答
全体	1,814	54.4	22.8	26.1	23.9	46.2	31.3	18.1	0.6
みどり	214	56.1	25.2	29.9	25.7	50.9	31.8	18.2	0.9
同愛	229	58.5	25.3	23.6	22.3	48.5	32.8	20.5	0.9
なりひら	249	54.2	21.7	26.5	24.1	46.2	28.5	17.3	-
こうめ	236	58.9	23.7	23.7	28.4	48.3	31.4	21.6	0.8
むこうじま	228	50.4	20.6	26.8	25.0	44.3	32.5	18.0	0.4
うめわか	188	59.0	22.9	25.5	20.7	45.2	25.5	13.8	-
ぶんか	214	48.1	18.7	28.5	22.4	42.1	35.0	19.6	0.5
八広はなみずき	222	49.1	24.3	25.2	22.5	43.7	33.3	15.3	0.9

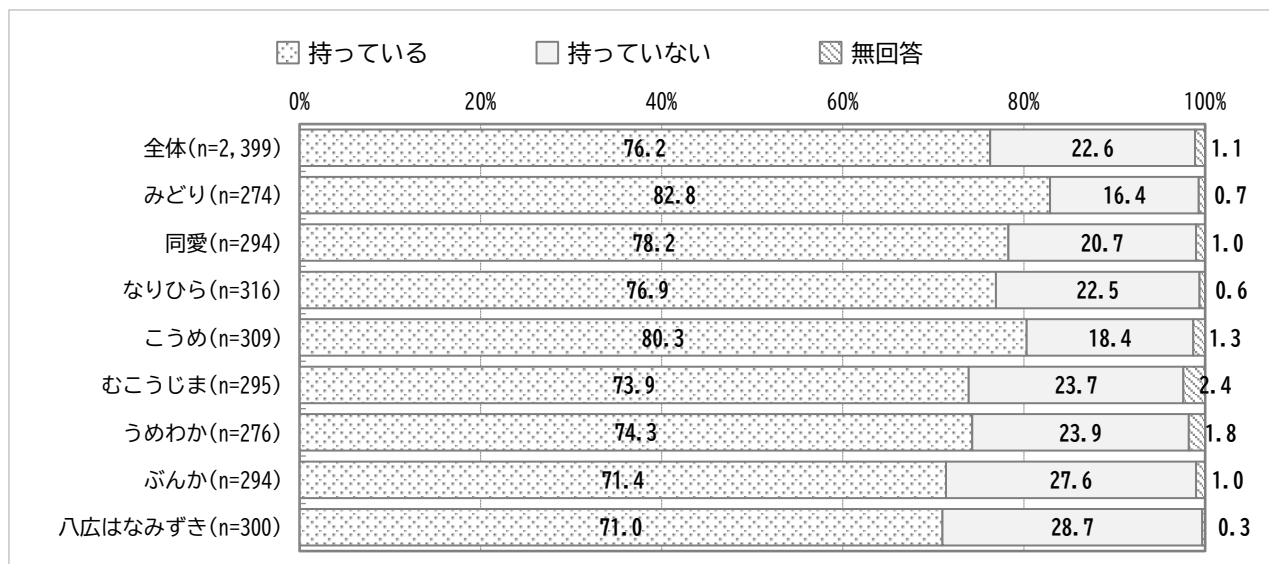
(7) スマートフォン (スマホ) やパソコンの利用について

①スマホ、タブレット、パソコンの保有状況

いずれかを「持っている」人は76.2%、「持っていない」人は22.6%である。

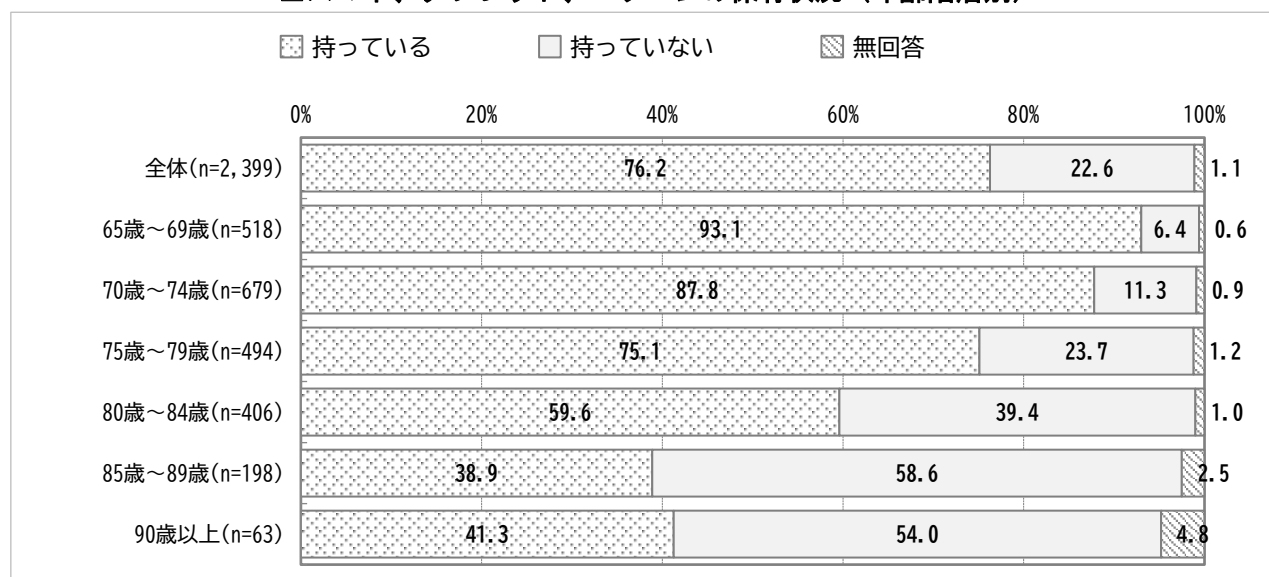
地区別にみると、みどり地区(82.8%)が最も多く、八広はなみずき地区(71.0%)が最も少ない。

■スマホ、タブレット、パソコンの保有状況 (地区別)



年齢階層別にみると、65歳～69歳(93.1%)、70歳～74歳(87.8%)、75歳～79歳(75.1%)、80歳～84歳(59.6%)、85歳～89歳(38.9%)、90歳以上(41.3%)であった。

■スマホ、タブレット、パソコンの保有状況 (年齢階層別)

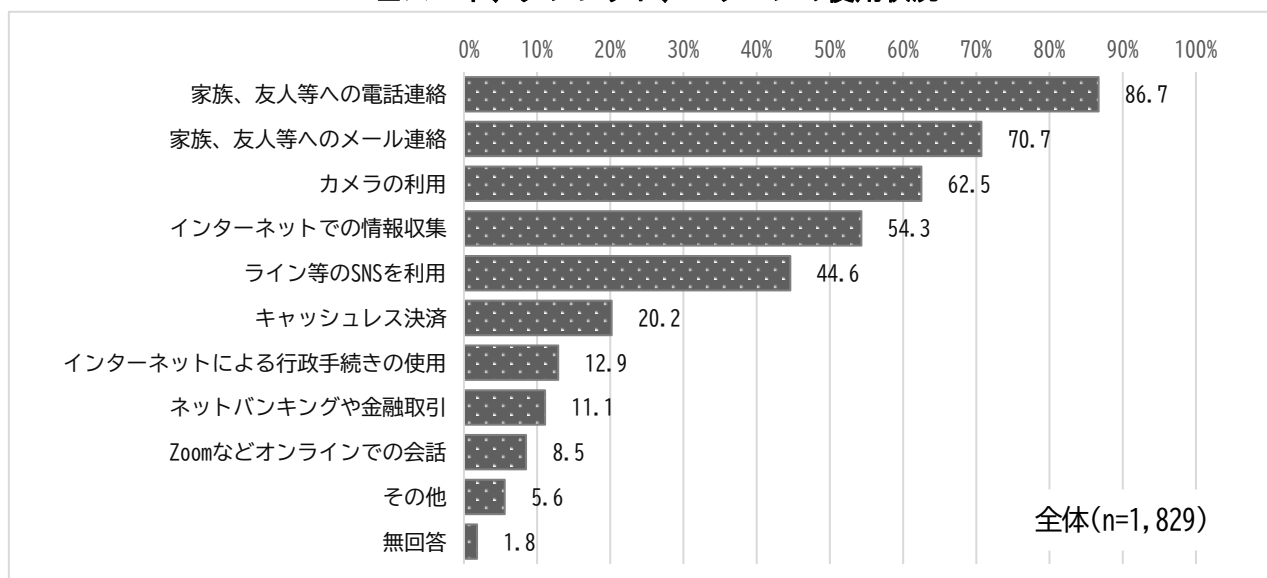


②スマホ、タブレット、パソコンの使用状況

いずれかを「持っている」人について使用目的は、「家族、友人等への電話連絡」が 86.7%で最も多く、次いで、「家族、友人等へのメール連絡」が 70.7%、「カメラの利用」が 62.5%、「インターネットでの情報収集」が 54.3%、「ライン等の SNS を利用」が 44.6%、「キャッシュレス決済」が 20.2%となっている。

年齢階層別にみると、「インターネットでの情報収集」では、65 歳～69 歳 (73.7%) が最も多く、90 歳以上 (19.2%) が最も少ない。

■スマホ、タブレット、パソコンの使用状況



■スマホ、タブレット、パソコンの使用状況 (年齢階層別)

(単位: %)

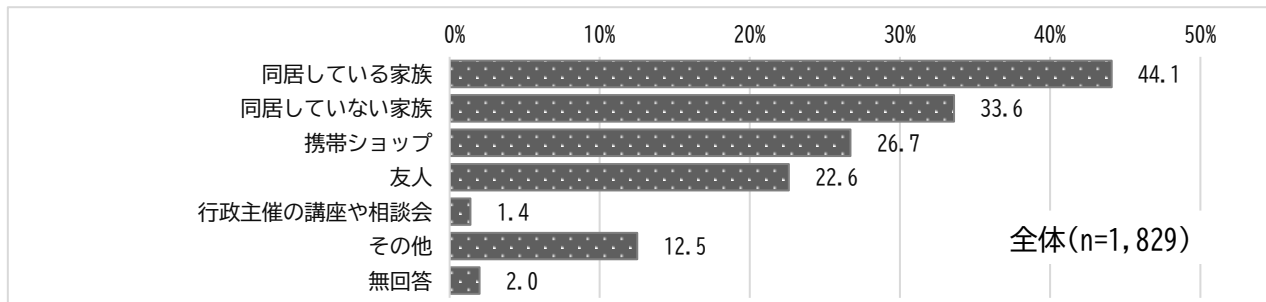
区分	回答者数 (人)	家族、友人等への電話連絡	家族、友人等へのメール連絡	カメラの利用	インターネットでの情報収集	キャッシュレス決済	ライン等の SNS	ネットバンキングや金融取引	インターネットによる行政手続き	Zoomなどオンラインでの会話	その他	無回答
全体	1,829	86.7	70.7	62.5	54.3	20.2	44.6	11.1	12.9	8.5	5.6	1.8
65 歳～69 歳	482	88.2	84.0	71.4	73.7	36.7	62.2	21.8	25.3	13.5	5.2	0.8
70 歳～74 歳	596	86.4	75.2	65.8	60.9	20.0	46.0	9.9	13.6	8.7	5.7	1.3
75 歳～79 歳	371	87.3	62.8	58.8	41.5	12.7	38.8	6.5	4.9	6.2	6.5	1.9
80 歳～84 歳	242	83.9	57.0	47.1	31.0	6.6	27.7	4.1	3.7	5.4	6.6	3.3
85 歳～89 歳	77	88.3	40.3	50.6	24.7	7.8	18.2	1.3	5.2	2.6	2.6	2.6
90 歳以上	26	76.9	46.2	42.3	19.2	-	15.4	-	-	-	7.7	15.4

③スマホ、タブレット、パソコンの使用方法が分からない時の聞く相手

いずれかを「持っている」人について使用方法が分からない時に聞く相手は、「同居している家族」が44.1%で最も多く、次いで「同居していない家族」が33.6%、「携帯ショップ」が26.7%、「友人」が22.6%であった。

年齢階層別にみると、「同居している家族」では、65歳～69歳(46.3%)が最も多く、80歳～84歳(40.1%)が最も少ない。

■使用方法が分からない時に聞く相手



■使用方法が分からない時に聞く相手 (年齢階層別)

(単位:%)

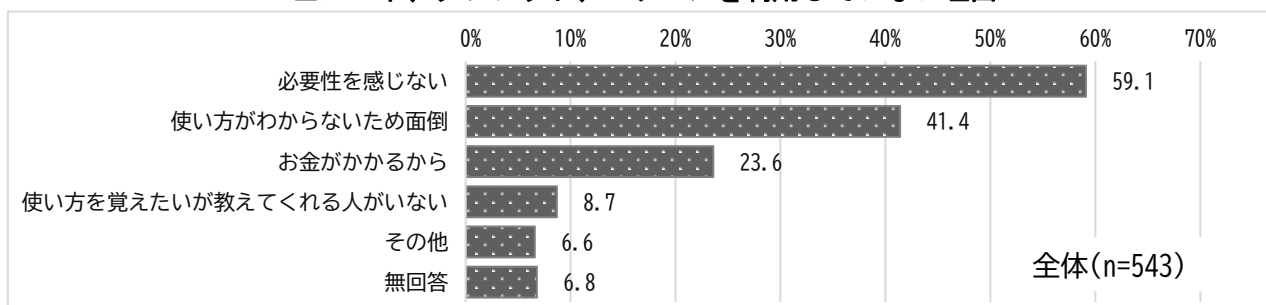
区分	回答者数 (人)	同居している家族	同居していない家族	友人	携帯ショップ	行政主催の講座や相談会	その他	無回答
全体	1,829	44.1	33.6	22.6	26.7	1.4	12.5	2.0
65歳～69歳	482	46.3	32.0	25.3	25.9	0.6	18.3	0.6
70歳～74歳	596	44.5	31.5	24.8	29.9	2.0	11.6	1.3
75歳～79歳	371	44.2	33.4	22.9	27.2	0.5	8.4	2.2
80歳～84歳	242	40.1	37.2	16.1	22.7	1.7	13.2	5.0
85歳～89歳	77	40.3	44.2	11.7	20.8	3.9	3.9	3.9
90歳以上	26	42.3	38.5	19.2	11.5	-	7.7	7.7

④スマホ、タブレット、パソコンを利用していない理由

いずれも「持っていない」人について利用していない理由は、「必要性を感じない」が59.1%で最も多く、次いで「使い方がわからないため面倒」が41.4%、「お金がかかるから」が23.6%であった。

年齢階層別にみると、「必要性を感じない」では、70歳～74歳(63.6%)が最も多く、90歳以上(47.1%)が最も少ない。

■スマホ、タブレット、パソコンを利用していない理由



■スマホ、タブレット、パソコンを利用していない理由 (年齢階層別)

(単位:%)

区分	回答者数 (人)	必要性を感じない	使い方がわからないため面倒	使い方を覚えたいが教えてくれる人がいない	お金がかかるから	その他	無回答
全体	543	59.1	41.4	8.7	23.6	6.6	6.8
65歳～69歳	33	48.5	45.5	24.2	36.4	18.2	3.0
70歳～74歳	77	63.6	37.7	7.8	24.7	5.2	6.5
75歳～79歳	117	62.4	37.6	5.1	26.5	6.8	6.8
80歳～84歳	160	61.3	41.9	10.6	21.3	3.8	6.9
85歳～89歳	116	57.8	45.7	5.2	22.4	7.8	6.9
90歳以上	34	47.1	44.1	8.8	11.8	2.9	8.8

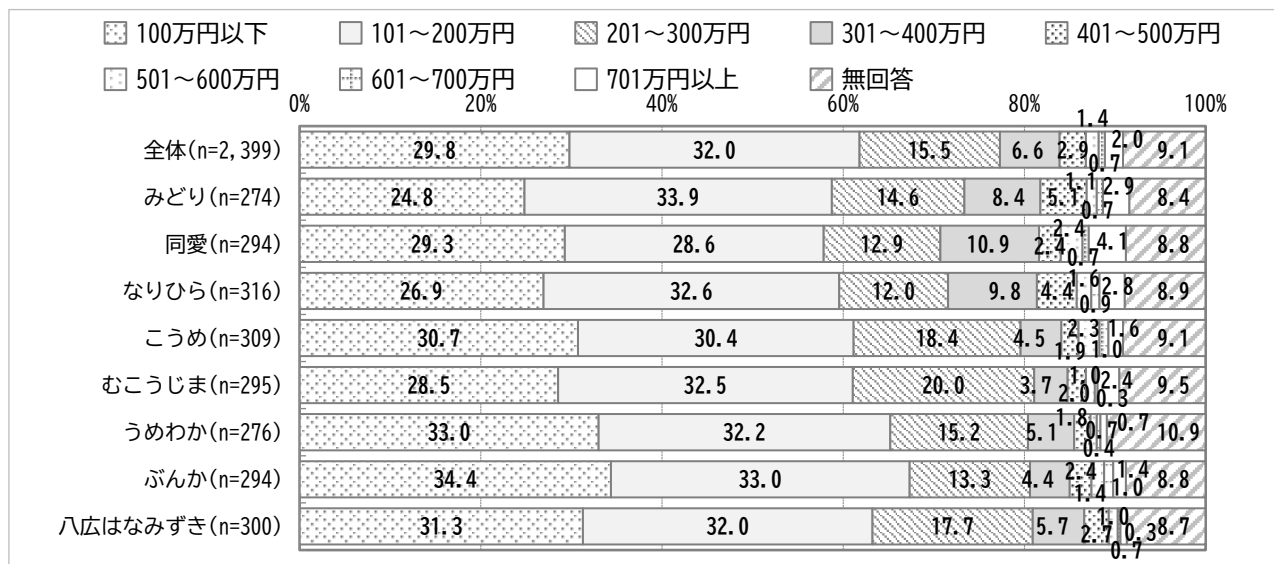
(8) 収入と介護保険サービス・介護保険料

① 1年間の手取り額

1年間の手取り額は、「101～200万円」が32.0%で最も多く、「100万円以下」(29.8%)と回答した人も含めると、「200万円以下」が61.8%を占めており、次いで「201～300万円」が15.5%となっている。

年齢階層別にみると、「200万円以下」では、85歳～89歳(68.1%)が最も多く、65歳～69歳(56.0%)が最も少ない。

■ 1年間の手取り額（年齢階層別）



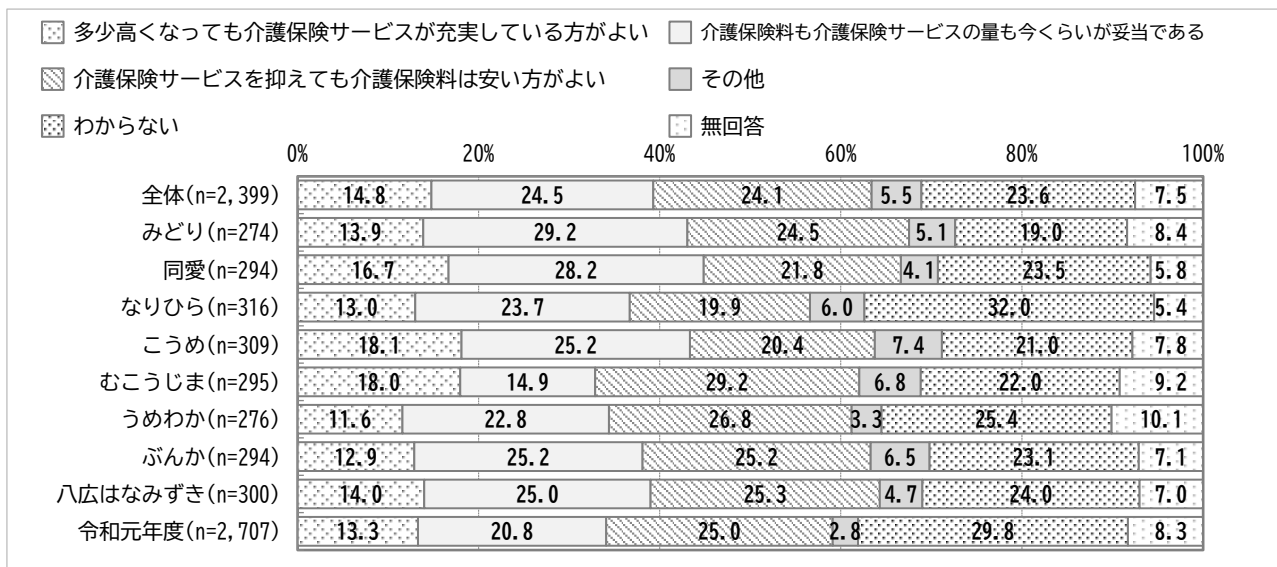
②介護保険サービスと介護保険料に関する意向

「介護保険料も介護保険サービスの量も今くらいが妥当である」(24.5%)と「介護保険サービスを抑えても介護保険料は安い方がよい」(24.1%)がほぼ同程度であった。次いで、「わからない」が23.6%、「多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」が14.8%であった。「介護保険料も介護保険サービスの量も今くらいが妥当である」は、令和元年度(20.8%)より3.7ポイント増加した。

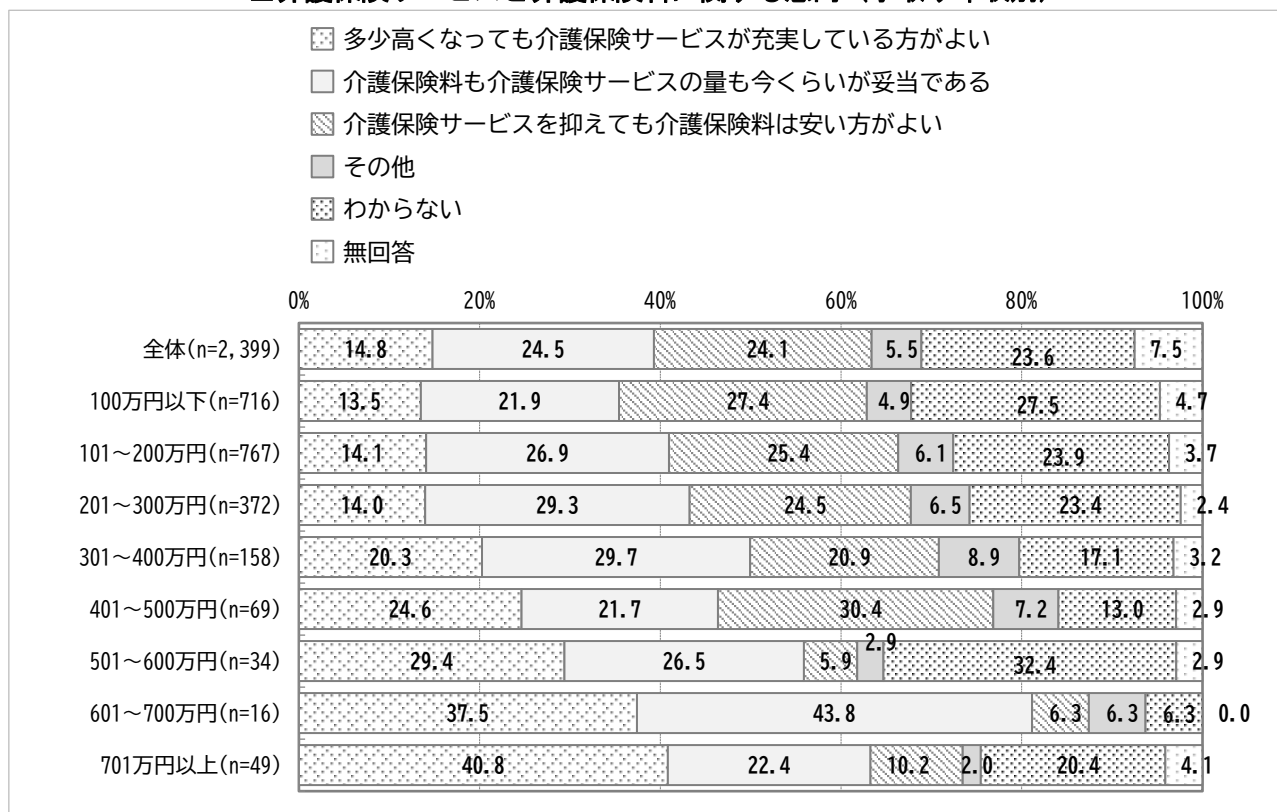
地区別にみると、「介護保険料も介護保険サービスの量も今くらいが妥当である」では、みどり地区(29.2%)が、また、「介護保険サービスを抑えても介護保険料は安い方がよい」では、むこうじま地区(29.2%)が最も多い。

手取り年収別にみると、年収が高くなるにつれて「多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」が増加した。

■介護保険サービスと介護保険料に関する意向



■介護保険サービスと介護保険料に関する意向（手取り年収別）

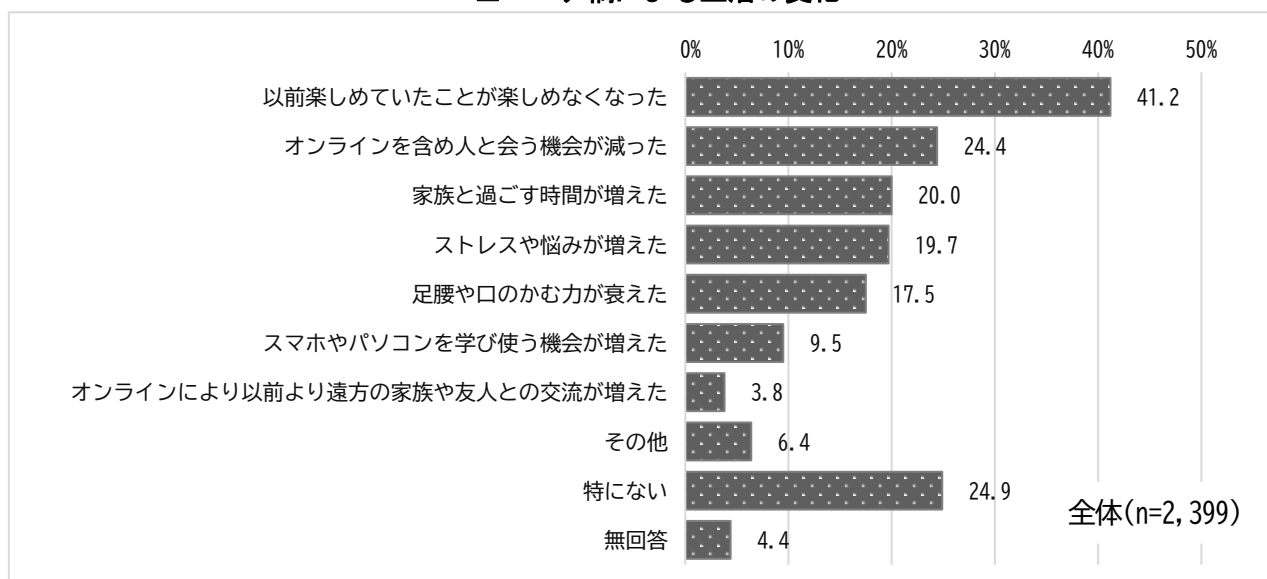


(9) コロナ禍による生活の変化

「以前楽しめていたことが楽しめなくなった」(41.2%)、「オンラインを含め人と会う機会が減った」(24.4%)、「ストレスや悩みが増えた」(19.7%)、「足腰や口のかむ力が衰えた」(17.5%)といった好ましくない影響が多かった一方で、「特にない」(24.9%)、「家族と過ごす時間が増えた」(20.0%)、「スマホやパソコンを学び使う機会が増えた」(9.5%)等、必ずしもマイナスでない事柄も指摘された。

全体で見ると「以前楽しめていたことが楽しめなくなった」、「特にない」、「オンラインを含め人と会う機会が減った」の順に多く、地区別にみてもほぼ同様の順であるが、みどり地区(20.1%)やぶんか地区(23.5%)では「ストレスや悩みが増えた」が3番目に多かった。

■コロナ禍による生活の変化



■コロナ禍による生活の変化 (地区別)

(単位:%)

区分	回答者数(人)	スマホやパソコンを学び使う機会が増えた	オンラインにより以前より遠方の家族や友人との交流が増えた	家族と過ごす時間が増えた	オンラインを含め人と会う機会が減った	以前楽しめていたことが楽しめなくなった	足腰や口のかむ力が衰えた	ストレスや悩みが増えた	その他	特にない	無回答
全体	2,399	9.5	3.8	20.0	24.4	41.2	17.5	19.7	6.4	24.9	4.4
みどり	274	9.1	4.0	19.3	25.5	40.9	17.5	20.1	8.0	17.9	4.4
同愛	294	10.5	1.4	21.4	27.2	43.5	16.3	19.4	6.1	23.1	3.4
なりひら	316	11.1	3.5	25.0	28.2	38.3	13.6	16.1	4.4	28.2	5.1
こうめ	309	11.0	7.1	22.7	25.9	41.7	19.4	16.2	8.7	22.7	3.9
むこうじま	295	9.2	5.4	20.7	22.0	39.3	16.9	21.7	5.8	26.4	4.7
うめわか	276	7.6	4.7	15.9	23.9	41.7	17.4	18.8	5.8	28.3	4.7
ぶんか	294	6.5	2.0	17.0	20.1	38.8	18.4	23.5	7.1	27.2	5.8
八広はなみずき	300	11.7	3.0	17.0	22.0	46.0	19.3	20.3	5.0	26.3	4.0

6. 地域での活動について

(1) 地域活動への参加状況

年数回以上参加している活動は、「収入のある仕事」が24.9%で最も多く、次いで、「趣味関係のグループ」が20.1%、「スポーツ関係のグループやクラブ」が19.0%であった。

■地域活動への参加状況

“年に数回以上参加している“

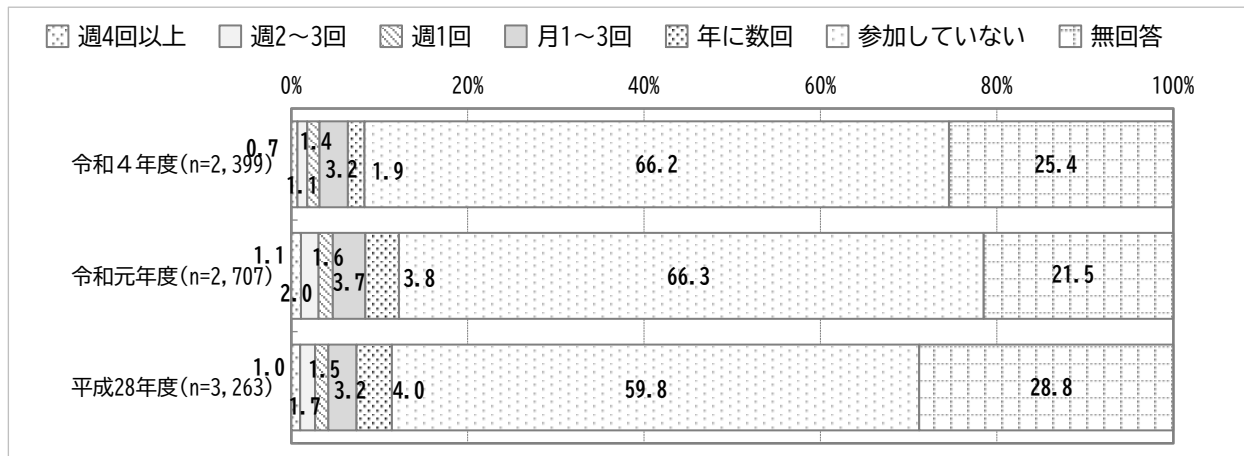
(単位:%)

区分	回答者数(人)	“年に数回以上参加している“					参加していない	無回答
		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回		
ボランティアのグループ	2,399	0.7	1.1	1.4	3.2	1.9	66.2	25.4
スポーツ関係のグループやクラブ	2,399	2.8	6.0	4.8	3.2	2.2	58.7	22.3
趣味関係のグループ	2,399	1.3	3.0	3.8	8.2	3.8	57.4	22.6
学習・教養サークル	2,399	0.3	0.9	1.1	1.9	2.1	66.5	27.2
介護予防のための通いの場	2,399	1.1	1.3	1.8	2.5	1.5	66.2	25.5
老人クラブ	2,399	0.3	0.4	0.5	2.5	2.8	67.9	25.6
町会・自治会	2,399	0.7	0.4	0.8	5.7	9.0	59.9	23.5
収入のある仕事	2,399	14.3	6.4	1.4	1.4	1.4	50.1	25.1

① ボランティアのグループ

年数回以上の参加率(8.3%)は、令和元年度(12.2%)より3.9ポイント減少した。

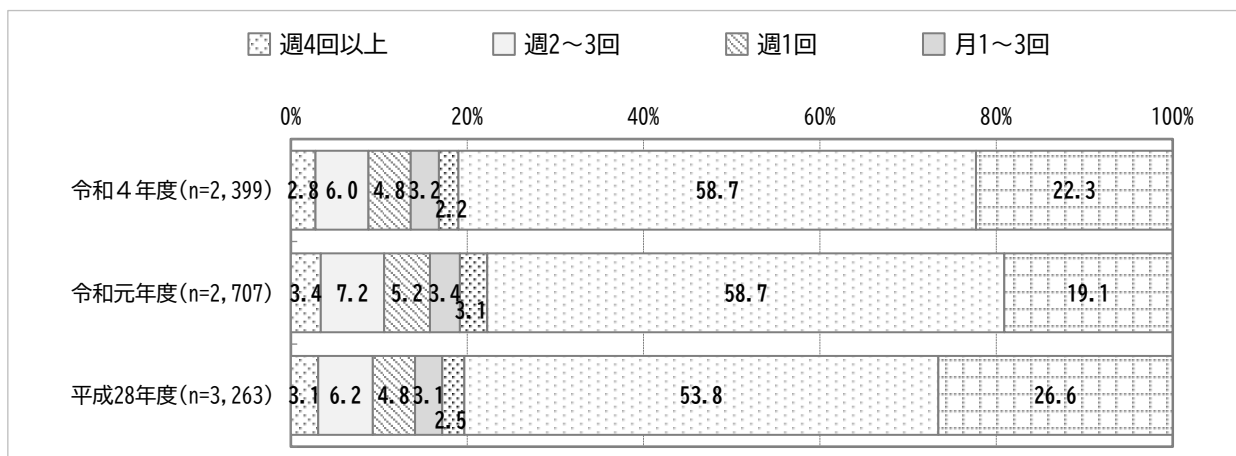
■ボランティアのグループへの参加状況（経年比較）



② スポーツ関係のグループやクラブ

年数回以上の参加率(19.0%)は、令和元年度(22.3%)より3.3ポイント減少した。

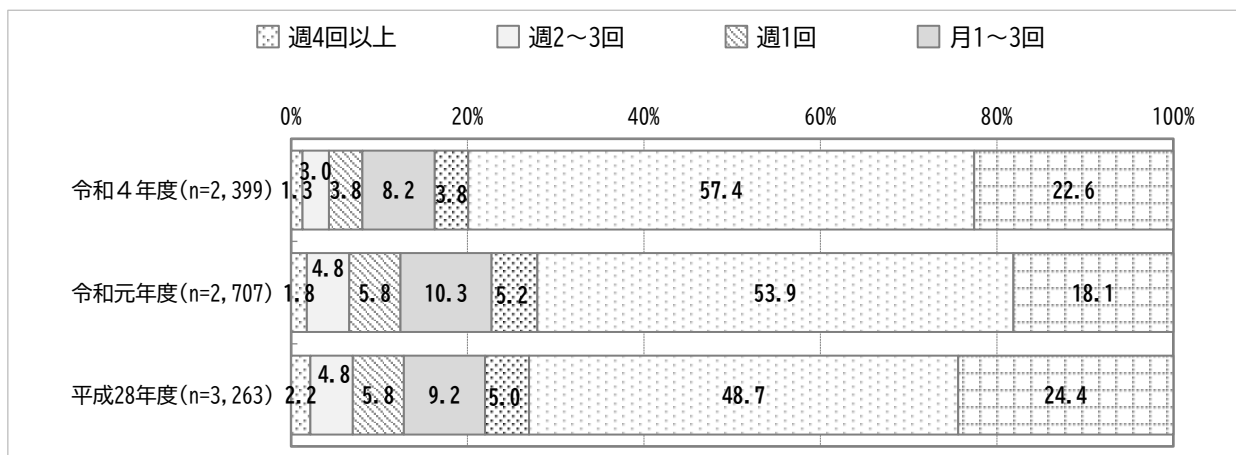
■スポーツ関係のグループやクラブへの参加状況（経年比較）



③ 趣味関係のグループ

年数回以上の参加率(20.1%)は、令和元年度(27.9%)より7.8ポイント減少した。

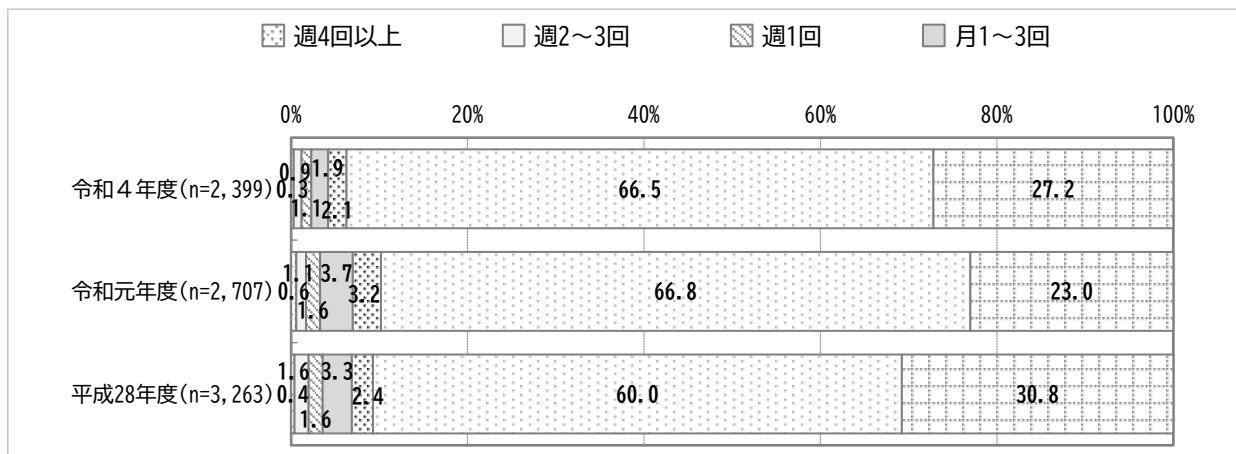
■趣味関係のグループへの参加状況（経年比較）



④ 学習・教養サークル

年数回以上の参加率(6.3%)は、令和元年度(10.2%)より3.9ポイント減少した。

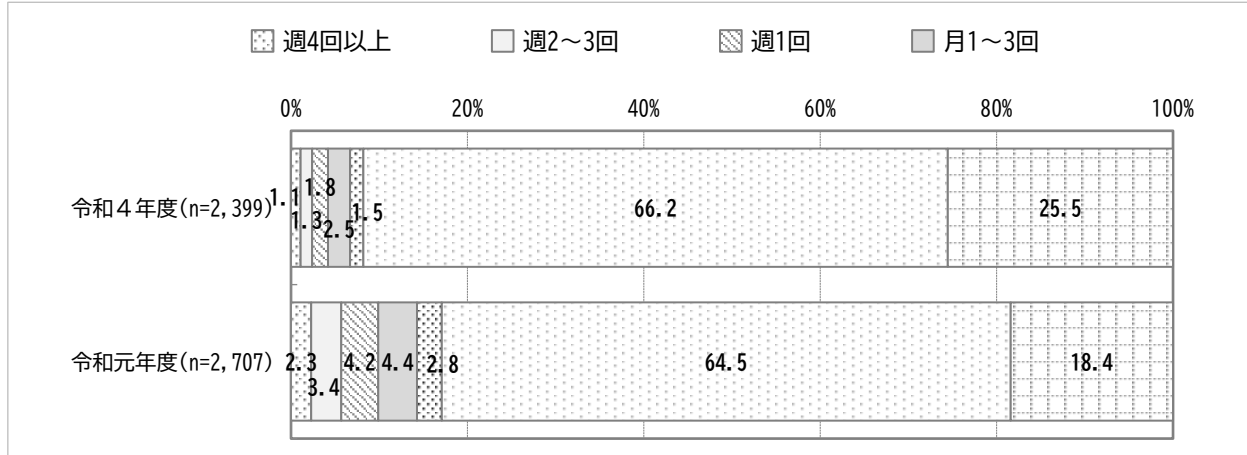
■学習・教養サークルへの参加状況（経年比較）



⑤介護予防のための通いの場

年数回以上の参加率(8.2%)は、令和元年度(17.1%)より8.9ポイント減少した。

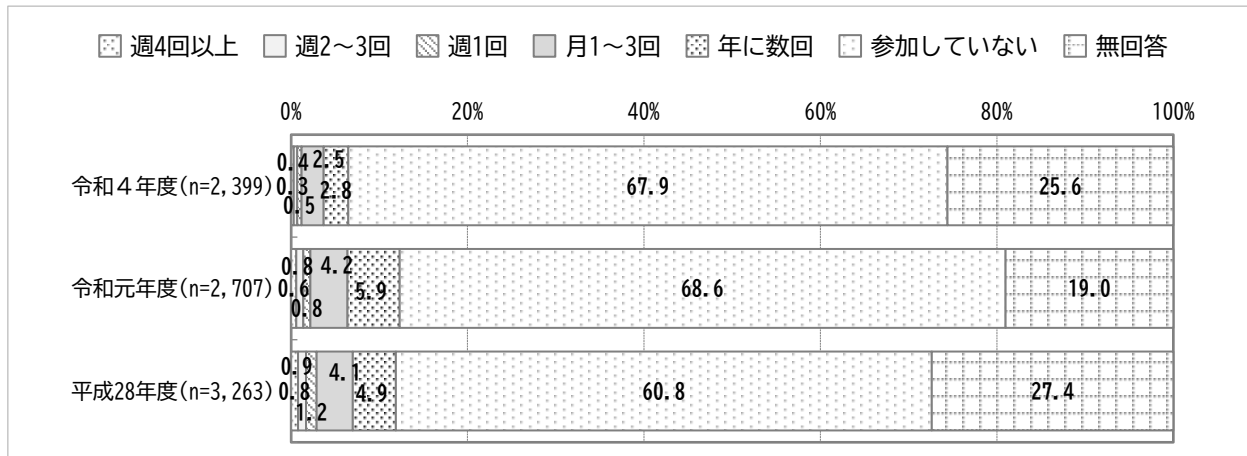
■介護予防のための通いの場への参加状況(経年比較)



⑥老人クラブ

年数回以上の参加率(6.5%)は、令和元年度(12.3%)より5.8ポイント減少した。

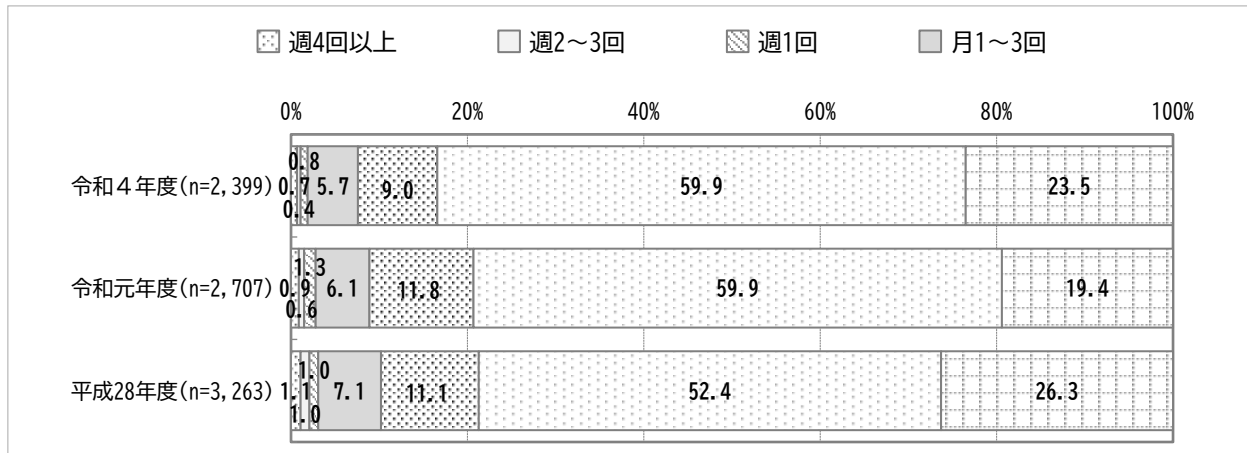
■老人クラブへの参加状況(経年比較)



⑦町会・自治会

年数回以上の参加率(16.6%)は、令和元年度(20.7%)より4.1ポイント減少した。

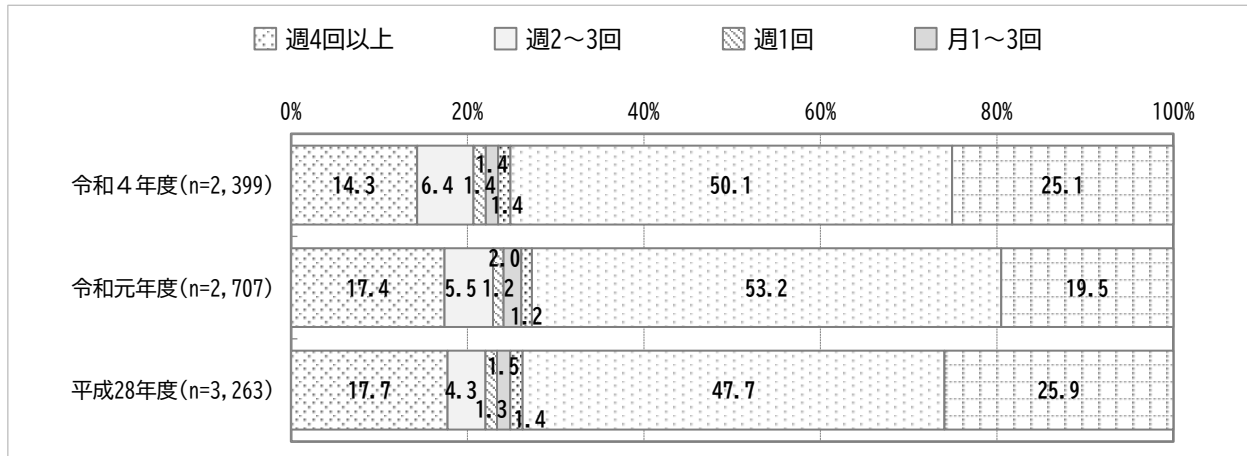
■町会・自治会への参加状況(経年比較)



⑧収入のある仕事

年数回以上の就業率(24.9%)は、令和元年度(27.3%)より2.4ポイント減少した。

■収入のある仕事への就業状況（経年比較）



年数回以上参加している活動について地区別でみると、以下のとおりであった

- 「ボランティア」では、同愛地区(13.3%)が最多、ぶんか地区(4.3%)が最少でその差が9.0ポイント
- 「スポーツ」では、同愛地区(24.5%)が最多、ぶんか地区(14.7%)が最少でその差が9.8ポイント
- 「趣味関係」では、こうめ地区(23.3%)が最多、ぶんか地区(13.9%)が最少でその差が9.4ポイント
- 「学習・教養」では、同愛地区(9.6%)が最多、八広はなみずき地区(3.3%)が最少でその差が6.3ポイント
- 「通いの場」では、同愛地区(11.9%)が最多、八広はなみずき地区(6.1%)が最少でその差が5.8ポイント
- 「老人クラブ」では、同愛地区(10.6%)が最多、なりひら地区(4.3%)が最少でその差が6.3ポイント
- 「町会・自治会」では、同愛地区(24.4%)が最多、八広はなみずき地区(10.6%)が最少でその差が13.8ポイント
- 「収入のある仕事」では、みどり地区およびなりひら地区(それぞれ26.7%)が最多、ぶんか地区(23.1%)が最少でその差が3.6ポイント

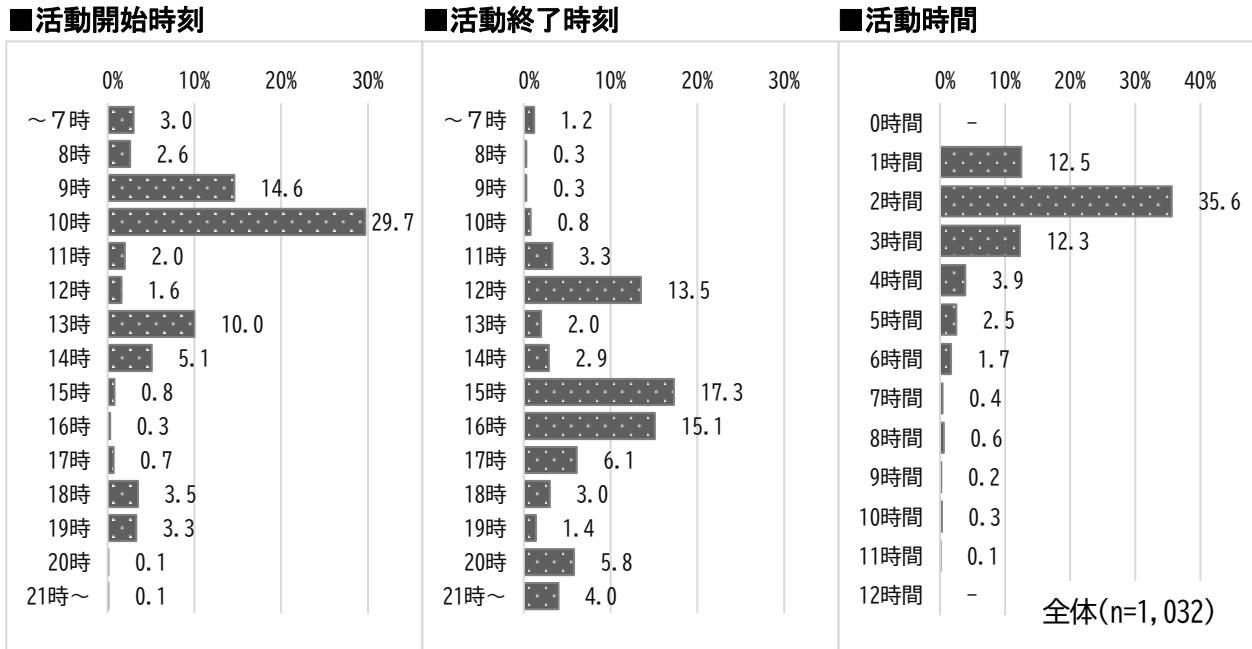
■地区別の地域活動への参加状況（年に数回以上参加）

(単位:%)

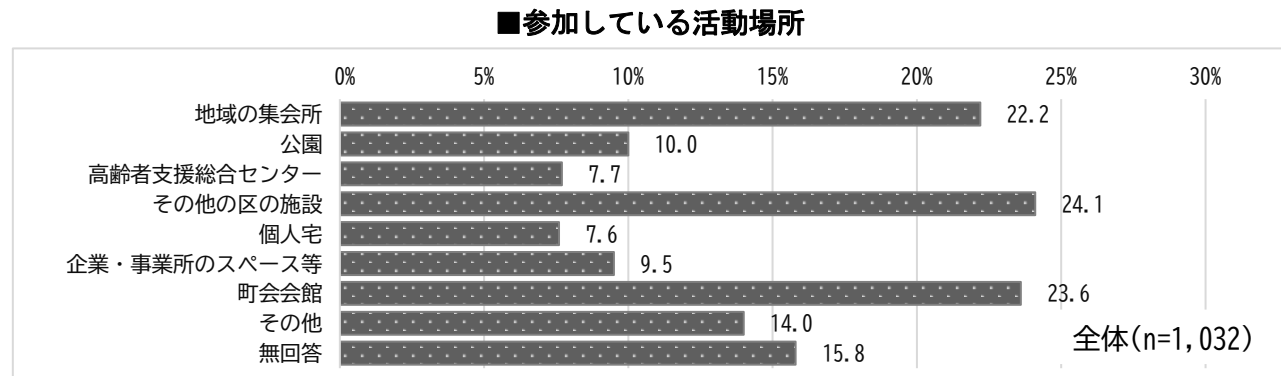
区分	回答者数 (人)	ボランティア	スポーツ	趣味関係	学習・教養	通いの場	老人クラブ	町会・自治会	収入のある仕事
全体	2,399	8.3	19.0	20.1	6.3	8.2	6.5	16.6	24.9
みどり	274	11.7	22.2	23.0	5.5	11.6	9.6	17.6	26.7
同愛	294	13.3	24.5	22.4	9.6	11.9	10.6	24.4	25.8
なりひら	316	7.6	20.9	17.6	6.6	6.9	4.3	18.3	26.7
こうめ	309	7.0	17.8	23.3	6.4	6.5	7.1	17.0	23.6
むこうじま	295	11.3	18.0	21.7	6.0	8.8	5.1	13.1	23.4
うめわか	276	7.0	18.5	19.8	3.9	8.0	5.1	14.5	23.9
ぶんか	294	4.3	14.7	13.9	8.6	7.3	5.1	18.1	23.1
八広はなみずき	300	5.3	15.7	18.4	3.3	6.1	4.6	10.6	26.3

(2) 地域活動への参加時間・場所

地域活動に参加している方について、望ましい活動開始時刻は「10時」が29.7%で最も多く、次いで、「9時」が14.6%、「13時」が10.0%であった。望ましい活動終了時刻は「15時」が17.3%で最も多く、次いで「16時」が15.1%、「12時」が13.5%であった。また、望ましい活動時間は「2時間」が35.6%で最も多く、次いで「1時間」が12.5%、「3時間」が12.3%であった。



地域活動に参加している方について、参加している活動場所は「その他の区の施設(地域の集会所、公園、高齢者支援総合センター以外)」が24.1%で最も多く、次いで「町会会館」が23.6%、「地域の集会所」が22.2%であった。地区別にみると、「町会会館」では、同愛地区(37.9%)およびこうめ地区(34.5%)が上位2位となっている。



■参加している活動場所 (地区別)

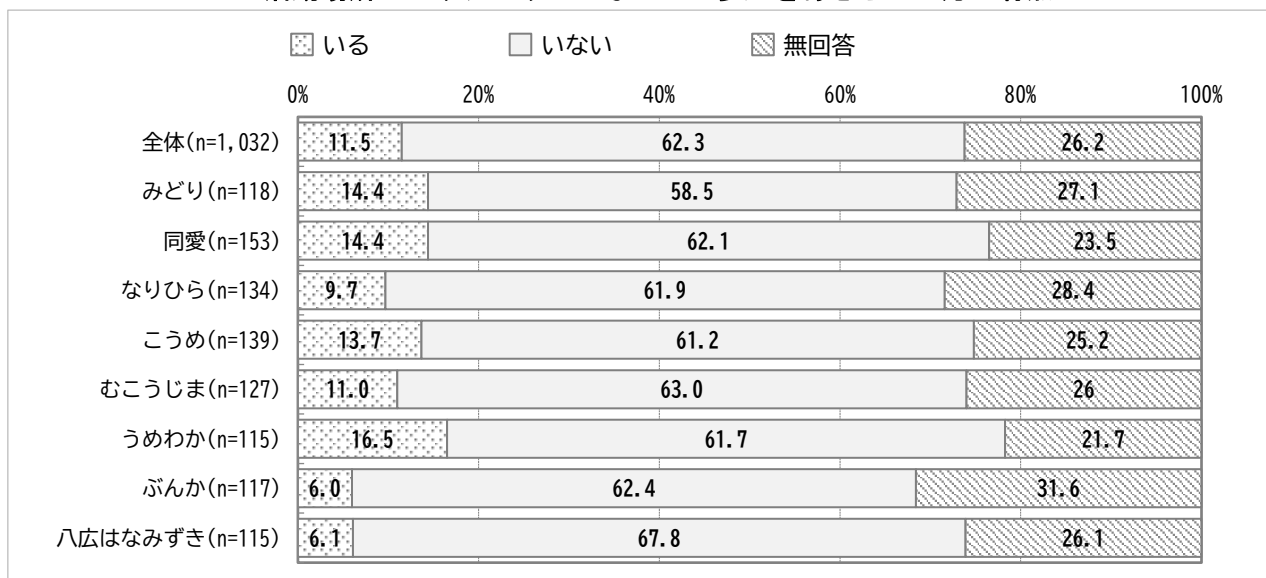
(単位:%)

区分	回答者数(人)	地域の集会所	公園	高齢者支援総合センター	その他の区の施設	個人宅	企業・事業所のスペース等	町会会館	その他	無回答
全体	1,032	22.2	10.0	7.7	24.1	7.6	9.5	23.6	14.0	15.8
みどり	118	28.0	11.0	6.8	19.5	7.6	10.2	30.5	16.9	12.7
同愛	153	22.2	11.1	3.9	19.6	6.5	13.1	37.9	11.1	17.0
なりひら	134	19.4	6.0	5.2	21.6	6.7	12.7	19.4	11.2	20.1
こうめ	139	18.7	6.5	7.9	23.7	5.0	8.6	34.5	15.8	17.3
むこうじま	127	17.3	15.0	7.1	22.8	13.4	11.0	16.5	19.7	14.2
うめわか	115	19.1	11.3	18.3	32.2	8.7	6.1	13.0	8.7	13.0
ぶんか	117	29.9	12.0	9.4	26.5	3.4	3.4	17.9	14.5	17.9
八広はなみずき	115	23.5	7.8	4.3	28.7	7.0	9.6	13.0	13.0	14.8

活動場所がバリアフリーでないため参加をあきらめた方が「いる」(11.5%)に対して「いない」(62.3%)であった。

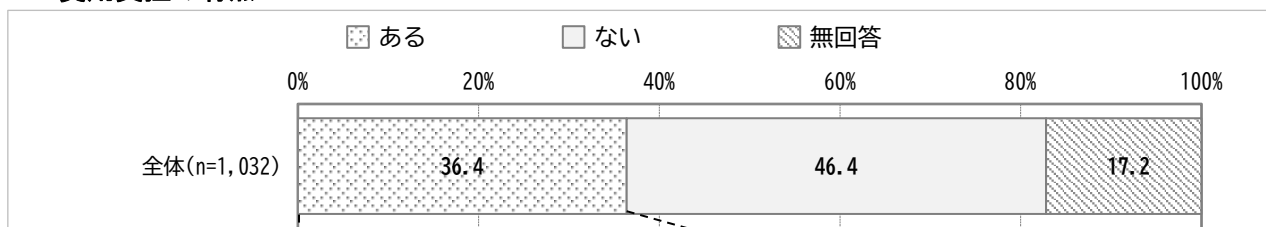
地区別でみると、「いる」では、うめわか地区(16.5%)が最も多く、ぶんか地区(6.0%)が最も少なく、10.5ポイントの差がみられた。

■活動場所がバリアフリーでないため参加をあきらめた方の有無

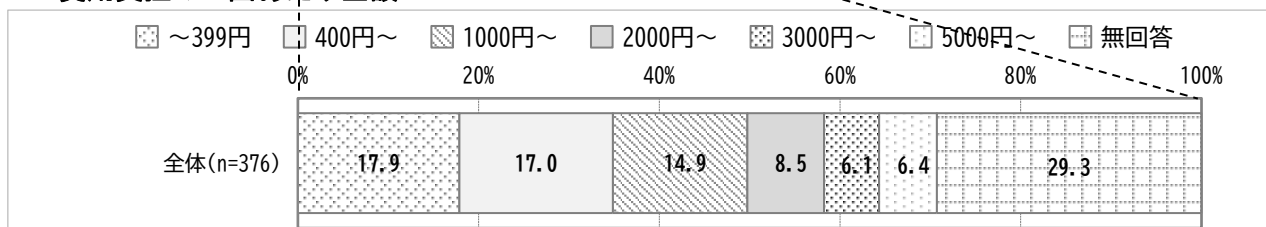


活動場所の使用に伴う費用負担については、「ある」(36.4%)に対して「ない」(46.4%)であった。費用負担の「ある」方について1回あたり金額をみると、「400円未満」が17.9%、「400円から1,000円未満」が17.0%、「1,000円～2,000円未満」が14.9%となっており、活動場所が有料であることで、会・グループの「負担になっている」が21.8%、「負担とはならない」が72.6%であった。

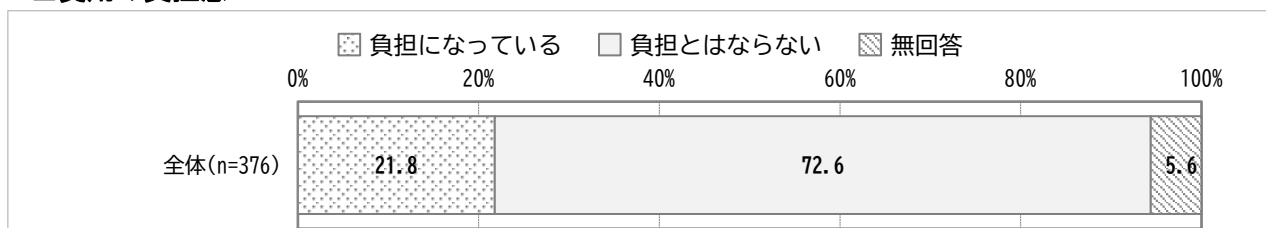
■費用負担の有無



■費用負担の1回あたり金額



■費用の負担感

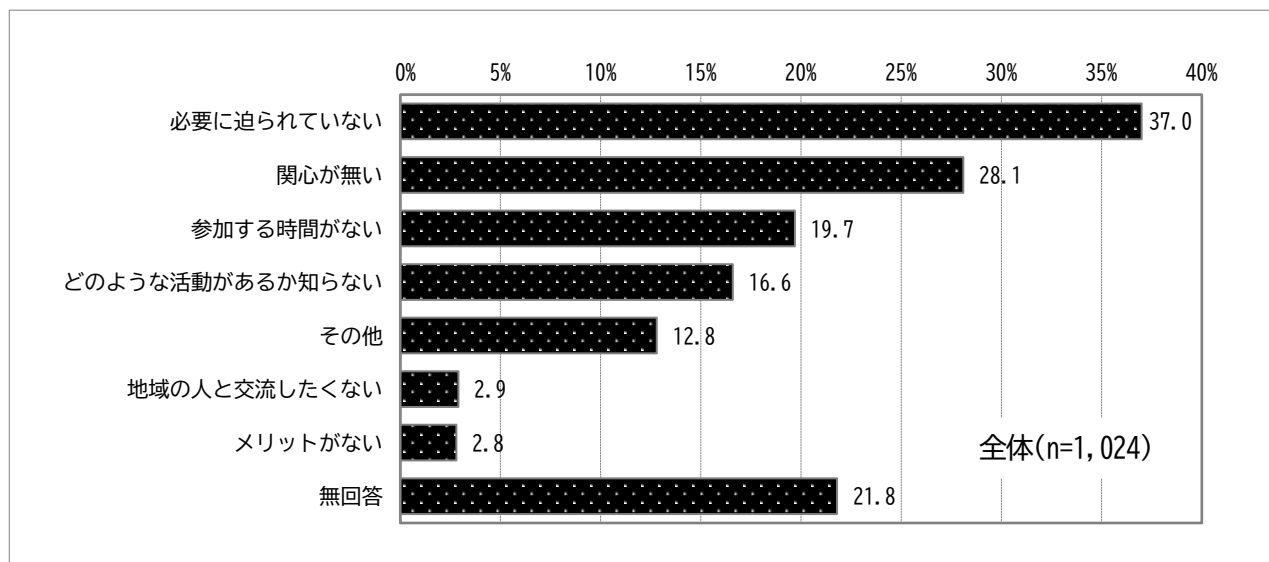


(3) 地域活動へ参加していない理由

地域活動に「参加していない」人について、その理由では、「必要に迫られていない」が 37.0%で最も多く、次いで「関心が無い」が 28.1%、「参加する時間がない」が 19.7%、「どのような活動があるか知らない」が 16.6%等であった。

地区別で見ると、「必要に迫られていない」では、同愛地区(42.7%)が、「関心が無い」および「参加する時間がない」では、なりひら地区(それぞれ 32.6%、22.0%)が、「どのような活動があるか知らない」では、ぶんか地区(21.5%)が最も多い。

■地域活動へ参加していない理由（複数回答）



■地域活動へ参加していない理由（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数 (人)	関心が無い	参加する時間がない	どのような活動があるか知らない	必要に迫られていない	地域の人と交流したくない	メリットがない	その他	無回答
全体	1,024	28.1	19.7	16.6	37.0	2.9	2.8	12.8	21.8
みどり	127	24.4	21.3	20.5	40.2	0.8	2.4	16.5	16.5
同愛	110	27.3	20.9	11.8	42.7	0.9	-	8.2	23.6
なりひら	132	32.6	22.0	18.9	34.1	4.5	3.0	12.9	15.2
こうめ	129	27.9	15.5	16.3	38.0	3.9	3.1	14.7	22.5
むこうじま	121	31.4	17.4	15.7	31.4	2.5	4.1	8.3	29.8
うめわか	114	31.6	20.2	8.8	37.7	1.8	3.5	11.4	21.9
ぶんか	130	23.1	19.2	21.5	33.1	3.8	3.1	19.2	22.3
八広はなみずき	138	26.1	21.7	17.4	39.9	3.6	2.9	8.0	24.6

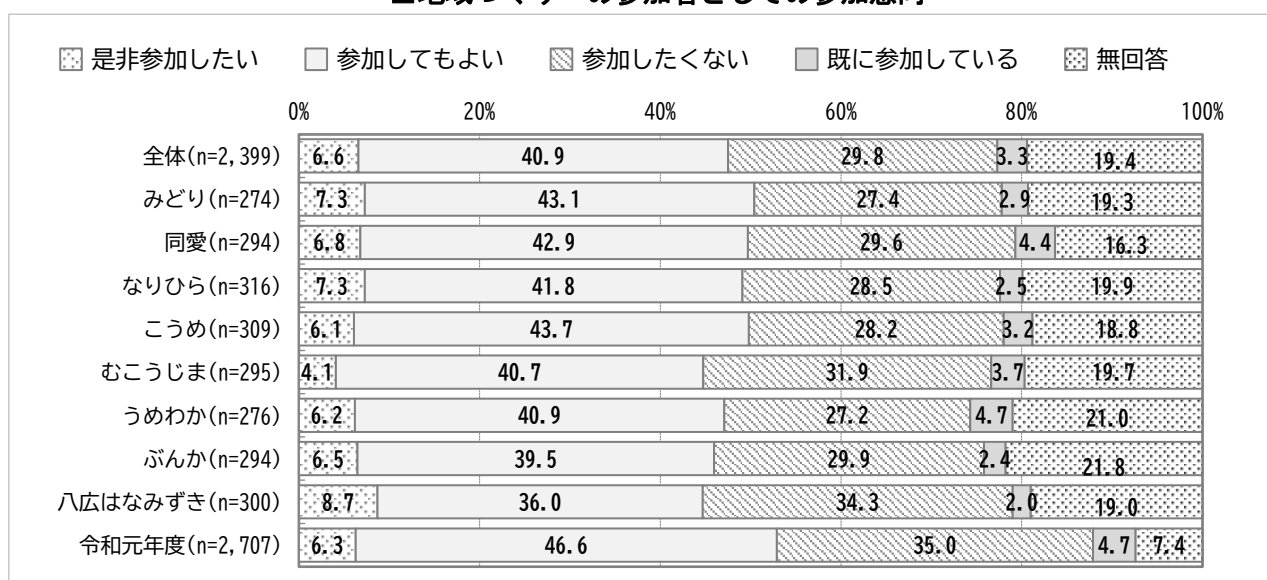
(4) 地域づくりへの参加意向

①参加者としての参加意向

地域づくりへの参加者としての参加意向は、「是非参加したい」と「参加してもよい」と回答した人を合わせた“参加してもよい”が 47.5%、「参加したくない」が 29.8%となっている。“参加してもよい”は、令和元年度(52.9%)より5.4ポイント減少した。

地区別にみると、“参加してもよい”では、みどり地区(50.4%)が最も多く、八広はなみずき地区(44.7%)が最も少ない。

■地域づくりへの参加者としての参加意向

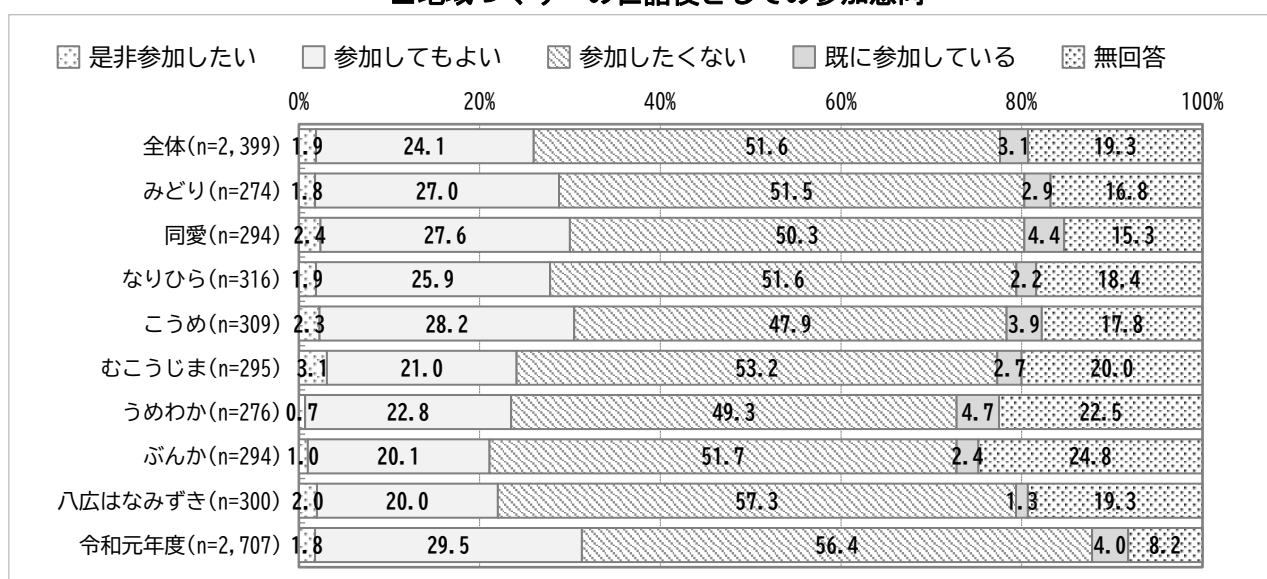


②世話役としての参加意向

地域づくりへの世話役としての参加意向は、「是非参加したい」と「参加してもよい」と回答した人を合わせた“参加してもよい”が 26.0%、「参加したくない」が 51.6%となっている。“参加してもよい”は、令和元年度(31.3%)より5.3ポイント減少した。

地区別にみると、“参加してもよい”では、こうめ地区(30.5%)が最も多く、ぶんか地区(21.1%)が最も少ない。

■地域づくりへの世話役としての参加意向



7. たすけあいについて

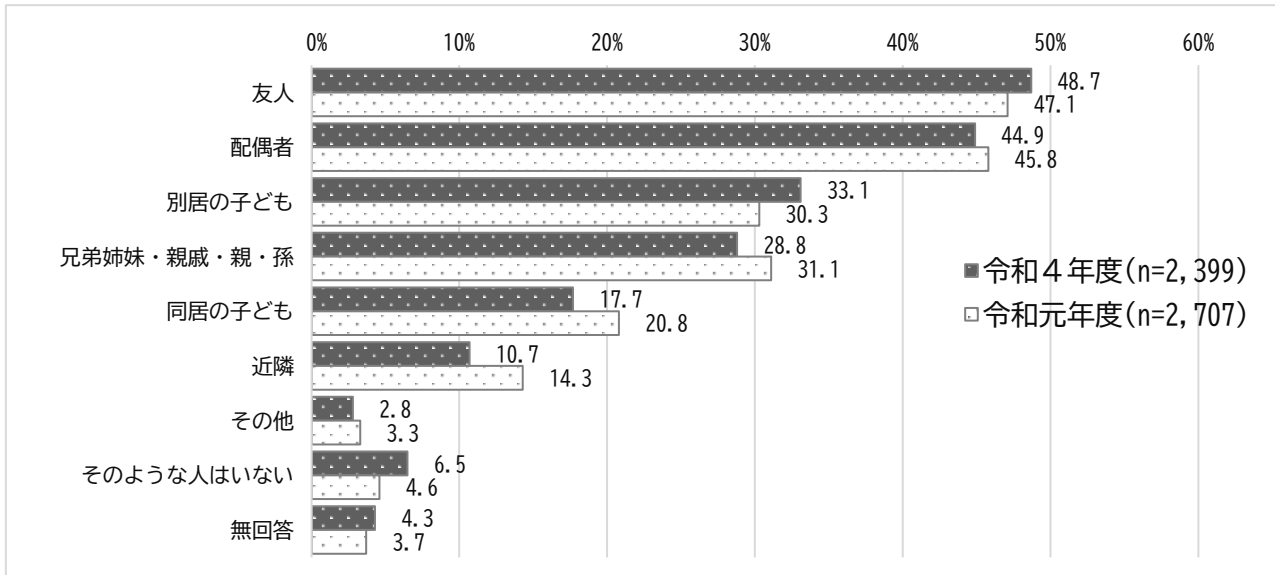
(1) 情緒的支援者

①心配事や愚痴を聞いてくれる人

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「友人」が 48.7%で最も多く、次いで「配偶者」が 44.9%、「別居の子ども」が 33.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 28.8%となっている。

「心配事や愚痴を聞いてくれる人がいる」以外は、10.8%となっており、令和元年度(8.3%)より2.5ポイント増加した。地区別でみると、八広はなみずき地区(14.7%)が最も多く、同愛地区(4.7%)が最も少なく、10.0ポイントの差がみられた。

■心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答）



■心配事や愚痴を聞いてくれる人（地区別）

(単位:%)

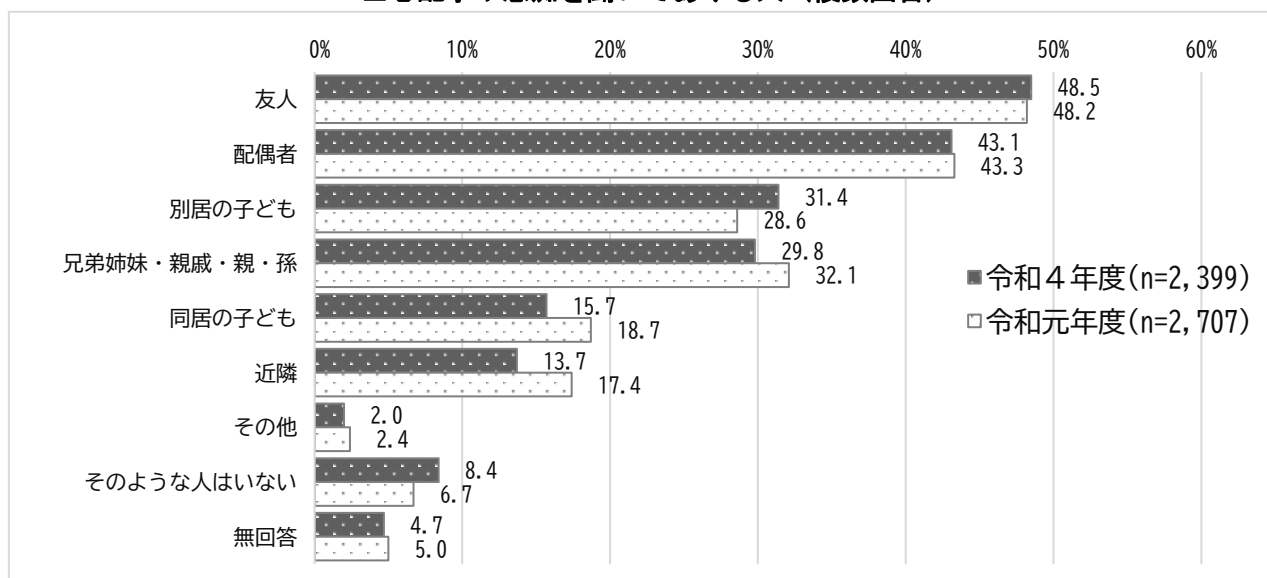
区分	回答者数(人)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体	2,399	44.9	17.7	33.1	28.8	10.7	48.7	2.8	6.5	4.3
みどり	274	47.1	14.2	34.3	27.7	8.0	47.8	3.6	6.2	4.4
同愛	294	50.7	21.1	35.0	30.3	9.9	52.4	1.0	3.7	1.0
なりひら	316	47.8	17.4	33.9	32.9	10.8	50.9	1.6	3.8	4.7
こうめ	309	43.0	17.5	31.1	31.7	13.6	48.5	3.9	6.5	3.9
むこうじま	295	47.8	15.6	33.9	25.8	11.2	49.2	2.0	6.1	6.8
うめわか	276	38.0	19.2	30.8	32.6	12.3	48.6	3.6	9.4	4.3
ぶんか	294	44.9	18.4	34.0	24.5	10.2	41.5	4.1	6.8	5.8
八広はなみずき	300	37.7	18.3	32.7	26.3	9.7	50.0	2.0	10.7	4.0

②心配事や愚痴を聞いてあげる人

反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「友人」が 48.5%で最も多く、次いで「配偶者」が 43.1%、「別居の子ども」が 31.4%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 29.8%となっている。

「心配事や愚痴を聞いてあげる人がいる」以外は、13.1%となっており、令和元年度(11.7%)より 1.4ポイント増加した。地区別でみると、八広はなみずき地区(16.7%)が最も多く、同愛地区(9.9%)が最も少なく、6.8ポイントの差がみられた。

■心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答）



■心配事や愚痴を聞いてあげる人（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体	2,399	43.1	15.7	31.4	29.8	13.7	48.5	2.0	8.4	4.7
みどり	274	44.9	11.3	32.1	27.0	12.4	49.6	3.6	8.4	4.0
同愛	294	49.3	16.3	29.9	27.9	13.3	51.7	1.4	6.8	3.1
なりひら	316	47.8	17.1	33.2	34.5	12.0	48.7	1.3	7.0	4.7
こうめ	309	41.7	17.2	27.2	37.5	17.2	50.5	3.2	5.8	4.2
むこうじま	295	44.7	15.6	33.6	26.1	12.9	47.8	1.0	9.5	6.1
うめわか	276	35.1	14.9	32.2	29.0	15.6	48.6	0.4	8.7	6.5
ぶんか	294	41.2	16.7	32.0	29.9	14.3	42.9	4.1	8.5	4.8
八広はなみずき	300	37.7	16.3	32.0	26.3	12.7	47.7	1.7	12.7	4.0

(2) 手段的支援者

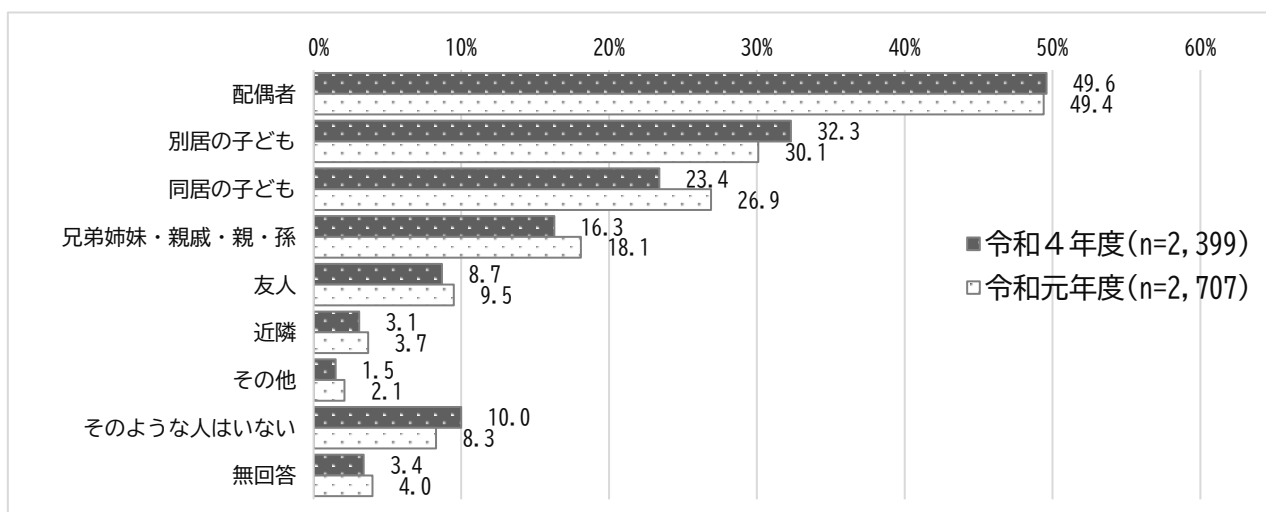
①看病や世話をしてくれる人

看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が49.6%で最も多く、次いで「別居の子ども」が32.3%、「同居の子ども」が23.4%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が16.3%となっている。一方、「そのような人はいない」という回答も10.0%となっている。

地区別にみると、「配偶者」では、同愛地区(53.7%)が、「別居の子ども」では、むこうじま地区(35.3%)が、「同居の子ども」では、同愛地区(27.6%)が最も多い。

「看病や世話をしてくれる人がいる」以外は、13.4%となっており、令和元年度(12.3%)より1.1ポイント増加した。地区別でみると、八広はなみずき地区(18.0%)が最も多く、同愛地区(9.2%)が最も少なく、8.8ポイントの差がみられた。

■看病や世話をしてくれる人（複数回答）



■看病や世話をしてくれる人（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体	2,399	49.6	23.4	32.3	16.3	3.1	8.7	1.5	10.0	3.4
みどり	274	51.1	21.9	32.1	13.5	1.8	7.7	2.2	11.3	2.6
同愛	294	53.7	27.6	34.7	17.7	2.0	10.9	0.7	6.1	3.1
なりひら	316	52.8	22.5	31.6	17.7	4.1	11.7	1.3	7.9	2.5
こうめ	309	46.9	24.3	28.2	18.4	4.5	8.7	3.2	9.7	3.2
むこうじま	295	50.8	21.0	35.3	13.2	3.7	7.8	2.4	8.8	6.1
うめわか	276	45.3	23.2	34.4	19.2	3.6	9.1	1.4	10.5	3.3
ぶんか	294	47.3	21.4	32.7	14.3	3.1	8.2	1.0	10.5	3.7
八広はなみずき	300	46.7	26.0	29.3	16.7	1.7	6.0	0.3	15.0	3.0

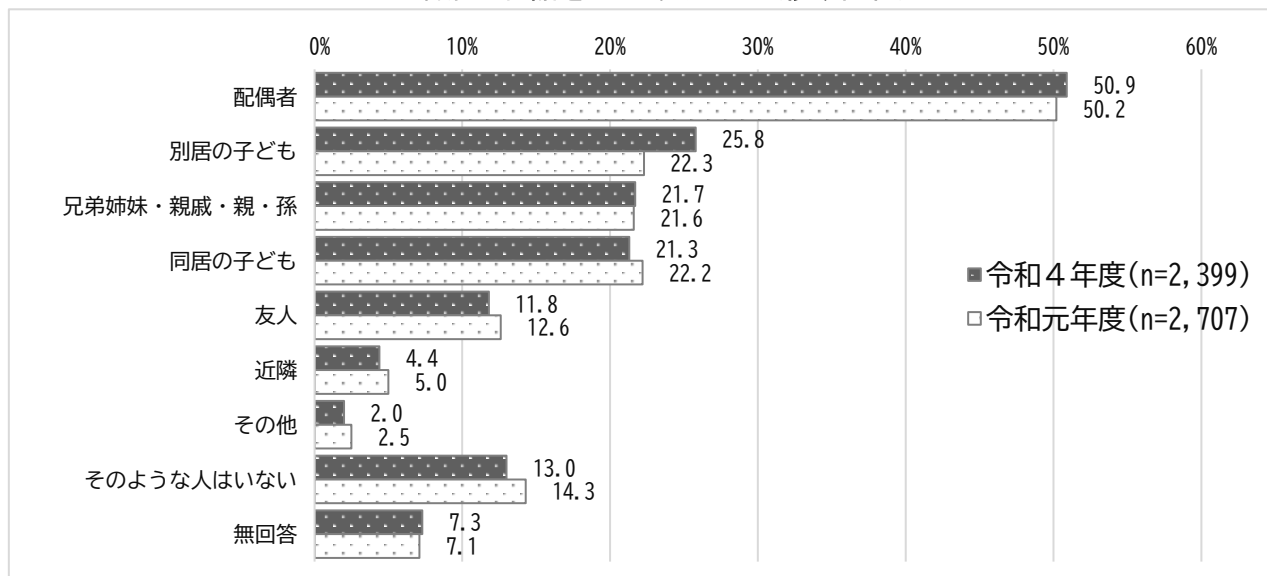
②看病や世話をしあける人

看病や世話をしあける人については、「配偶者」が 50.9%で最も多く、次いで「別居の子ども」が 25.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 21.7%、「同居の子ども」が 21.3%となっている。一方、「そのような人はいない」は 13.0%となっている。

地区別にみると、「配偶者」では、同愛地区(56.1%)が、「別居の子ども」および「兄弟姉妹・親戚・親・孫」では、うめわか地区(それぞれ 28.3%、25.0%)が最も多い。

「看病や世話をしあける人がいる」以外は、20.3%となっており、令和元年度(21.4%)より 1.1ポイント減少した。地区別でみると、八広はなみずき地区(25.7%)が最も多く、同愛地区(16.6%)が最も少なく、9.1ポイントの差がみられた。

■看病や世話をしあける人（複数回答）



■看病や世話をしあける人（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体	2,399	50.9	21.3	25.8	21.7	4.4	11.8	2.0	13.0	7.3
みどり	274	50.4	18.2	26.3	19.0	3.6	10.9	2.6	15.3	6.9
同愛	294	56.1	25.9	23.8	22.4	3.1	12.2	1.0	11.2	5.4
なりひら	316	53.5	21.2	27.8	20.9	5.4	12.0	0.6	12.0	6.0
こうめ	309	49.8	22.7	23.9	24.9	6.8	11.7	3.2	11.7	6.5
むこうじま	295	50.2	20.0	25.8	20.0	3.7	11.5	2.0	13.6	9.8
うめわか	276	46.0	20.3	28.3	25.0	5.1	13.8	1.4	12.3	10.1
ぶんか	294	51.7	20.1	27.2	22.4	4.8	11.6	2.7	9.2	6.8
八広はなみずき	300	47.7	22.3	23.0	20.0	2.7	11.0	1.7	18.7	7.0

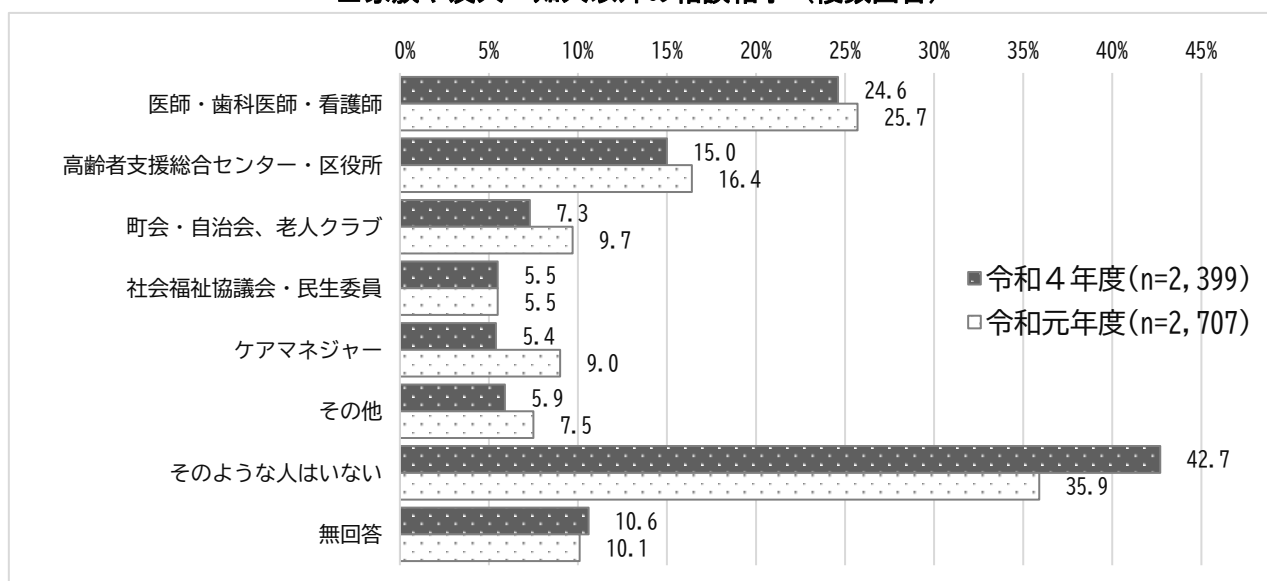
(3) 家族や友人・知人以外の相談相手

家族や友人・知人以外の相談相手について、「そのような人はいない」が42.7%で最も多い一方で、相談相手では、「医師・歯科医師・看護師」が24.6%で最も多く、次いで「高齢者支援総合センター・区役所」が15.0%、「町会・自治会、老人クラブ」が7.3%となっている。

地区別にみると、「医師・歯科医師・看護師」では、みどり地区(29.6%)、「高齢者支援総合センター・区役所」では、ぶんか地区(18.0%)、「町会・自治会、老人クラブ」では、なりひら地区(9.5%)が最も多い。

「家族や友人・知人以外の相談相手がいる」以外は、53.3%となっており、令和元年度(46.0%)より7.3ポイント増加した。地区別でみると、八広はなみずき地区(61.4%)が最も多く、なりひら地区(47.8%)が最も少なく、13.6ポイントの差がみられた。

■家族や友人・知人以外の相談相手（複数回答）



■家族や友人・知人以外の相談相手（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	町会・自治会、老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	高齢者支援総合センター・区役所	その他	そのような人はいない	無回答
全体	2,399	7.3	5.5	5.4	24.6	15.0	5.9	42.7	10.6
みどり	274	7.7	3.3	5.1	29.6	13.1	5.5	41.6	6.9
同愛	294	8.5	7.8	6.1	26.5	12.2	4.4	41.8	10.5
なりひら	316	9.5	4.1	4.4	27.8	14.2	5.1	38.6	9.2
こうめ	309	5.5	6.8	8.4	27.5	17.2	7.8	40.1	11.0
むこうじま	295	8.8	5.8	2.4	25.1	14.9	7.8	42.0	11.2
うめわか	276	8.7	5.4	4.7	21.4	16.7	5.8	42.0	13.0
ぶんか	294	6.1	6.5	5.4	22.1	18.0	4.1	43.9	13.6
八広はなみずき	300	4.0	4.7	5.7	16.7	12.7	6.0	50.7	10.7

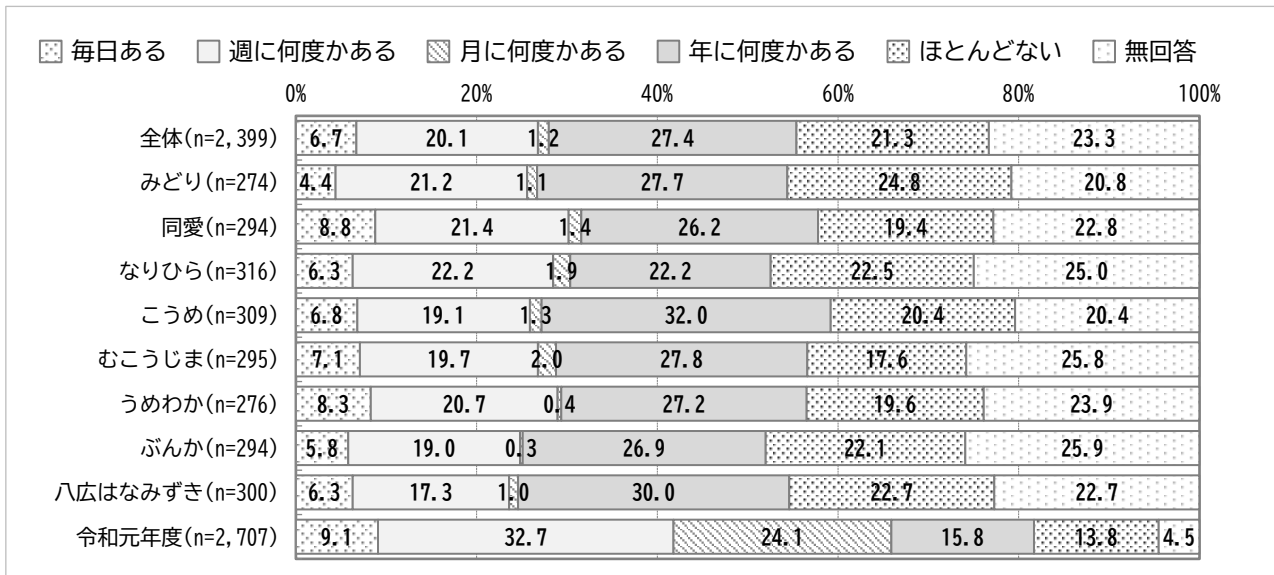
(4) 友人・知人

①友人・知人と会う頻度

友人・知人と会う頻度は、「毎日ある」と「週に何度かある」を合わせた“頻繁に会っている”人が 26.8%、「月に何度かある」が 1.2%、「年に何度かある」が 27.4%、「ほとんどない」が 21.3%となっている。“頻繁に会っている”人は、令和元年度(41.8%)より 15.0 ポイント減少した。

地区別にみると、「ほとんどない」では、みどり地区(24.8%)が最も多く、むこうじま地区(17.6%)が最も少ない。

■友人・知人と会う頻度



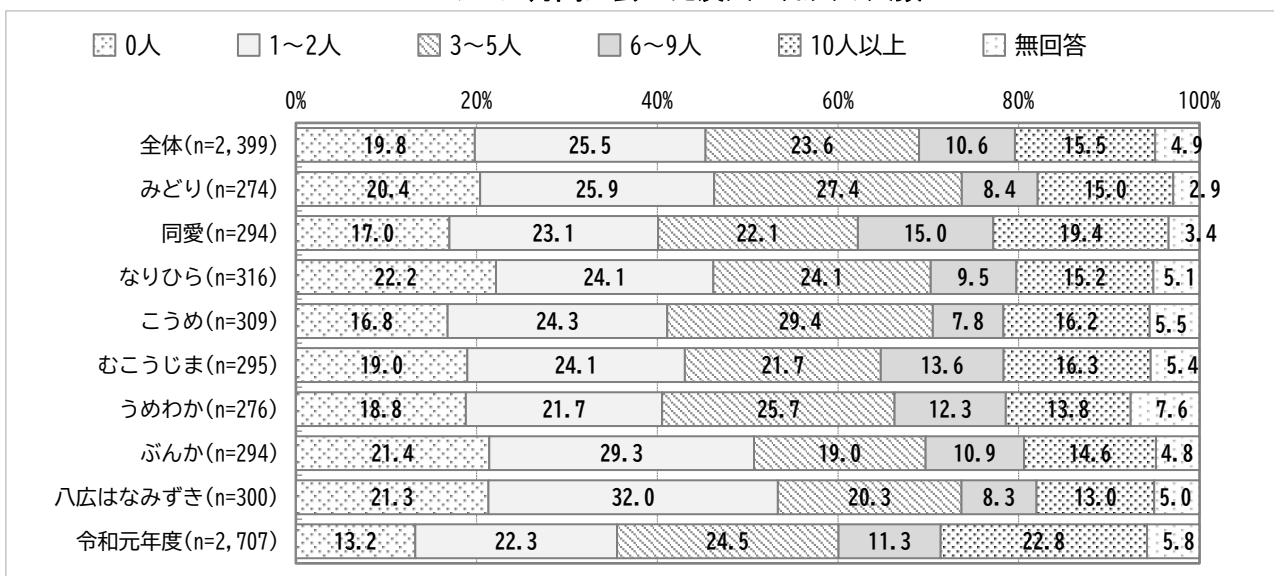
(注) 令和元年度は、「週に1回ある」(11.0%)を「週に何度かある」(21.7%)に含めて「週に何度かある」(32.7%)と表示している。

②この1か月に会った友人・知人の人数

この1か月に会った友人・知人の人数は、「1～2人」が 25.5%で最も多く、次いで、「3～5人」が 23.6%であり、「6～9人」と「10人以上」を合わせた“6人以上”も、26.1%となっている。一方、「0人」は 19.8%となっており、令和元年度(13.2%)より 6.6 ポイント増加した。

地区別にみると、“6人以上”では、同愛地区(34.4%)が、「0人」では、なりひら地区(22.2%)が最も多い。

■この1か月に会った友人・知人の人数

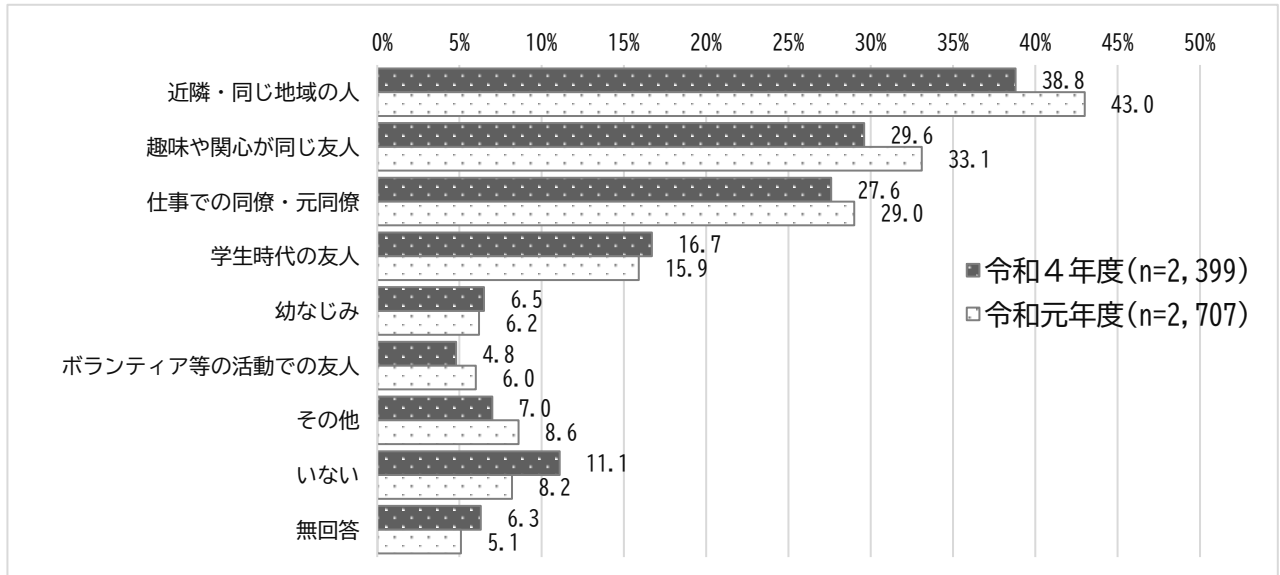


③よく会う友人・知人との関係

よく会う友人・知人との関係は、「近隣・同じ地域の人」が 38.8%で最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が 29.6%、「仕事での同僚・元同僚」が 27.6%となっている。令和元年度調査と比較すると、これら上位項目についていずれも減少した。

地区別にみると、「近隣・同じ地域の人」では、同愛地区(41.2%)、が、「仕事での同僚・元同僚」では、こうめ地区(30.4%)が、「趣味や関心が同じ友人」では、同愛地区(36.4%)が最も多い。

■よく会う友人・知人との関係（複数回答）



■よく会う友人・知人との関係（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	近隣・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	ボランティア等の活動での友人	その他	いない	無回答
全体	2,399	38.8	6.5	16.7	27.6	29.6	4.8	7.0	11.1	6.3
みどり	274	37.6	7.3	20.1	28.5	34.7	5.8	4.7	10.2	5.1
同愛	294	41.2	9.5	18.4	29.3	36.4	6.5	6.5	8.2	5.4
なりひら	316	37.7	5.1	15.8	29.7	25.9	3.8	7.9	12.0	7.3
こうめ	309	41.1	7.8	17.5	30.4	31.4	6.5	7.1	9.7	5.2
むこうじま	295	38.3	6.4	14.2	24.1	29.5	5.8	8.8	12.5	5.8
うめわか	276	40.9	5.8	17.0	25.4	25.7	4.7	5.4	11.2	8.3
ぶんか	294	39.5	4.8	15.0	27.2	25.9	3.4	8.5	11.9	5.1
八咫はなみずき	300	36.0	6.0	16.0	26.0	26.7	2.3	6.7	12.0	7.7

8. 健康について

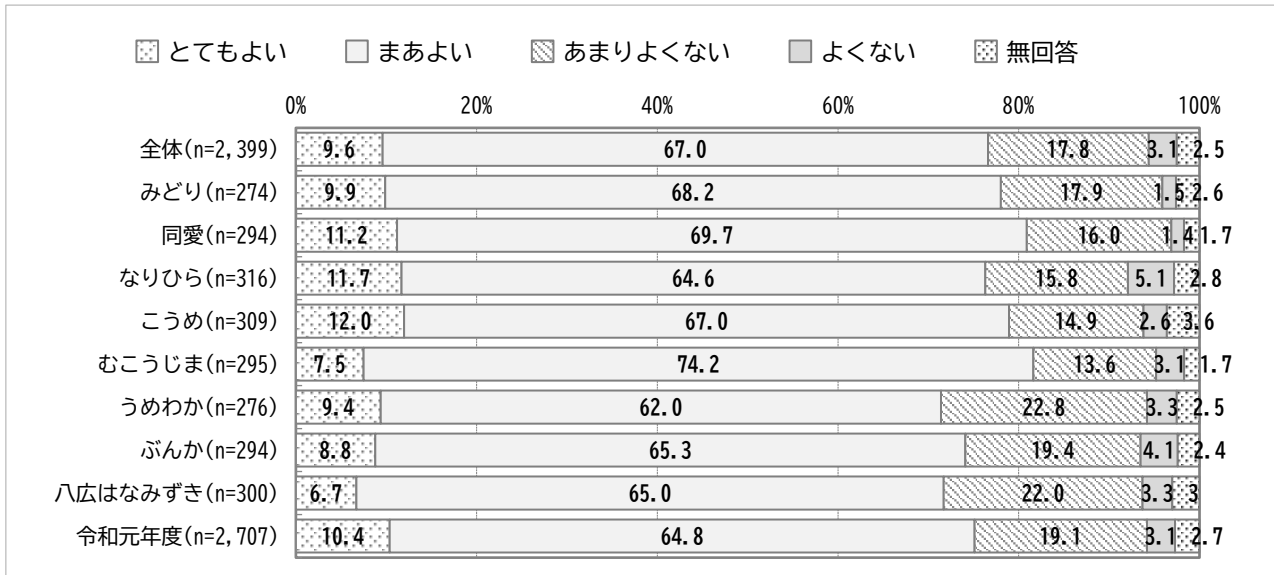
(1) 主観的健康感*

主観的健康感は、「まあよい」が 67.0%で最も多く、「とてもよい」(9.6%)も含めた“健康である”人は 76.6%となっている。これに対し、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた“健康ではない”人は 20.9%となっている。“健康である”人は、令和元年度(75.2%)より 1.4 ポイント増加した。

地区別にみると、“健康である”では、むこうじま地区(81.7%)が最も多く、うめわか地区(71.4%)が最も少ない。

※主観的健康感:現在の自分自身の健康状態を、自分自身が自己評価したもの。

■主観的健康感

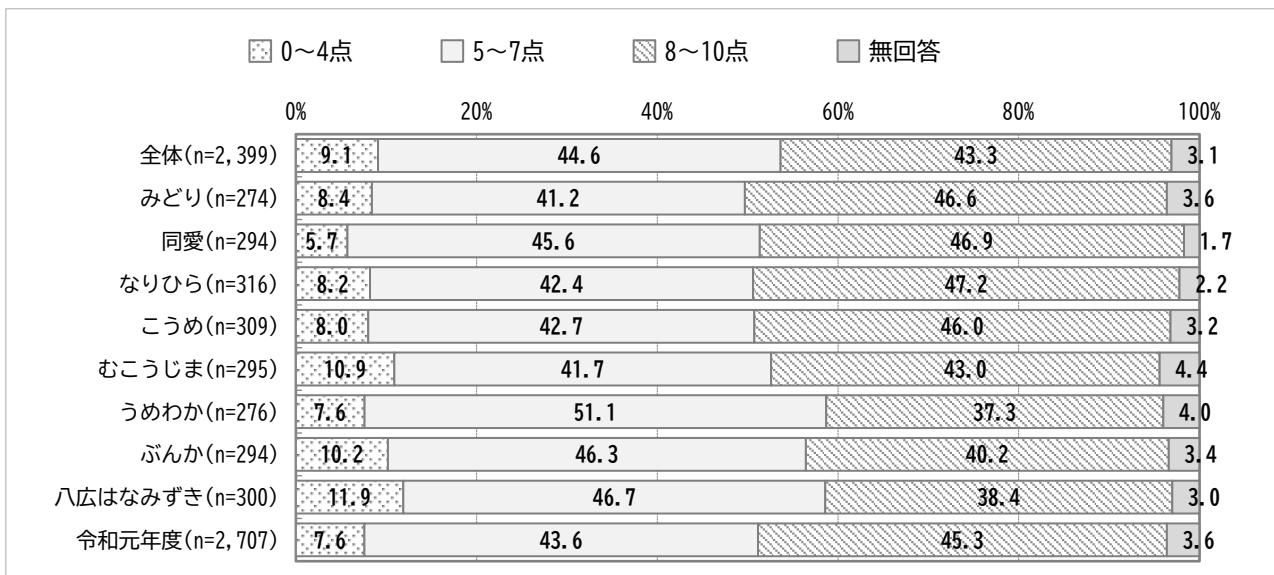


(2) 主観的幸福感

「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点とした場合、「0～4点」が9.1%、「5～7点」が44.6%、「8～10点」が43.3%であった。「8～10点」が、令和元年度(45.3%)より 2.0 ポイント減少した。

地区別にみると、「8～10点」では、なりひら地区(47.2%)が最も多く、うめわか地区(37.3%)が最も少なく、9.9ポイントの差があった。

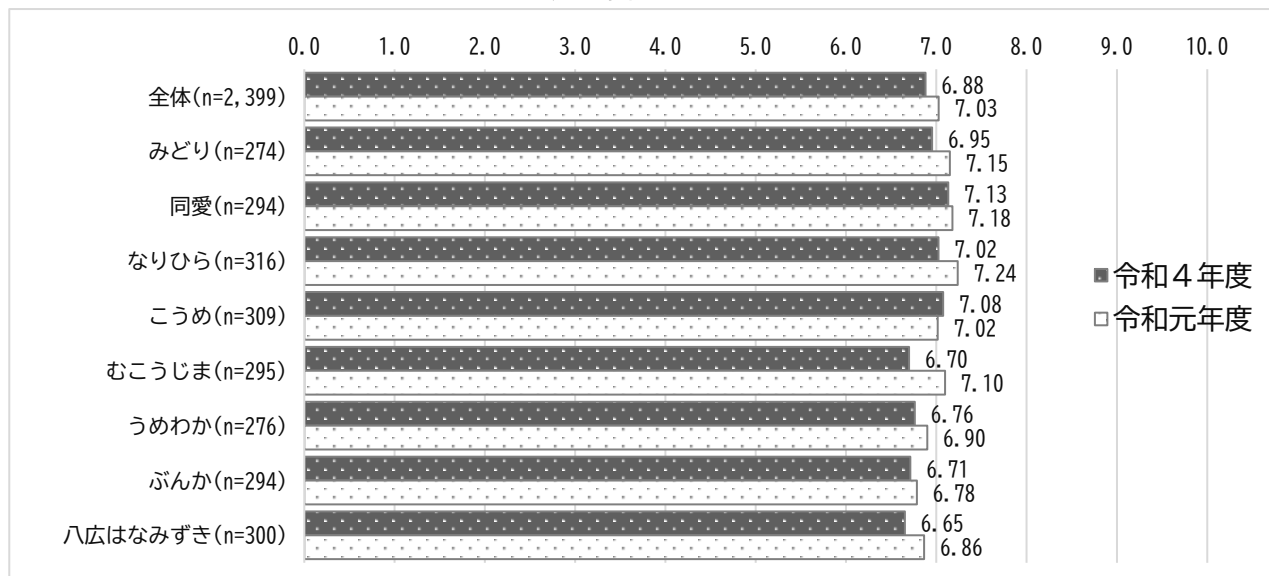
■主観的幸福感



「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点とした場合の幸福度を平均してみると、全体では6.88点と令和元年度(7.03点)より0.15点減少した。

地区別にみると、同愛地区(7.13点)が最も高く、八広はなみずき地区(6.65点)が最も低く、0.48点の差があった。令和元年度と比較してこうめ地区(0.06点プラス)以外の地区で減少しており、なかでもむこうじま地区(0.40点マイナス)が最も減少した。

■主観的幸福感 (平均点)

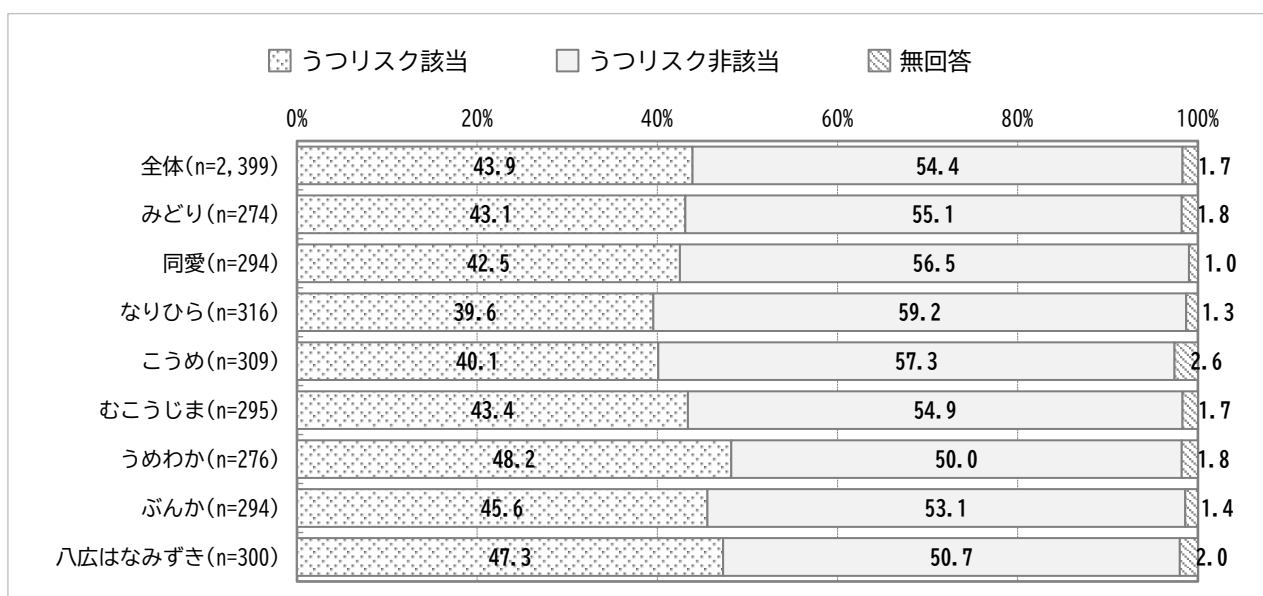


(3) うつリスク該当者

調査票の第7の(3)この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか、(4)この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたかの設問でいずれかに「はい」と回答した人をうつリスク該当者とした場合、該当者は43.9%となっている。なお、今回調査から国のリスク判定基準に変更したため令和元年度との比較はできない。

地区別にみると、うめわか地区(48.2%)が最も多く、なりひら地区(39.6%)が最も少ない。

■うつリスク該当者



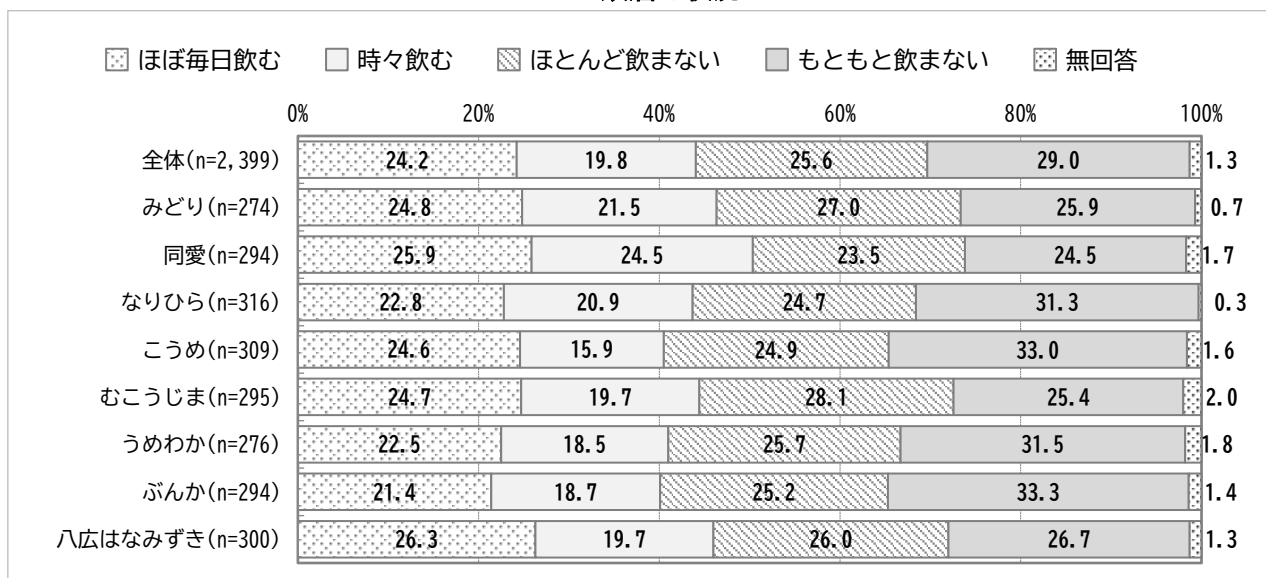
(4) 飲酒と喫煙の状況

① 飲酒の状況

飲酒の状況は、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた“飲酒の習慣がある”人は 44.0%、「ほとんど飲まない」と「もともと飲まない」を合わせた“飲酒の習慣がない”人は 54.6%となっている。

地区別にみると、“飲酒の習慣がある”では、同愛地区(50.4%)が、“飲酒の習慣がない”では、ぶんか地区(58.5%)が最も多い。

■ 飲酒の状況

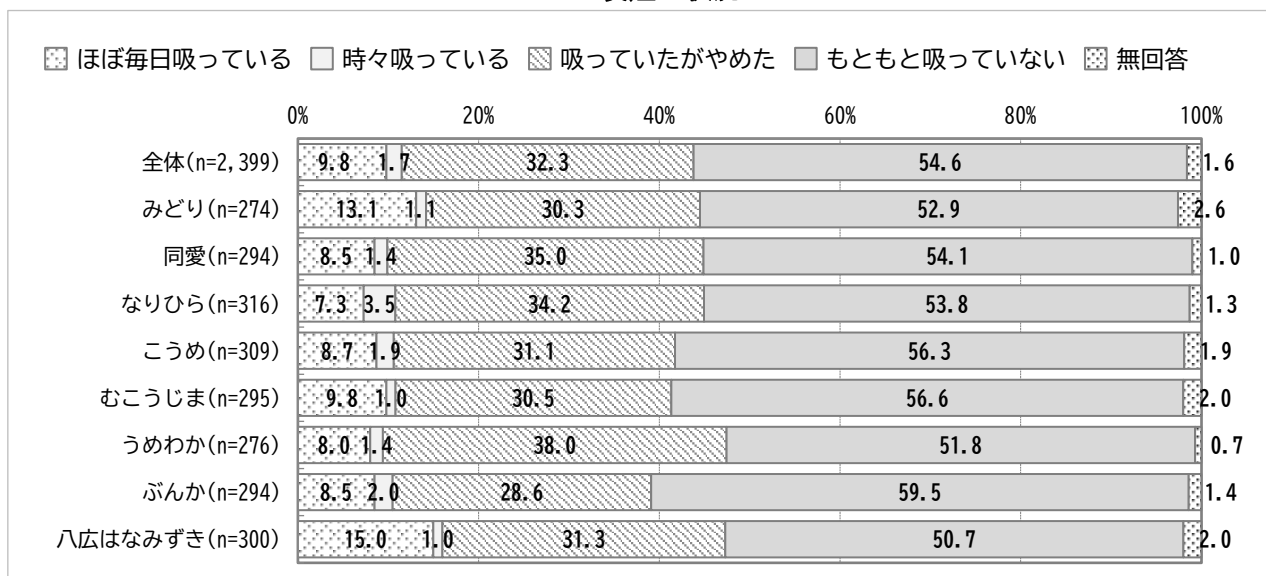


② 喫煙の状況

喫煙の状況は、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた“喫煙習慣がある”人は 11.5%、「吸っていたがやめた」と「もともと吸っていない」を合わせた“喫煙習慣がない”人は 86.9%となっている。

地区別にみると、“喫煙習慣がある”では、八広はなみずき地区(16.0%)が最も多い。

■ 喫煙の状況

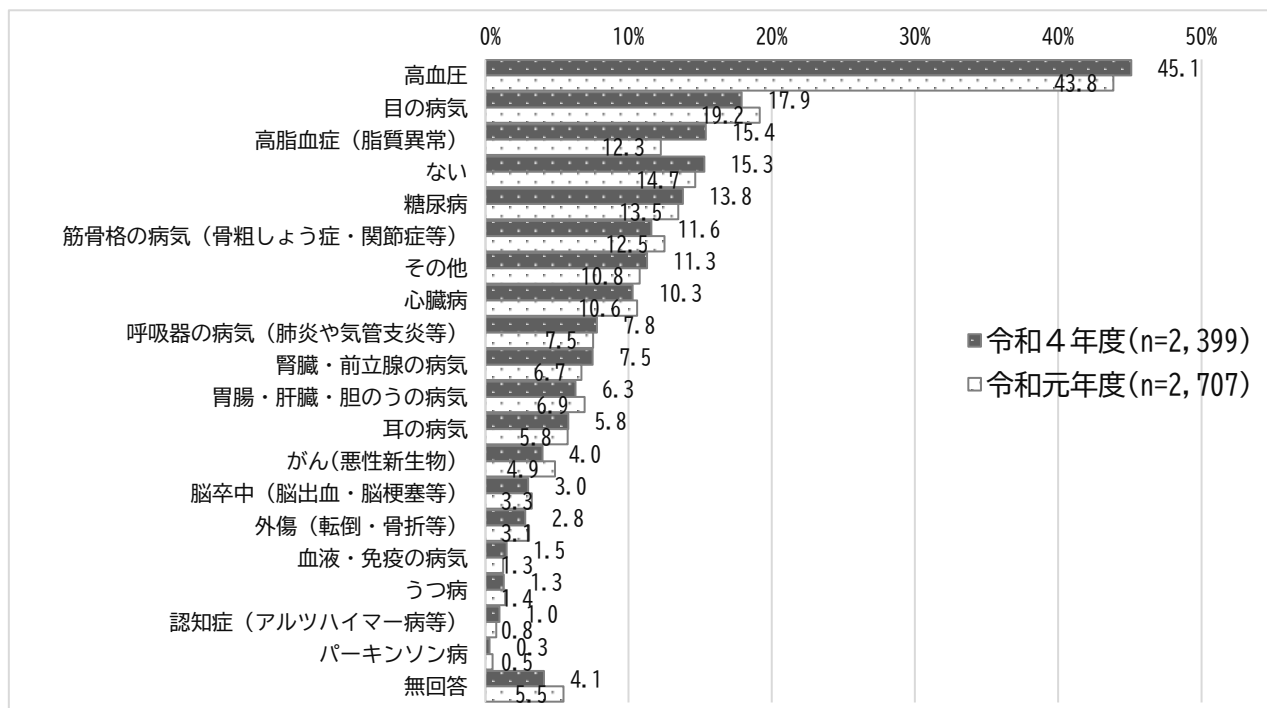


(5) 現在治療中、または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気は、「高血圧」が45.1%で最も多く、次いで「目の病気」が17.9%、高脂血症(脂質異常)が15.4%、「ない」が15.3%となっている。令和元年度調査で第6位であった高脂血症(脂質異常)(12.3%)が今回第3位になった。令和元年度と比較して「高血圧」や「高脂血症」が増加して、「目の病気」や「筋骨格の病気」が減少した。

地区別にみると、「高血圧」では、うめわか地区(49.3%)が、「目の病気」では、ぶんか地区(20.7%)が最も多い。

■現在治療中、または後遺症のある病気（複数回答）



■現在治療中、または後遺症のある病気（地区別）

(単位：%)

区分	回答者数(人)	ない	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気
全体	2,399	15.3	45.1	3.0	10.3	13.8	15.4	7.8	6.3	7.5	11.6
みどり	274	17.2	47.1	2.2	8.0	8.8	17.2	6.2	4.7	5.5	13.5
同愛	294	13.9	44.2	2.7	10.5	14.6	15.3	10.2	7.1	7.5	12.9
なりひら	316	17.1	42.7	4.1	10.1	11.1	13.6	7.9	5.7	6.6	12.7
こうめ	309	18.1	42.1	3.2	9.1	13.3	15.5	5.8	5.8	9.1	14.9
むこうじま	295	16.6	41.0	2.7	11.2	12.2	13.2	6.4	7.1	7.5	7.5
うめわか	276	12.7	49.3	1.4	10.1	18.5	17.8	9.1	6.9	9.1	7.6
ぶんか	294	13.3	47.6	3.1	10.5	18.0	15.3	6.8	5.1	7.1	13.3
八広はなみずき	300	14.0	47.3	4.7	11.7	15.0	15.0	10.7	7.7	8.0	10.0
区分	外傷	がん	血液・免疫の病気	うつ病	認知症	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答	
全体	2.8	4.0	1.5	1.3	1.0	0.3	17.9	5.8	11.3	4.1	
みどり	1.8	4.7	0.7	0.7	0.4	-	17.5	6.2	9.9	3.3	
同愛	4.4	2.4	2.0	0.7	1.4	-	18.0	6.1	10.5	2.7	
なりひら	2.8	6.3	2.2	1.3	1.3	0.3	17.4	4.7	10.8	4.1	
こうめ	2.6	2.9	1.9	0.6	0.6	0.3	15.5	5.5	11.3	5.8	
むこうじま	2.7	2.4	0.7	1.7	1.0	0.3	19.0	4.1	10.5	6.1	
うめわか	2.9	4.3	0.7	1.8	0.7	0.4	16.3	8.0	13.0	5.4	
ぶんか	2.4	3.1	0.3	1.4	1.7	0.7	20.7	6.5	11.9	2.4	
八広はなみずき	3.0	5.0	2.7	2.0	0.7	-	19.0	6.0	11.0	3.0	

【性別】

性別にみると、男性、女性ともに「高血圧」(それぞれ 48.3%、42.4%)が最も多い。次いで、男性では、「糖尿病」、「目の病気」(それぞれ 16.9%、15.5%)、女性では、「目の病気」、「高脂血症(脂質異常)」(それぞれ 19.9%、18.4%)であった。

■現在治療中、または後遺症のある病気（性別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	ない	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気
全体	2,399	15.3	45.1	3.0	10.3	13.8	15.4	7.8	6.3	7.5	11.6
男性	1074	15.1	48.3	4.2	13.4	16.9	11.6	8.1	6.9	13.7	4.3
女性	1284	15.7	42.4	2.1	7.5	11.4	18.4	7.7	5.8	2.4	17.7
区分	外傷	がん	血液・免疫の病気	うつ病	認知症	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答	
全体	2.8	4.0	1.5	1.3	1.0	0.3	17.9	5.8	11.3	4.1	
男性	2.3	5.3	1.8	1.2	0.7	0.4	15.5	5.4	10.8	3.4	
女性	3.3	2.7	1.2	1.3	1.2	0.2	19.9	6.2	11.4	4.8	

【要支援認定の有無別】

要支援認定の有無別にみると、要支援認定を受けている人は、受けていない人に比べて、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(33.3%)が多く、受けていない人(10.2%)と23.1ポイントの差がみられた。

■現在治療中、または後遺症のある病気（要支援認定の有無別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	ない	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気
全体	2,399	15.3	45.1	3.0	10.3	13.8	15.4	7.8	6.3	7.5	11.6
要支援認定を受けていない	2,220	16.0	44.5	2.7	9.8	13.7	15.7	7.6	6.3	7.4	10.2
要支援認定を受けている	138	5.1	55.1	9.4	16.7	16.7	9.4	13.0	6.5	10.1	33.3
区分	外傷	がん	血液・免疫の病気	うつ病	認知症	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答	
全体	2.8	4.0	1.5	1.3	1.0	0.3	17.9	5.8	11.3	4.1	
要支援認定を受けていない	2.5	3.8	1.4	1.2	0.8	0.3	17.6	5.5	10.9	4.1	
要支援認定を受けている	8.7	5.8	1.4	2.9	4.3	-	23.2	11.6	13.8	5.1	

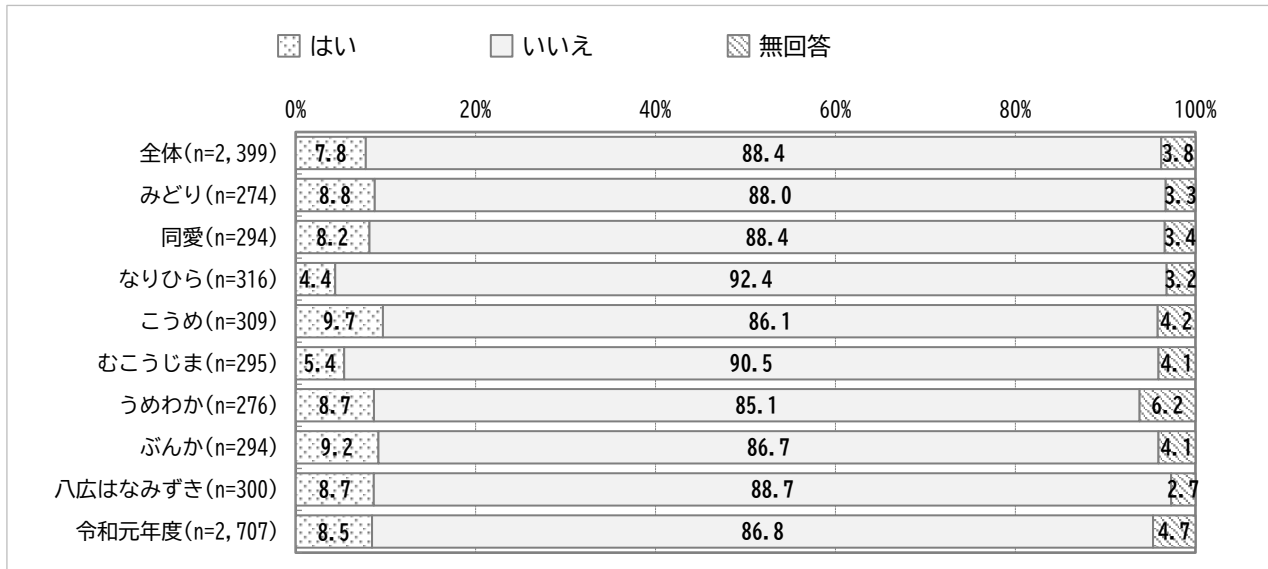
9. 認知症について

(1) 本人または家族の認知症の有無

本人または家族の認知症の有無は、「症状がある人がいる」は 7.8%、「症状がある人がいない」は 88.4%となっている。

地区別にみると、「症状がある人がいる」では、こうめ地区(9.7%)が最も多く、なりひら地区(4.4%)が最も少ない。

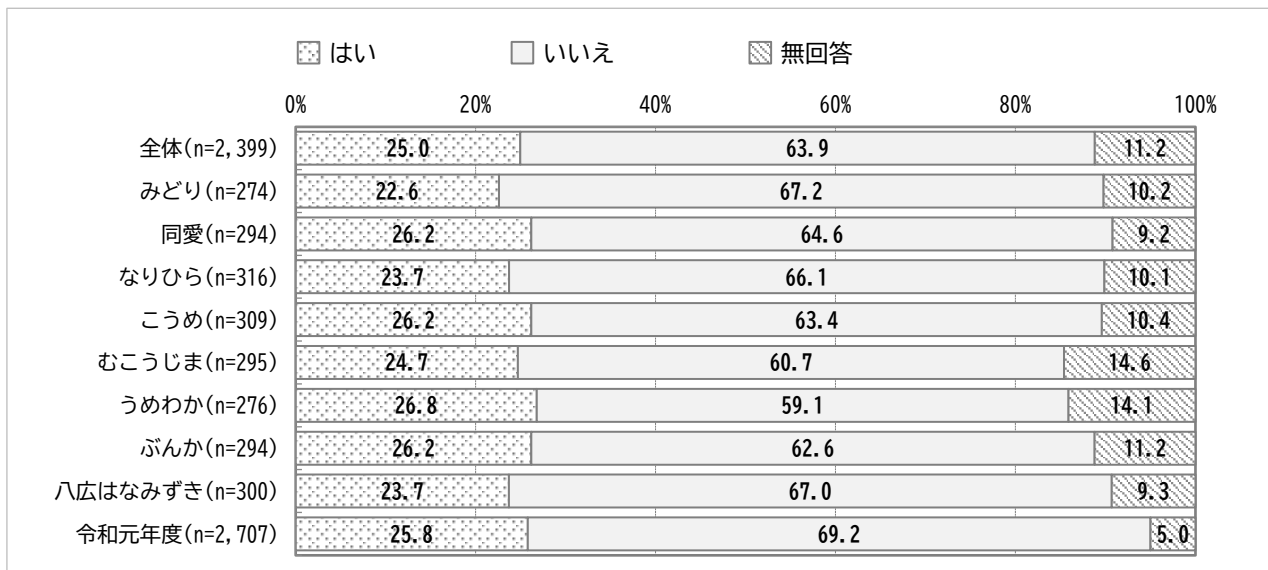
■本人または家族に認知症の症状がある



(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口の認知度は、知っている人が 25.0%、知らない人が 63.9%となっている。地区別にみると、全体と同様の傾向を示している。

■認知症に関する相談窓口を知っている

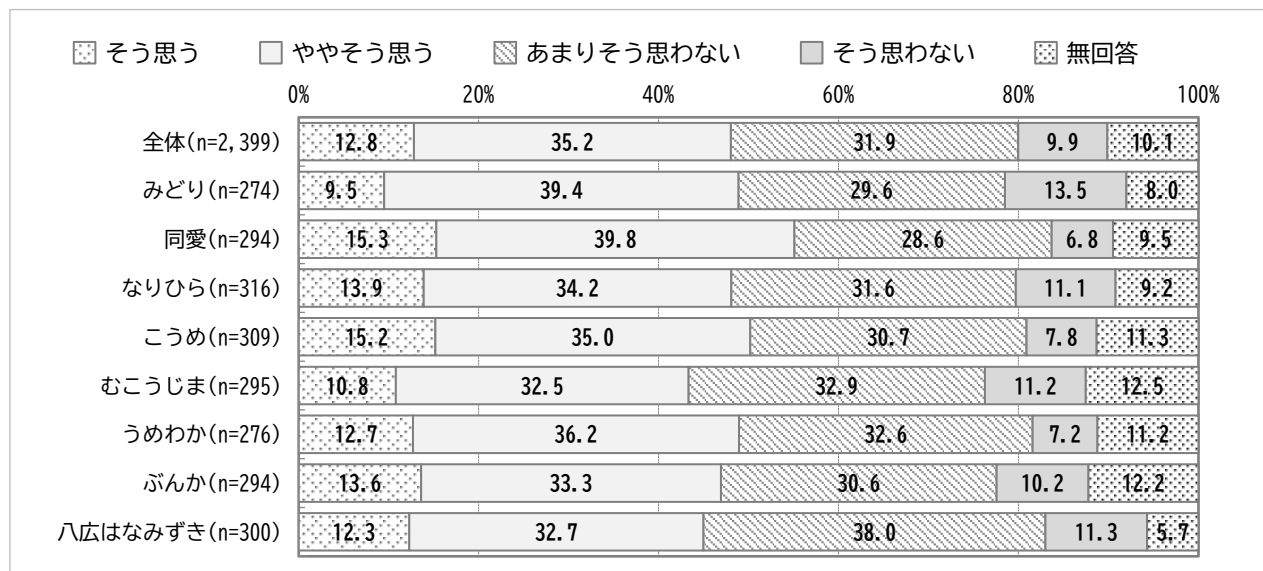


(3) 認知症の症状のある人にとっての地域の住みやすさ

認知症の症状があっても住みやすい地域であるかについて、「そう思う」(12.8%)と「ややそう思う」(35.2%)の合計が 48.0%であるのに対して、「そう思わない」(9.9%)と「あまりそう思わない」(31.9%)の合計が 41.8%であった。

地区別にみると、「そう思う」と「ややそう思う」の合計では、同愛地区(55.1%)が最も多く、むこうじま地区(43.3%)が最も少なく、11.8ポイントの差がみられた。

■認知症の症状があっても住みやすい地域である

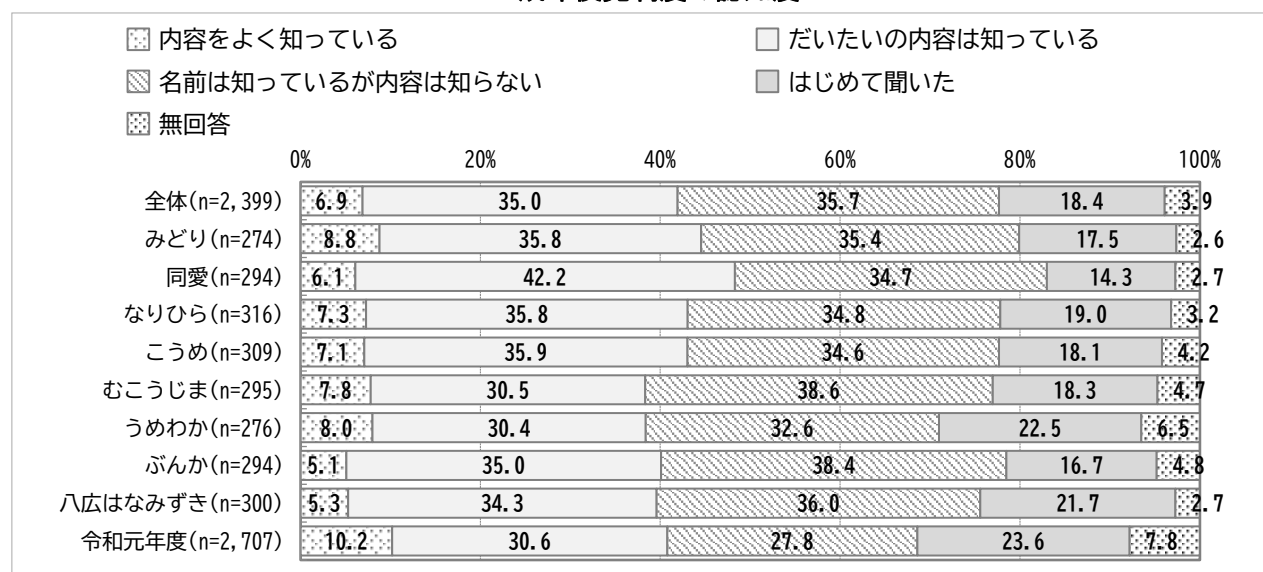


(4) 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度は、「内容をよく知っている」と「だいたいの内容は知っている」を合わせた“知っている”が 41.9%、「名前は知っているが内容は知らない」が 35.7%、「はじめて聞いた」が 18.4%となっている。

地区別にみると、“知っている”では、同愛地区(48.3%)が最も多く、むこうじま地区(38.3%)が最も少なく、10ポイントの差がみられた。

■成年後見制度の認知度



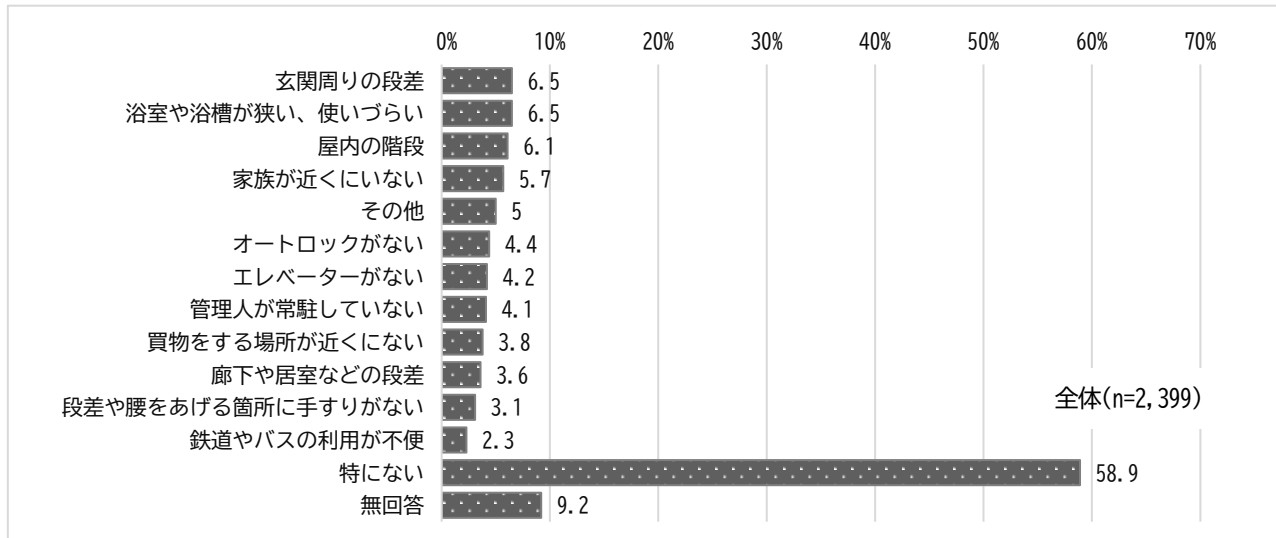
10. 住まいについて

(1) 住まいや住環境で困っていること

住まいや住環境で困っていることは、「特にない」が 58.9%を占めている中で、「玄関周りの段差」および「浴室や浴槽が狭い、使いづらい」が 6.5%で最も多く、次いで「屋内の階段」が 6.1%、「家族が近くにいない」が 5.7%となっている。

地区別にみると、「玄関周りの段差」では、八広はなみずき地区(10.3%)が、「浴室や浴槽が狭い、使いづらい」では、ぶんか地区(8.8%)が、「屋内の階段」では、こうめ地区(9.1%)、「家族が近くにいない」では、うめわか地区(7.2%)が最も多い。

■住まいや住環境で困っていること（複数回答）



■住まいや住環境で困っていること（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数 (人)	玄関周りの段差	廊下や居室などの段差	屋内の階段	段差や腰をあげる箇所に手すりがない	浴室や浴槽が狭い、使いづらい	エレベーターがない
全体	2,399	6.5	3.6	6.1	3.1	6.5	4.2
みどり	274	5.5	1.8	3.6	1.1	3.6	5.5
同愛	294	5.1	4.8	7.8	3.4	6.1	6.5
なりひら	316	0.9	0.6	4.4	1.9	5.1	4.7
こうめ	309	8.7	5.5	9.1	3.6	7.1	5.5
むこうじま	295	4.1	1.7	5.8	2.4	5.8	3.1
うめわか	276	8.3	5.1	5.8	3.3	7.2	2.2
ぶんか	294	9.5	5.4	5.1	4.8	8.8	2.0
八広はなみずき	300	10.3	4.3	7.7	4.7	7.3	4.3
区分	オートロックがない	管理人が常駐していない	買物をする場所が近くにない	鉄道やバスの利用が不便	家族が近くにいない	その他	特にない
全体	4.4	4.1	3.8	2.3	5.7	5.0	58.9
みどり	4.4	5.5	2.6	1.8	5.5	5.1	64.2
同愛	4.1	5.8	5.1	3.4	5.4	4.1	58.8
なりひら	5.4	3.5	0.3	0.6	4.7	3.5	66.8
こうめ	3.6	5.5	6.8	3.2	5.5	3.6	55.3
むこうじま	3.1	3.4	3.1	0.7	5.1	4.1	66.1
うめわか	5.4	3.3	5.1	3.3	7.2	6.5	53.3
ぶんか	5.4	4.4	2.0	4.1	6.5	8.5	52.4
八広はなみずき	3.3	2.0	4.3	2.0	5.3	5.0	53.7

【住居形態別】

住居形態別（回答数 100 件以上）にみると、持家（一戸建て）では、「屋内の階段」（10.8%）が、公営賃貸住宅では、「オートロックがない」（11.3%）が、民間賃貸住宅（集合住宅）では、「浴室や浴槽が狭い、使いづらい」（14.8%）が、民間賃貸住宅（集合住宅）では、「管理人が常駐していない」（13.7%）が最も多い。

■住まいや住環境で困っていること（住居形態別）

（単位：%）

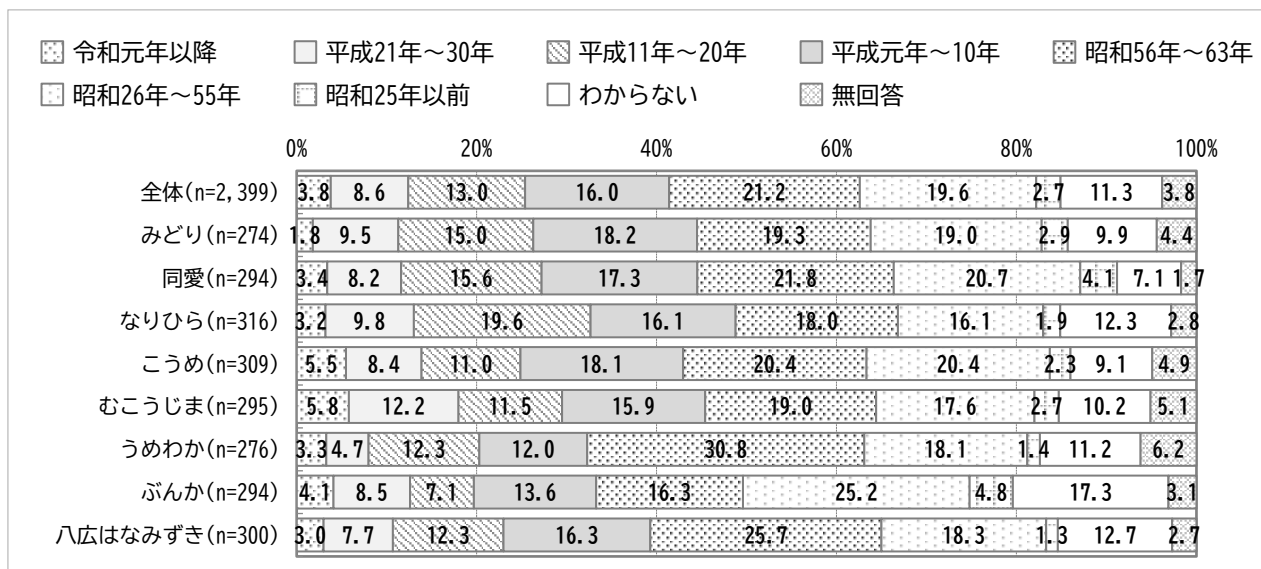
区分	回答者数 (人)	玄関周りの 段差	廊下や居 室などの 段差	屋内の階段	段差や腰を あげる箇所に 手すりがない	浴室や浴 槽が狭い、 使いづらい	エレベータ ーがない
全体	2,399	6.5	3.6	6.1	3.1	6.5	4.2
持家(一戸建て)	1,061	10.5	4.5	10.8	4.0	4.7	4.7
持家(集合住宅)	618	1.0	1.6	0.3	1.6	3.4	2.1
公営賃貸住宅	240	5.8	5.0	3.3	3.3	11.7	0.4
民間賃貸住宅(一戸建て)	19	15.8	5.3	5.3	5.3	-	-
民間賃貸住宅(集合住宅)	271	3.7	3.0	3.0	2.6	14.8	10.0
借家	42	11.9	2.4	14.3	2.4	11.9	4.8
その他	92	4.3	3.3	4.3	4.3	6.5	5.4
区分	オートロック がない	管理人が 常駐してい ない	買物をする 場所が近く にない	鉄道やバス の利用が 不便	家族が近く にいない	その他	特にな い
全体	4.4	4.1	3.8	2.3	5.7	5.0	58.9
持家(一戸建て)	1.9	0.4	4.0	1.7	4.0	4.3	58.2
持家(集合住宅)	5.0	5.3	4.0	1.8	5.8	3.4	69.7
公営賃貸住宅	11.3	7.9	2.1	4.6	10.0	7.1	48.8
民間賃貸住宅(一戸建て)	-	5.3	-	-	5.3	5.3	63.2
民間賃貸住宅(集合住宅)	7.7	13.7	3.7	2.6	8.5	8.1	50.6
借家	-	-	11.9	7.1	2.4	4.8	42.9
その他	3.3	4.3	3.3	5.4	6.5	9.8	58.7

(2) 住まいの建築時期

住まいの建築時期について、「昭和 56 年～63 年」が 21.2%で最も多く、次いで「昭和 26 年～55 年」が 19.6%、「平成元年～10 年」が 16.0%であった。

平成元年以降の建築について地区別にみると、なりひら地区(48.7%)が最も多く、うめわか地区(32.3%)が最も少ない。

■住まいの建築時期



(3) 風呂について困っていること

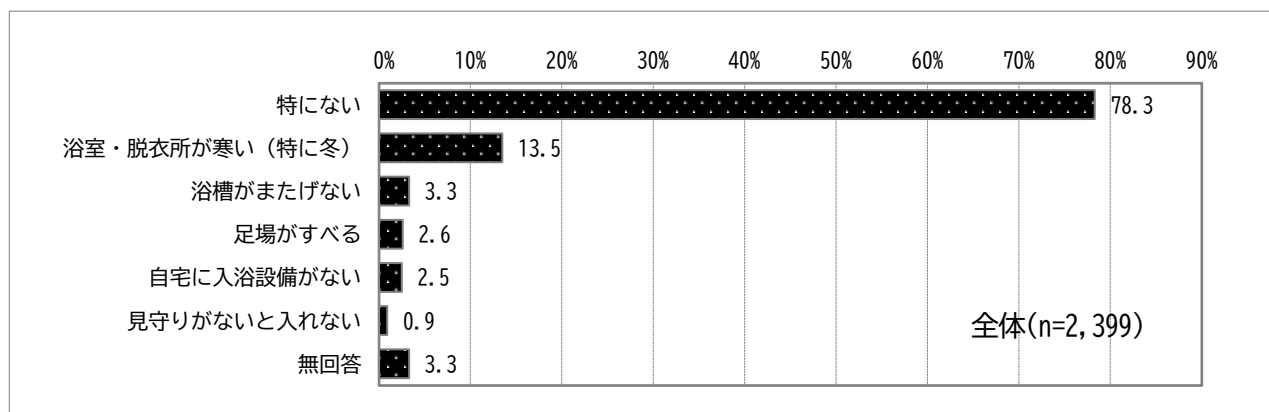
①風呂に入る際に困っていること

風呂に入る際に困っていることは、「特にない」が78.3%で最も多く、次いで「浴室・脱衣所が寒い(特に冬)」が13.5%、「浴槽がまたげない」が3.3%となっている。

地区別にみると、全体と同様の傾向を示している。

住居形態別にみると、「特にない」では、持家(集合住宅)(90.1%)が最も多く、借家(50.0%)が最も少ない。特に、「浴室・脱衣所が寒い(特に冬)」では、公営賃貸住宅(27.5%)が最も多い。

■風呂に入る際に困っていること（複数回答）



■風呂に入る際に困っていること（地区別）

(単位: %)

区分	回答者数(人)	特にない	浴槽がまたげない	足場がすべる	浴室・脱衣所が寒い(特に冬)	見守りがないと入れない	自宅に入浴設備がない	無回答
全体	2,399	78.3	3.3	2.6	13.5	0.9	2.5	3.3
みどり	274	84.7	1.5	1.1	10.2	2.6	0.7	1.8
同愛	294	82.3	2.0	3.4	11.9	-	2.7	2.4
なりひら	316	85.8	1.6	2.2	8.2	0.3	1.3	2.2
こうめ	309	79.3	4.9	2.6	11.3	0.6	2.6	4.2
むこうじま	295	79.7	2.7	2.7	10.2	0.7	3.7	4.1
うめわか	276	76.1	2.2	2.5	18.5	1.1	1.4	3.6
ぶんか	294	68.4	7.5	4.4	18.7	1.7	1.7	4.4
八広はなみずき	300	70.7	4.0	2.3	20.0	0.3	6.0	2.7

■風呂に入る際に困っていること（住居形態別）

(単位: %)

区分	回答者数(人)	特にない	浴槽がまたげない	足場がすべる	浴室・脱衣所が寒い(特に冬)	見守りがないと入れない	自宅に入浴設備がない	無回答
全体	2,399	78.3	3.3	2.6	13.5	0.9	2.5	3.3
持家(一戸建て)	1,061	80.5	2.3	1.9	14.5	0.9	2.4	2.5
持家(集合住宅)	618	90.1	1.8	1.6	5.7	0.2	0.2	2.6
公営賃貸住宅	240	60.4	8.8	6.3	27.5	0.8	0.4	3.8
民間賃貸住宅(戸建)	19	73.7	-	-	5.3	-	21.1	-
民間賃貸住宅(集合)	271	67.5	5.2	3.3	16.2	3.0	4.8	4.4
借家	42	50.0	11.9	2.4	11.9	-	19.0	7.1
その他	92	72.8	1.1	5.4	13.0	-	7.6	3.3

【要支援認定の有無別】

要支援認定の有無別にみると、要支援認定を受けている人では、受けていない人に比べて、「浴槽がまたげない」(8.0%)が5ポイント高い。

■風呂に入る際に困っていること（要支援認定の有無別）

(単位:%)

区分	回答者数 (人)	特 に ない	浴槽がま たげない	足場がす べる	浴室・脱 衣所が寒 い(特に 冬)	見守りが ないと入 れない	自宅に入 浴設備が ない	無回答
全体	2,399	78.3	3.3	2.6	13.5	0.9	2.5	3.3
要支援認定を受 けていない	2,220	79.1	3.0	2.6	13.7	0.6	2.4	2.9
要支援認定を受 けている	138	67.4	8.0	4.3	10.9	5.1	4.3	8.0

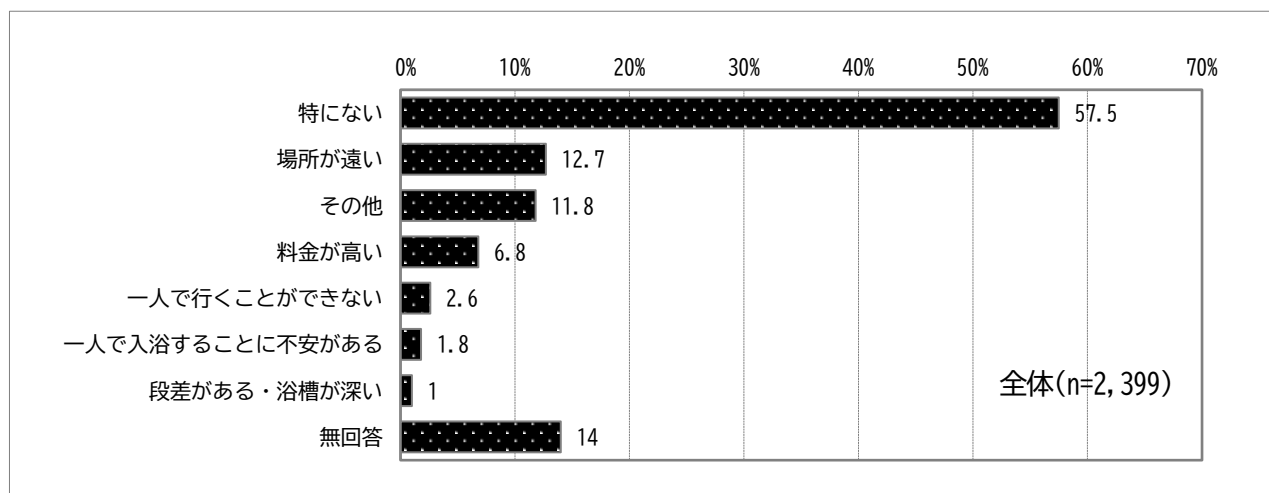
(4) 公衆浴場を利用する際に困っていること

公衆浴場を利用する際に困っていることは、「特にない」が 57.5%で最も多く、次いで「場所が遠い」が 12.7%、「その他」が 11.8%、「料金が低い」が 6.8%となっている。

地区別にみると、「場所が遠い」では、ぶんか地区(25.2%)が最も多く、「料金が低い」では、うめわか地区(10.9%)が最も多い。

要支援認定の有無別にみると、要支援認定を受けている人では、受けていない人に比べて、「一人で行くことができない」(14.5%)が 12.7ポイント高い。

■公衆浴場を利用する際に困っていること（複数回答）



■公衆浴場を利用する際に困っていること（地区別）

(単位：%)

区分	回答者数(人)	特にない	場所が遠い	一人で行くことができない	段差がある・浴槽が深い	一人で入浴することに不安がある	料金が低い	その他	無回答
全体	2,399	57.5	12.7	2.6	1.0	1.8	6.8	11.8	14.0
みどり	274	54.0	15.7	2.2	0.4	1.8	3.6	13.1	15.3
同愛	294	65.3	10.9	1.7	0.7	1.7	5.1	8.2	10.2
なりひら	316	68.4	5.1	1.9	0.9	1.3	5.4	11.1	10.4
こうめ	309	53.4	10.7	2.3	0.6	1.6	5.8	14.2	17.8
むこうじま	295	60.7	4.7	2.4	0.3	1.4	6.1	11.2	18.0
うめわか	276	61.2	10.9	2.2	0.7	1.4	10.9	9.8	12.7
ぶんか	294	46.3	25.2	4.1	2.4	3.1	7.8	13.3	14.6
八広はなみずき	300	50.7	19.7	3.3	1.7	2.7	9.7	13.0	12.7

■公衆浴場を利用する際に困っていること（要支援認定の有無別）

(単位：%)

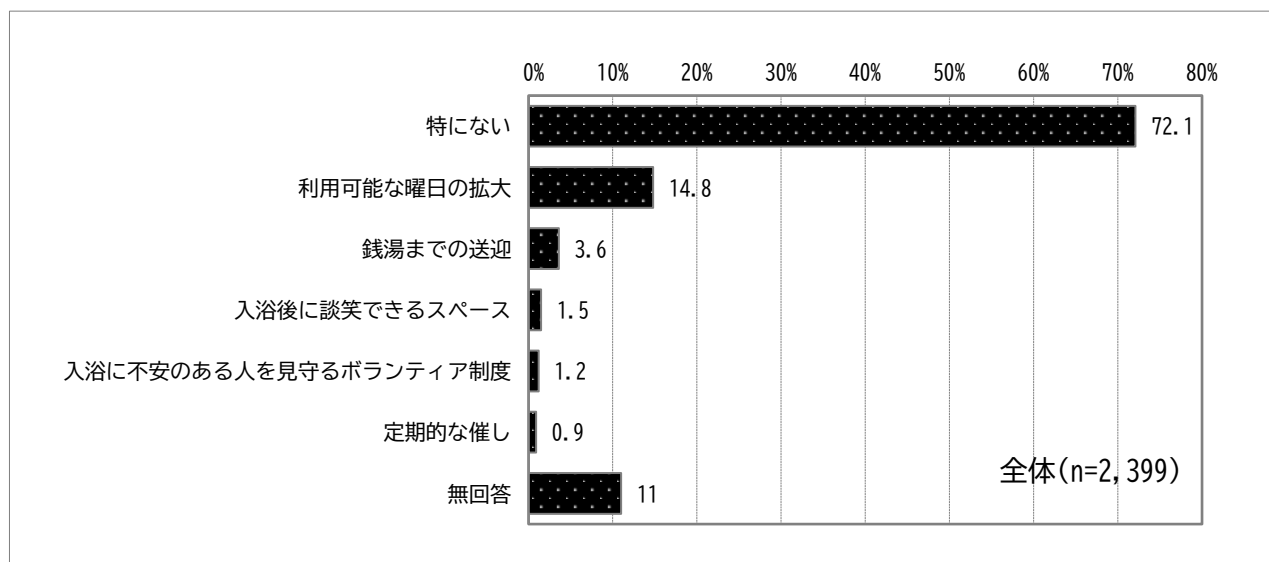
区分	回答者数(人)	特にない	場所が遠い	一人で行くことができない	段差がある・浴槽が深い	一人で入浴することに不安がある	料金が低い	その他	無回答
全体	2,399	57.5	12.7	2.6	1.0	1.8	6.8	11.8	14.0
要支援認定を受けていない	2,220	58.9	12.6	1.8	0.8	1.5	6.9	11.8	13.3
要支援認定を受けている	138	36.2	15.2	14.5	4.3	7.2	5.1	10.1	24.6

(5) 公衆浴場を利用するにあたり希望すること

公衆浴場を利用するにあたり希望することは、「特にない」が72.1%で最も多く、次いで「利用可能な曜日の拡大」が14.8%、「銭湯までの送迎」が3.6%となっている。

地区別にみると、「利用可能な曜日の拡大」では、八広はなみずき地区(19.7%)が、「銭湯までの送迎」では、ぶんか地区(8.2%)が最も多い。

■公衆浴場を利用するにあたり希望すること（複数回答）



■公衆浴場を利用するにあたり希望すること（地区別）

(単位：%)

区分	回答者数 (人)	特にない	入浴に不安のある人を見守るボランティア制度	銭湯までの送迎	入浴後に談笑できるスペース	定期的な催し	利用可能な曜日の拡大	無回答
全体	2,399	72.1	1.2	3.6	1.5	0.9	14.8	11.0
みどり	274	70.4	1.1	7.7	2.9	-	13.5	10.9
同愛	294	73.5	1.0	2.0	1.7	0.7	17.0	8.2
なりひら	316	74.4	0.6	2.5	1.3	1.9	17.1	7.6
こうめ	309	71.2	0.6	2.6	0.6	0.3	12.9	14.2
むこうじま	295	75.3	0.7	0.3	0.7	0.3	10.8	13.2
うめわか	276	73.9	1.4	2.9	2.9	0.7	14.1	9.8
ぶんか	294	69.0	2.0	8.2	1.4	2.0	13.3	13.3
八広はなみずき	300	67.3	1.7	3.3	0.3	1.0	19.7	11.0

11. 地域のつながりについて

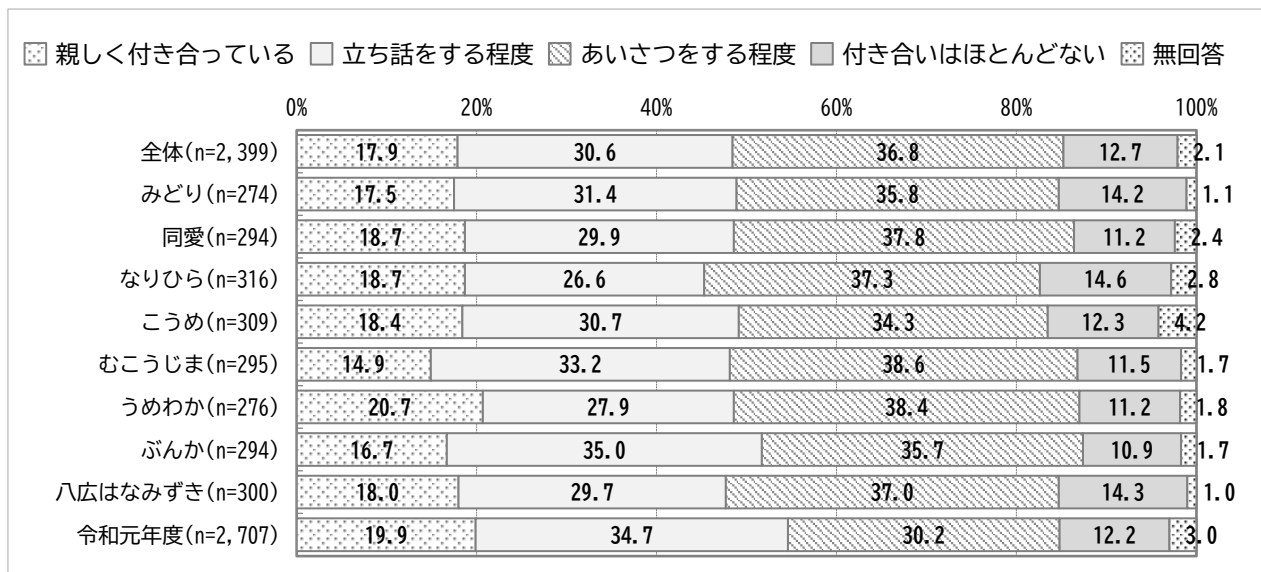
(1) 地域のつながり

① 地域の人との付き合い

地域の人との付き合いは、「あいさつをする程度」が36.8%、「立ち話をする程度」が30.6%、「親しく付き合っている」が17.9%、「付き合いはほとんどない」が12.7%となっている。令和元年度と比較して「あいさつをする程度」が6.6ポイント増加した一方、「立ち話をする程度」が4.1ポイント、「親しく付き合っている」が2.0ポイント減少した。

地区別にみると、「親しく付き合っている」では、うめわか地区が(20.7%)で最も多く、むこうじま地区(14.9%)が最も少ない。

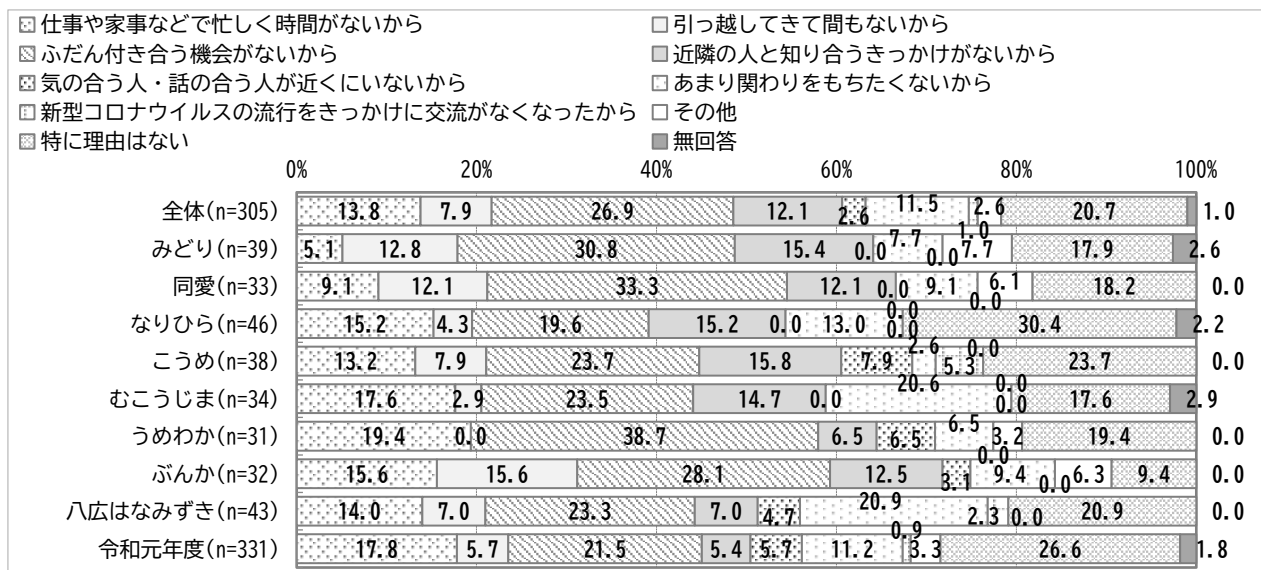
■ 地域の人との付き合い



② 近所付き合いがない主な理由

前問で「付き合いはほとんどない」と回答した人の付き合いがない主な理由は、「ふだん付き合う機会がないから」が26.9%で最も多く、次いで「特に理由はない」が20.7%、「仕事や家事などで忙しく時間がないから」が13.8%、「近隣のひとと知り合うきっかけがないから」が12.1%となっている。令和元年度と比較して「ふだん付き合う機会がない」が、5.4ポイント増加した。

■ 近所付き合いがない主な理由



(注) 令和元年度調査では、「新型コロナウイルスの流行をきっかけに交流がなくなった」の選択肢の代わりに「同世代の人が近くにいないから」であった。

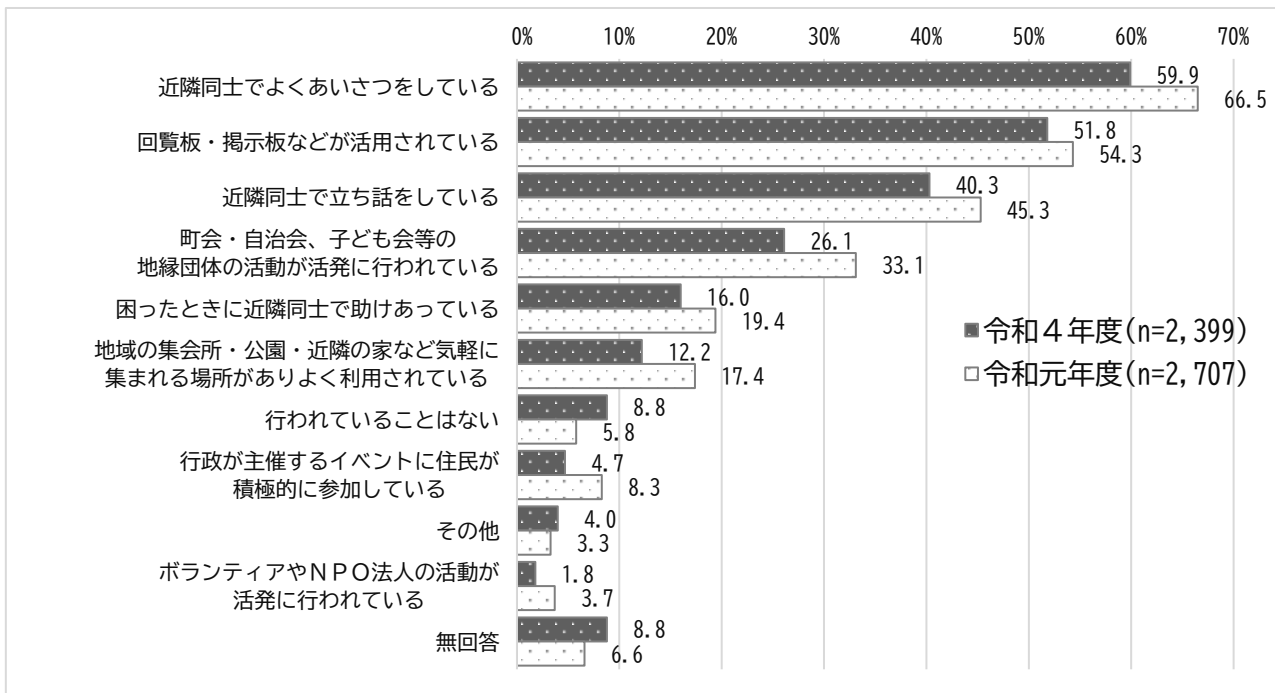
(2) 地域活動や支え合い活動への参加状況

①地域で行われている活動

地域で行われている活動は、「近隣同士でよくあいさつをしている」が59.9%で最も多く、次いで「回覧板・掲示板などが活用されている」が51.8%、「近隣同士で立ち話をしている」が40.3%、「町会・自治会、子ども会等の地縁団体の活動が活発に行われている」が26.1%となっている。令和元年度と比較して「近隣同士でよくあいさつをしている」が6.6ポイント減少、「回覧板・掲示板などが活用されている」が2.5ポイント減少、「近隣同士で立ち話をしている」が5.0ポイント減少した。

地区別にみると、全体の上位2項目および「困ったときに近隣同士で助けあっている」では、うめわか地区(それぞれ65.9%、57.6%、20.7%)が最も多い。「近隣同士でよくあいさつをしている」では、次いでむこうじま地区(65.4%)が多く、「近隣同士で立ち話をしている」では、ぶんか地区(42.9%)が最も多い。

■地域で行われている活動（複数回答）



■地域で行われている活動（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	近隣同士でよくあいさつをしている	近隣同士で立ち話をしている	困ったときに近隣同士で助けあっている	回覧板・掲示板などが活用されている	町会・自治会、子ども会等の地縁団体の活動が活発に行われている	地域の集会所・公園・近隣の家など気軽に集まれる場所があり、よく利用されている	ボランティアやNPO法人の活動が活発に行われている	行政が主催するイベントに住民が積極的に参加している	その他	行われていることはない	無回答
全体	2,399	59.9	40.3	16.0	51.8	26.1	12.2	1.8	4.7	4.0	8.8	8.8
みどり	274	59.5	39.4	13.5	47.8	29.2	13.1	2.6	5.5	4.4	9.9	9.9
同愛	294	63.6	39.8	14.3	56.1	39.8	16.7	3.4	4.4	3.4	7.5	8.2
なりひら	316	57.9	38.0	16.5	48.4	27.8	12.7	1.9	7.3	4.4	7.6	10.8
こうめ	309	56.0	42.4	17.5	54.4	27.8	10.0	2.9	4.5	4.9	7.4	11.3
むこうじま	295	65.4	39.7	15.3	50.2	19.3	10.5	1.0	3.1	3.7	11.5	6.8
うめわか	276	65.9	42.4	20.7	57.6	22.5	8.3	1.4	3.6	1.4	8.0	6.9
ぶんか	294	58.2	42.9	17.7	53.7	25.5	16.7	1.0	5.1	4.4	6.1	8.5
八広はなみずき	300	54.7	37.7	13.3	47.7	17.3	9.7	0.3	3.3	4.7	11.7	7.0

【住居形態別】

住居形態別（回答数 100 件以上）にみると、「近隣同士でよくあいさつをしている」、「近隣同士で立ち話をしている」、「困ったときに近隣同士で助けあっている」、「回覧板・掲示板などが活用されている」および「町会・自治会、子ども会等の地縁団体の活動が活発に行われている」では、持家（一戸建て）（それぞれ 70.7%、50.3%、21.6%、69.8%、31.5%）、「地域集会所・公園・近隣の家など気軽に集まれる場所があり、よく利用されている」では、公営賃貸住宅（15.8%）、「行われていることはない」では、民間賃貸住宅（集合住宅）（22.9%）が最も多い。集合住宅は、持家・民間賃貸ともに「困ったときに近隣同士で助けあっている」が全体に比べて低い。

■地域で行われている活動（住居形態別）

（単位：%）

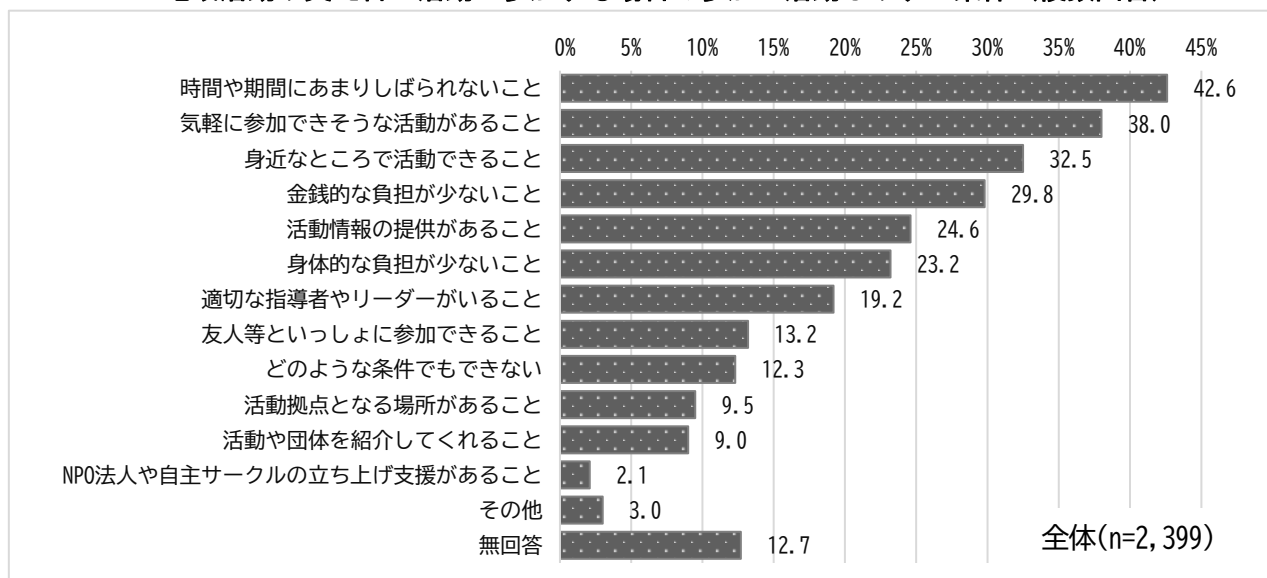
区分	回答者数（人）	近隣同士でよくあいさつをしている	近隣同士で立ち話をしている	困ったときに近隣同士で助けあっている	回覧板・掲示板などが活用されている	町会・自治会、子ども会等の地縁団体の活動が活発に行われている	地域集会所・公園・近隣の家など気軽に集まれる場所があり、よく利用されている	ボランティアやNPO法人の活動が活発に行われている	行政が主催するイベントに住民が積極的に参加している	その他	行われていることはない	無回答
全体	2,399	59.9	40.3	16.0	51.8	26.1	12.2	1.8	4.7	4.0	8.8	8.8
持家（一戸建て）	1,061	70.7	50.3	21.6	69.8	31.5	13.9	2.5	5.2	1.9	4.5	4.5
持家（集合住宅）	618	57.1	33.5	8.4	33.5	22.3	10.5	1.9	5.0	6.6	11.0	9.2
公営賃貸住宅	240	57.9	40.0	20.4	58.8	29.2	15.8	0.8	6.3	1.3	3.3	9.6
民間賃貸住宅（一戸建て）	19	63.2	21.1	15.8	63.2	36.8	10.5	-	5.3	-	10.5	5.3
民間賃貸住宅（集合住宅）	271	33.2	22.5	5.5	21.8	11.1	7.0	0.7	2.2	8.1	22.9	19.6
借家	42	40.5	28.6	11.9	33.3	14.3	2.4	-	2.4	4.8	23.8	14.3
その他	92	51.1	37.0	17.4	48.9	26.1	13.0	1.1	1.1	5.4	12.0	8.7

②地域活動や支え合いの活動に参加する場合の参加・活動しやすい条件

地域活動や支え合い活動に参加する場合の参加・活動しやすい条件は、「時間や期間にあまりしぼられないこと」が42.6%で最も多く、次いで「気軽に参加できそうな活動があること」が38.0%、「身近なところで活動できること」が32.5%、「金銭的な負担が少ないこと」が29.8%となっている。

地区別にみると、「時間や期間にあまりしぼられないこと」では、うめわか地区(47.8%)が、「気軽に参加できそうな活動があること」では、同愛地区(46.9%)が、「身近なところで活動できること」では、なりひら地区(37.7%)が最も多い。

■地域活動や支え合い活動に参加する場合の参加・活動しやすい条件（複数回答）



■地域活動や支え合い活動に参加する場合の参加・活動しやすい条件（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	活動情報の提供があること	活動や団体を紹介してくれること	友人等といっしょに参加できること	気軽に参加できそうな活動があること	自主サークルの立ち上げ支援があること	活動拠点となる場所があること	時間や期間にあまりしぼられないこと	身近なところで活動できること	適切な指導者やリーダーがいること	身体的な負担が少ないこと	金銭的な負担が少ないこと	その他	どのような条件でもできない
全体	2,399	24.6	9.0	13.2	38.0	2.1	9.5	42.6	32.5	19.2	23.2	29.8	3.0	12.3
みどり	274	28.1	10.2	10.9	42.3	1.5	10.6	44.5	35.8	20.8	25.2	28.8	2.9	9.5
同愛	294	24.8	7.8	15.6	46.9	1.7	9.2	42.5	35.0	19.7	26.5	29.6	1.4	12.2
なりひら	316	25.9	11.7	12.0	40.8	2.5	12.0	42.1	37.7	20.6	21.2	27.5	3.2	11.4
こうめ	309	25.6	8.1	12.9	38.5	1.6	8.7	42.7	27.5	18.8	23.3	27.8	2.6	7.1
むこうじま	295	26.4	8.1	10.5	34.9	2.4	9.8	40.0	28.5	16.6	22.4	30.8	2.4	14.9
うめわか	276	24.3	8.7	15.2	38.4	3.3	9.1	47.8	36.2	21.0	23.9	36.6	3.3	12.7
ぶんか	294	19.0	7.8	15.0	33.0	2.0	8.5	40.5	31.3	20.1	21.8	29.6	4.4	13.3
八広はなみずき	300	22.3	9.3	13.3	31.7	2.3	7.0	42.0	28.3	16.7	21.7	29.3	4.3	16.3

【住居形態別】

住居形態別（回答数 100 件以上）および選択肢別にみると、持家（集合住宅）では、「活動情報の提供があること」（30.7%）、「活動や団体を紹介してくれること」（11.0%）、「気軽に参加できそうな活動があること」（45.6%）、「時間や期間にあまりしぼられないこと」（49.0%）、「身近なところで活動できること」（37.7%）が、公営賃貸住宅では、「適切な指導者やリーダーがいること」（20.8%）、「金銭的な負担が少ないこと」（35.4%）が、民間賃貸住宅（集合住宅）では、「どのような条件でもできない」（17.7%）が最も多い。

■地域活動や支え合い活動に参加する場合の参加・活動しやすい条件（住居形態別）

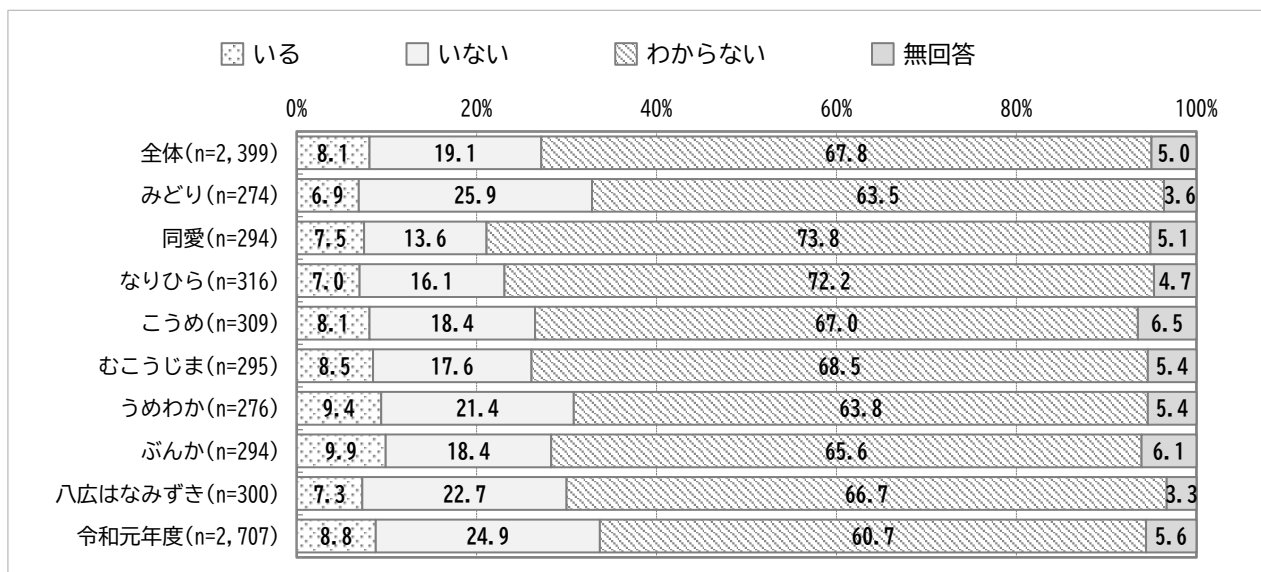
（単位：%）

区分	回答者数 (人)	活動情報の 提供がある こと	活動や団体 を紹介して くれること	友人等とい っしょに参 加できるこ と	気軽に参加 できそうな 活動がある こと	NPO法人 や自主サー クルの立ち 上げ支援が あること	活動拠点と なる場所が あること
全体	2,399	24.6	9.0	13.2	38.0	2.1	9.5
持家(一戸建て)	1061	24.3	8.7	17.3	37.5	2.4	8.9
持家(集合住宅)	618	30.7	11.0	10.2	45.6	1.6	11.7
公営賃貸住宅	240	19.2	5.8	13.3	37.1	2.5	10.8
民間賃貸住宅(一戸建て)	19	15.8	10.5	10.5	21.1	5.3	15.8
民間賃貸住宅(集合住宅)	271	20.3	8.5	5.5	30.6	2.6	6.3
借家	42	9.5	7.1	7.1	21.4	-	4.8
その他	92	20.7	5.4	8.7	33.7	1.1	8.7
区分	時間や期間 にあまりし ぼられない こと	身近なとこ ろで活動で きること	適切な指導 者やリーダ ーがいるこ と	身体的な負 担が少ない こと	金銭的な負 担が少ない こと	その他	どのような 条件でもで きない
全体	42.6	32.5	19.2	23.2	29.8	3.0	12.3
持家(一戸建て)	41.4	32.0	20.4	23.4	27.7	2.9	12.3
持家(集合住宅)	49.0	37.7	20.7	25.2	31.1	3.4	10.4
公営賃貸住宅	46.3	33.3	20.8	26.3	35.4	2.1	9.6
民間賃貸住宅(一戸建て)	36.8	15.8	10.5	21.1	21.1	5.3	21.1
民間賃貸住宅(集合住宅)	37.3	26.9	14.0	19.9	32.1	1.8	17.7
借家	26.2	28.6	16.7	16.7	23.8	4.8	14.3
その他	32.6	22.8	13.0	15.2	28.3	5.4	15.2

③近所に見守りが必要な高齢者の有無

近所に見守りが必要な高齢者が「いる」が 8.1%、「いない」が 19.1%、「わからない」が 67.8%となっている。令和元年度と比較して「いない」が 5.8 ポイント減少し、「わからない」が 7.1 ポイント増加した。地区別にみると、「いる」では、ぶんか地区(9.9%)が最も多く、みどり地区(6.9%)が最も少ない。

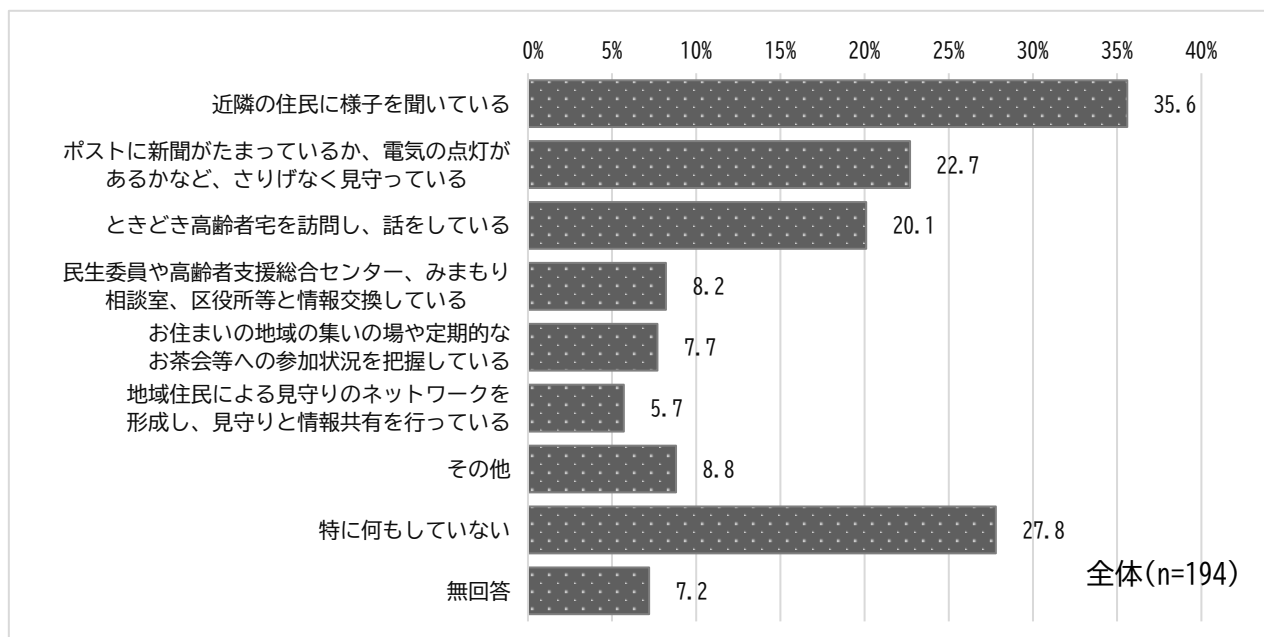
■近所に見守りが必要な高齢者の有無



④見守りが必要な高齢者との接し方

前問で近所に見守りが必要な高齢者が「いる」と回答した人の見守りが必要な高齢者との接し方では、「近隣の住民に様子を聞いている」が 35.6%で最も多く、次いで「特に何もしていない」が 27.8%、「ポストに新聞がたまっているか、電気の点灯があるかなど、さりげなく見守っている」が 22.7%、「ときどき高齢者宅を訪問し、話をしている」が 20.1%となっている。

■見守りが必要な高齢者との接し方（複数回答）

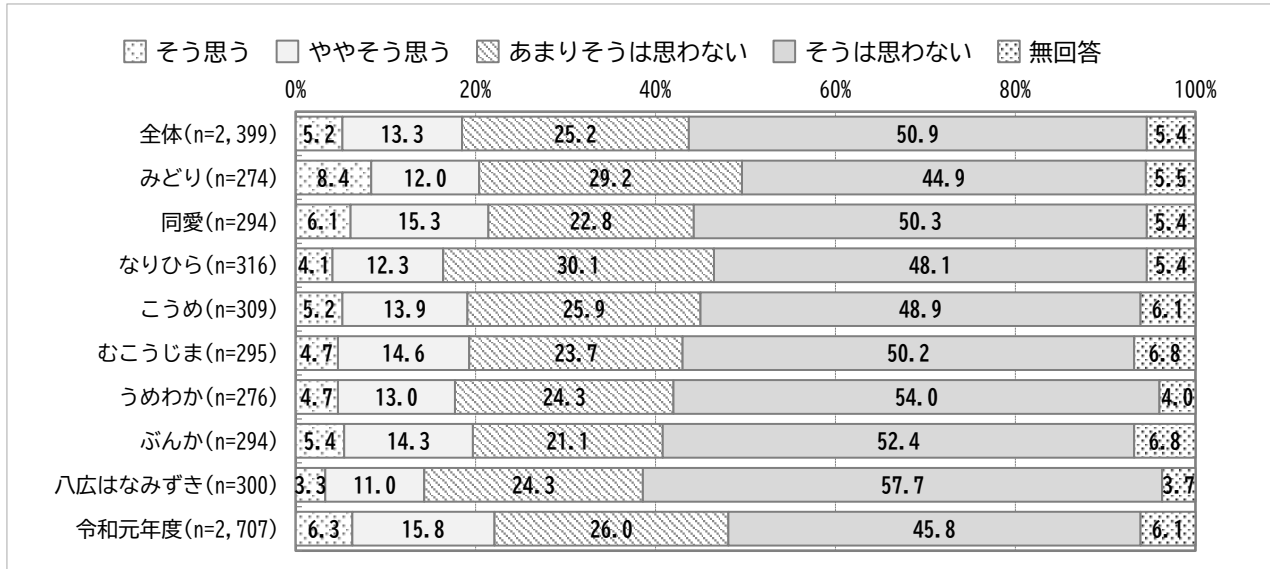


⑤地域の人から期待されたり、頼りにされたりしていると思うか

地域の人から期待されたり、頼りにされたりしていると思うかは、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた“思う”が 18.5%、「あまりそうは思わない」と「そうは思わない」を合わせた“思わない”が 76.1%となっている。令和元年度と比較して“思う”が 3.6 ポイント減少し、“思わない”が 4.3 ポイント増加した。

地区別にみると、“思う”では、同愛地区(21.4%)が最も多く、八広はなみずき地区(14.3%)が最も少ない。

■地域の人から期待されたり、頼りにされたりしていると思うか

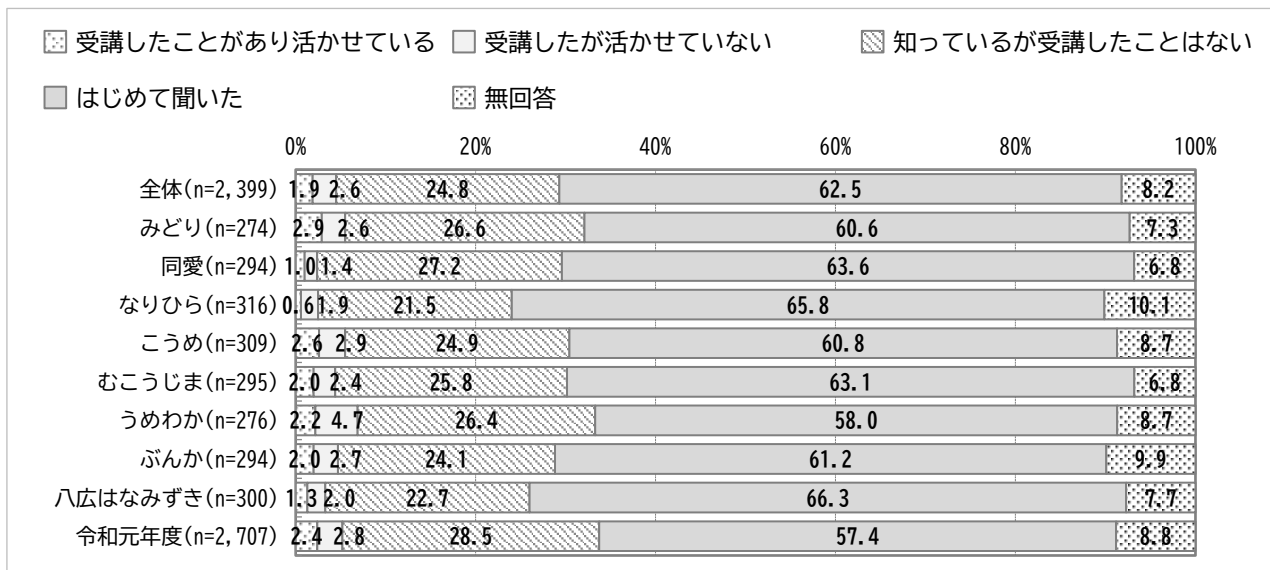


⑥認知症サポーター養成講座の活用状況

認知症サポーター養成講座の活用状況は、「はじめて聞いた」が62.5%で最も多く、次いで「知っているが受講したことはない」が24.8%、「受講したことがない」が2.6%となっている。令和元年度と比較して「はじめて聞いた」が5.1ポイント増加した。

地区別にみると、「受講したことがあり活かしている」では、みどり地区(2.9%)が、「受講したことが活かしていない」では、うめわか地区(4.7%)が最も多い。

■認知症サポーター養成講座の活用状況



12. 地域で受けている手助けについて

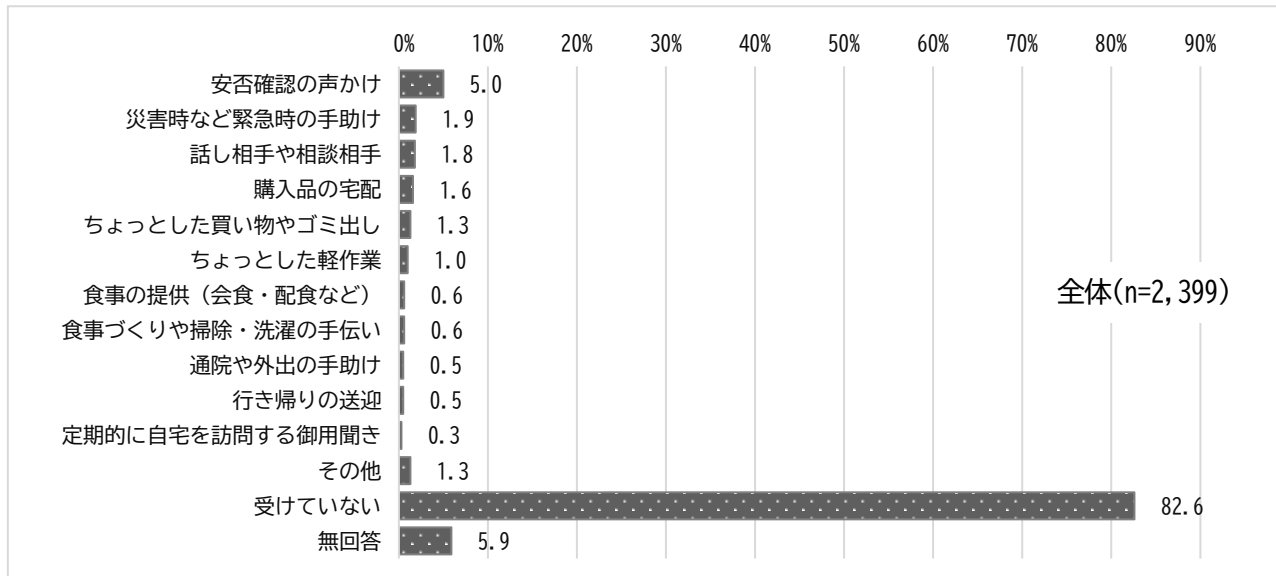
(1) 現在受けている手助け

①現在受けている手助け

現在受けている手助けは、「受けていない」が82.6%を占めている中で、「安否確認の声かけ」が5.0%で最も多く、次いで「災害時など緊急時の手助け」が1.9%、「話し相手や相談相手」が1.8%、「購入品の宅配」が1.6%、「ちょっとした買い物やゴミ出し」が1.3%、となっている。

地区別にみると、「受けていない」では、みどり地区(86.9%)が最も多い。

■現在受けている手助け（複数回答）



■現在受けている手助け（地区別）

(単位:%)

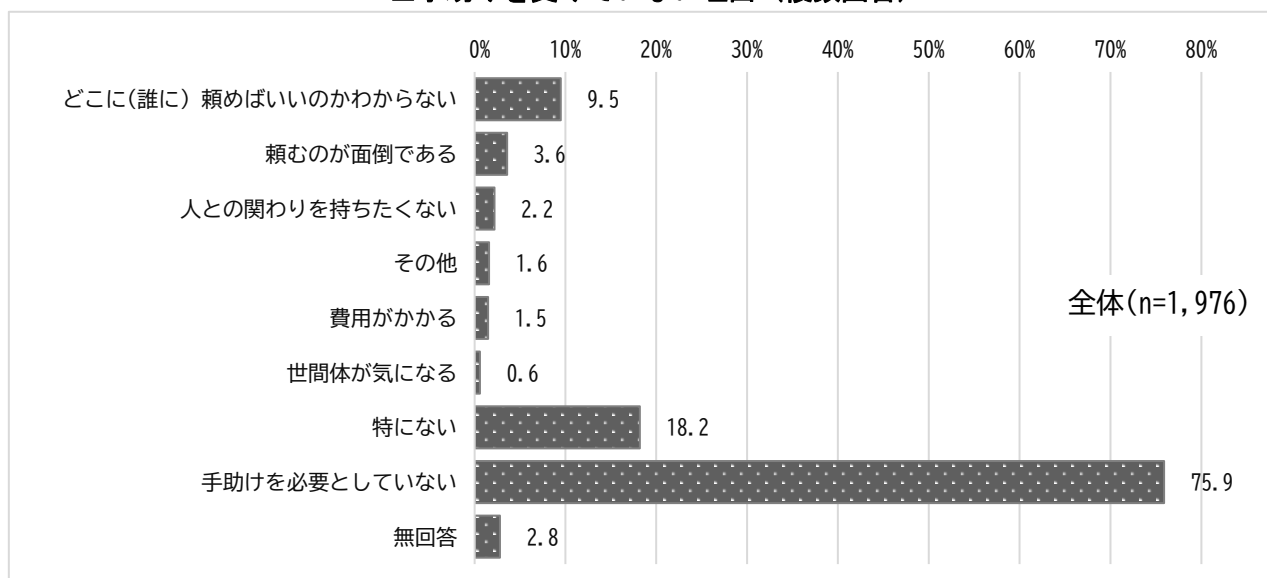
区分	回答者数(人)	安否確認の声かけ	物やゴミ出し	ちょっとした買い物やゴミ出し	洗濯の手伝い	食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	配食など	食事の提供(会食・配食など)	通院や外出の手助け	業	ちょっとした軽作業	手	話し相手や相談相手	災害時など緊急時の手助け	行き帰りの送迎	購入品の宅配	定期的に自宅を訪問する御用聞き	その他	受けていない
全体	2,399	5.0	1.3	0.6	0.6	0.6	0.5	1.0	1.8	1.9	0.5	1.6	0.3	1.3	82.4				
みどり	274	1.8	0.7	-	0.4	0.4	-	1.8	1.1	0.4	2.9	-	0.7	86.9					
同愛	294	4.4	0.7	0.7	1.0	0.3	1.0	2.0	2.4	0.3	2.0	0.3	1.4	84.7					
なりひら	316	5.1	1.3	0.9	-	0.3	0.9	1.3	-	0.6	1.6	0.6	1.6	81.0					
こうめ	309	5.5	1.9	0.3	1.0	1.0	1.3	2.6	1.6	0.6	1.0	0.3	2.3	80.6					
むこうじま	295	5.1	1.4	0.3	1.0	-	0.7	1.7	1.7	0.3	1.7	0.3	0.7	82.7					
うめわか	276	8.0	1.4	0.7	0.7	0.4	1.1	1.8	3.6	-	1.4	0.4	2.2	78.3					
ぶんか	294	7.1	1.7	0.7	-	0.7	2.0	1.7	2.4	0.7	1.0	-	1.0	81.3					
八広はなみずき	300	3.0	1.3	1.0	1.0	0.7	1.0	0.3	2.3	1.0	1.3	-	0.7	83.7					

②手助けを受けていない理由

前問で手助けを「受けていない」と回答した人の理由は、「手助けを必要としていない」が 75.9%で最も多く、次いで「特にない」が 18.2%、「どこに(誰に)頼めばいいのかわからない」が 9.5%となっている。

地区別にみると、全体と同様の傾向をしているが、「手助けを必要としていない」では、八広はなみずき地区(71.7%)が最も少なく、「どこに(誰に)頼めばいいのかわからない」では、みどり地区およびぶんか地区(それぞれ 10.9%)が最も多い。

■手助けを受けていない理由（複数回答）



■手助けを受けていない理由（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	どこに(誰に)頼めばいいのかわからない	費用がかかる	人との関わりを持ちたくない	世間体が気になる	頼むのが面倒である	その他	特にない	手助けを必要としていない	無回答
全体	1,976	9.5	1.5	2.2	0.6	3.6	1.6	18.2	75.9	2.8
みどり	238	10.9	1.3	-	-	4.6	1.7	17.6	77.3	1.7
同愛	249	6.4	1.2	1.6	0.8	2.4	0.8	17.3	79.1	2.0
なりひら	256	10.5	0.4	-	0.8	5.5	0.8	21.5	73.4	2.7
こうめ	249	8.4	1.2	2.8	0.8	1.2	1.2	16.5	76.7	3.6
むこうじま	244	9.4	1.2	1.6	-	2.5	3.3	18.4	74.2	4.9
うめわか	216	9.7	2.3	1.9	1.4	2.3	1.9	17.1	76.4	3.7
ぶんか	239	10.9	2.5	3.3	0.4	5.0	2.5	20.1	76.2	2.5
八広はなみずき	251	10.8	2.0	6.0	0.4	5.6	0.8	18.3	71.7	2.0

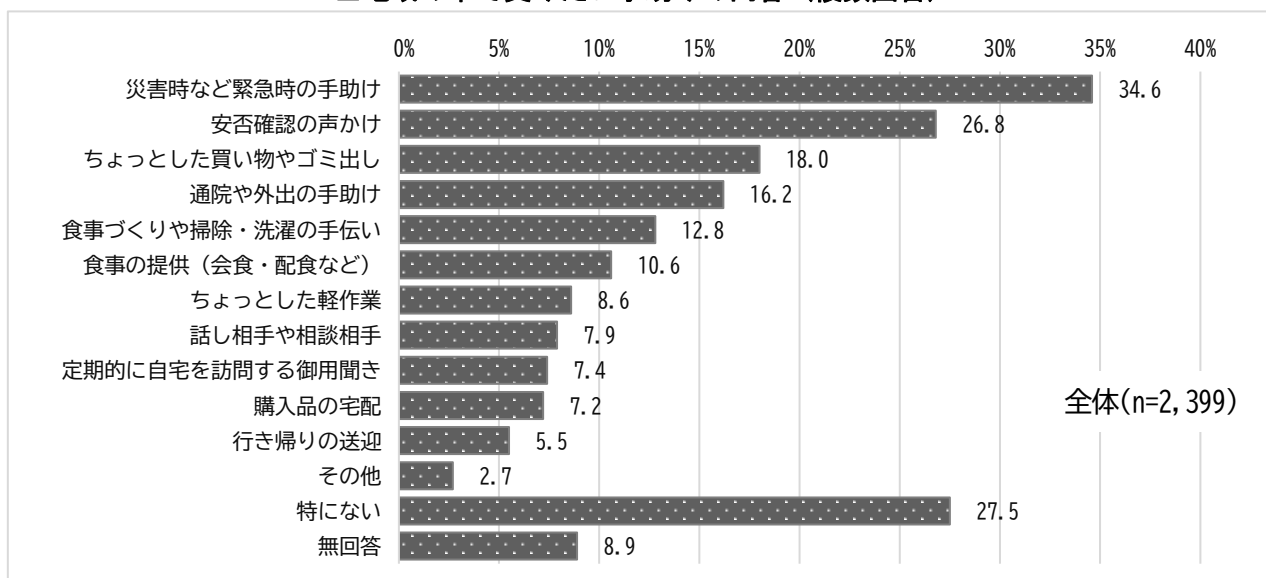
(2) 受けたいと思う手助け

①地域の中で受けたい手助けの内容

日常生活を送る上で不自由な状態になったとき、地域の中で受けたい手助けは、「災害時など緊急時の手助け」が34.6%で最も多く、次いで、「特にない」が27.5%、「安否確認の声かけ」が26.8%、「ちょっとした買い物やゴミ出し」が18.0%となっている。

地区別にみると、「災害時など緊急時の手助け」および「安否確認の声かけ」では、ぶんか地区(それぞれ39.5%、29.3%)が最も多い。

■地域の中で受けたい手助けの内容（複数回答）



■地域の中で受けたい手助けの内容（地区別）

(単位:%)

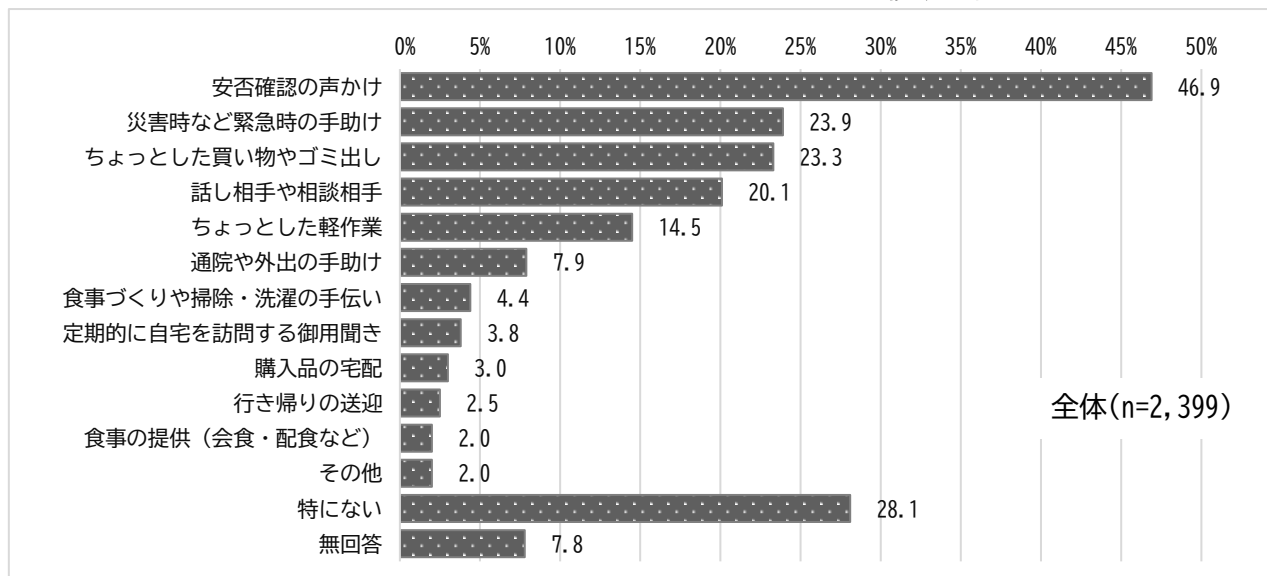
区分	回答者数 (人)	安否確認の声かけ	ゴミ出し	ちょっとした買い物や洗濯の手伝い	食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	食事の提供 (会食・配食など)	通院や外出の手助け	ちょっとした軽作業	話し相手や相談相手	災害時など緊急時の手助け	行き帰りの送迎	購入品の宅配	定期的に自宅を訪問する御用聞き	その他	特にない
全体	2,399	26.8	18.0	12.8	10.6	16.2	8.6	7.9	34.6	5.5	7.2	7.4	2.7	27.5	
みどり	274	26.6	18.2	12.8	11.3	12.4	3.6	5.1	34.3	5.8	6.9	5.8	4.7	27.0	
同愛	294	25.5	17.3	12.2	12.6	15.0	9.9	10.9	37.1	5.4	8.2	9.2	1.4	31.0	
なりひら	316	27.5	17.4	11.4	11.7	15.2	12.0	7.9	36.4	3.8	7.3	6.3	2.2	26.3	
こうめ	309	24.9	14.9	10.4	6.8	15.9	8.4	6.8	31.4	6.1	8.4	7.1	1.3	29.4	
むこうじま	295	26.1	17.3	13.9	7.5	18.0	8.1	9.2	34.6	4.4	6.1	8.8	2.4	28.1	
うめわか	276	29.0	19.6	15.6	12.7	17.4	11.2	8.7	31.5	7.2	4.7	9.4	1.8	25.4	
ぶんか	294	29.3	21.8	13.6	12.2	18.4	8.2	6.8	39.5	3.7	9.9	6.5	3.4	23.5	
八広はなみずき	300	27.0	16.7	13.0	11.0	17.0	6.7	7.7	32.3	7.7	5.0	7.0	4.0	28.3	

②地域の支え合いとして自分自身ができること

地域の支え合いとして自分自身ができることは、「特にない」を除くと「安否確認の声かけ」が 46.9%で最も多く、次いで「災害時など緊急時の手助け」が 23.9%、「ちょっとした買い物やゴミ出し」が 23.3%、「話し相手や相談相手」が 20.1%、「ちょっとした軽作業」が 14.5%となっている。

地区別にみると、全体と同様の傾向を示している。

■地域の支え合いとして自分自身ができること（複数回答）



■地域の支え合いとして自分自身ができること（地区別）

(単位:%)

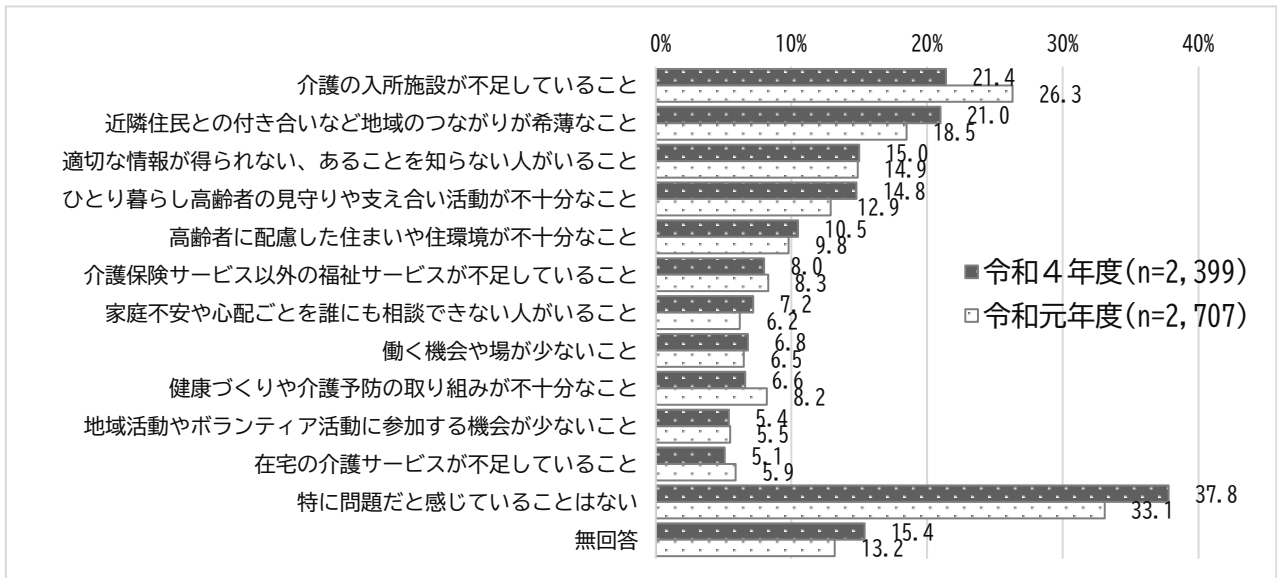
区分	回答者数(人)	安否確認の声かけ	ちょっとした買い物やゴミ出し	洗濯の手伝い	食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	食事の提供(会食・配食など)	通院や外出の手助け	ちょっとした軽作業	話し相手や相談相手	災害時など緊急時の手助け	行き帰りの送迎	購入品の宅配	定期的に自宅を訪問する御用聞き	その他	特にない
全体	2,399	46.9	23.3	4.4	2.0	7.9	14.5	20.1	23.9	2.5	3.0	3.8	2.0	28.1	
みどり	274	48.2	21.9	4.7	2.6	9.1	16.4	21.2	27.4	3.3	2.9	2.9	2.6	25.9	
同愛	294	46.9	19.7	3.7	2.0	7.1	15.6	21.1	27.2	2.7	3.7	4.4	2.0	30.3	
なりひら	316	46.5	25.3	2.8	0.6	7.0	13.3	20.6	23.7	1.6	0.9	4.1	1.6	26.9	
こうめ	309	45.6	22.7	4.9	1.6	6.1	12.9	21.0	23.3	2.3	6.1	3.9	2.6	24.9	
むこうじま	295	45.4	23.7	4.4	2.7	8.8	16.3	21.4	26.8	3.7	2.0	4.1	1.0	28.5	
うめわか	276	47.5	25.7	4.0	2.2	10.1	16.3	19.6	19.2	2.2	3.3	4.0	0.7	25.7	
ぶんか	294	47.3	25.2	4.8	2.4	6.1	12.2	18.7	23.8	2.7	3.1	4.8	3.1	27.2	
八広はなみずき	300	47.7	20.3	5.7	1.7	9.7	13.7	18.7	20.7	1.7	2.0	2.3	3.0	34.3	

③地域で問題だと感じていること

地域で問題だと感じていることは、「特に問題だと感じていることはない」が 37.8%を占めている中で、「介護の入所施設が不足していること」が 21.4%で最も多く、次いで「近隣住民との付き合いなど地域のつながりが希薄なこと」が 21.0%、「適切な情報が得られない、あることを知らない人がいること」が 15.0%、「ひとり暮らし高齢者の見守りや支え合い活動が不十分なこと」が 14.8%となっている。令和元年度と比較して、「介護の入所施設が不足していること」が 4.9ポイントに減少した一方、「特に問題とは感じていることはない」が 4.7ポイント、また、「近隣住民との付き合いなどの地域のつながりが希薄なこと」が 2.5ポイント増加した。

地区別にみると、全体と同様の傾向を示している。

■地域で問題だと感じていること（複数回答）



■地域で問題だと感じていること（地区別）

(単位:%)

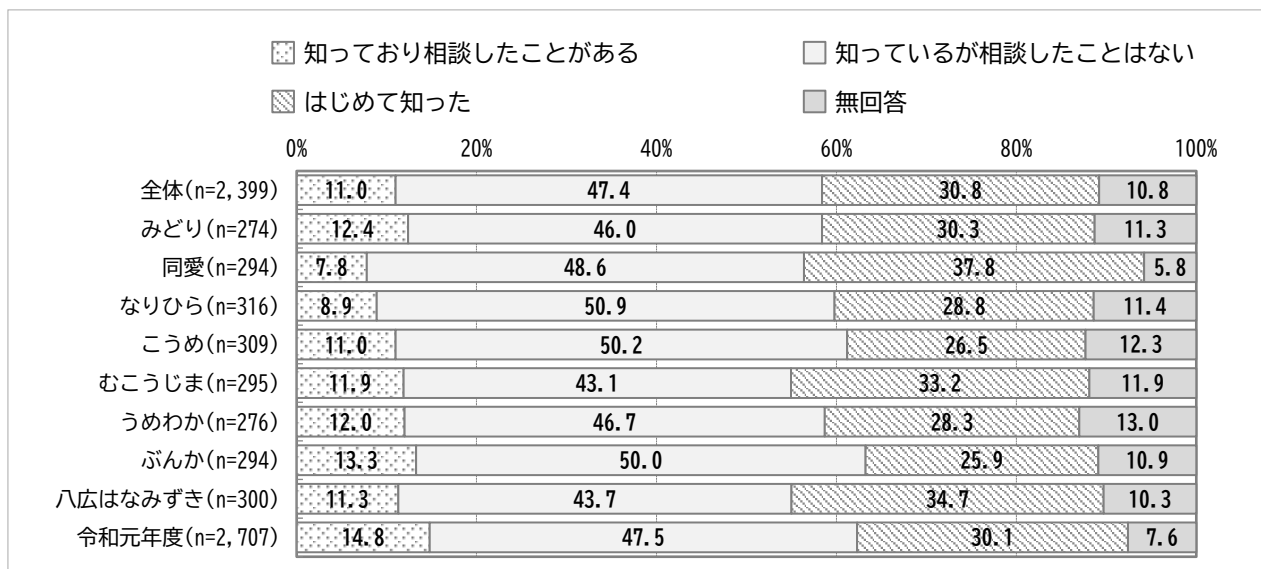
区分	回答者数(人)	健康づくりや介護予防の取り組みが不十分なこと	地域活動やボランティア活動に参加する機会が少ないこと	介護保険サービス以外の福祉サービスが不足していること	ひとり暮らし高齢者の見守りや支え合い活動が不十分なこと	働く機会や場が少ないこと	在宅の介護サービスが不足していること	近隣住民との付き合いなど地域のつながりが希薄なこと	家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいること	適切な情報が得られない、あることを知らない人がいること	高齢者に配慮した住まいや住環境が不十分なこと	介護の入所施設が不足していること	特に問題だと感じていることはない
全体	2,399	6.6	5.4	8.0	14.8	6.8	5.1	21.0	7.2	15.0	10.5	21.4	37.8
みどり	274	7.3	6.9	5.5	13.5	6.2	3.6	20.8	3.6	13.9	6.6	19.3	41.6
同愛	294	7.5	6.5	9.5	12.2	5.8	5.8	19.4	6.5	13.6	9.9	21.1	42.5
なりひら	316	5.7	5.4	7.9	13.6	8.9	5.1	19.9	7.0	15.5	7.6	21.8	40.2
こうめ	309	4.9	3.6	5.8	13.3	6.1	4.9	19.1	6.5	12.6	9.7	19.1	40.1
むこうじま	295	5.8	5.4	6.8	15.9	7.1	4.7	21.7	8.1	13.6	11.5	24.4	32.9
うめわか	276	8.0	5.4	9.8	19.6	8.3	6.2	23.2	8.7	15.6	12.3	22.1	31.9
ぶんか	294	7.5	4.4	8.2	15.0	6.1	4.4	22.4	8.8	17.3	12.6	20.7	33.3
八広はなみずき	300	5.7	5.7	10.7	15.7	6.3	6.7	21.0	9.0	17.0	13.7	23.3	39.0

④高齢者支援総合センターや高齢者みまもり相談室の認知度

高齢者支援総合センターや高齢者みまもり相談室の認知度は「知っているが相談したことはない」が47.4%で最も多く、次いで「はじめて知った」が30.8%、「知っており相談したことがある」が11.0%となっている。「知っており相談したことがある」は、令和元年度(14.8%)より3.8ポイント減少した。

地区別にみると、「知っているが相談したことはない」では、なりひら地区(50.9%)が最も多い。また、「知っており相談したことがある」では、ぶんか地区(13.3%)が最も多い。

■高齢者支援総合センターや高齢者みまもり相談室の認知度



13. 災害時や緊急時の避難、急病時の対応について

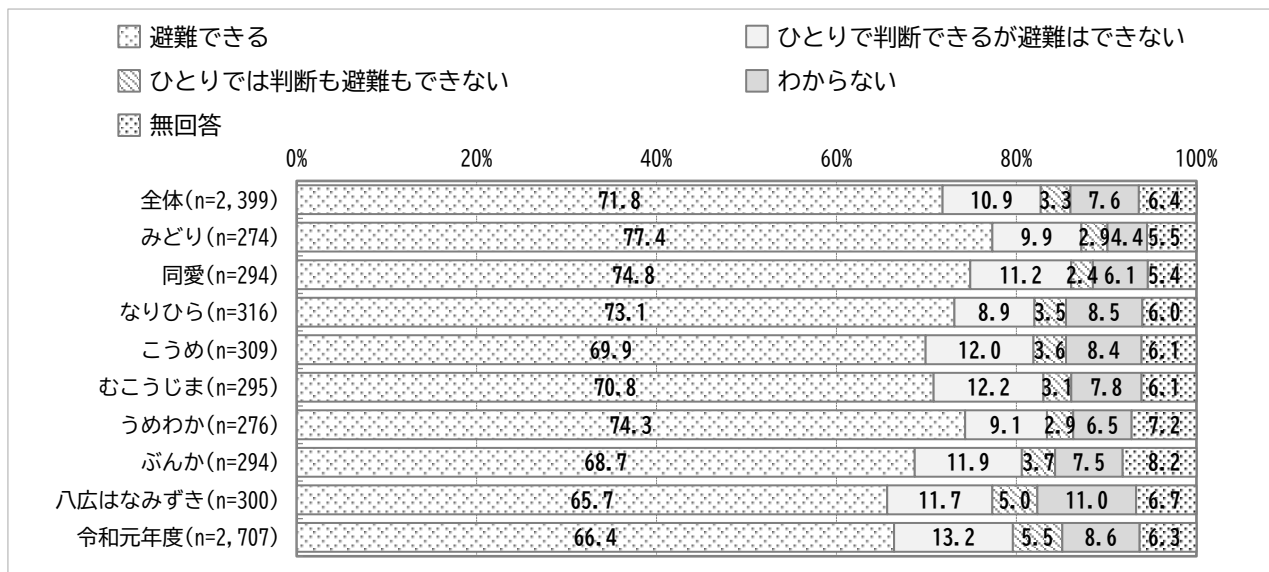
(1) 災害時や緊急時の避難の可否

災害時や緊急時の避難の可否は、「避難できる」が 71.8%、「ひとりで判断できるが避難はできない」と「ひとりでは判断も避難もできない」を合わせた“避難できない”は 14.2%、「わからない」が 7.6%となっている。

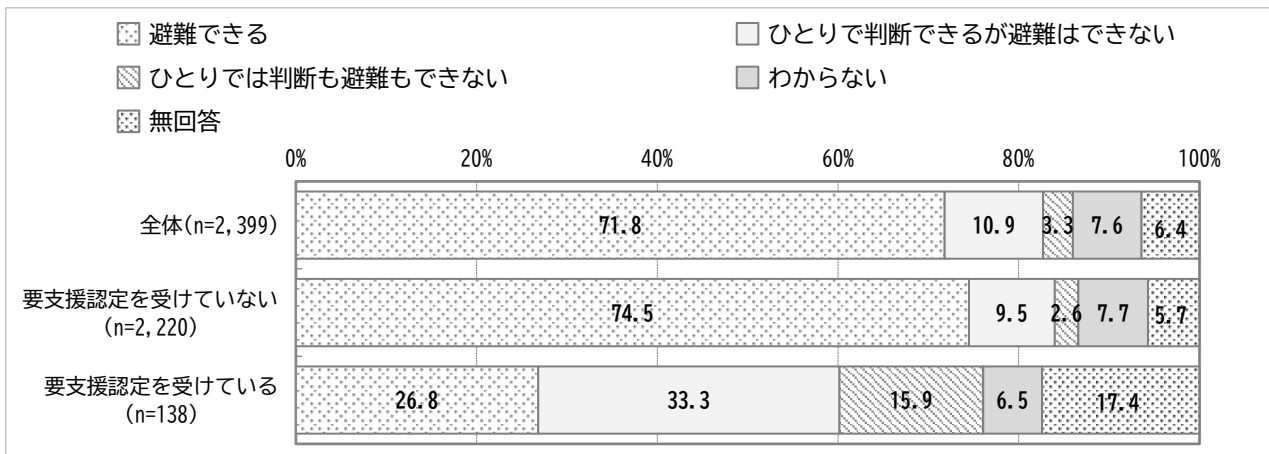
地区別にみると、“避難できない”では、八広はなみずき地区(16.7%)が最も多い。令和元年度と比較して「避難できる」が 5.4 ポイント増加した。

要支援認定の有無別にみると、要支援認定を受けている人では、受けていない人に比べて、「ひとりで判断できるが避難はできない」(33.3%)、「ひとりでは判断も避難もできない」(15.9%)が特に多い。

■災害時や緊急時の避難の可否



■災害時や緊急時の避難の可否（要支援認定の有無別）



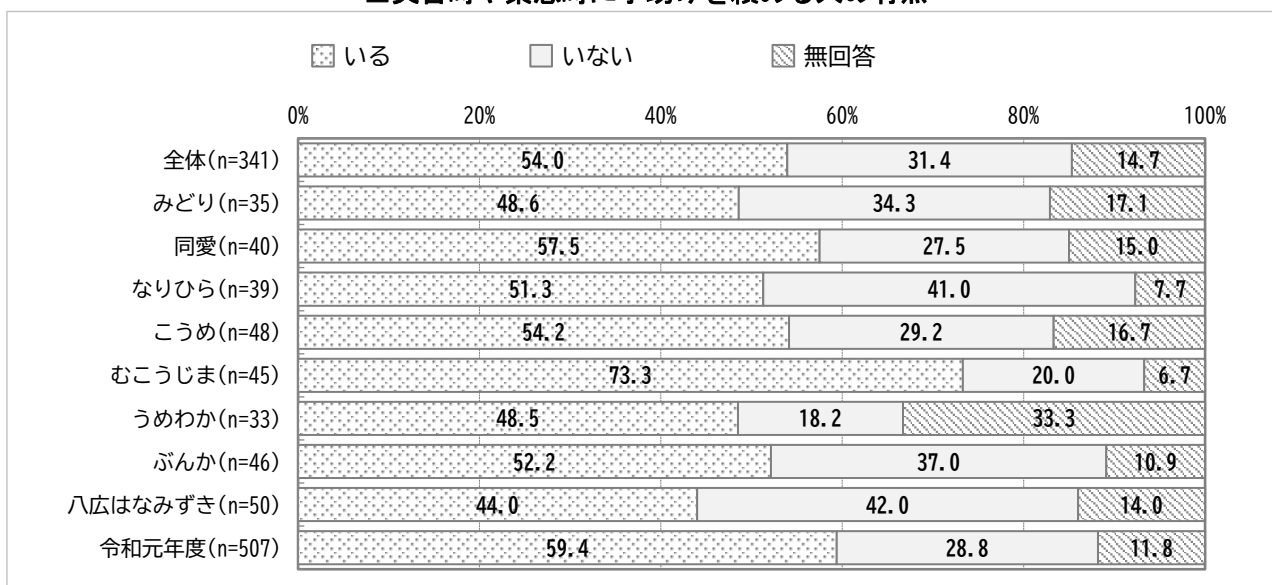
(2) 災害時や緊急時の避難、急病時に手助けを頼める人

①災害時や緊急時に避難する際、手助けを頼める人の有無

前問で災害時や緊急時に“避難することができない”と回答した人で、災害や緊急時に手助けを頼める人が「いる」は 54.0%、「いない」は 31.4%となっている。令和元年度と比較して、「いる」が 5.4 ポイント減少した。

地区別にみると、「いる」では、むこうじま地区(73.3%)が最も多く、「いない」では、八広はなみずき地区(42.0%)が最も多い。

■災害時や緊急時に手助けを頼める人の有無

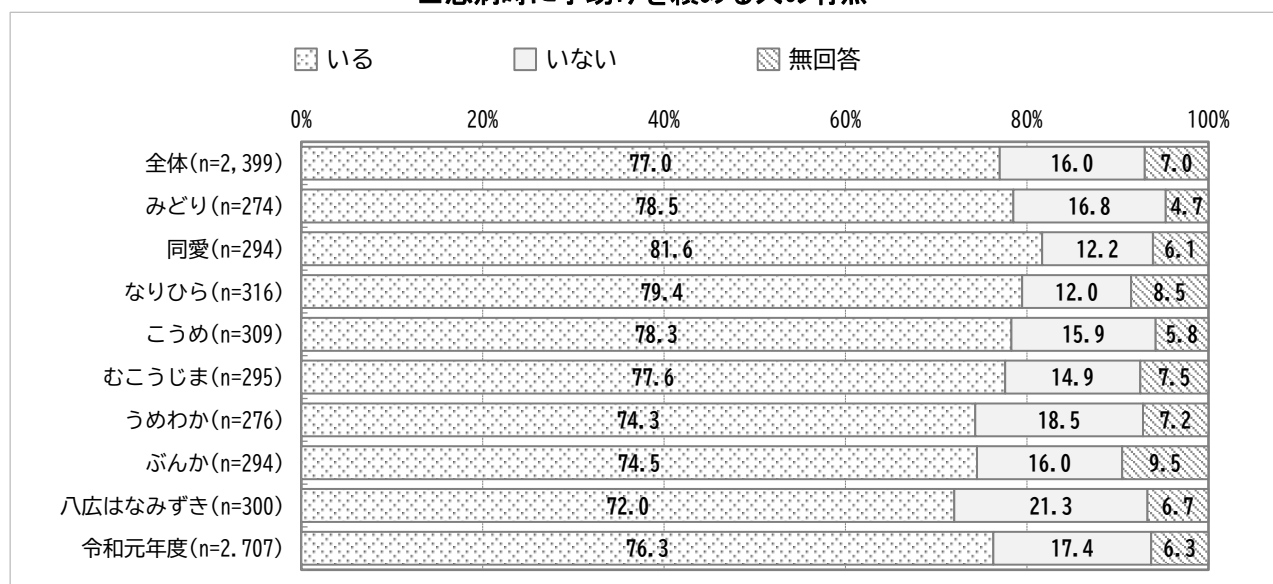


②急病時に手助けを頼める人の有無

急病時に手助けを頼める人の有無は、「いる」が 77.0%、「いない」が 16.0%となっている。令和元年度とほぼ同様の結果であった。

地区別にみると、「いない」では、八広はなみずき地区(21.3%)が最も多い。

■急病時に手助けを頼める人の有無

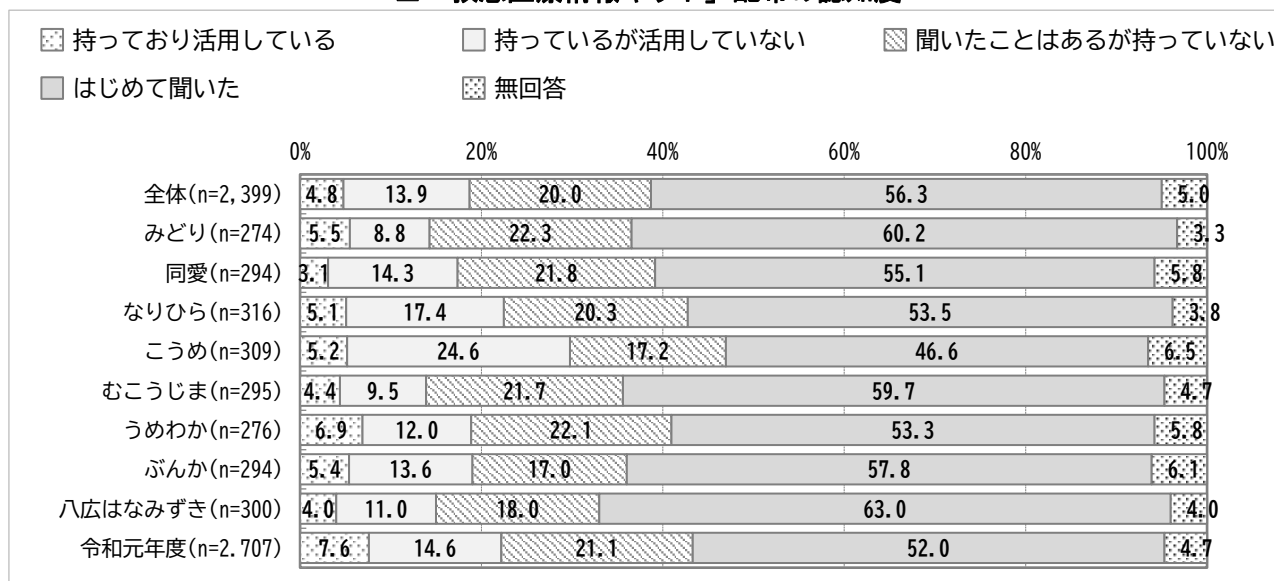


(3) 「救急医療情報キット」配布の認知度

区が配布している「救急医療情報キット」の認知度は、「はじめて聞いた」が56.3%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが持っていない」が20.0%、「持っているが活用していない」が13.9%となっている。令和元年度と比較して、「持っており活用している」が2.8ポイント減少し、「はじめて聞いた」が4.3ポイント増加した。

地区別にみると、「はじめて聞いた」では、八広はなみずき地区(63.0%)が、「持っているが活用していない」では、こうめ地区(24.6%)が最も多い。一方、「持っており活用している」では、うめわか地区(6.9%)が最も多い。

■ 「救急医療情報キット」配布の認知度



14. 今後の生活について

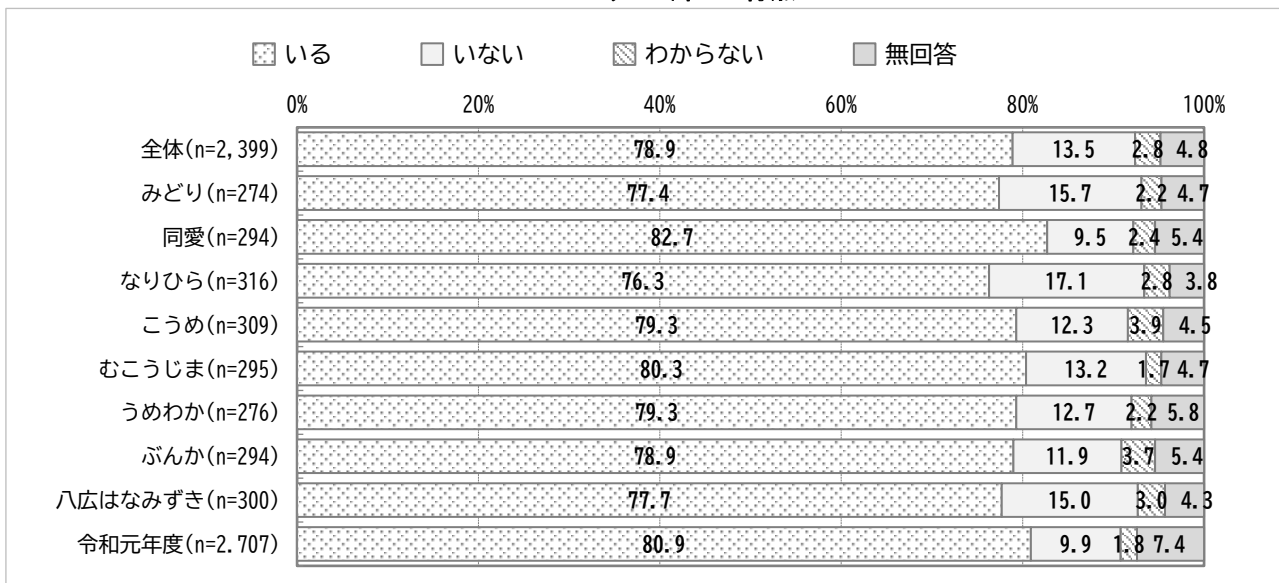
(1) 「かかりつけ医」「かかりつけ歯科医」「かかりつけ薬剤師」の有無

①かかりつけ医

かかりつけ医の有無は、「いる」が 78.9%、「いない」が 13.5%、「わからない」が 2.8%となっている。令和元年度と比較して「いる」は 80.9%から 2.0ポイント減少した。

地区別にみると、「いる」では、同愛地区の(82.7%)が、「いない」では、なりひら地区(17.1%)が最も多い。

■かかりつけ医の有無

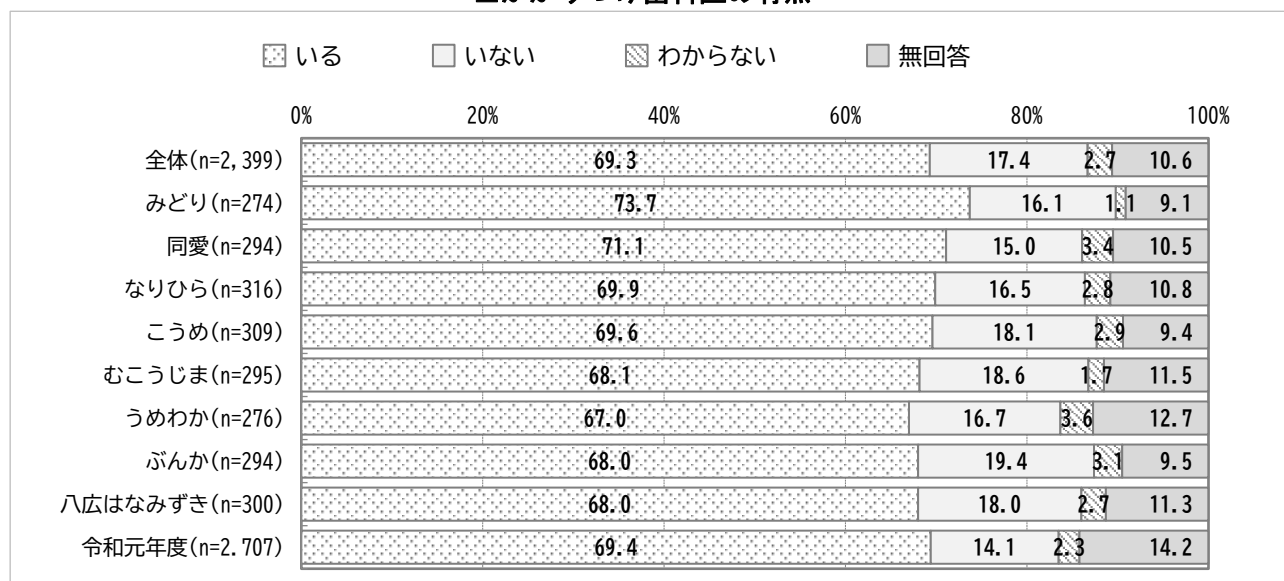


②かかりつけ歯科医

かかりつけ歯科医の有無は、「いる」が 69.3%、「いない」が 17.4%、「わからない」が 2.7%となっている。令和元年度と比較して「いる」はほとんど同じ割合であった。

地区別にみると、「いる」では、みどり地区(73.7%)が、「いない」では、ぶんか地区(19.4%)が最も多い。

■かかりつけ歯科医の有無

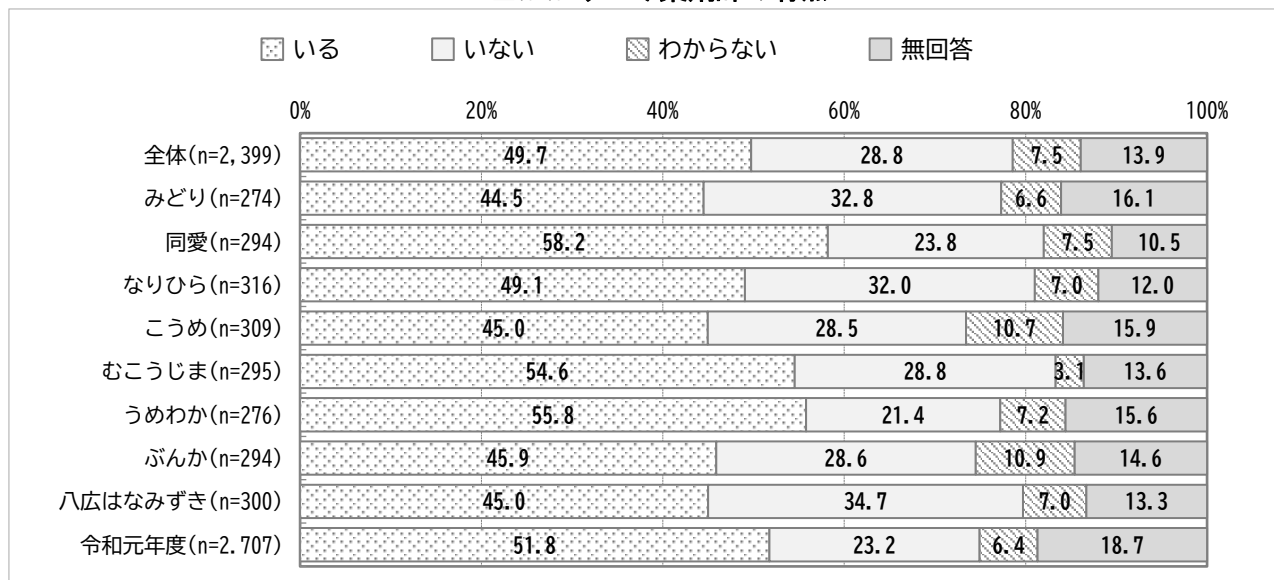


③かかりつけ薬剤師

かかりつけ薬剤師の有無は、「いる」が49.7%、「いない」が28.8%、「わからない」が7.5%となっている。令和元年度と比較して「いる」は51.8%から2.1ポイント減少した。

地区別にみると、「いる」では、同愛地区(58.2%)が、「いない」では八広はなみずき地区(34.7%)が最も多い。

■かかりつけ薬剤師の有無



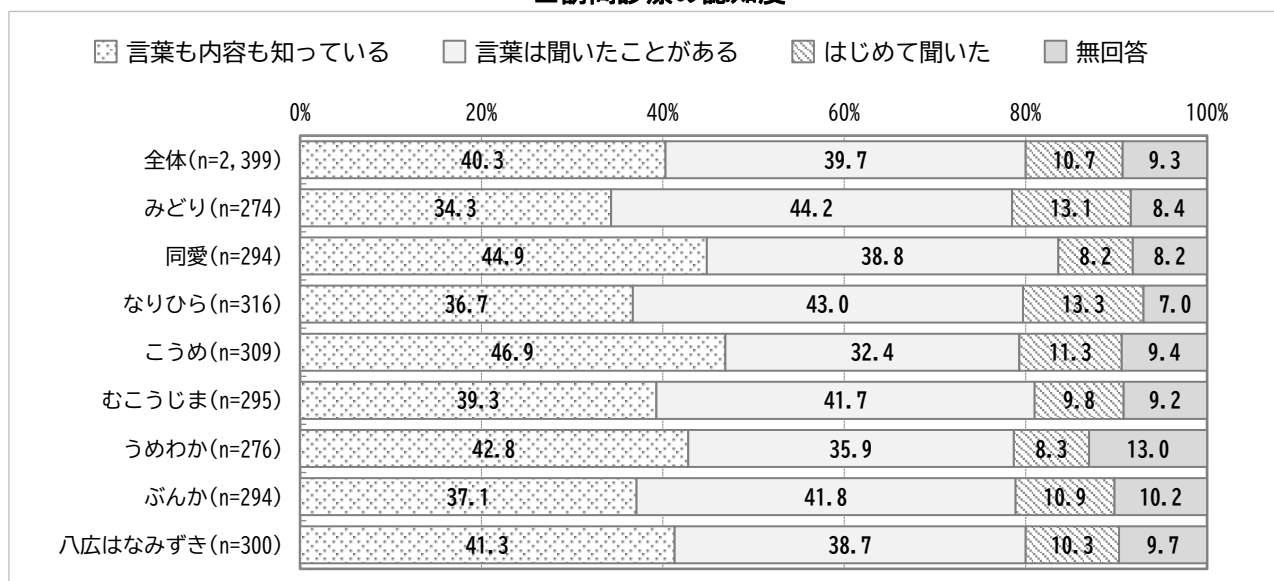
(2) 在宅医療の認知度

①訪問診療

訪問診療の認知度は、「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがある」を合わせた“知っている”が80.0%、「はじめて聞いた」が10.7%となっている。

地区別にみると、「言葉も内容も知っている」では、こうめ地区(46.9%)が最も多い。

■訪問診療の認知度

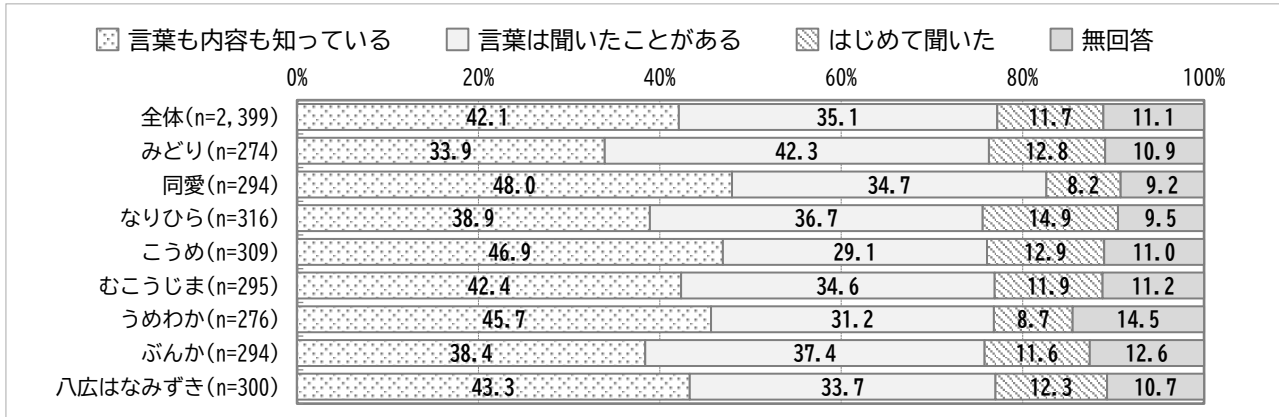


② 往診

往診の認知度は、「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがある」を合わせた“知っている”が77.2%、「はじめて聞いた」が11.7%となっている。

地区別にみると、「言葉も内容も知っている」では、同愛地区(48.0%)が最も多い。

■ 往診の認知度

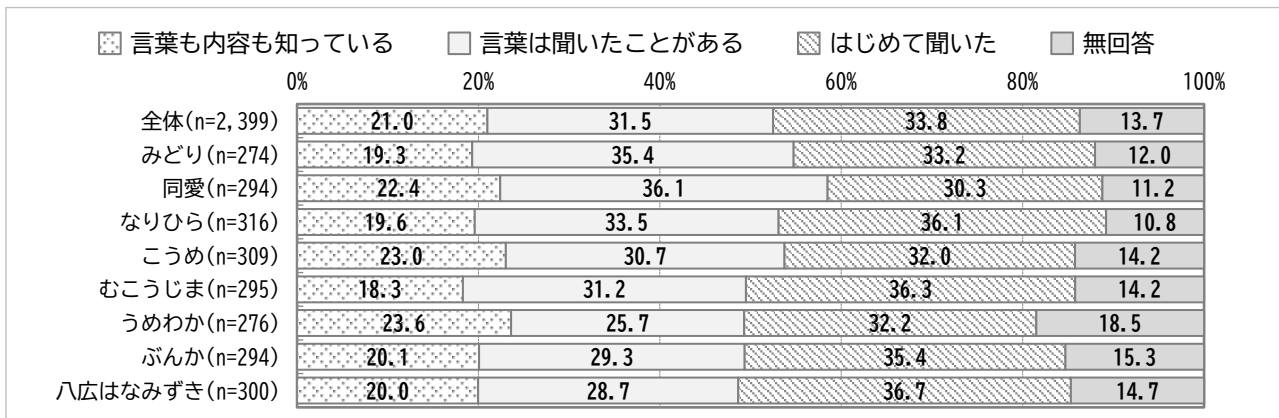


③ 看取り

看取りの認知度は、「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがある」を合わせた“知っている”が52.5%、「はじめて聞いた」が33.8%となっている。

地区別にみると、「言葉も内容も知っている」では、うめわか地区(23.6%)が最も多い。

■ 看取りの認知度

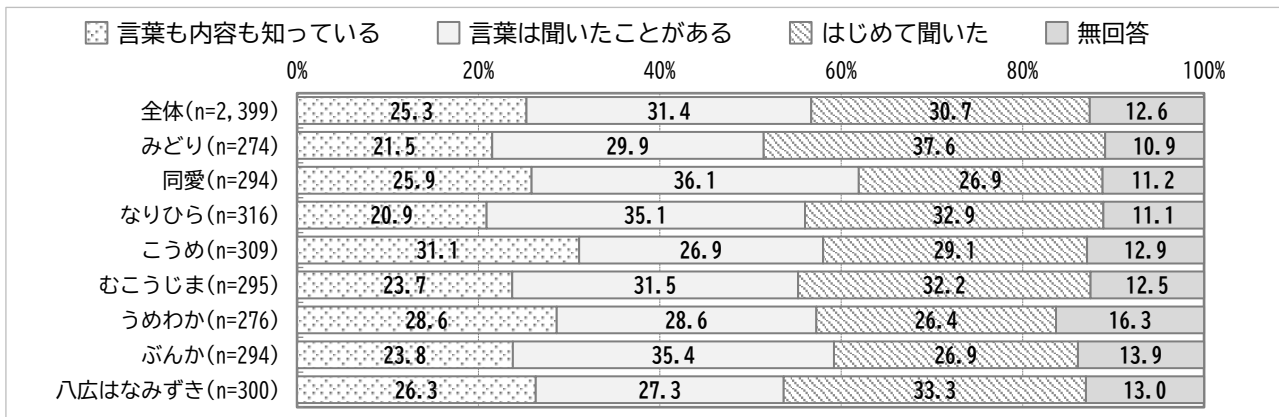


④ 訪問歯科診療

訪問歯科診療の認知度は、「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがある」を合わせた“知っている”が56.7%、「はじめて聞いた」が30.7%となっている。

地区別にみると、「言葉も内容も知っている」では、こうめ地区(31.1%)が最も多い。

■ 訪問歯科診療の認知度

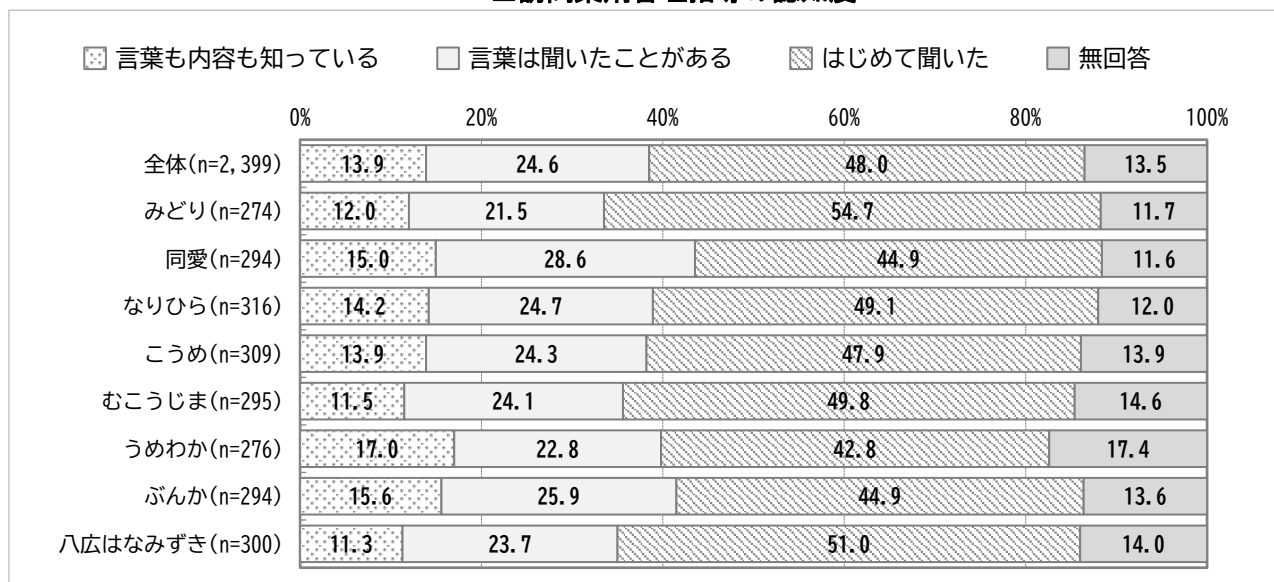


⑤訪問薬剤管理指導

訪問薬剤管理指導の認知度は、「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがある」を合わせた“知っている”が38.5%、「はじめて聞いた」が48.0%となっている。

地区別にみると、「言葉も内容も知っている」では、うめわか地区(17.0%)が最も多い。

■訪問薬剤管理指導の認知度

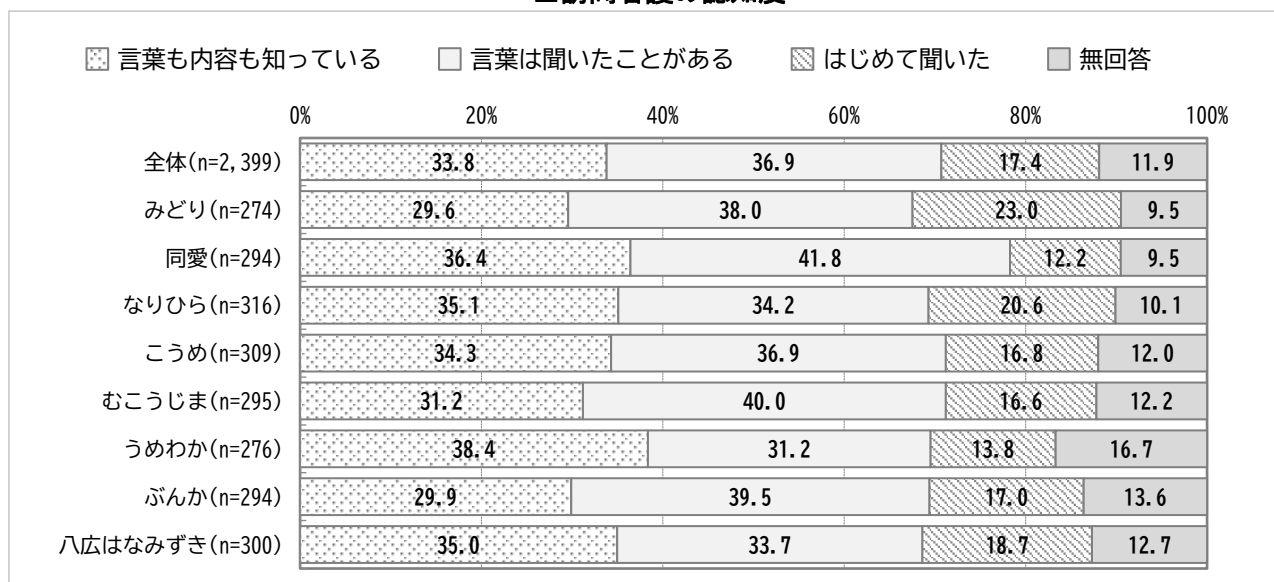


⑥訪問看護

訪問看護の認知度は、「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがある」を合わせた“知っている”が70.7%、「はじめて聞いた」が17.4%となっている。

地区別にみると、「言葉も内容も知っている」では、うめわか地区(38.4%)が最も多い。

■訪問看護の認知度



(3) 介護予防教室や活動への参加頻度

①区主催による運動を主とした介護予防事業

区主催による運動を主とした介護予防事業は、「週に1回以上参加している」が 1.8%、「参加していない」が 79.7%となっている。

地区別にみると、「週に1回以上参加している」では、うめわか地区(2.6%)が、「参加していない」では、同愛地区(83.3%)が最も多い。

■区主催による運動を主とした介護予防事業への参加頻度

“週に1回以上参加している”

(単位:%)

区分	回答者数 (人)	“週に1回以上参加している”				月1～3回	年に数回	ない 参加して いない	無回答
		毎日	週4～6回	週2～3回	週1回				
全体	2,399	0.1	0.3	0.4	1.0	0.8	1.4	79.7	16.4
みどり	274	-	0.4	0.4	1.5	1.1	1.1	81.0	14.6
同愛	294	0.3	0.3	-	1.0	-	2.7	83.3	12.2
なりひら	316	-	0.3	1.3	0.6	0.3	0.6	80.7	16.1
こうめ	309	-	-	-	0.6	1.3	0.6	80.6	16.8
むこうじま	295	0.3	0.3	-	1.0	1.7	2.0	78.0	16.6
うめわか	276	-	0.4	0.4	1.8	0.4	1.1	75.7	20.3
ぶんか	294	0.3	-	0.3	0.7	0.7	0.7	77.6	19.7
八広はなみずき	300	-	0.3	0.3	1.0	0.7	2.3	79.0	16.3

②区内施設で開催される体操や介護予防等の教室

区内施設で開催される体操や介護予防等の教室は、「週に1回以上参加している」が 3.0%、「参加していない」が 78.0%となっている。

地区別にみると、「週に1回以上参加している」では、みどり地区および同愛地区(それぞれ 4.4%)が最も多い。

■区内施設で開催される体操や介護予防等の教室への参加頻度

“週に1回以上参加している”

(単位:%)

区分	回答者数 (人)	“週に1回以上参加している”				月1～3回	年に数回	ない 参加して いない	無回答
		毎日	週4～6回	週2～3回	週1回				
全体	2,399	0.3	0.3	0.8	1.6	1.0	1.8	78.0	16.3
みどり	274	-	-	1.1	3.3	0.4	2.2	78.8	14.2
同愛	294	0.3	0.7	1.0	2.4	0.3	2.7	80.3	12.2
なりひら	316	-	-	1.3	1.3	0.6	1.9	79.1	15.8
こうめ	309	0.3	-	0.6	1.0	0.6	0.6	79.6	17.2
むこうじま	295	0.3	0.3	-	1.4	1.0	1.7	77.3	18.0
うめわか	276	-	0.4	1.8	1.4	2.5	0.7	73.2	19.9
ぶんか	294	0.3	0.3	0.3	1.4	1.7	1.0	76.5	18.4
八広はなみずき	300	0.7	0.3	0.3	1.3	0.3	3.0	77.7	16.3

③フィットネス、スポーツジム等民間施設の利用

フィットネス、スポーツジム等民間施設の利用は、“週に1回以上参加している”が7.0%、参加していないが74.4%となっている。

地区別にみると、“週に1回以上参加している”では、なりひら地区(7.9%)が最も多い。

■フィットネス、スポーツジム等民間施設利用への参加頻度

“週に1回以上参加している”

(単位:%)

区分	回答者数 (人)	“週に1回以上参加している”				月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
		毎日	週4～6回	週2～3回	週1回				
全体	2,399	0.3	1.5	3.6	1.6	0.8	1.4	74.4	16.4
みどり	274	0.4	2.2	3.3	1.1	1.1	2.2	75.2	14.6
同愛	294	0.3	1.7	3.4	1.7	2.0	1.7	76.5	12.6
なりひら	316	0.3	1.6	4.4	1.6	0.9	2.5	73.7	14.9
こうめ	309	1.0	1.3	2.9	1.9	0.3	1.3	74.8	16.5
むこうじま	295	0.7	2.0	4.1	1.0	0.3	0.7	73.9	17.3
うめわか	276	-	0.7	4.0	1.8	0.4	0.7	72.5	19.9
ぶんか	294	-	1.0	2.7	1.4	1.0	0.3	73.1	20.4
八広はなみずき	300	-	1.3	3.3	2.3	0.7	1.0	75.0	16.3

④介護予防サポーター等による自主グループが実施する体操

介護予防サポーター等による自主グループが実施する体操は、“週に1回以上参加している”が1.1%、「参加していない」が79.8%となっている。

地区別にみると、“週に1回以上参加している”では、みどり地区(2.6%)が、「参加していない」では、同愛地区(84.4%)が最も多い。

■介護予防サポーター等による自主グループが実施する体操への参加頻度

“週に1回以上参加している”

(単位:%)

区分	回答者数 (人)	“週に1回以上参加している”				月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
		毎日	週4～6回	週2～3回	週1回				
全体	2,399	0.1	0.2	0.4	0.4	0.9	0.8	79.8	17.3
みどり	274	-	0.4	1.5	0.7	1.1	0.7	78.8	16.8
同愛	294	-	0.3	0.3	0.3	0.7	0.7	84.4	13.3
なりひら	316	-	0.3	-	-	0.9	1.3	81.0	16.5
こうめ	309	-	-	0.3	0.3	1.0	0.3	80.6	17.5
むこうじま	295	0.7	-	-	0.7	0.3	1.0	79.0	18.3
うめわか	276	0.4	0.7	0.7	0.4	1.4	0.7	75.0	20.7
ぶんか	294	-	-	-	0.7	0.7	1.4	77.2	20.1
八広はなみずき	300	-	-	0.3	-	1.0	-	81.3	17.3

⑤町会など地域で行っている体操（ラジオ体操等）やサロン等

町会など地域で行っている体操（ラジオ体操等）やサロン等は、“週に1回以上参加している”が 3.1%、「参加していない」が 75.6%となっている。

地区別にみると、“週に1回以上参加している”では、同愛地区およびむこうじま地区（それぞれ 4.4%）が最も多い。

■町会など地域で行っている体操（ラジオ体操等）やサロン等への参加頻度

“週に1回以上参加している”

(単位:%)

区分	回答者数 (人)	“週に1回以上参加している”				月1～3回	年に数回	ない 参加して い	無回答
		毎日	週4～6回	週2～3回	週1回				
全体	2,399	1.4	0.7	0.6	0.4	1.5	3.4	75.6	16.4
みどり	274	-	0.4	0.7	0.4	3.6	4.4	75.2	15.3
同愛	294	3.1	0.7	0.3	0.3	1.7	6.5	76.2	11.2
なりひら	316	1.3	0.3	0.6	0.9	0.9	4.4	75.3	16.1
こうめ	309	1.0	0.3	0.3	-	1.3	3.2	77.3	16.5
むこうじま	295	1.7	0.3	1.7	0.7	0.3	1.4	75.9	18.0
うめわか	276	0.4	1.8	0.7	0.4	2.2	3.6	70.3	20.7
ぶんか	294	2.4	1.4	-	-	1.4	1.7	75.2	18.0
八辺はなみずき	300	1.3	0.7	0.7	0.3	1.0	2.3	76.7	17.0

⑥その他

その他は、“週に1回以上参加している”が 3.1%、「参加していない」が 39.6%となっている。

地区別にみると、“週に1回以上参加している”では、むこうじま地区(3.8%)が最も多い。

■その他への参加頻度

“週に1回以上参加している”

(単位:%)

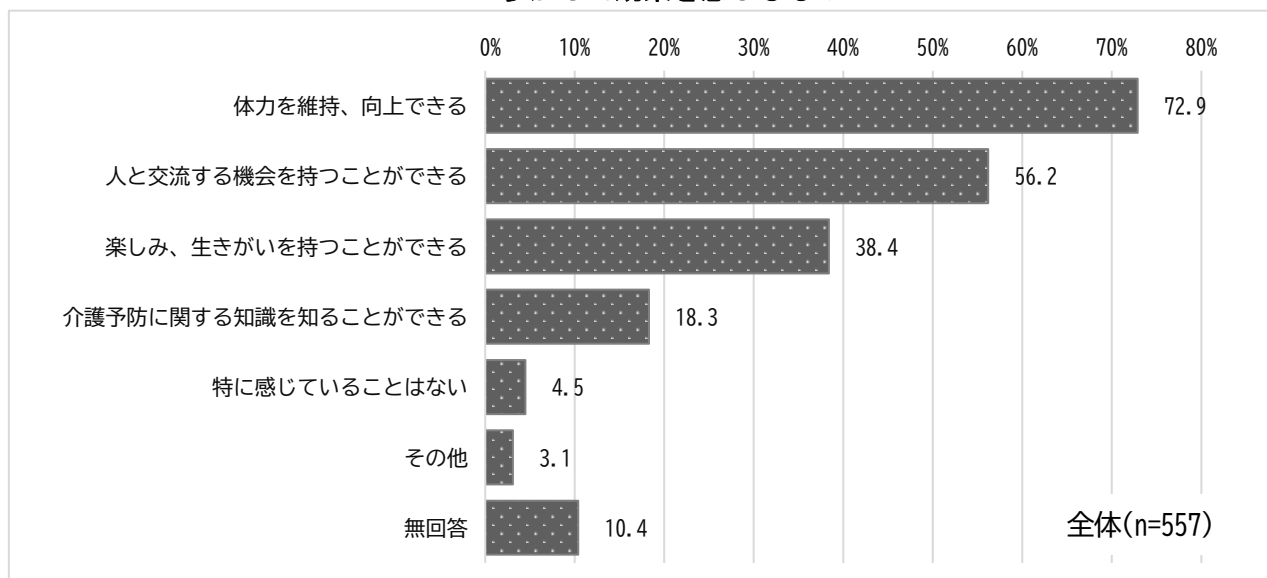
区分	回答者数 (人)	“週に1回以上参加している”				月1～3回	年に数回	ない 参加して い	無回答
		毎日	週4～6回	週2～3回	週1回				
全体	2,399	0.9	0.3	1.0	0.9	0.4	0.3	39.6	56.6
みどり	274	1.1	0.4	0.4	1.8	-	-	39.4	56.9
同愛	294	1.0	0.3	1.4	1.0	0.3	0.7	39.5	55.8
なりひら	316	0.9	0.3	2.2	-	-	0.6	38.6	57.3
こうめ	309	0.6	0.3	0.3	2.3	0.6	-	40.1	55.7
むこうじま	295	1.7	-	1.4	0.7	1.7	0.3	40.7	53.6
うめわか	276	1.4	0.4	0.4	0.4	0.4	-	39.1	58.0
ぶんか	294	0.7	0.7	1.0	1.0	-	-	33.3	63.3
八辺はなみずき	300	-	-	1.3	0.3	0.3	0.3	44.3	53.3

⑦参加して効果を感じるもの

上記の①～⑥のいずれか1つでも参加している方について、参加して効果を感じるものは「体力を維持、向上できる」が 72.9%で最も多く、次いで「人と交流する機会を持つことができる」が 56.2%、「楽しみ、生きがいを持つことができる」が 38.4%であった。

地区別にみると、「体力を維持、向上できる」では、こうめ地区(78.5%)、「人と交流する機会を持つことができる」では、こうめ地区およびうめわか地区(それぞれ 60.0%)、「楽しみ、生きがいを持つことができる」では、むこうじま地区(43.3%)が最も多い。

■参加して効果を感じるもの



■参加して効果を感じるもの（地区別）

(単位：%)

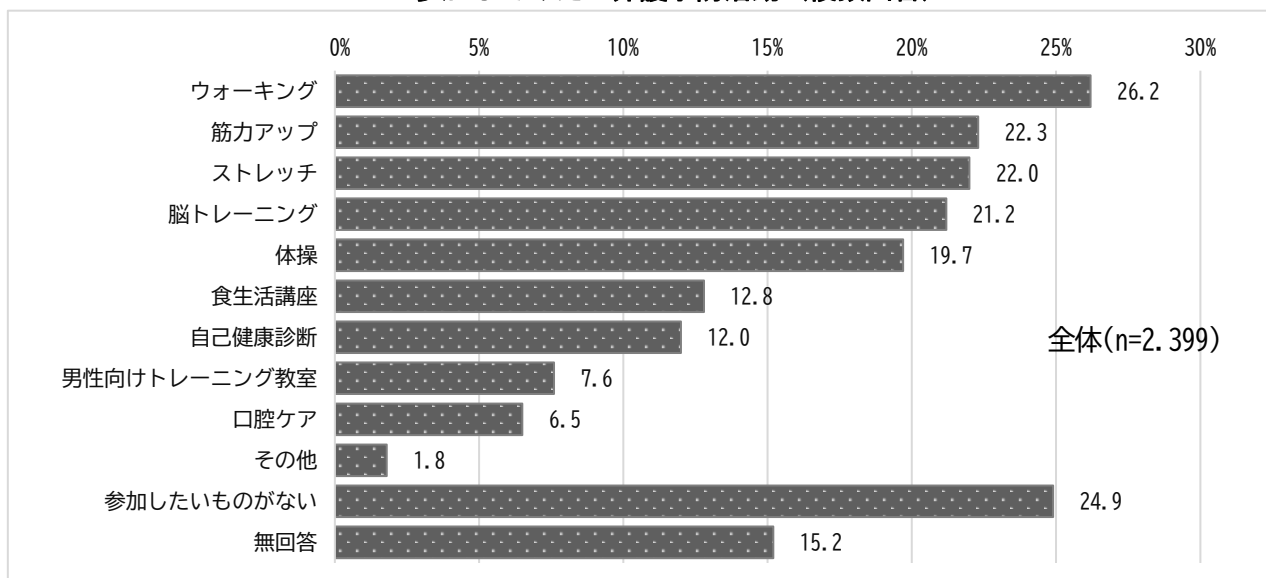
区分	回答者数(人)	体力を維持、向上できる	人と交流する機会を持つことができる	楽しみ、生きがいを持つことができる	介護予防に関する知識を知ることができる	その他	特に感じていることはない	無回答
全体	557	72.9	56.2	38.4	18.3	3.1	4.5	10.4
みどり	67	73.1	58.2	41.8	23.9	3.0	6.0	11.9
同愛	93	74.2	59.1	34.4	19.4	2.2	3.2	10.8
なりひら	81	72.8	55.6	33.3	17.3	2.5	7.4	8.6
こうめ	65	78.5	60.0	41.5	10.8	-	1.5	4.6
むこうじま	67	76.1	50.7	43.3	17.9	4.5	6.0	9.0
うめわか	60	66.7	60.0	38.3	13.3	1.7	1.7	13.3
ぶんか	55	69.1	45.5	38.2	16.4	7.3	5.5	14.5
八広はなみずき	60	68.3	55.0	38.3	30.0	3.3	5.0	11.7

(4) 参加してみたい介護予防活動

参加してみたい介護予防活動は、「ウォーキング」が26.2%で最も多く、次いで、「参加したいものがない」が24.9%、「筋力アップ」が22.3%、「ストレッチ」が22.0%、「脳トレーニング」が21.2%となっている。

地区別に見ると、「参加したいものがない」以外の上記4項目すべてにおいて、みどり地区が全体平均を上回っている（それぞれ29.9%、27.0%、26.6%、25.5%）。

■参加してみたい介護予防活動（複数回答）



■参加してみたい介護予防活動（地区別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	ウォーキング	ストレッチ	筋力アップ	体操	口腔ケア	自己健康診断	食生活講座	脳トレーニング	男性向けトレーニング教室	その他	参加したいものがない
全体	2,399	26.2	22.0	22.3	19.7	6.5	12.0	12.8	21.2	7.6	1.8	24.9
みどり	274	29.9	26.6	27.0	22.3	8.0	12.0	12.8	25.5	9.5	1.5	21.9
同愛	294	25.5	25.2	21.4	20.4	4.4	13.6	11.6	20.7	8.2	0.7	29.9
なりひら	316	27.5	21.5	24.1	20.6	6.3	10.8	13.3	22.5	8.9	2.2	21.5
こうめ	309	26.9	21.4	23.9	20.1	8.1	10.4	11.0	23.9	8.7	1.6	24.6
むこうじま	295	22.7	17.3	18.3	13.6	4.4	13.2	12.2	17.3	5.4	2.7	28.5
うめわか	276	26.1	22.1	19.2	19.2	5.8	11.2	13.4	23.2	6.2	3.3	19.9
ぶんか	294	26.5	23.5	22.8	21.4	8.5	12.9	13.6	17.7	6.5	1.0	21.4
八戸なみずき	300	25.3	19.3	21.3	20.0	6.7	12.0	14.7	18.3	7.7	1.3	30.7

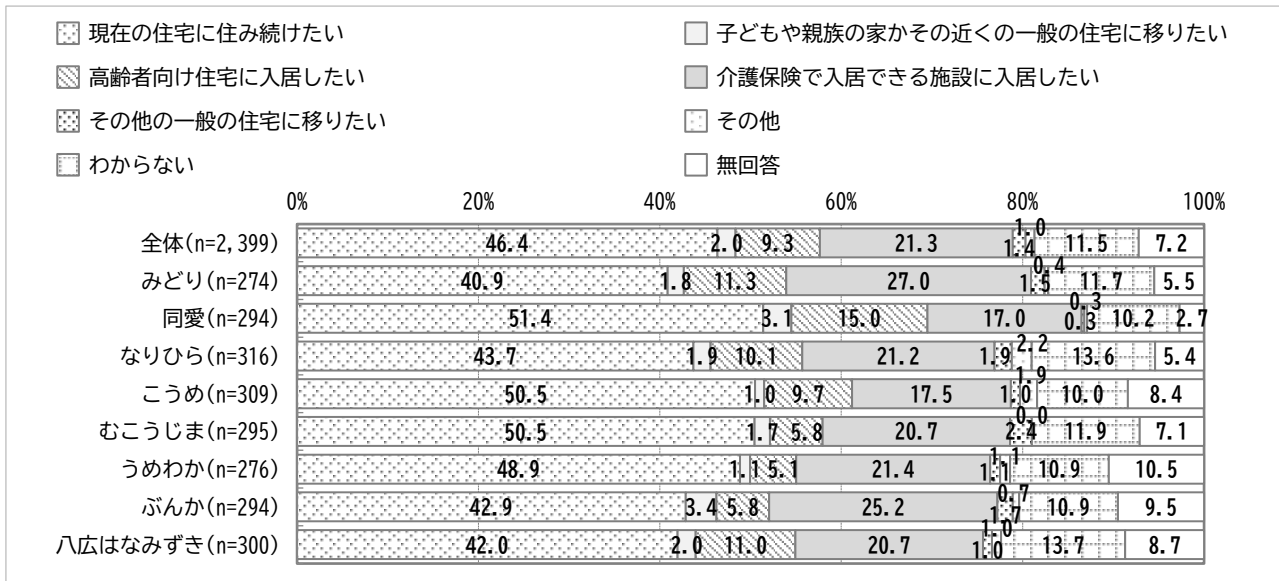
(5) 今後介護が必要になった際の生活場所

今後介護が必要になった際の希望する生活場所は、「わからない」が11.5%を占めている中で、「現在の住宅に住み続けたい」が46.4%で最も多く、「子どもや親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい」(2.0%)、「その他の一般の住宅に移りたい」(1.4%)も含めると、在宅での生活を希望している人が約半数を占めている。これに対し、「介護保険で入居できる施設に入居したい」は21.3%、「高齢者向け住宅に入居したい」は9.3%となっている。

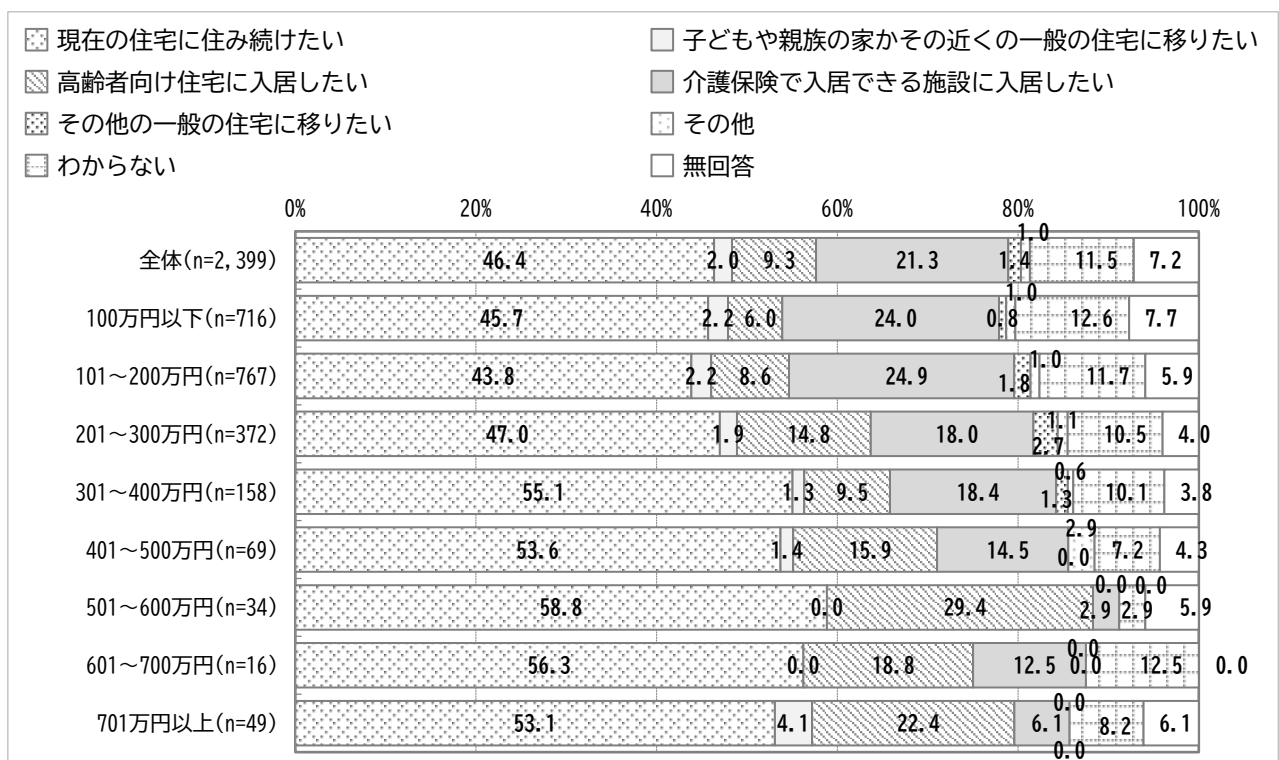
地区別にみると、全体と同様の傾向を示している。

手取り年収別にみると、年収が高くなるにつれて「現在の住宅に住み続けたい」が増加し、「介護保険で入居できる施設に入居したい」が減少している。

■今後介護が必要になった際の生活場所



■今後介護が必要になった際の生活場所（手取り年収別）

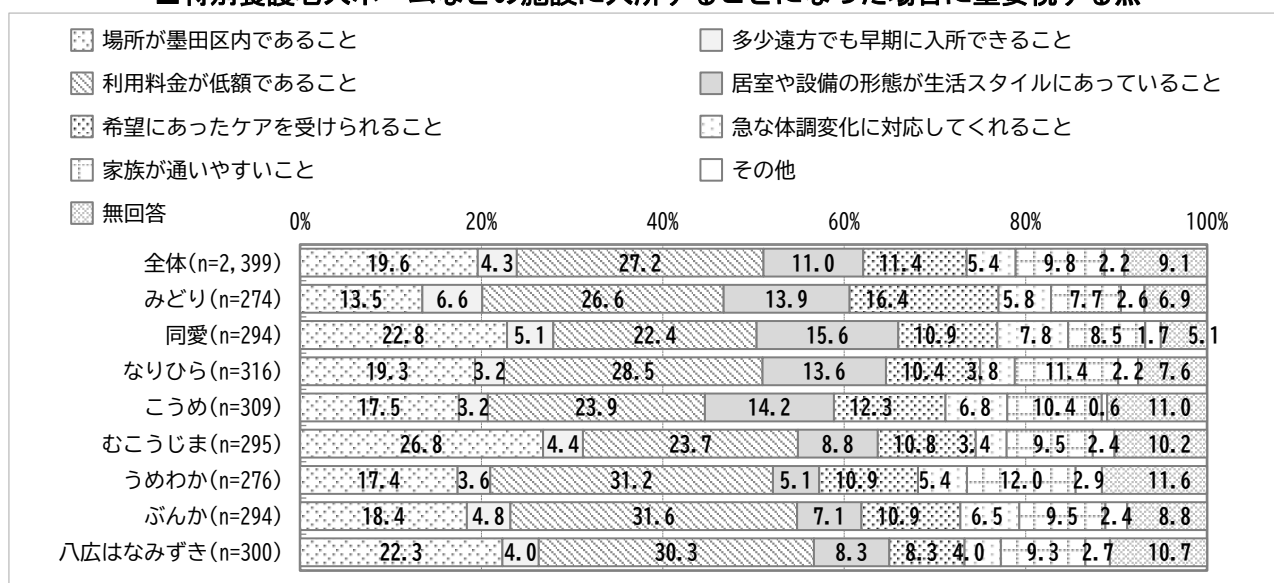


(6) 特別養護老人ホームなどの施設に入所することになった場合に重要視する点

特別養護老人ホームなどの施設に入所することになった場合に重要視する点は、「利用料金が低額であること」が27.2%で最も多く、次いで「場所が墨田区内であること」が19.6%、「希望にあったケアを受けられること」が11.4%、「居室や設備の形態が生活スタイルにあっていること」が11.0%となっている。

地区別にみると、「利用料金が低額であること」では、ぶんか地区(31.6%)、「場所が墨田区内であること」では、むこうじま地区(26.8%)、「希望にあったケアを受けられること」では、みどり地区(16.4%)、「居室や設備の形態が生活スタイルにあっていること」では、同愛地区(15.6%)が最も多い。

■特別養護老人ホームなどの施設に入所することになった場合に重要視する点



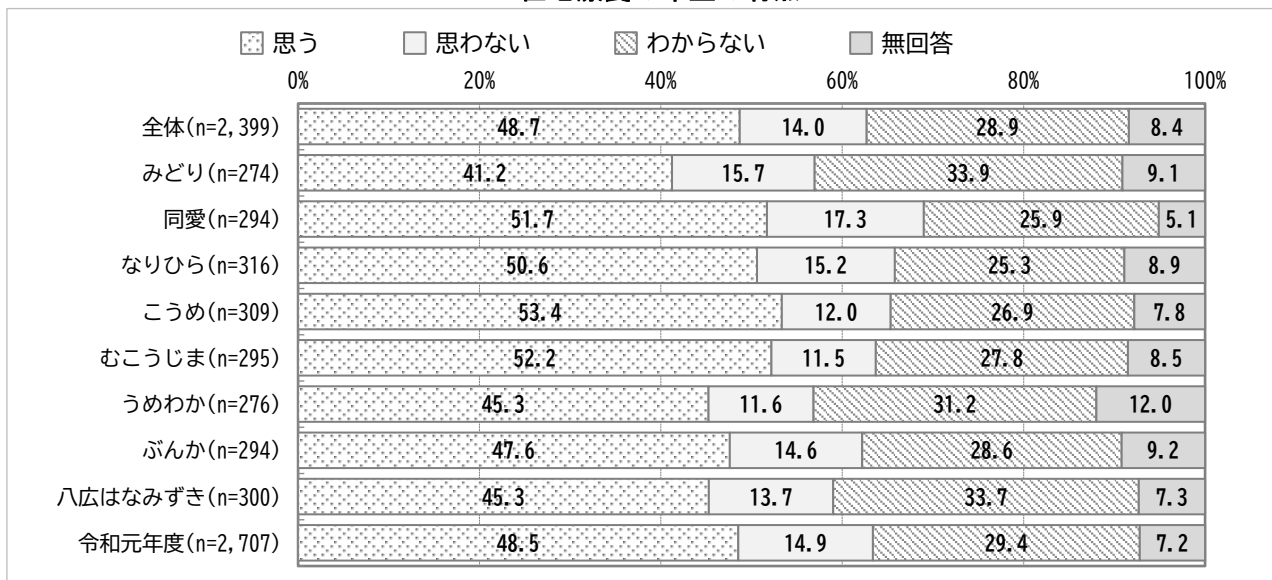
(7) 在宅療養について

①在宅療養の希望の有無

長期の療養が必要になった場合の在宅療養の希望の有無は、「思う」が48.7%、「思わない」が14.0%、「わからない」が28.9%となっている。令和元年度と同様の傾向を示している。

地区別にみると、「思う」では、こうめ地区(53.4%)が最も多く、みどり地区(41.2%)が最も少なく、12.2ポイントの差がみられた。

■在宅療養の希望の有無



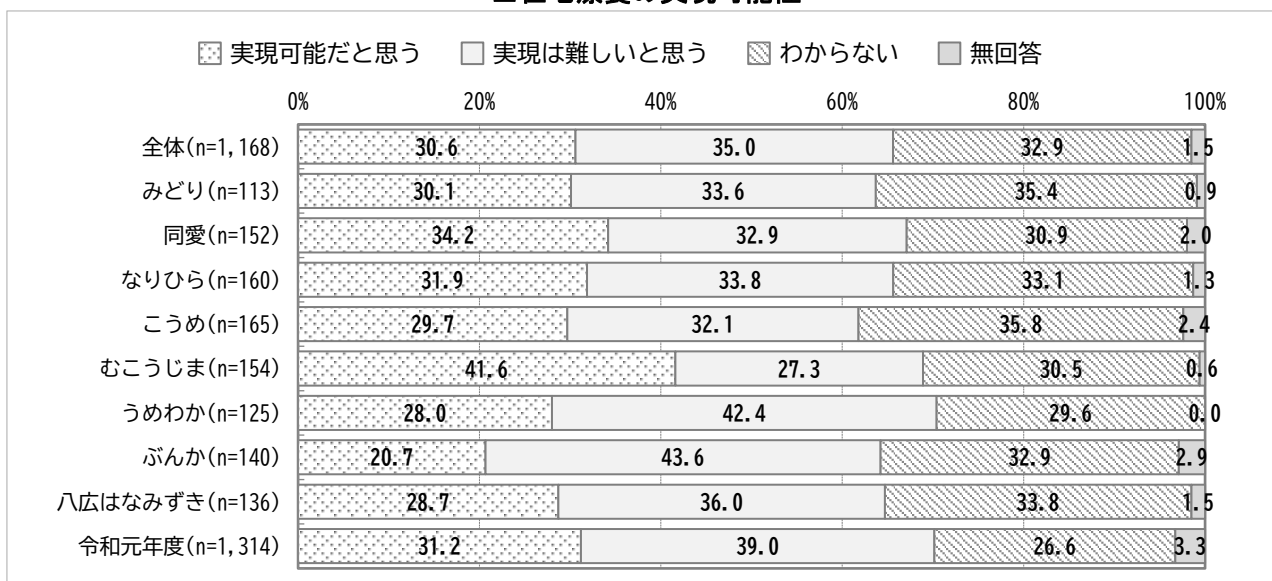
②在宅療養の実現可能性と実現が難しいと思う理由

ア. 在宅療養の実現可能性

理想として自宅で療養を続けたいと「思う」と回答した人の自宅での療養の実現性は、「実現可能だと思う」が30.6%、「実現は難しいと思う」が35.0%、「わからない」が32.9%となっている。令和元年度と比較して「実現は難しいと思う」が4.0ポイント減少した。

地区別にみると、「実現可能だと思う」では、むこうじま地区(41.6%)が最も多く、ぶんか地区(20.7%)が最も少なく、20.9ポイントの差がみられた。

■在宅療養の実現可能性

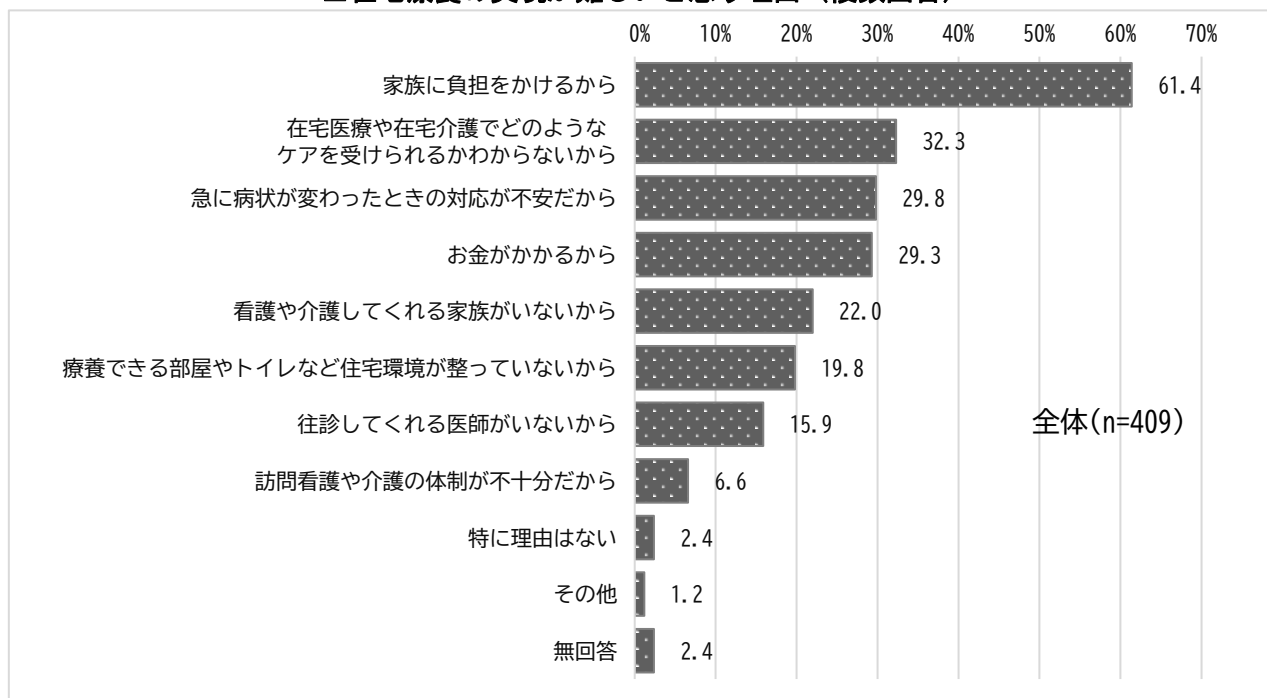


イ. 在宅療養の実現が難しいと思う理由

在宅療養の「実現は難しいと思う」と回答した人の実現が難しい理由は、「家族に負担をかけるから」が61.4%で最も多く、次いで「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから」が32.3%、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が29.8%、「お金がかかるから」が29.3%、「看護や介護してくれる家族がないから」が22.0%となっている。

地区別にみると、「家族に負担をかけるから」では、同愛地区（70.0%）、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから」および「急に病状が変わったときの対応が不安だから」では、ぶんか地区（それぞれ39.3%、37.7%）、「お金がかかるから」では、八広はなみずき地区（42.9%）、「看護や介護してくれる家族がないから」では、こうめ地区（28.3%）が最も多い。

■在宅療養の実現が難しいと思う理由（複数回答）



■在宅療養の実現が難しいと思う理由（地区別）

(単位：%)

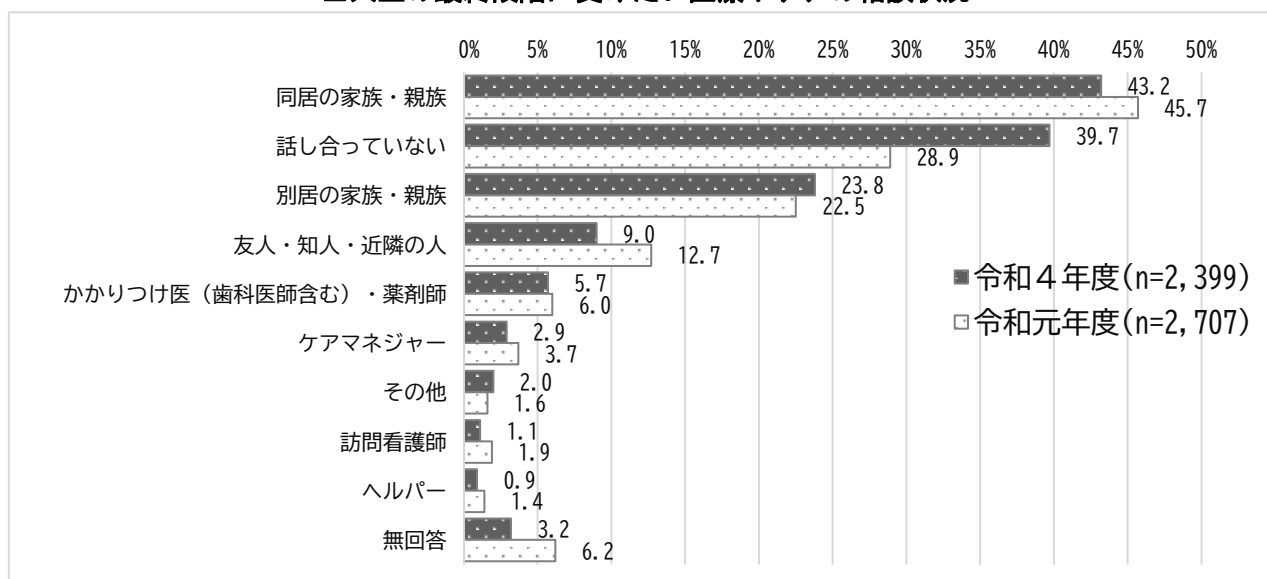
区分	回答者数 (人)	在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから	急に病状が変わったときの対応が不安だから	往診してくれる医師がないから	訪問看護や介護の体制が不十分だから	家族に負担をかけるから	看護や介護してくれる家族がないから	住宅環境が整っていないから	お金がかかるから	その他	特に理由はない	無回答
全体	409	32.3	29.8	15.9	6.6	61.4	22.0	19.8	29.3	1.2	2.4	2.4
みどり	38	26.3	26.3	13.2	10.5	68.4	21.1	15.8	31.6	-	2.6	2.6
同愛	50	34.0	32.0	22.0	8.0	70.0	16.0	20.0	18.0	-	6.0	-
なりひら	54	33.3	29.6	22.2	3.7	66.7	24.1	18.5	25.9	-	1.9	-
こうめ	53	30.2	32.1	18.9	9.4	54.7	28.3	17.0	22.6	-	3.8	3.8
むこうじま	42	26.2	26.2	16.7	9.5	64.3	23.8	19.0	23.8	-	4.8	2.4
うめわか	53	37.7	22.6	9.4	5.7	50.9	20.8	18.9	32.1	3.8	1.9	1.9
ぶんか	61	39.3	37.7	9.8	4.9	63.9	19.7	21.3	36.1	3.3	-	4.9
八広はなみずき	49	24.5	24.5	16.3	4.1	53.1	26.5	30.6	42.9	2.0	-	4.1

(8) 人生の最終段階に受けたい医療やケアの相談状況

人生の最終段階に受けたい医療やケアの相談状況は、「同居の家族・親族」が43.2%で最も多く、「別居の家族・親族」(23.8%)と合わせた“家族・親族”は67.0%となっている。次いで「話し合っていない」が39.7%、「友人・知人・近隣の人」が9.0%、「かかりつけ医(歯科医師含む)・薬剤師」が5.7%となっている。令和元年度と比較して「同居の家族・親族」が2.5ポイント減少した一方、「話し合っていない」が10.8ポイント、「別居の家族・親族」が1.3ポイント増加した。

地区別にみると、“家族・親族”では、なりひら地区(72.8%)が、「話し合っていない」では、八広はなみずき地区(46.3%)が最も多い。

■人生の最終段階に受けたい医療やケアの相談状況



■人生の最終段階に受けたい医療やケアの相談状況(地区別)

(単位:%)

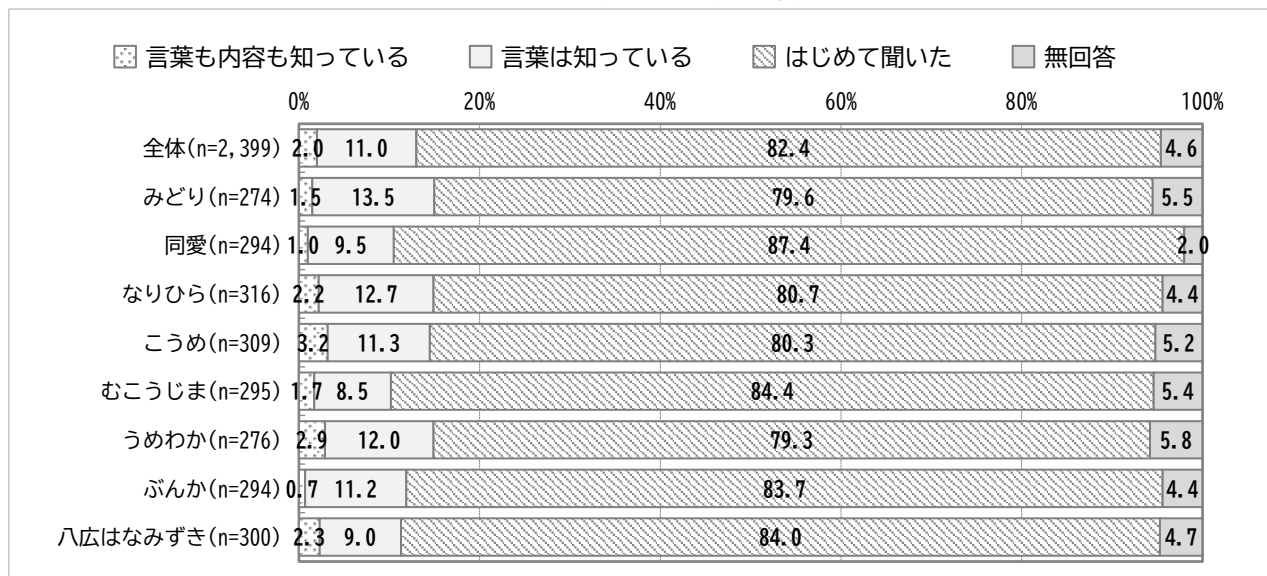
区分	回答者数(人)	同居の家族・親族	別居の家族・親族	友人・知人・近隣の人	かかりつけ医(歯科医師含む)・薬剤師	訪問看護師	ケアマネジャー	ヘルパー	話し合っていない	その他	無回答
全体	2,399	43.2	23.8	9.0	5.7	1.1	2.9	0.9	39.7	2.0	3.2
みどり	274	40.5	23.4	9.9	4.7	1.1	2.6	0.7	39.4	2.6	4.7
同愛	294	47.3	22.8	11.2	6.5	1.7	3.4	0.7	37.4	3.1	2.0
なりひら	316	49.1	23.7	7.3	6.0	0.9	2.2	1.6	33.5	1.3	3.2
こうめ	309	43.0	22.0	8.1	6.1	1.0	3.2	0.6	39.5	3.2	3.2
むこうじま	295	44.7	25.4	9.2	5.8	0.7	2.7	1.4	39.0	2.7	2.7
うめわか	276	39.5	23.6	8.3	6.2	1.8	3.6	1.8	43.8	1.4	4.7
ぶんか	294	40.8	26.2	9.9	4.1	0.7	2.4	0.3	41.2	2.4	2.7
八広はなみずき	300	38.7	22.7	9.0	6.7	1.0	3.0	-	46.3	-	2.7

(9) 人生会議ACPの認知度

人生会議「アドバンス・ケア・プランニング (ACP)」について、「はじめて聞いた」が 82.4%、「言葉は知っている」が 11.0%、「言葉も内容も知っている」が 2.0%となっている。

地区別にみると、全体と同様の傾向を示している。

■ 人生会議 ACP の認知度



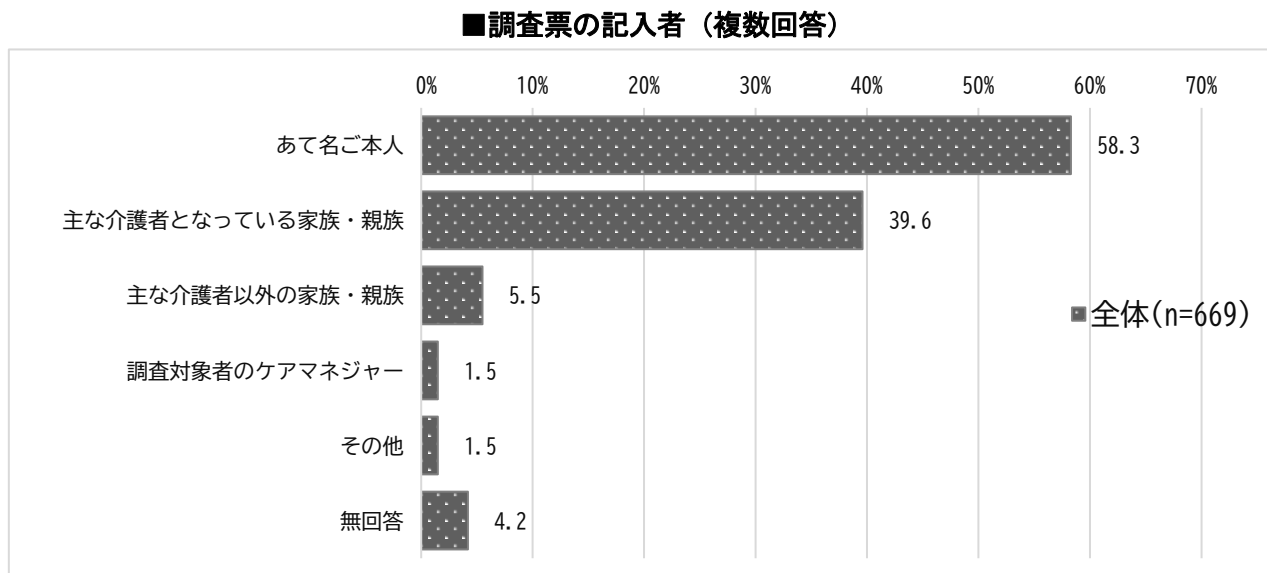
第3章

在宅介護実態調査

1. 基本属性

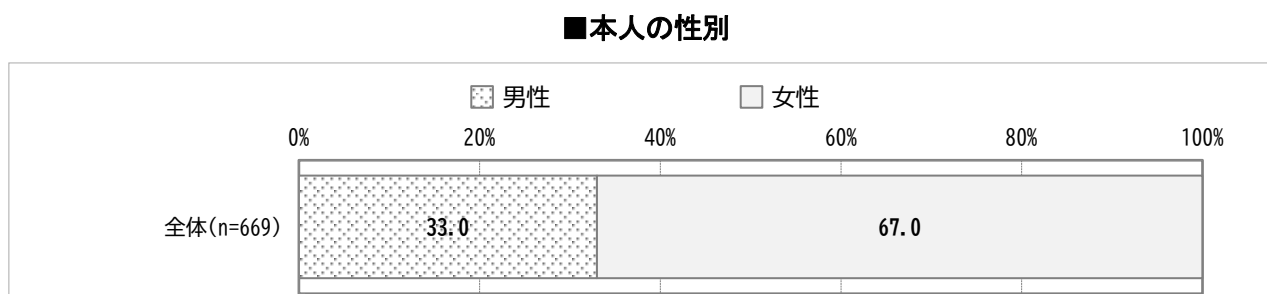
(1) 調査票の記入者

調査票の記入者は、「あて名ご本人」が58.3%で最も多く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」が39.6%、「主な介護者以外の家族・親族」が5.5%となっている。



(2) 本人の性別

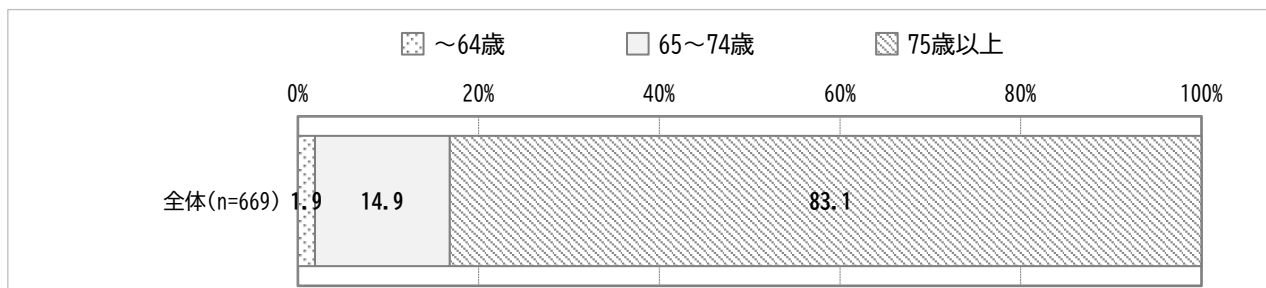
本人の性別は、「男性」が33.0%、「女性」が67.0%となっている。



(3) 本人の年齢

本人の年齢は、「～64歳」が1.9%、「65～74歳」が14.9%、「75歳以上」が83.1%となっている。

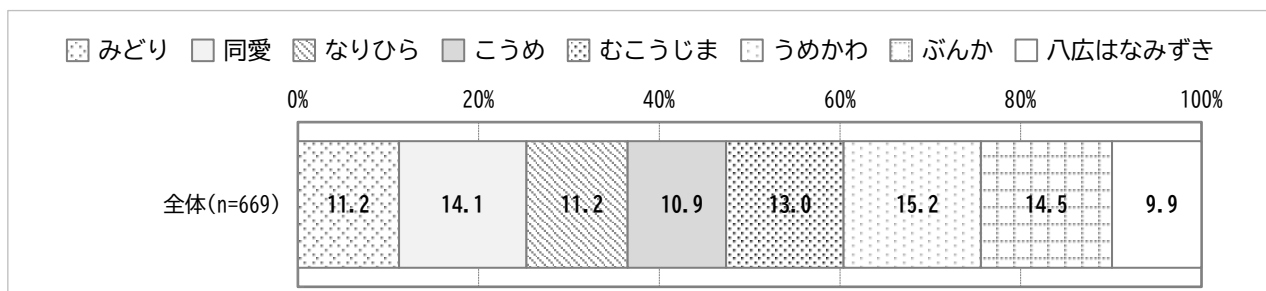
■本人の年齢



(4) 本人の居住地区

本人の居住地区は、「みどり」地区が11.2%、「同愛」地区が14.1%、「なりひら」地区が11.2%、「こうめ」地区が10.9%、「むこうじま」地区が13.0%、「うめわか」地区が15.2%、「ぶんか」地区が14.5%、「八広はなみずき」地区が9.9%となっている。

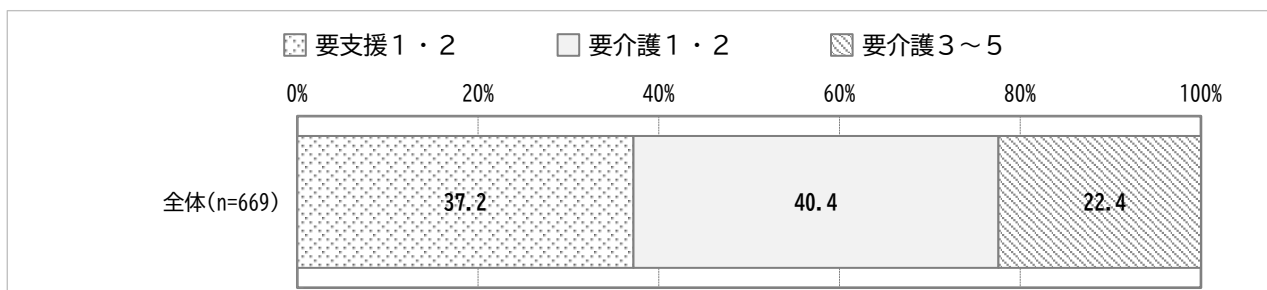
■本人の居住地区



(5) 要支援・要介護認定の状況

要支援・要介護認定の状況は、要支援1・2が37.2%、要介護1・2が40.4%、要介護3～5が22.4%となっている。

■要支援・要介護認定の状況

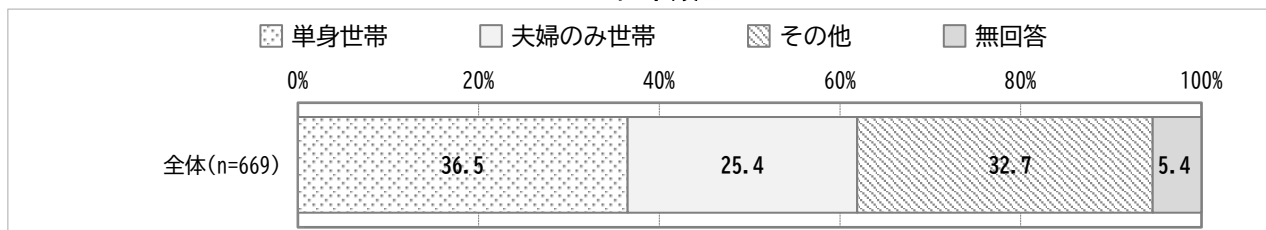


(6) 世帯類型 (A票・問1)

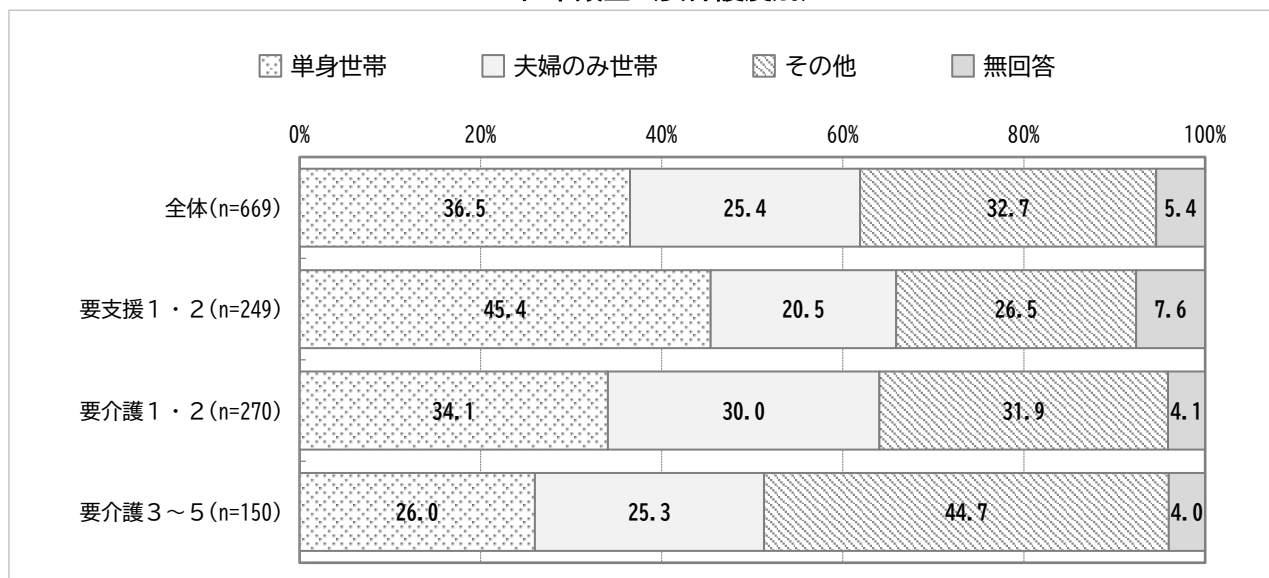
世帯類型は、「単身世帯」が36.5%で最も多く、次いで「その他」が32.7%、「夫婦のみ世帯」が25.4%となっている。

要介護度別にみると、全体と比べて要支援1・2では「単身世帯」(45.4%)が多く、要介護3～5では「その他」(44.7%)が多い。

■世帯類型



■世帯類型 (要介護度別)



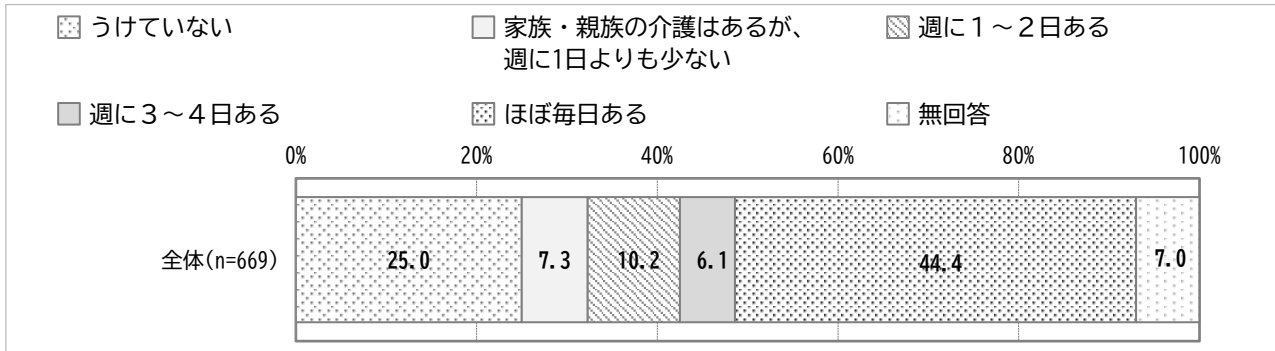
2. 本人の介護等の状況について

(1) 受けている介護の頻度（A票・問2）

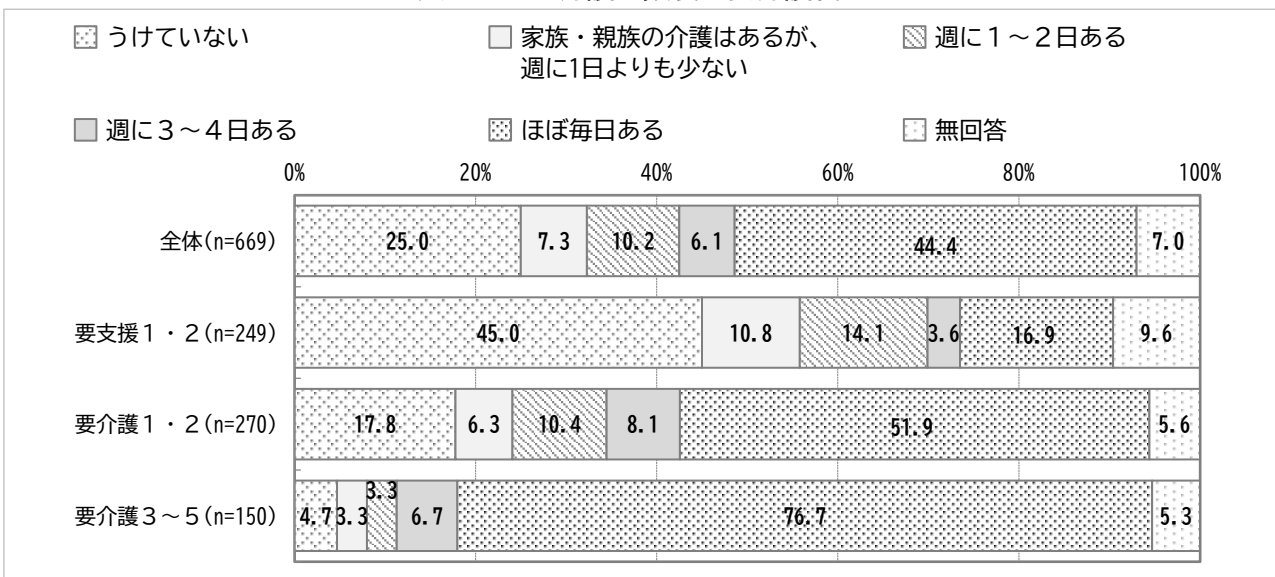
家族や親族から受けている介護の頻度は、「ほぼ毎日ある」が44.4%で最も多く、一方で「うけていない」が25.0%となっている。

要介護度別にみると、全体と比べて要支援1・2では「うけていない」（45.0%）が多いのに対し、要介護1・2、要介護3～5では「ほぼ毎日ある」（それぞれ51.9%、76.7%）が多い。

■受けている介護の頻度



■受けている介護の頻度（要介護度別）



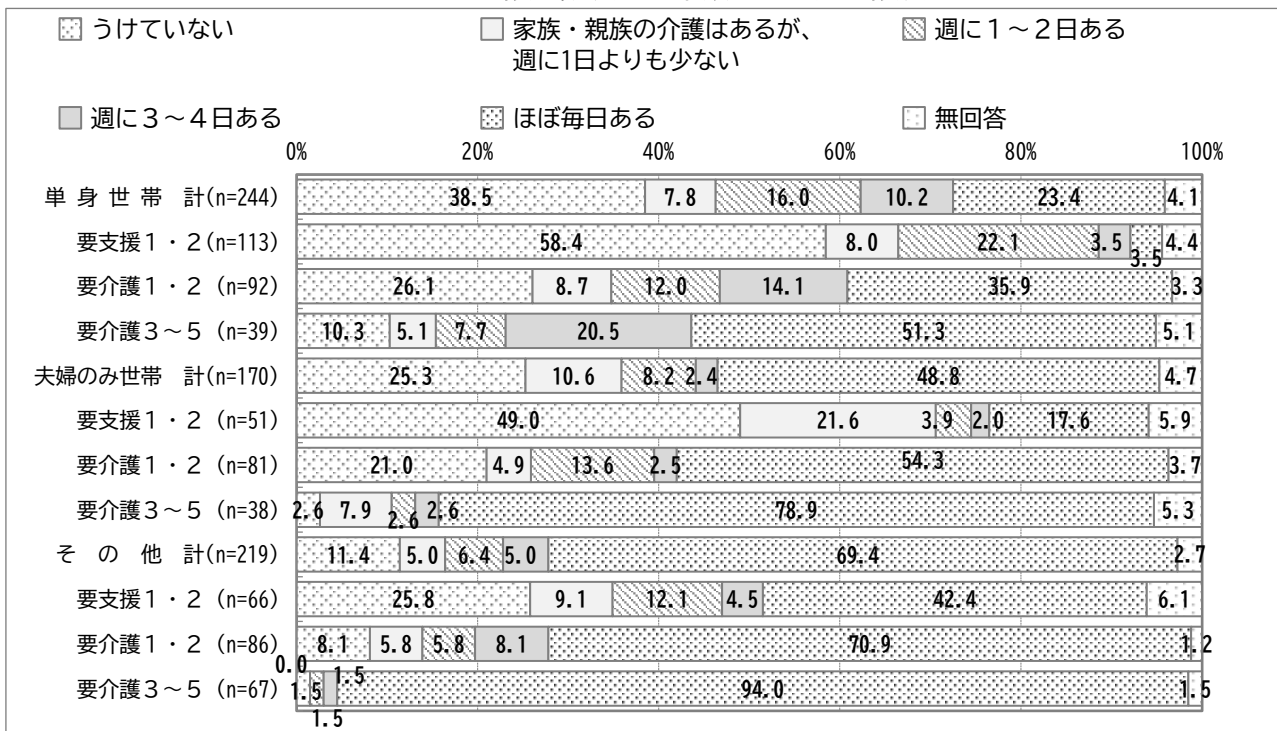
【世帯類型別・要介護度別】

世帯類型別・要介護度別にみると、単身世帯では、要支援1・2は「うけていない」(58.4%)、「週に1～2日ある」(22.1%)が多く、要介護1・2は「ほぼ毎日ある」(35.9%)、「うけていない」(26.1%)が、要介護3～5は「ほぼ毎日ある」(51.3%)、「週に3～4日ある」(20.5%)がそれぞれ多い。

また、夫婦のみ世帯では、要支援1・2は「うけていない」(49.0%)、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」(21.6%)が多く、要介護1・2は「ほぼ毎日ある」(54.3%)、「うけていない」(21.0%)が、要介護3～5は「ほぼ毎日ある」(78.9%)が、それぞれ多い。

その他世帯では、要支援1・2は「ほぼ毎日ある」(42.4%)、「うけていない」(25.8%)が多く、要介護1・2、要介護3～5は「ほぼ毎日ある」(それぞれ70.9%、94.0%)が多い。

■受けている介護の頻度（世帯類型別・要介護度別）



(2) 主な介護者について

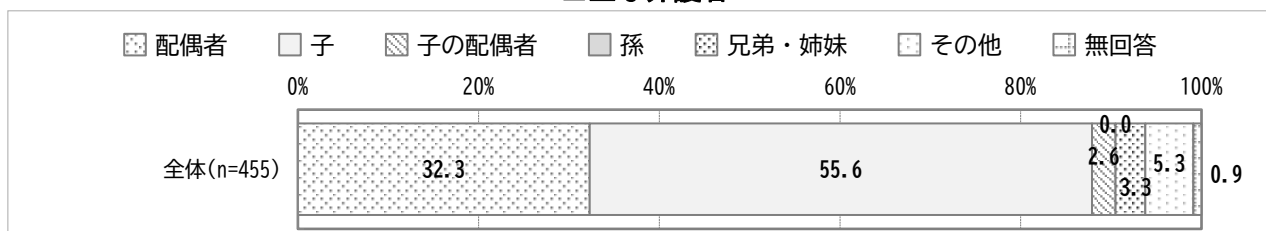
①主な介護者（A票・問3）

前問で介護を受けていると回答した人の主な介護者は、「子」が55.6%で最も多く、次いで「配偶者」が32.3%となっている。

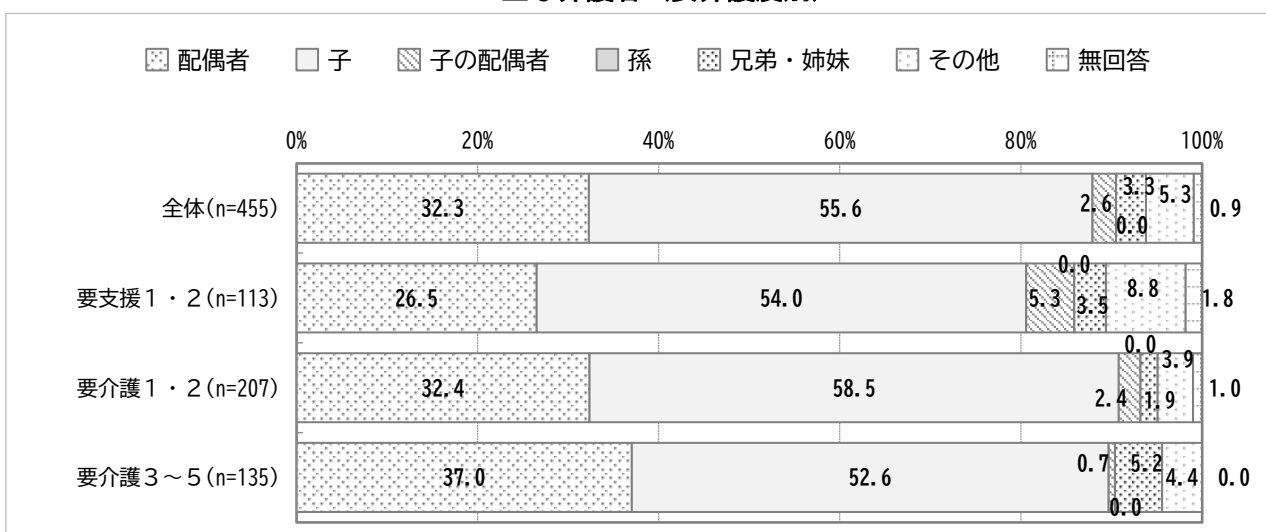
要介護度別にみると、全体と比べて要介護3～5では「配偶者」（37.0%）が多い。

世帯類型別にみると、全体と比べて単身世帯では「子」（75.7%）が多く、夫婦のみ世帯では「配偶者」（84.0%）、その他では「子」（67.0%）がそれぞれ多い。

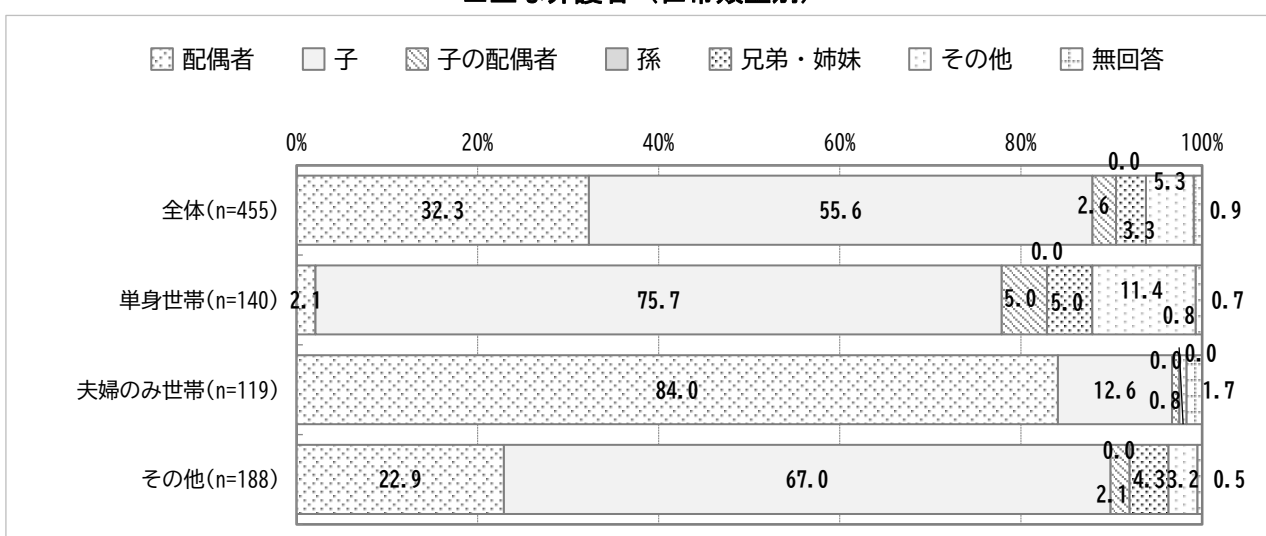
■主な介護者



■主な介護者（要介護度別）



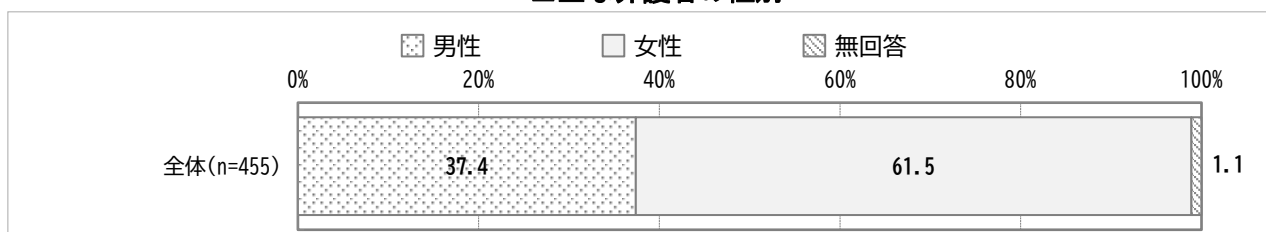
■主な介護者（世帯類型別）



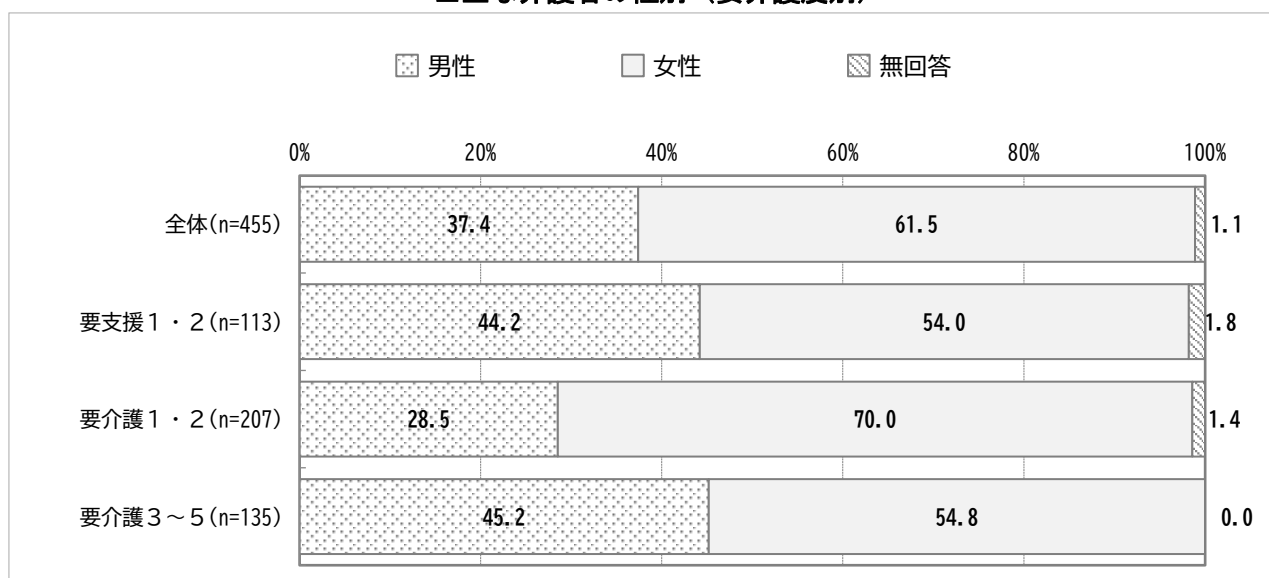
②主な介護者の性別（A票・問4）

主な介護者の性別は、「男性」が37.4%、「女性」が61.5%となっている。
要介護度別にみると、全体と比べて要介護1・2では「女性」（70.0%）が多い。

■主な介護者の性別



■主な介護者の性別（要介護度別）



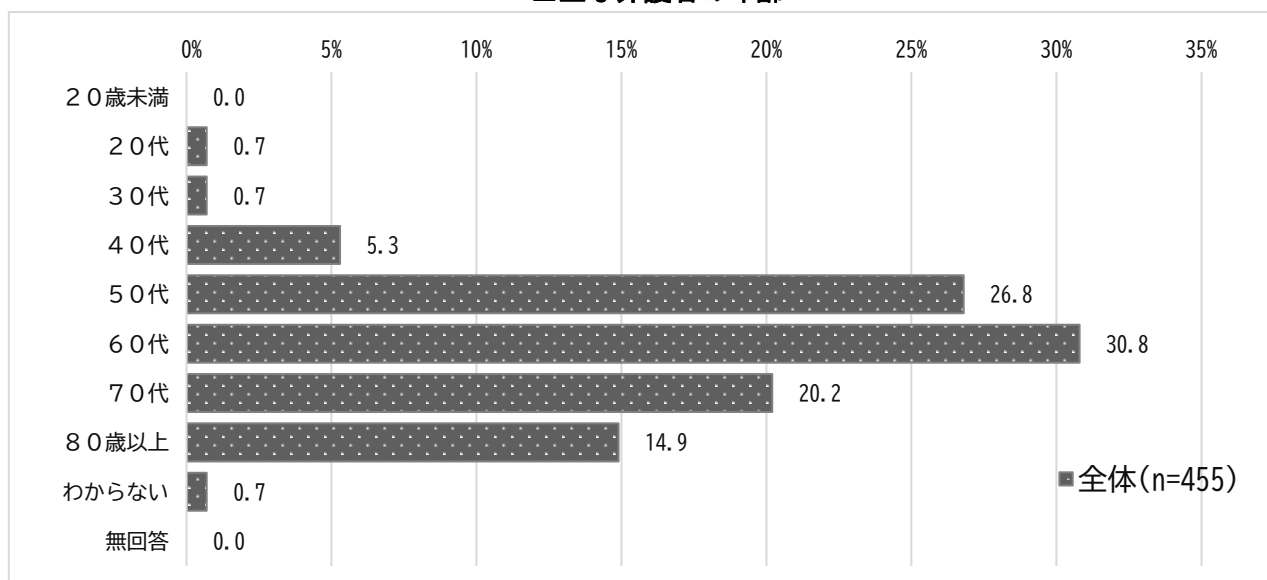
③主な介護者の年齢（A票・問5）

主な介護者の年齢は、「60代」が30.8%で最も多く、「50代」（26.8%）と回答した人も含めると、50～60代が約6割を占めている。次いで「70代」が20.2%、「80歳以上」が14.9%、「40代」が5.3%となっている。

要介護度別にみると、要支援1・2では「50代」（31.0%）、「60代」（28.3%）が多く、要介護1・2では「50代」（30.9%）、「60代」（29.0%）、要介護3～5では「60代」（35.6%）、「70代」（31.9%）が多い。

本人の年齢別にみると、65～74歳では「70代」（53.4%）、「60代」（25.9%）が多く、75歳以上では「60代」（31.7%）、「50代」（30.4%）が多い。

■主な介護者の年齢



■主な介護者の年齢（要介護度別）

(単位：%)

区分	回答者数 (人)	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	わからない	無回答
全体	455	-	0.7	0.7	5.3	26.8	30.8	20.2	14.9	0.7	-
要支援1・2	113	-	-	2.7	10.6	31.0	28.3	12.4	15.0	-	-
要介護1・2	207	-	1.4	-	3.9	30.9	29.0	16.9	16.4	1.4	-
要介護3～5	135	-	-	-	3.0	17.0	35.6	31.9	12.6	-	-

■主な介護者の年齢（本人の年齢別）

(単位：%)

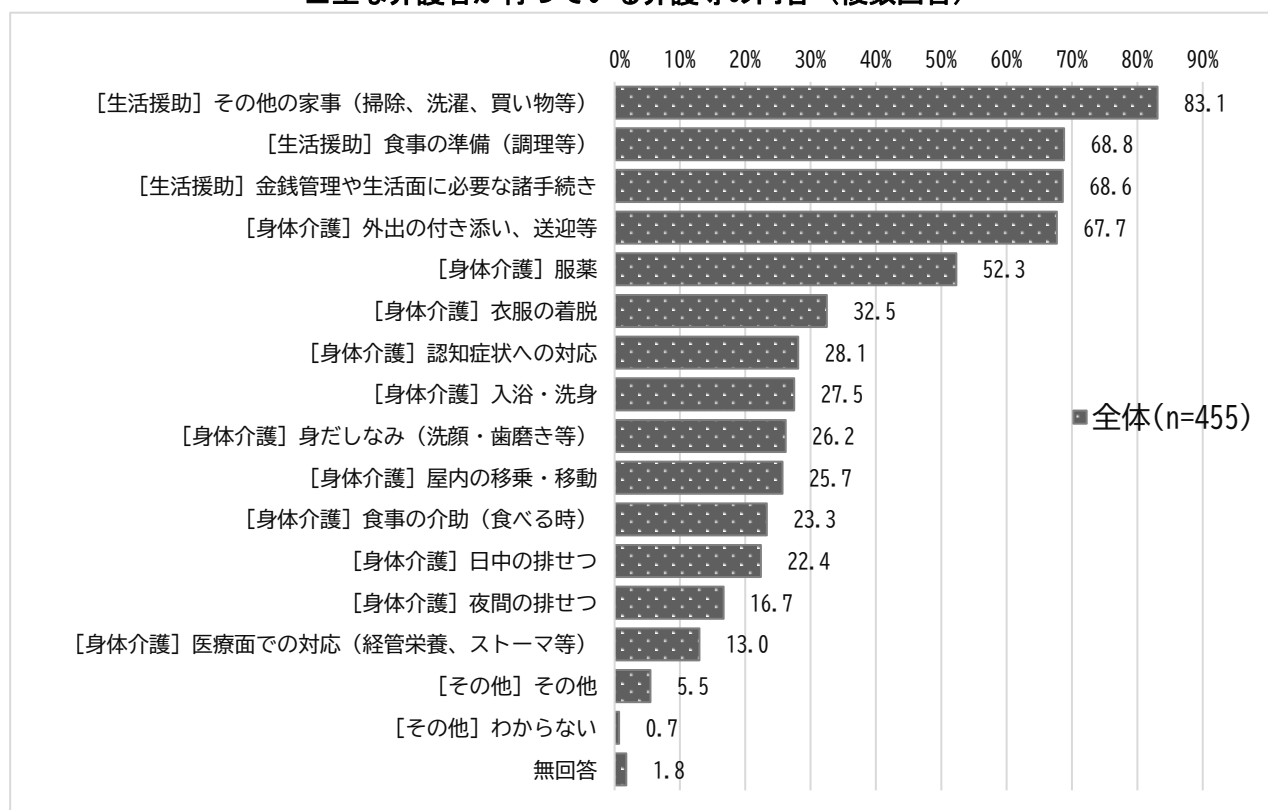
区分	回答者数 (人)	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	わからない	無回答
全体	455	-	0.7	0.7	5.3	26.8	30.8	20.2	14.9	0.7	-
65歳未満	12	-	25.0	-	8.3	16.7	25.0	8.3	8.3	8.3	-
65～74歳	58	-	-	1.7	12.1	5.2	25.9	53.4	-	1.7	-
75歳以上	385	-	-	0.5	4.2	30.4	31.7	15.6	17.4	0.3	-

④主な介護者が行っている介護等の内容（A票・問6）

主な介護者が行っている介護等の内容は、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が83.1%で最も多く、次いで「食事の準備(調理等)」が68.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が68.6%、「外出の付き添い、送迎等」が67.7%、「服薬」が52.3%となっている。

要介護度別にみると、要支援1・2、要介護1・2では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(それぞれ70.8%、84.5%)、「外出の付き添い、送迎等」(それぞれ54.0%、76.3%)が多く、要介護3～5では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(91.1%)「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(87.4%)が多い。

■主な介護者が行っている介護等の内容（複数回答）



■主な介護者が行っている介護等の内容（要介護度別）

(単位:%)

	回答者数 (人)	日中の排せ	夜間の排せ	食事の介助 (食べる時)	入浴・洗身	身だしなみ (洗顔・歯磨き等)	衣服の着脱	屋内の移動	外出の付き添い、送迎等
全体	455	22.4	16.7	23.3	27.5	26.2	32.5	25.7	67.7
要支援1・2	113	0.9	-	6.2	11.5	2.7	6.2	9.7	54.0
要介護1・2	207	12.1	9.2	13.0	30.0	19.3	24.2	18.4	76.3
要介護3～5	135	56.3	42.2	53.3	37.0	56.3	67.4	50.4	65.9
	服薬	認知症状への対応	医療面での対応 (経管栄養、ストーマ等)	食事の準備 (調理等)	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等)	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	わからない	無回答
全体	52.3	28.1	13.0	68.8	83.1	68.6	5.5	0.7	1.8
要支援1・2	11.5	2.7	8.0	44.2	70.8	35.4	4.4	1.8	4.4
要介護1・2	53.1	27.5	12.6	71.5	84.5	74.4	4.8	0.5	0.5
要介護3～5	85.2	50.4	17.8	85.2	91.1	87.4	7.4	-	1.5

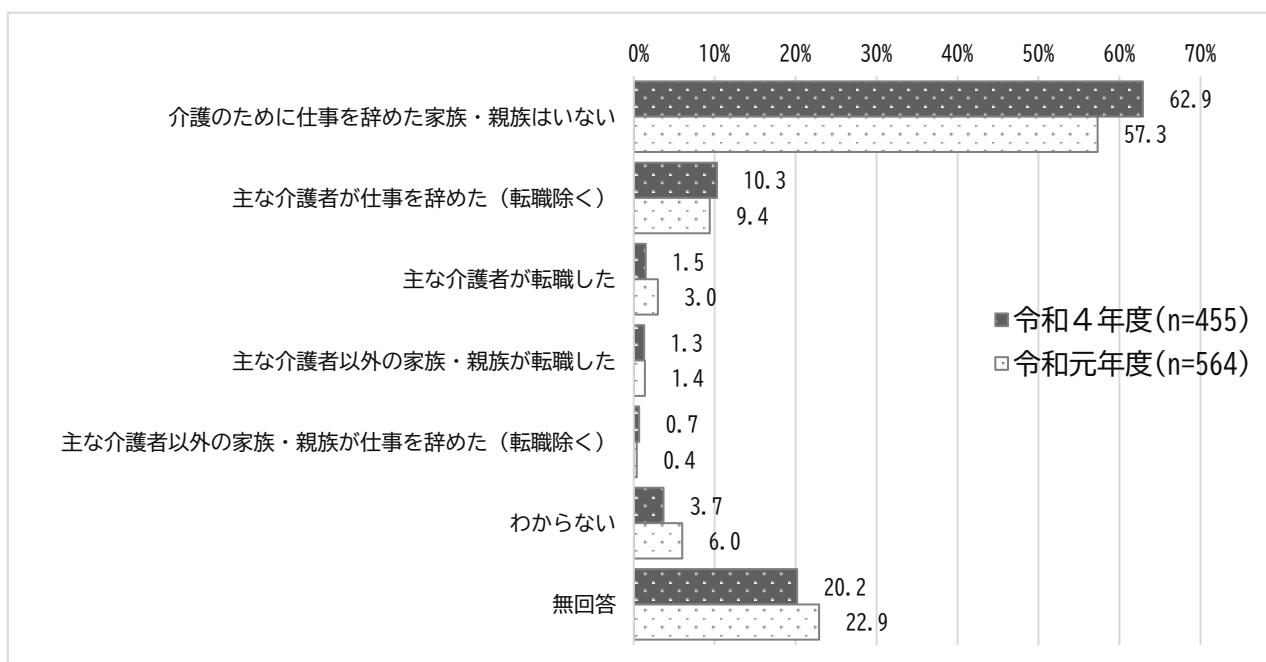
⑤介護を主な理由とした離職状況（A票・問7）

過去1年間の、介護を主な理由とした離職状況は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が62.9%で最も多い。さらに、離職状況の内訳をみると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が10.3%、「主な介護者が転職した」が1.5%、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」が1.3%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」が0.7%となっている。

令和元年度調査と比較すると大きな差異はないものの、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が5.6ポイント増加している。

要介護度別にみると、全体と比べて要介護3～5では「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（16.3%）が多い。

■介護を主な理由とした離職状況（複数回答）



■介護を主な理由とした離職状況（要介護度別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない	無回答
全体	455	10.3	0.7	1.5	1.3	62.9	3.7	20.2
要支援1・2	113	5.3	0.9	1.8	-	55.8	2.7	35.4
要介護1・2	207	9.2	-	1.4	1.4	72.0	2.9	13.5
要介護3～5	135	16.3	1.5	1.5	2.2	54.8	5.9	17.8

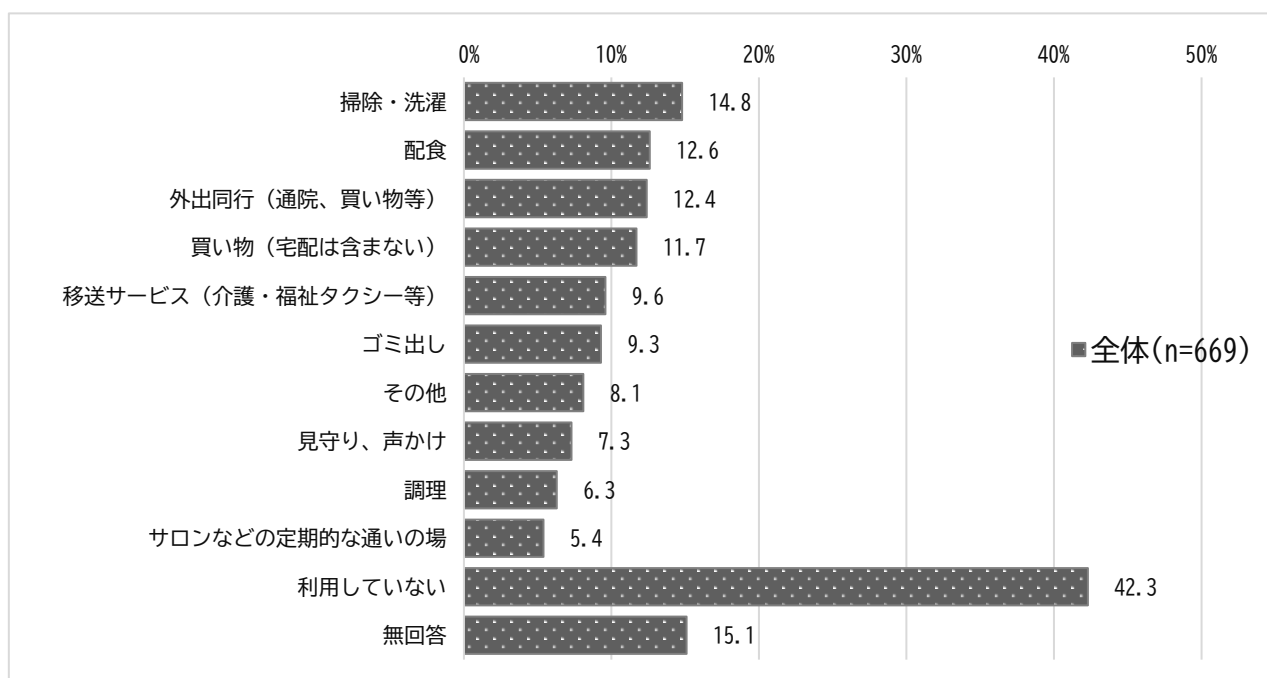
(3) サービスの利用状況等について

①介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（A票・問8）

介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況は、「利用していない」が42.3%となっている。利用しているサービスをみると、「掃除・洗濯」が14.8%で最も多く、次いで「配食」が12.6%、「外出同行（通院、買い物等）」が12.4%、「買い物（宅配は含まない）」が11.7%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が9.6%、「ゴミ出し」が9.3%となっている。

要介護度別にみると、要支援1・2では「掃除・洗濯」（17.3%）が多く、要介護1・2、要介護3～5では「配食」（それぞれ15.6%、16.0%）が多い。

■介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



■介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（要介護度別）

(単位:%)

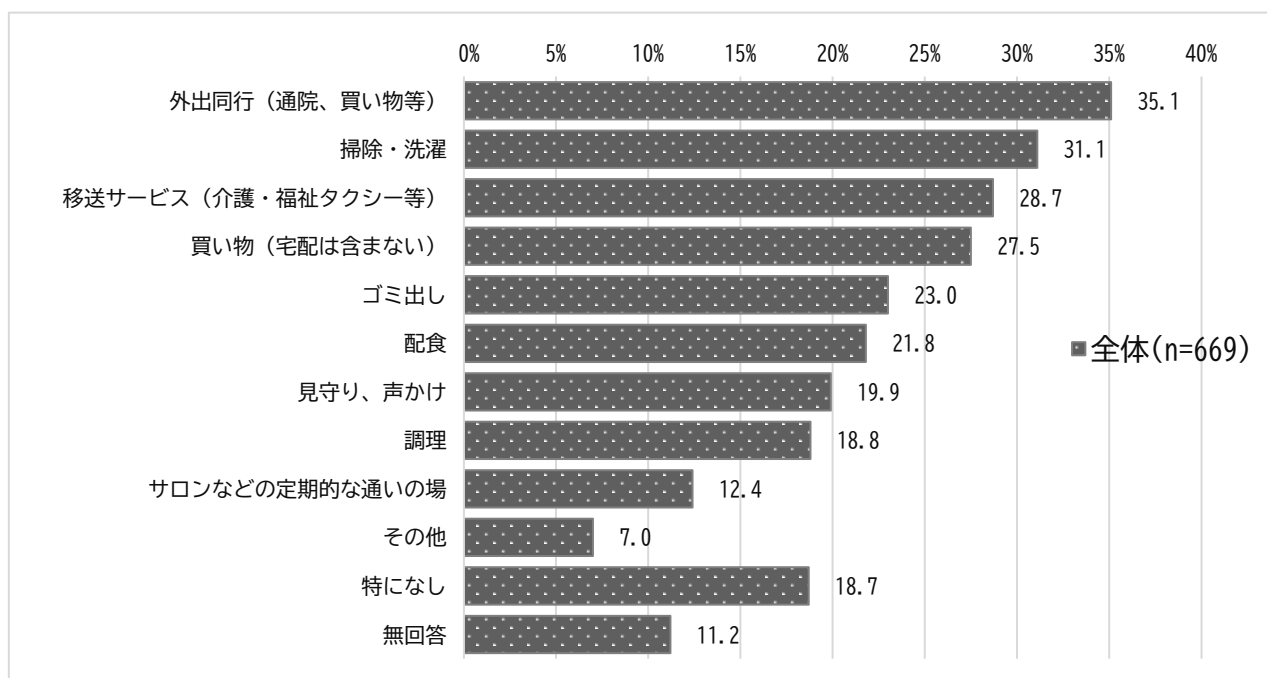
区分	回答者数 (人)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物等）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
全体	669	12.6	6.3	14.8	11.7	9.3	12.4	9.6	7.3	5.4	8.1	42.3	15.1
要支援1・2	249	7.2	4.8	17.3	10.0	7.6	12.9	5.6	8.8	4.8	8.0	36.1	19.7
要介護1・2	270	15.6	6.7	12.6	14.1	9.6	13.0	11.9	6.7	4.8	7.0	46.7	12.6
要介護3～5	150	16.0	8.0	14.7	10.0	11.3	10.7	12.0	6.0	7.3	10.0	44.7	12.0

②今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（A票・問9）

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「外出同行（通院、買い物等）」が35.1%で最も多く、次いで「掃除・洗濯」が31.1%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」28.7%、「買い物（宅配は含まない）」が27.5%、「ゴミ出し」が23.0%となっている。

要介護度別にみると、要支援1・2、要介護1・2では「外出同行（通院、買い物等）」（それぞれ33.3%、37.8%）、「掃除・洗濯」（それぞれ32.5%、30.4%）が多く、要介護3～5では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（36.7%）、「外出同行（通院、買い物等）」（33.3%）が多い。

■今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）



■今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（要介護度別）

(単位:%)

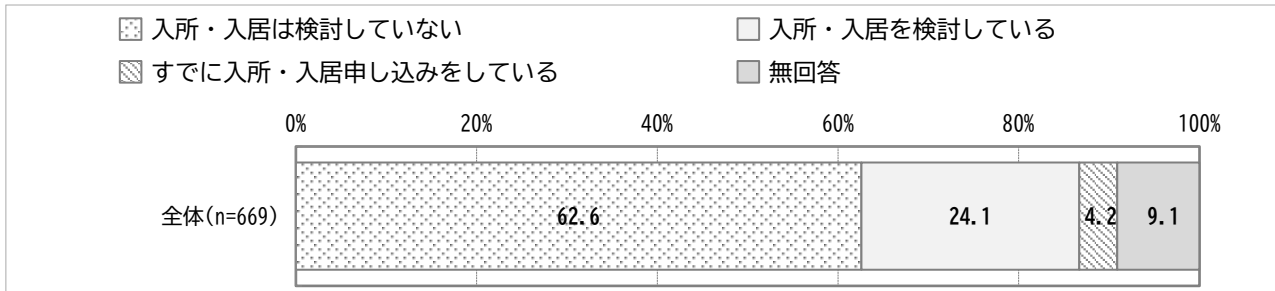
区分	回答者数 (人)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買い物等)	移送サービス (介護・福祉タクシー)	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
全体	669	21.8	18.8	31.1	27.5	23.0	35.1	28.7	19.9	12.4	7.0	18.7	11.2
要支援1・2	249	17.7	14.9	32.5	24.1	20.5	33.3	22.5	16.5	10.8	6.4	18.1	11.2
要介護1・2	270	22.6	20.0	30.4	31.9	24.4	37.8	30.0	21.1	12.2	6.3	21.1	10.0
要介護3～5	150	27.3	23.3	30.0	25.3	24.7	33.3	36.7	23.3	15.3	9.3	15.3	13.3

③施設等への入所・入居の検討状況（A票・問10）

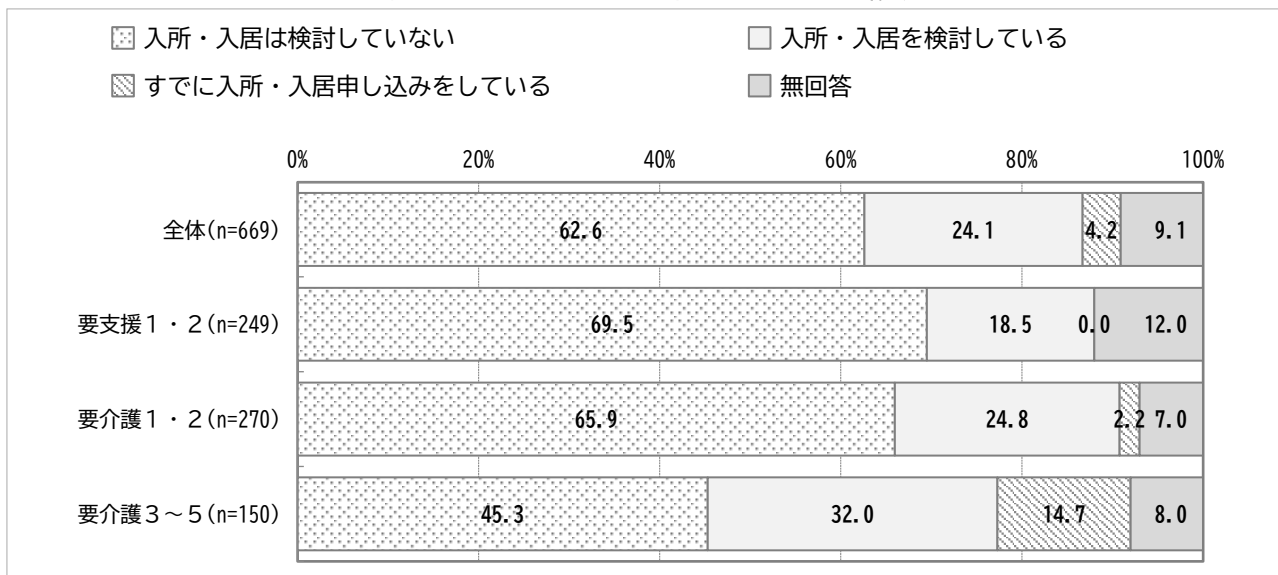
施設等への入所・入居の検討状況は、「入所・入居は検討していない」が62.6%、「入所・入居を検討している」が24.1%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が4.2%となっている。

要介護度別にみると、全体と比べて要介護3～5では「すでに入所・入居申し込みをしている」(14.7%)が多い。

■施設等への入所・入居の検討状況



■施設等への入所・入居の検討状況（要介護度別）



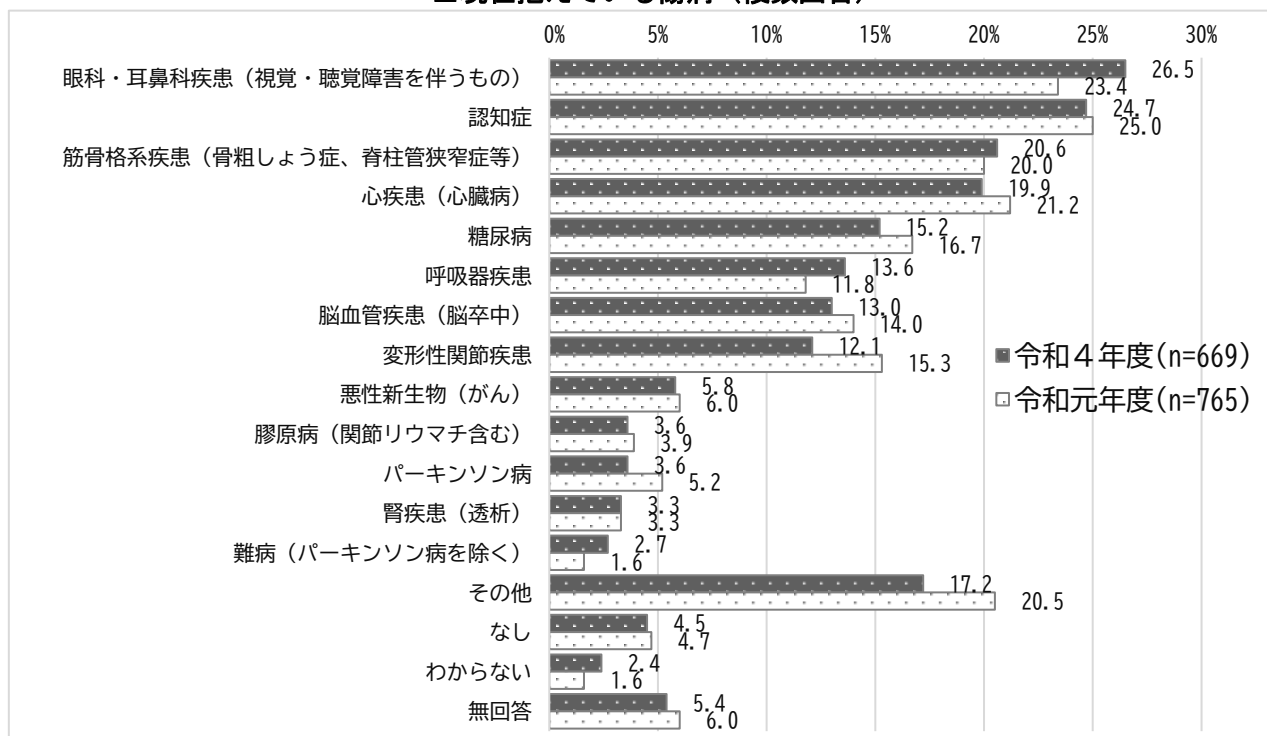
④現在抱えている傷病（A票・問11）

現在抱えている傷病は、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が26.5%で最も多く、次いで「認知症」が24.7%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が20.6%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が3.1ポイント増加している。

要介護度別にみると、要支援1・2では「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」（30.9%）、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」（28.1%）が多く、要介護1・2、要介護3～5では「認知症」（それぞれ31.1%、48.7%）、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」（それぞれ27.8%、16.7%）が多い。

■現在抱えている傷病（複数回答）



■現在抱えている傷病（要介護度別）

(単位:%)

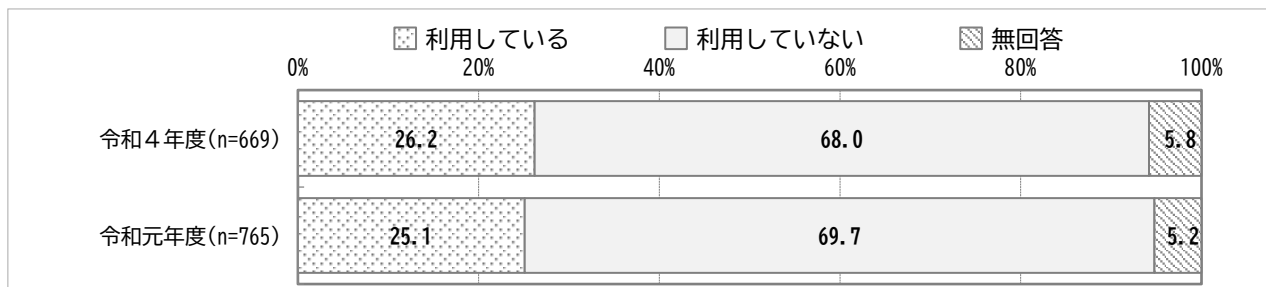
	回答者数(人)	脳血管疾患(脳卒中)	心疾患(心臓病)	悪性新生物(がん)	呼吸器疾患	腎疾患(透析)	筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)	膠原病(関節リウマチ含む)	変形性関節疾患
全体	669	13.0	19.9	5.8	13.6	3.3	20.6	3.6	12.1
要支援1・2	249	7.6	20.1	4.0	13.7	4.0	28.1	6.4	16.9
要介護1・2	270	17.4	19.3	8.1	16.3	2.6	17.0	2.2	8.1
要介護3～5	150	14.0	20.7	4.7	8.7	3.3	14.7	1.3	11.3
	認知症	パーキンソン病	難病(パーキンソン病を除く)	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)	その他	なし	わからない	無回答
全体	24.7	3.6	2.7	15.2	26.5	17.2	4.5	2.4	5.4
要支援1・2	3.2	2.8	2.0	16.1	30.9	17.7	5.6	2.8	6.0
要介護1・2	31.1	3.3	2.6	14.8	27.8	18.1	4.8	2.2	4.1
要介護3～5	48.7	5.3	4.0	14.7	16.7	14.7	2.0	2.0	5.7

⑤訪問診療の利用状況（A票・問12）

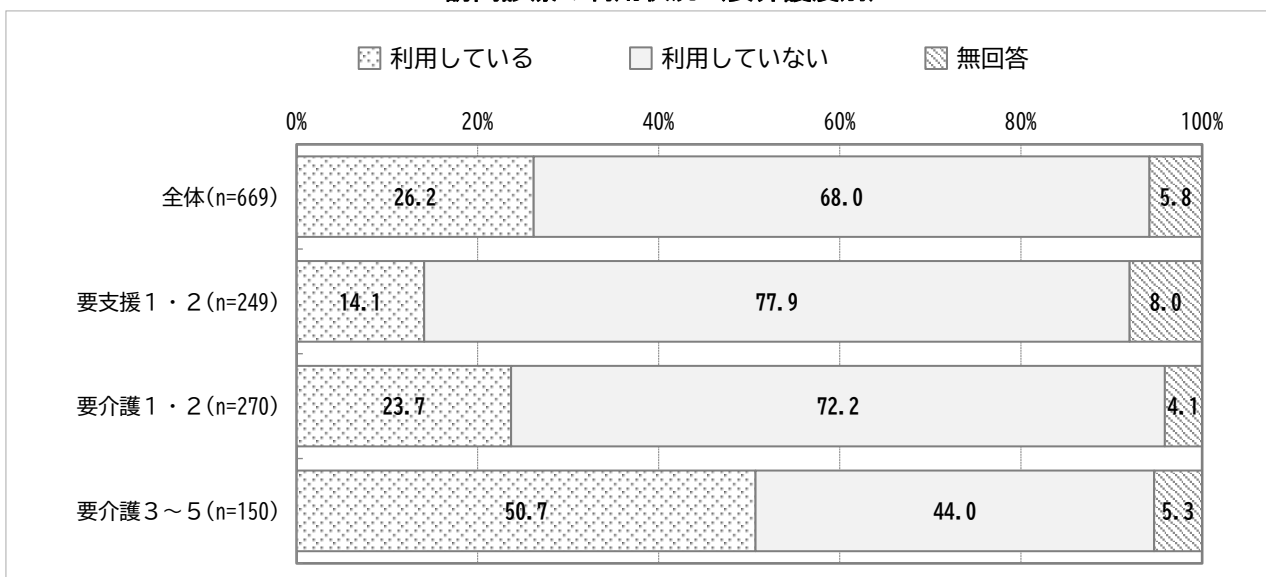
訪問診療の利用状況は、「利用している」が26.2%、「利用していない」が68.0%となっている。
令和元年度調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。

要介護度別にみると、全体と比べて要支援1・2では「利用していない」（77.9%）、要介護3～5では「利用している」（50.7%）がそれぞれ多い。

■訪問診療の利用状況



■訪問診療の利用状況（要介護度別）

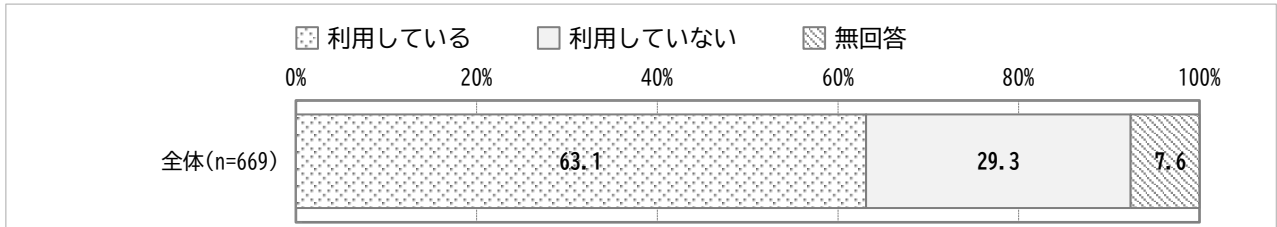


⑥介護保険サービスの利用状況（A票・問13）

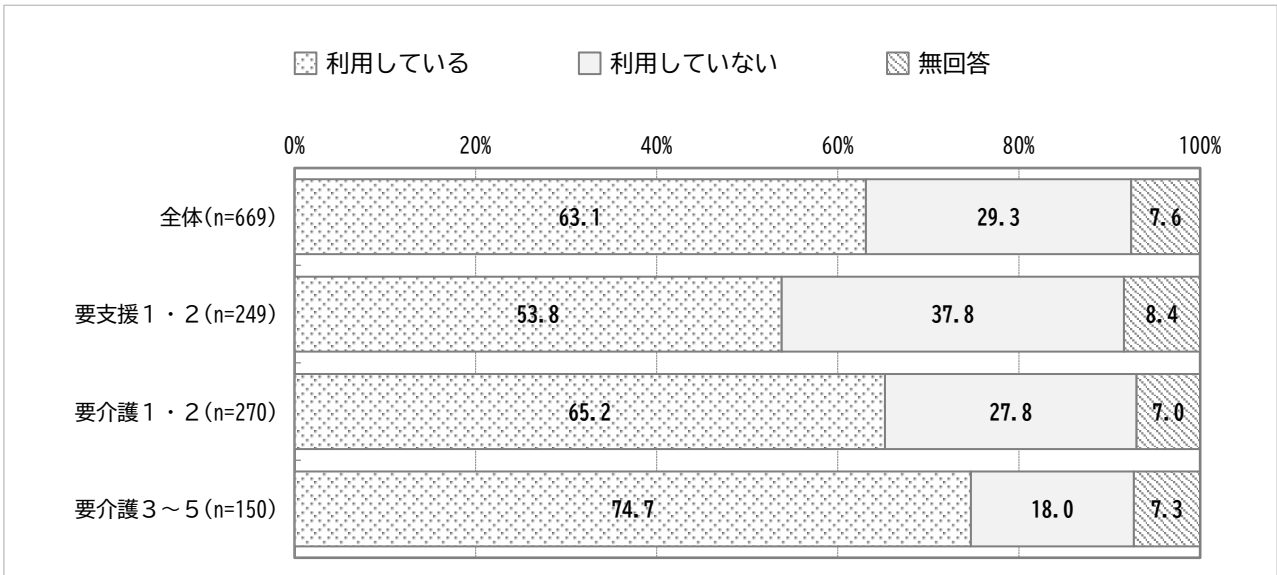
住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が63.1%、「利用していない」が29.3%となっている。

要介護度別にみると、全体と比べて要支援1・2では「利用していない」（37.8%）、要介護3～5では「利用している」（74.7%）がそれぞれ多い。

■介護保険サービスの利用状況



■介護保険サービスの利用状況（要介護度別）



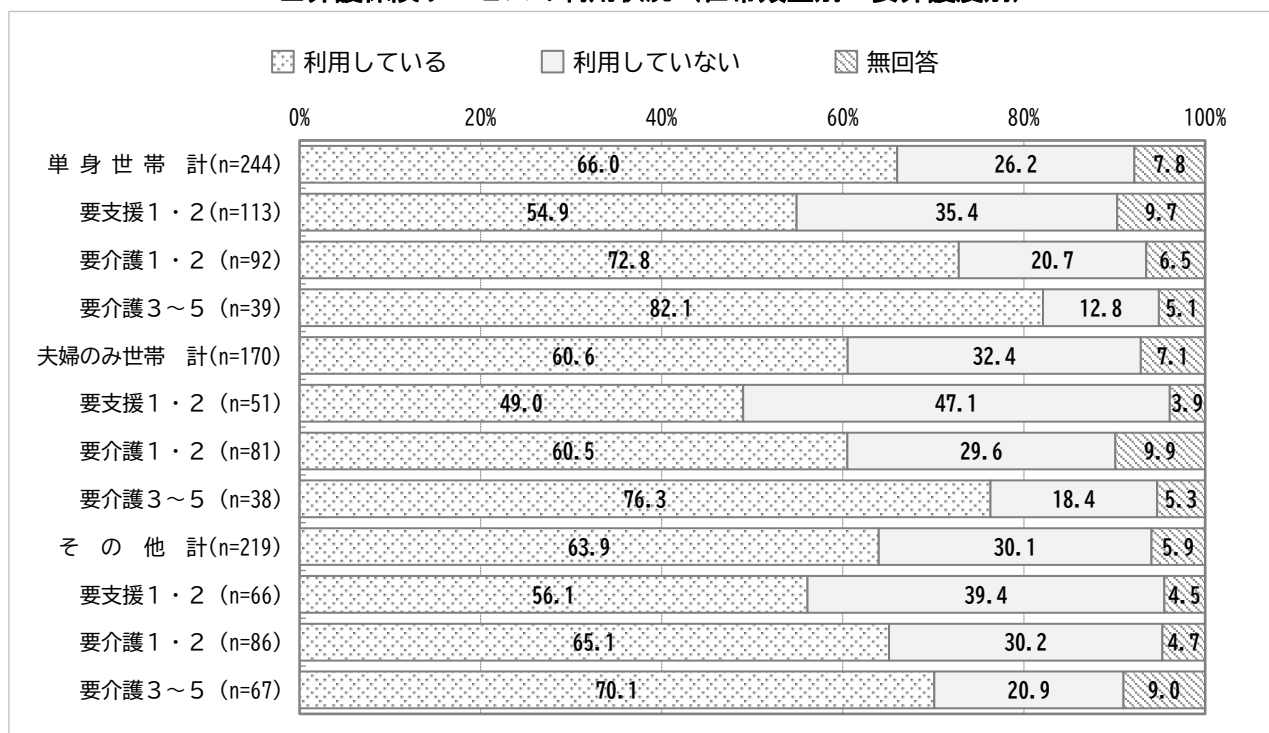
【世帯類型別・要介護度別】

世帯類型別・要介護度別にみると、単身世帯では、合計と比べて要支援1・2で「利用していない」(35.4%)が多い。

夫婦のみ世帯では、合計と比べて要介護3～5で「利用している」(76.3%)が多い。

その他世帯では、合計と比べて要支援1・2で「利用していない」(39.4%)、要介護3～5では「利用している」(70.1%)がそれぞれ多い。

■介護保険サービスの利用状況（世帯類型別・要介護度別）

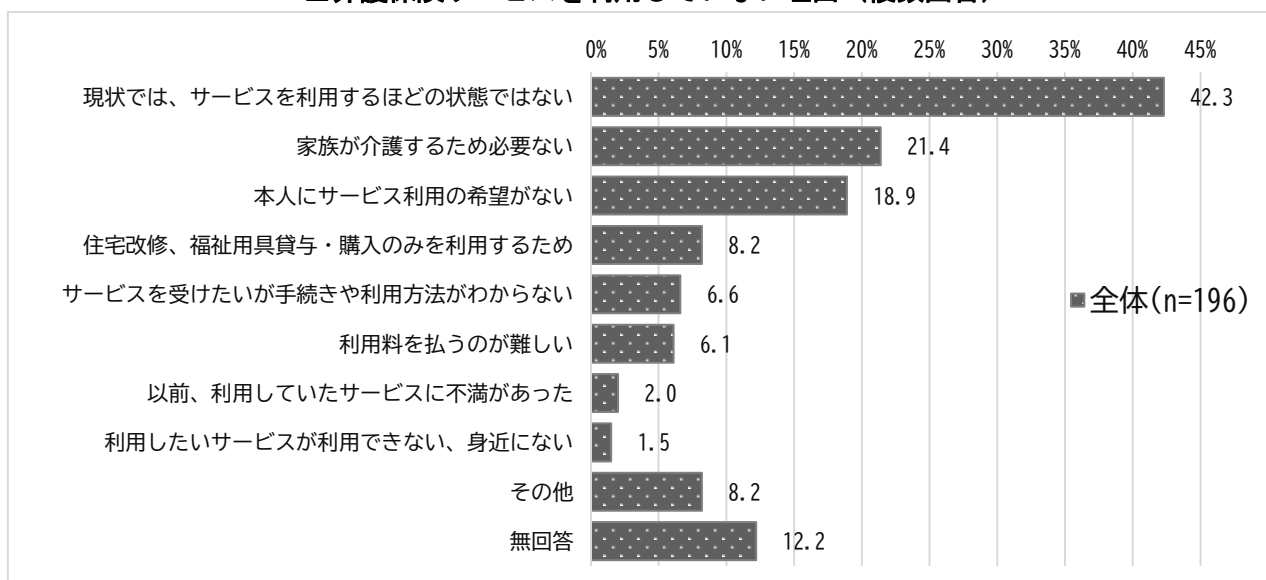


⑦介護保険サービスを利用していない理由（A票・問14）

前問で介護保険サービスを「利用していない」と回答した人の、利用していない理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が42.3%で最も多く、次いで「家族が介護するため必要ない」が21.4%、「本人にサービス利用の希望がない」が18.9%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が8.2%となっている。

要介護度別にみると、要支援1・2では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(54.3%)、「家族が介護するため必要ない」(12.8%)が多く、要介護1・2では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(38.7%)、「本人にサービス利用の希望がない」(28.0%)、要介護3～5では「家族が介護するため必要ない」(40.7%)、「本人にサービス利用の希望がない」(22.2%)がそれぞれ多い。

■介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）



■介護保険サービスを利用していない理由（要介護度別）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護するため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない	その他	無回答
全体	196	42.3	18.9	21.4	2.0	6.1	1.5	8.2	6.6	8.2	12.2
要支援1・2	94	54.3	10.6	12.8	3.2	6.4	2.1	7.4	7.4	5.3	16.0
要介護1・2	75	38.7	28.0	25.3	1.3	6.7	-	6.7	4.0	10.7	9.3
要介護3～5	27	11.1	22.2	40.7	-	3.7	3.7	14.8	11.1	11.1	7.4

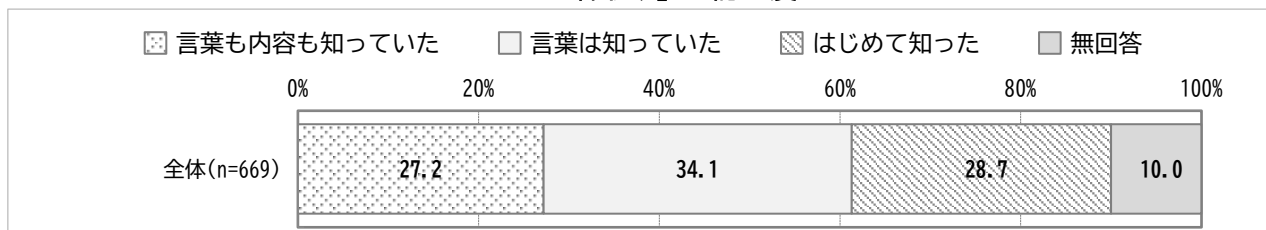
(4) 人生の最終段階で受きたい医療やケアについて

① 「看取り」の認知度 (A票・問15)

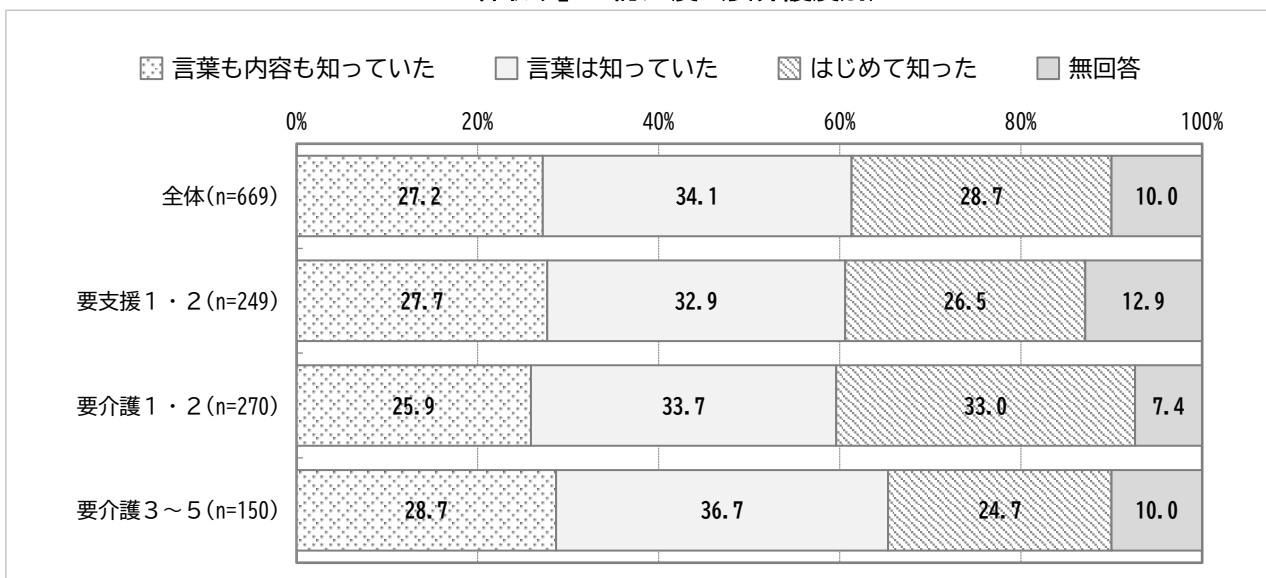
「看取り」の認知度は、「言葉は知っていた」が34.1%で最も多く、次いで「はじめて知った」が28.7%、「言葉も内容も知っていた」が27.2%となっている。

要介護度別にみると、全体と比べておおむね同様の傾向となっている。

■ 「看取り」の認知度



■ 「看取り」の認知度 (要介護度別)

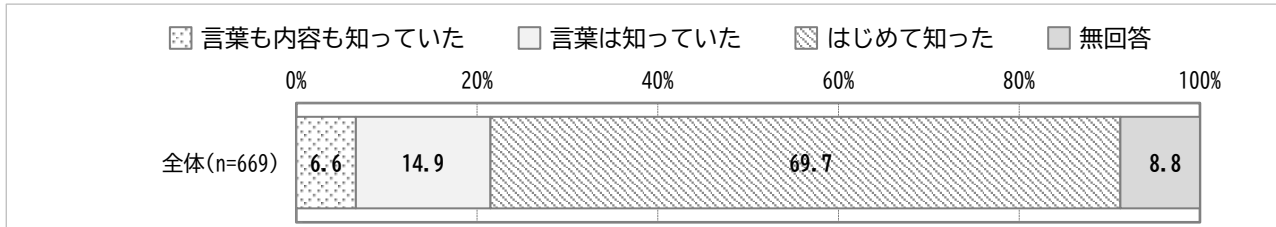


②「人生会議」の認知度（A票・問16）

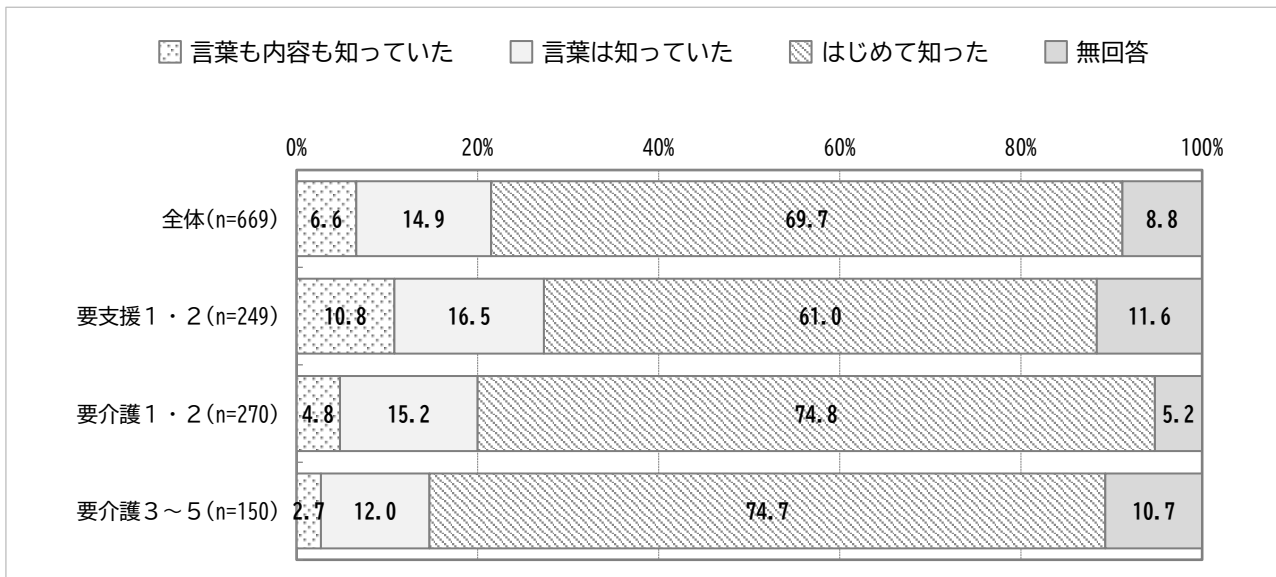
「人生会議」の認知度は、「はじめて知った」が69.7%で最も多く、次いで「言葉は知っていた」が14.9%、「言葉も内容も知っていた」が6.6%となっている。

要介護度別にみると、全体と比べて要支援1・2では「言葉も内容も知っていた」（10.8%）、要介護1・2、要介護3～5では「はじめて知った」（それぞれ74.8%、74.7%）がそれぞれ多い。

■「人生会議」の認知度



■「人生会議」の認知度（要介護度別）

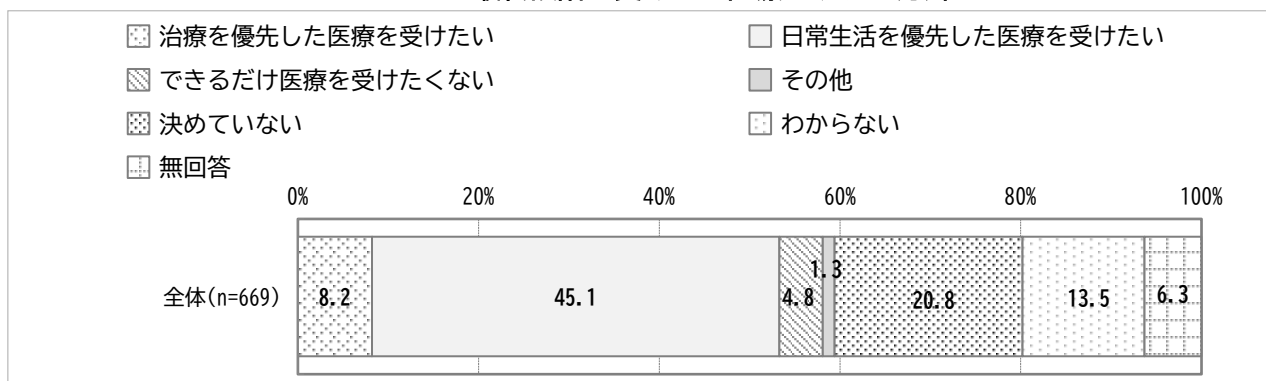


③人生の最終段階で受けてたい医療やケアの方針（A票・問17）

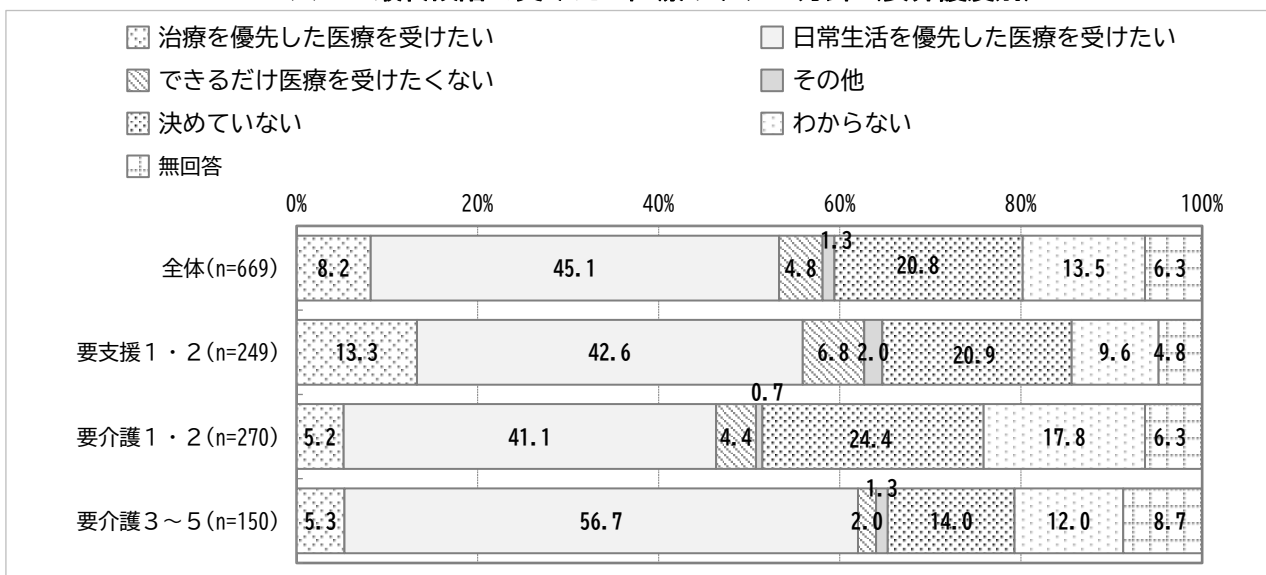
人生の最終段階で受けてたい医療やケアの方針は、「日常生活を優先した医療を受けたい」が45.1%で最も多く、次いで「決めていない」が20.8%、「わからない」が13.5%となっている。

要介護度別にみると、全体と比べて要支援1・2では「治療を優先した医療を受けたい」（13.3%）、要介護3～5では「日常生活を優先した医療を受けたい」（56.7%）がそれぞれ多い。

■人生の最終段階で受けてたい医療やケアの方針



■人生の最終段階で受けてたい医療やケアの方針（要介護度別）

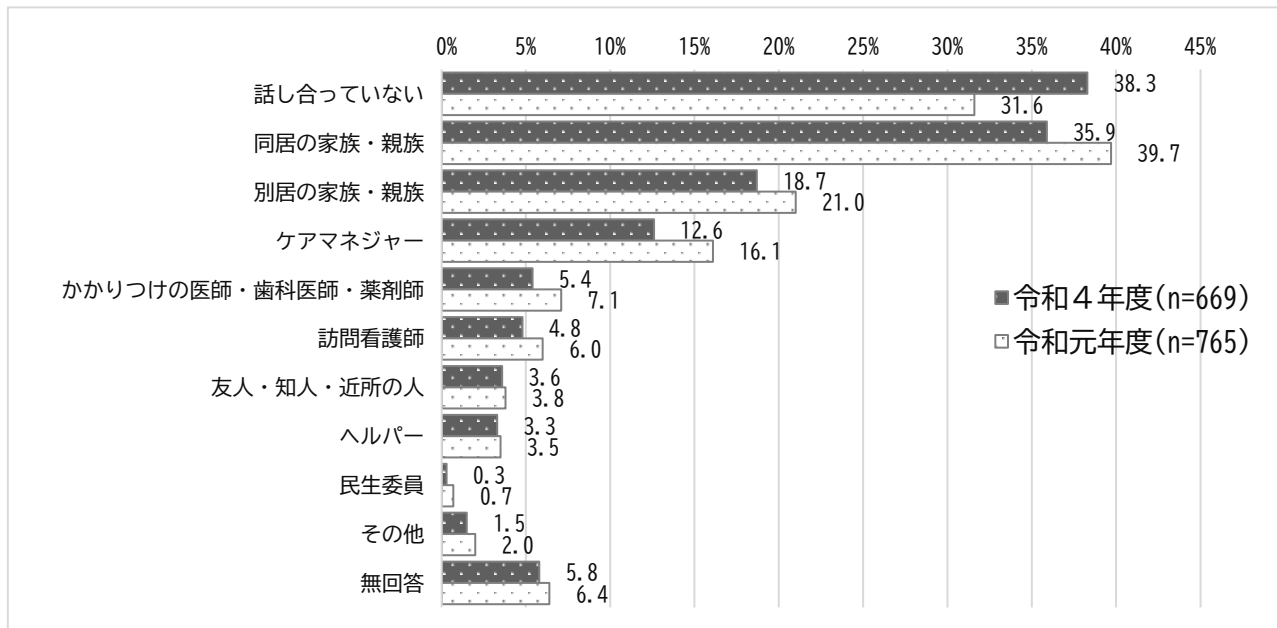


④人生の最終段階で受けてほしい医療やケアの相談状況（A票・問18）

人生の最終段階で受けてほしい医療やケアの相談状況は、「話し合っていない」が38.3%で最も多い。相談相手は、「同居の家族・親族」が35.9%で最も多く、次いで「別居の家族・親族」が18.7%、「ケアマネジャー」が12.6%となっている。

要介護度別にみると、全体と比べて要支援1・2、要介護1・2では同様の傾向で、要介護3～5では「同居の家族・親族」（46.0%）が最も多い。

■人生の最終段階で受けてほしい医療やケアの相談状況（複数回答）



(注) 令和元年度は、「かかりつけの医師、歯科医師・薬剤師」の代わりに「かかりつけ医」であり、上記選択肢の他に「かかりつけ薬剤師」(0.9%)があった。

■人生の最終段階で受けてほしい医療やケアの相談状況（要介護度別）

(単位:%)

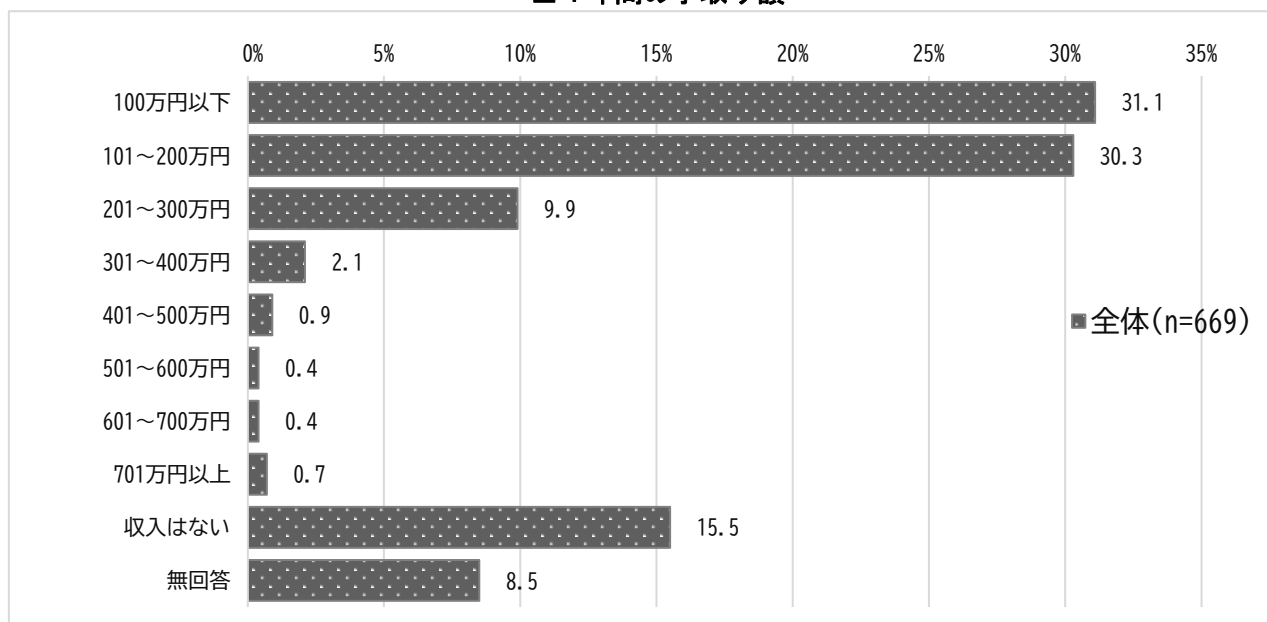
区分	回答者数(人)	同居の家族・親族	別居の家族・親族	友人・知人・近所の人	かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師	訪問看護師	ケアマネジャー	ヘルパー	民生委員	話し合っていない	その他	無回答
全体	669	35.9	18.7	3.6	5.4	4.8	12.6	3.3	0.3	38.3	1.5	5.8
要支援1・2	249	28.5	19.7	5.2	4.8	2.8	10.0	4.0	0.4	39.8	1.2	8.4
要介護1・2	270	37.0	18.9	3.3	3.0	3.7	10.4	1.5	0.4	40.4	1.9	2.6
要介護3～5	150	46.0	16.7	1.3	10.7	10.0	20.7	5.3	-	32.0	1.3	7.3

(5) 介護保険サービスと介護保険料についての考え方

① 1年間の手取り額（A票・問19）

“何らかの収入がある”と回答した人の1年間の手取り額は、「100万円以下」が31.1%で最も多く、「101～200万円」（30.3%）と回答した人も含めると、“200万円以下”が約6割を占めており、次いで「201～300万円」が9.9%となっている。

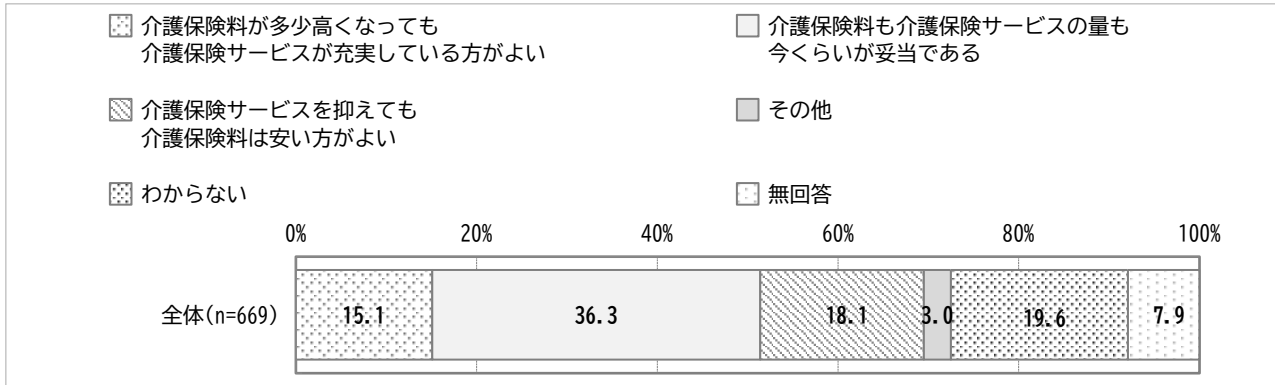
■ 1年間の手取り額



②介護保険サービスと介護保険料についての考え方（A票・問20）

介護保険サービスと介護保険料についての考え方は、「介護保険料も介護保険サービスの量も今くらいが妥当である」が36.3%で最も多く、次いで「わからない」が19.6%、「介護保険サービスを抑えても介護保険料は安い方がよい」が18.1%、「介護保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」が15.1%となっている。

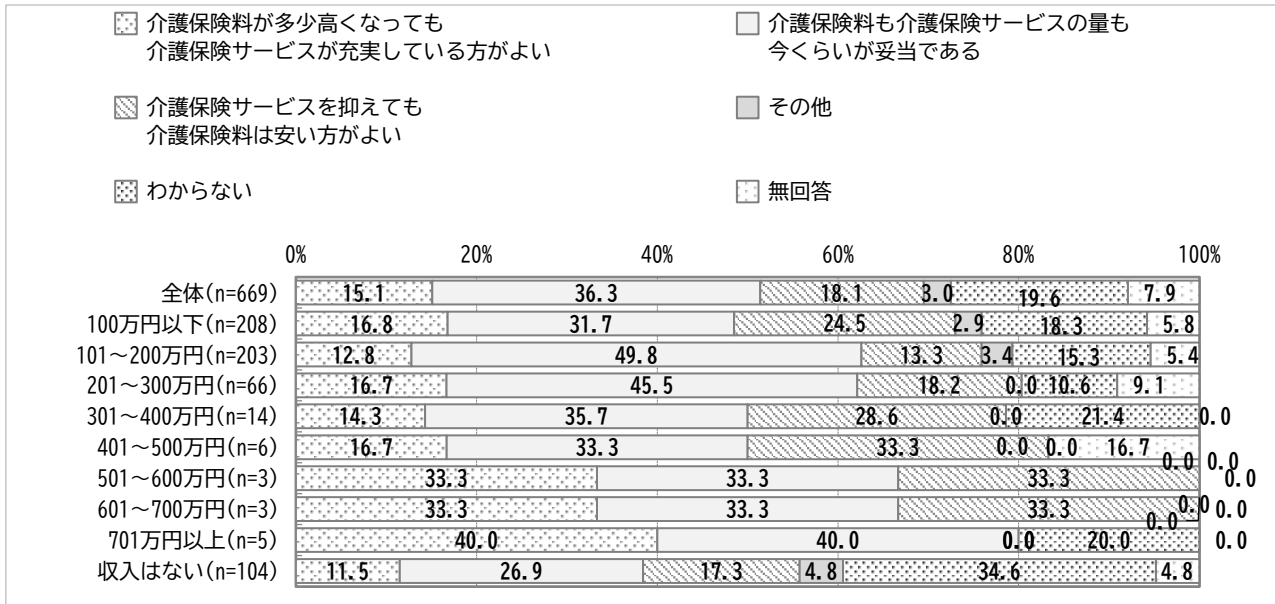
■介護保険サービスと介護保険料についての考え方



【1年間の手取り額別】

1年間の手取り額別にみると、全体と比べて100万円以下では「介護保険サービスを抑えても介護保険料は安い方がよい」（24.5%）、101～200万円、201～300万円では「介護保険料も介護保険サービスの量も今くらいが妥当である」（それぞれ49.8%、45.5%）が多い。

■介護保険サービスと介護保険料についての考え方（1年間の手取り額別）



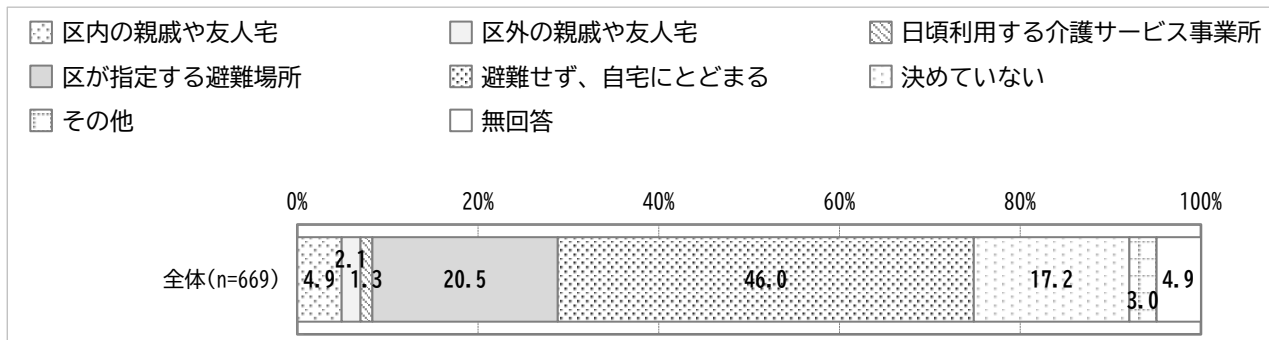
(6) 風水害発生時の避難行動想定について

①風水害の発生に備えて避難する場合の避難先（A票・問21）

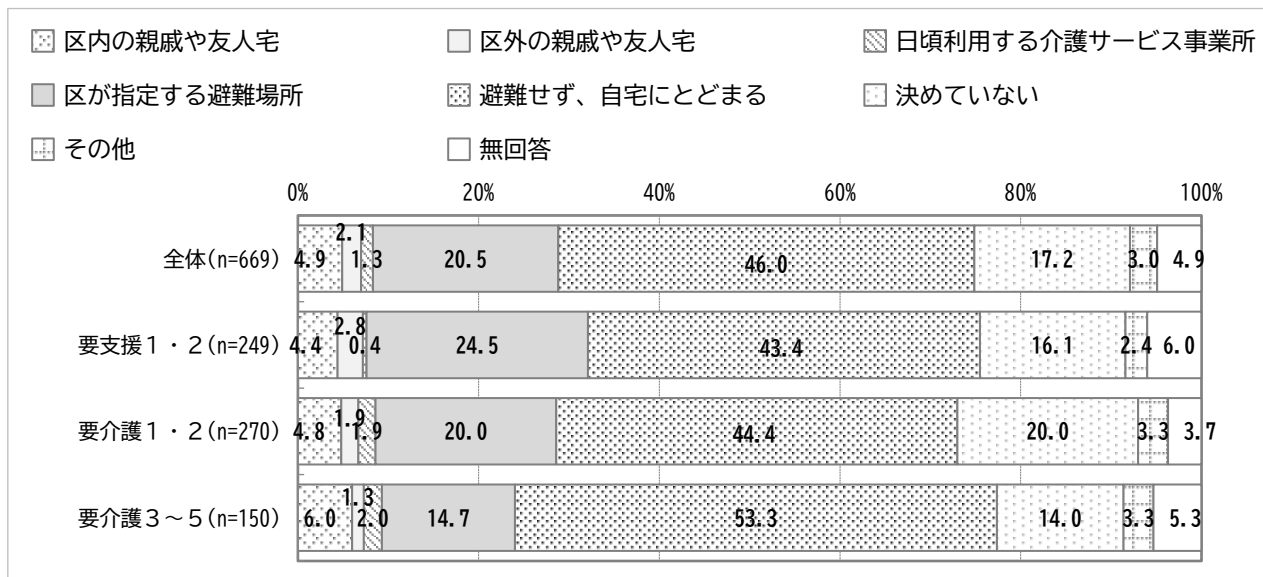
風水害の発生に備えて避難する場合の避難先は、「避難せず、自宅にとどまる」が46.0%で最も多く、次いで「区が指定する避難場所」が20.5%、「決めていない」が17.2%となっている。

要介護度別にみると、全体と比べて要介護3～5では「避難せず、自宅にとどまる」が53.3%と多い。

■風水害の発生に備えて避難する場合の避難先



■風水害の発生に備えて避難する場合の避難先（要介護度別）

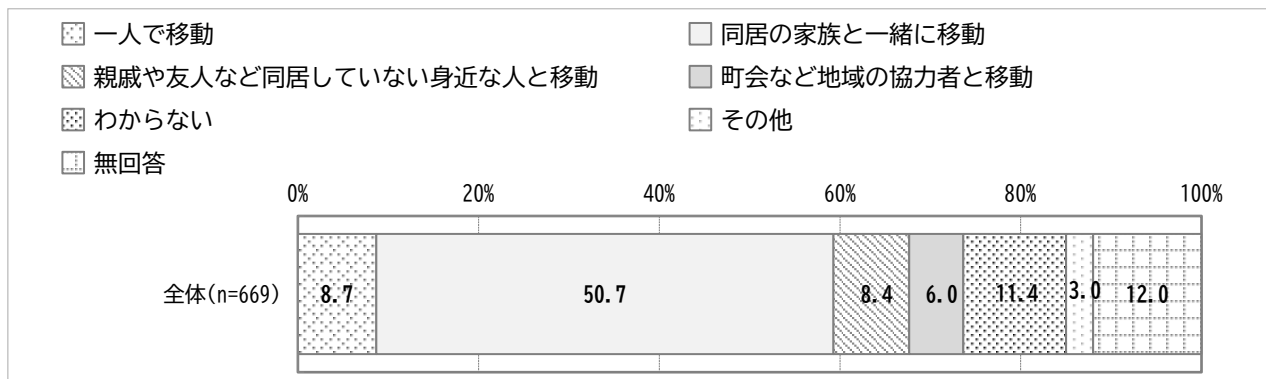


②避難先へ移動する場合の同伴者（誰と移動するか）（A票・問22【どなたと】）

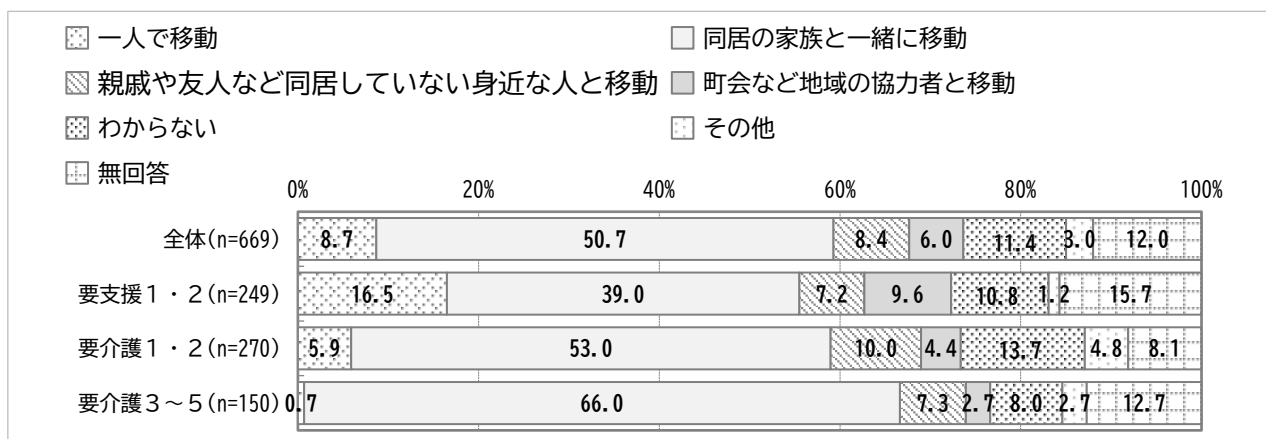
避難先へ移動する場合の同伴者（誰と移動するか）は、「同居の家族と一緒に移動」が50.7%で最も多く、次いで「わからない」が11.4%、「一人で移動」が8.7%となっている。

要介護度別にみると、全体と比べて要支援1・2では「一人で移動」（16.5%）、要介護3～5では「同居の家族と一緒に移動」（66.0%）がそれぞれ多い。

■避難先へ移動する場合の同伴者（誰と移動するか）



■避難先へ移動する場合の同伴者（誰と移動するか）（要介護度別）

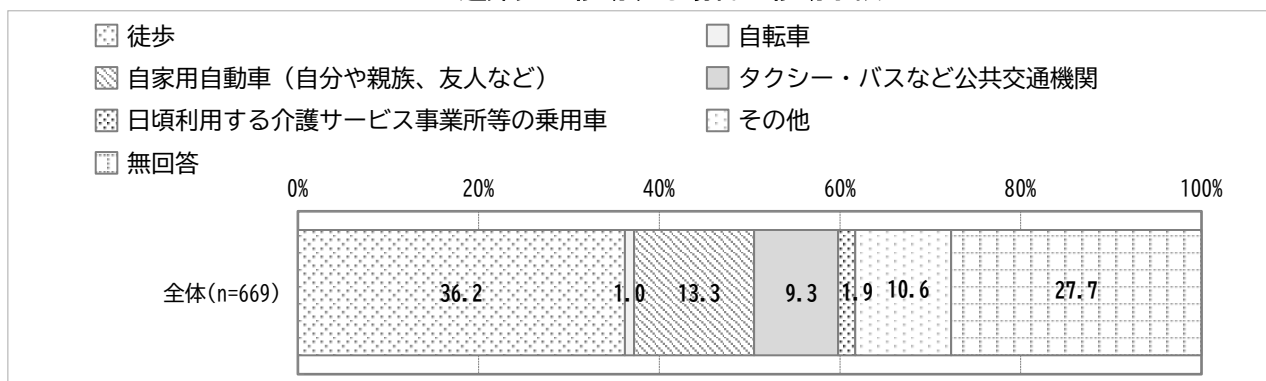


③避難先へ移動する場合の移動手段（A票・問22【どのような手段で】）

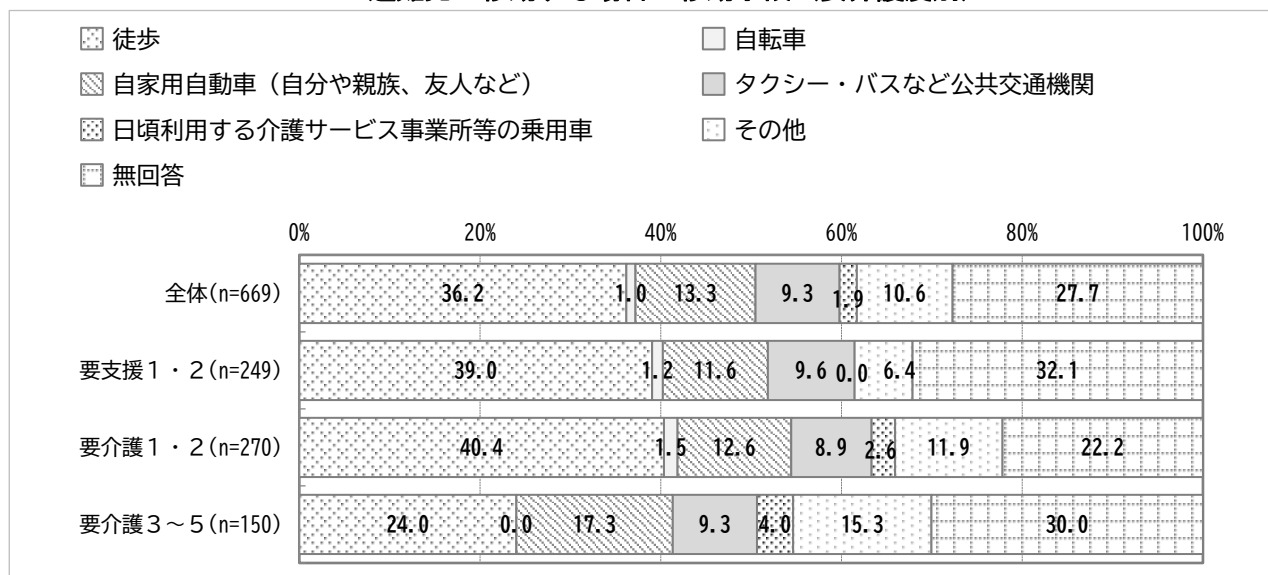
避難先へ移動する場合の移動手段は、「徒歩」が36.2%で最も多く、次いで「自家用自動車（自分や親族、友人など）」が13.3%、「その他」が10.6%となっている。

要介護度別にみると、全体と比べて要介護3～5では「徒歩」が24.0%と少なく、「自家用自動車（自分や親族、友人など）」が17.3%と多い。

■避難先へ移動する場合の移動手段



■避難先へ移動する場合の移動手段（要介護度別）



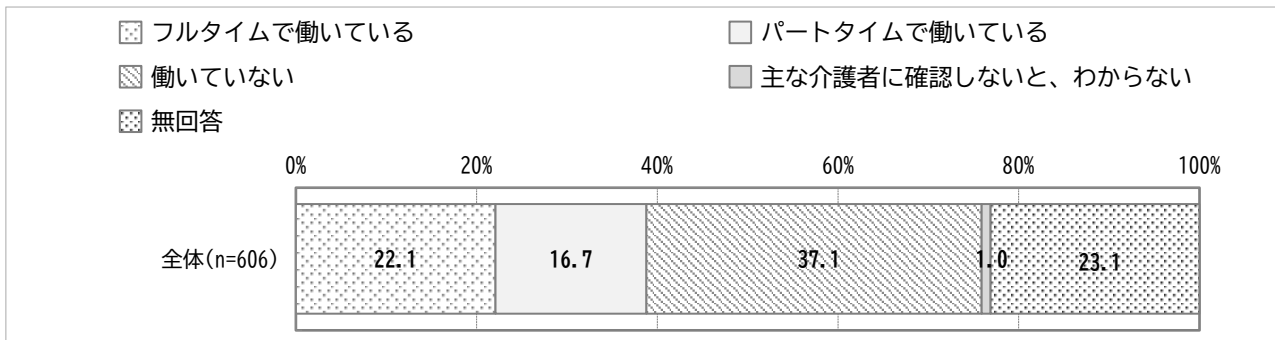
3. 主な介護者の介護の継続性について

(1) 就労の有無及び現在の勤務形態（B票・問1）

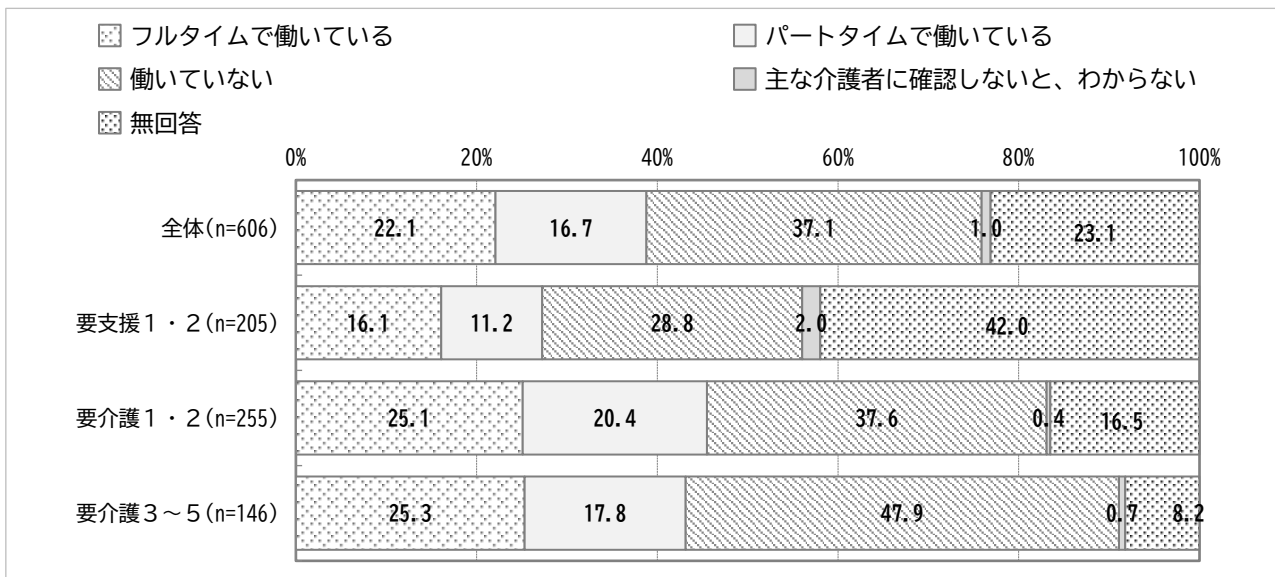
主な介護者の就労の有無及び現在の勤務形態は、「働いていない」が37.1%となっている。現在就労している人では「フルタイムで働いている」が22.1%、「パートタイムで働いている」が16.7%となっている。

調査対象者の要介護度別にみると、要介護3～5で「働いていない」（47.9%）が多くなっている。

■就労の有無及び現在の勤務形態



■就労の有無及び現在の勤務形態（調査対象者の要介護度別）

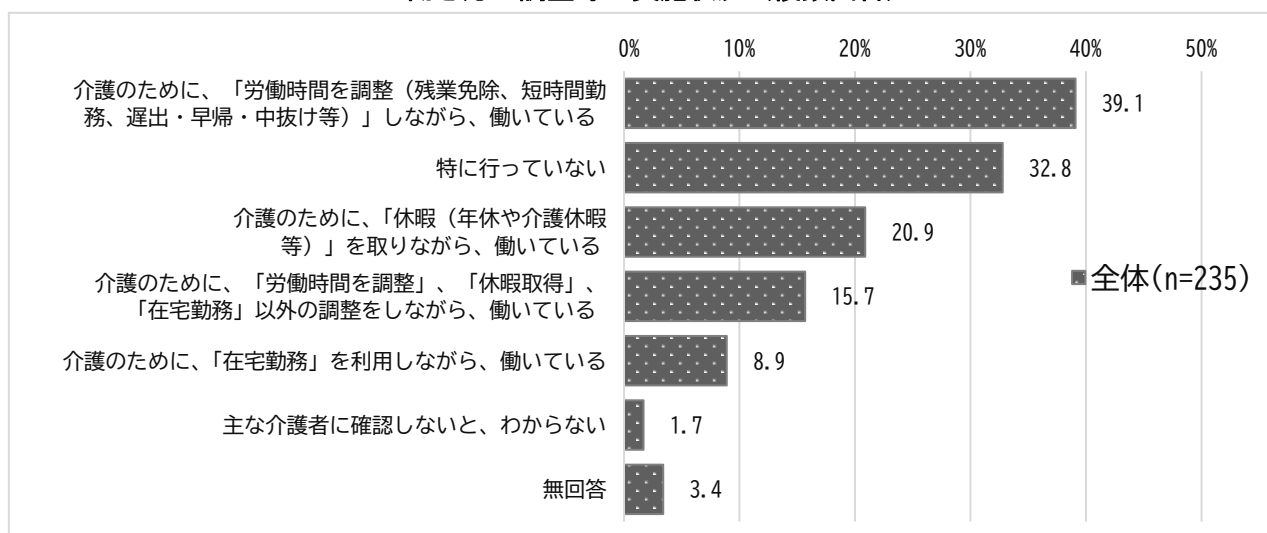


(2) 働き方の調整等の実施状況 (B票・問2)

前問で就労していると回答した人の働き方の調整等の実施状況は、「特に行っていない」が約3割を占めている中で、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が39.1%で最も多く、次いで「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が20.9%、「介護のために、「労働時間を調整」、「休暇取得」、「在宅勤務」以外の調整をしながら、働いている」が15.7%となっている。

調査対象者の要介護度別にみると、要支援1・2では「特に行っていない」(44.6%)、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(32.1%)が多く、要介護1・2では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(32.8%)、「特に行っていない」(31.0%)、要介護3～5では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(57.1%)、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」「特に行っていない」(それぞれ25.4%)が多い。

■働き方の調整等の実施状況 (複数回答)



■働き方の調整等の実施状況 (調査対象者の要介護度別)

(単位:%)

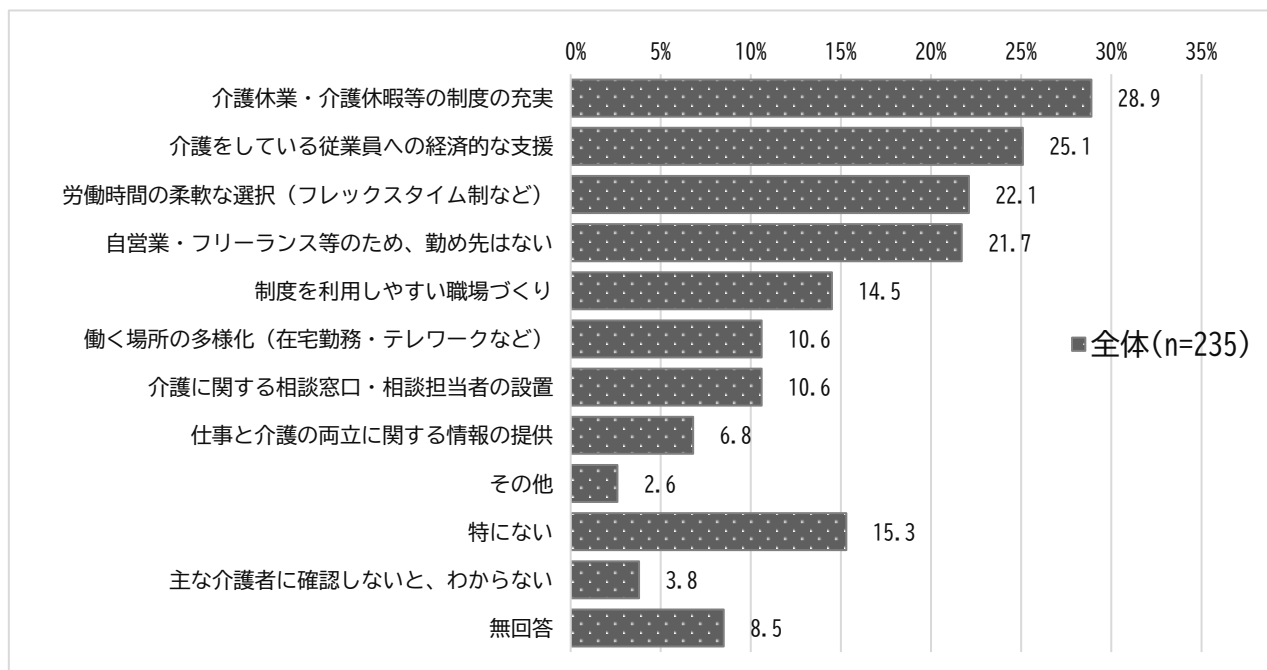
区分	回答者数(人)	特に行っていない	介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている	介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	介護のために、「労働時間を調整」、「休暇取得」、「在宅勤務」以外の調整をしながら、働いている	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	235	32.8	39.1	20.9	8.9	15.7	1.7	3.4
要支援1・2	56	44.6	32.1	23.2	5.4	5.4	3.6	7.1
要介護1・2	116	31.0	32.8	17.2	8.6	21.6	1.7	3.4
要介護3～5	63	25.4	57.1	25.4	12.7	14.3	-	-

(3) 仕事と介護の両立に有効な勤め先からの支援策 (B票・問3)

仕事と介護の両立に有効な勤め先からの支援策は、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が28.9%で最も多く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が25.1%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が22.1%となっている。

調査対象者の要介護度別にみると、要支援1・2では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(33.9%)、「特にない」(19.6%)が多く、要介護1・2では「自営業・フリーランスのため勤め先はない」「介護をしている従業員への経済的な支援」(それぞれ26.7%)、要介護3～5では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(34.9%)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(28.6%)が多い。

■仕事と介護の両立に有効な勤め先からの支援策 (複数回答)



■仕事と介護の両立に有効な勤め先からの支援策 (調査対象者の要介護度別)

(単位:%)

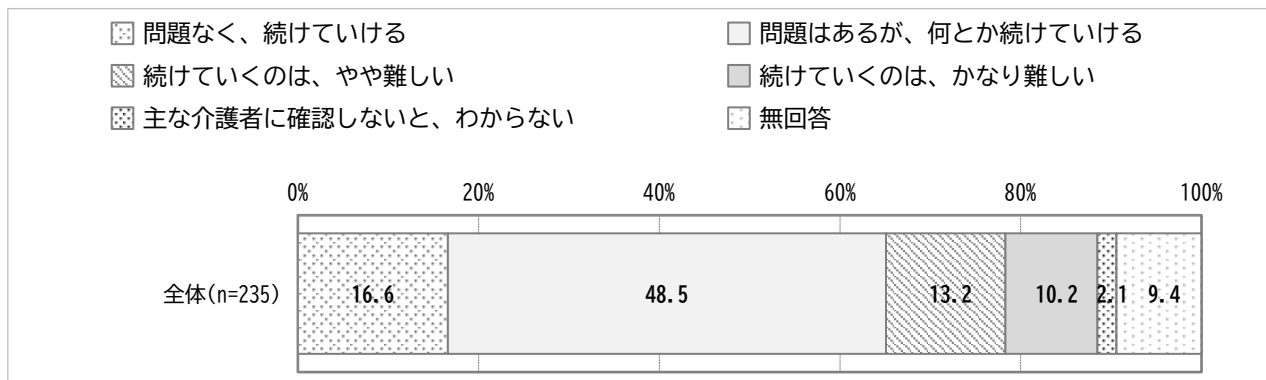
区分	回答者数(人)	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)	働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特にない	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	235	21.7	28.9	14.5	22.1	10.6	6.8	10.6	25.1	2.6	15.3	3.8	8.5
要支援1・2	56	10.7	33.9	14.3	17.9	12.5	5.4	10.7	17.9	1.8	19.6	5.4	14.3
要介護1・2	116	26.7	23.3	15.5	21.6	8.6	5.2	6.0	26.7	0.9	14.7	4.3	9.5
要介護3～5	63	22.2	34.9	12.7	27.0	12.7	11.1	19.0	28.6	6.3	12.7	1.6	1.6

(4) 働きながらの介護の継続見込 (B票・問4)

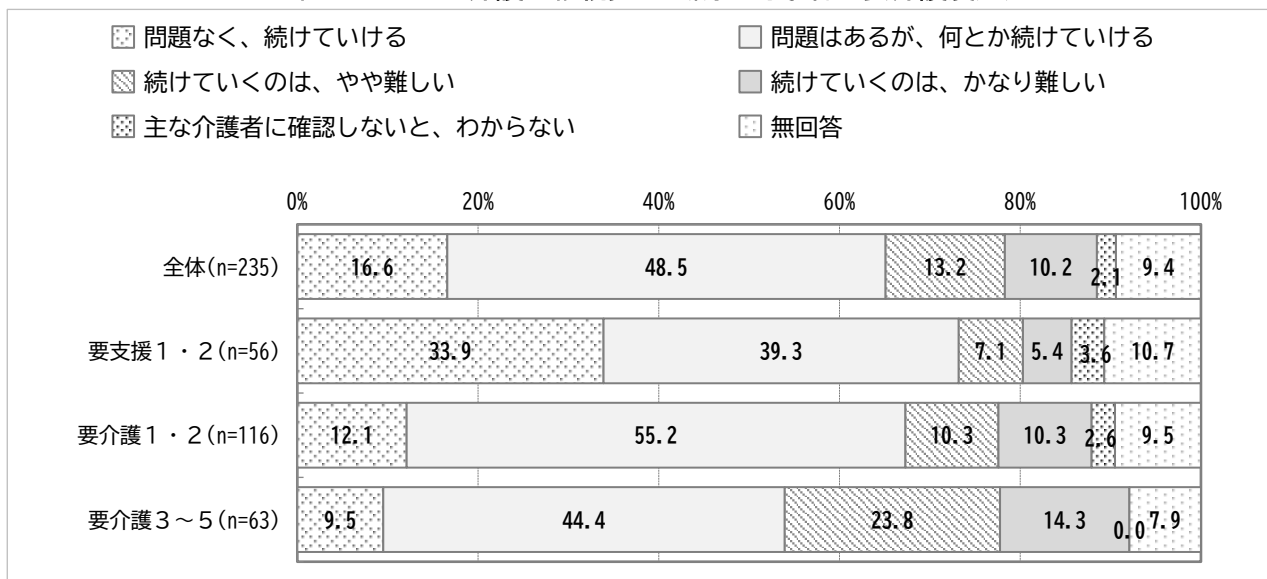
働きながらの介護の継続見込は、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた“続けていける”が65.1%であるのに対し、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた“続けていくのは難しい”が23.4%となっている。

調査対象者の要介護度別にみると、全体と比べて要支援1・2では“続けていける”(73.2%)が多いのに対し、要介護3～5では“続けていくのは難しい”(38.1%)が多い。

■働きながらの介護の継続見込



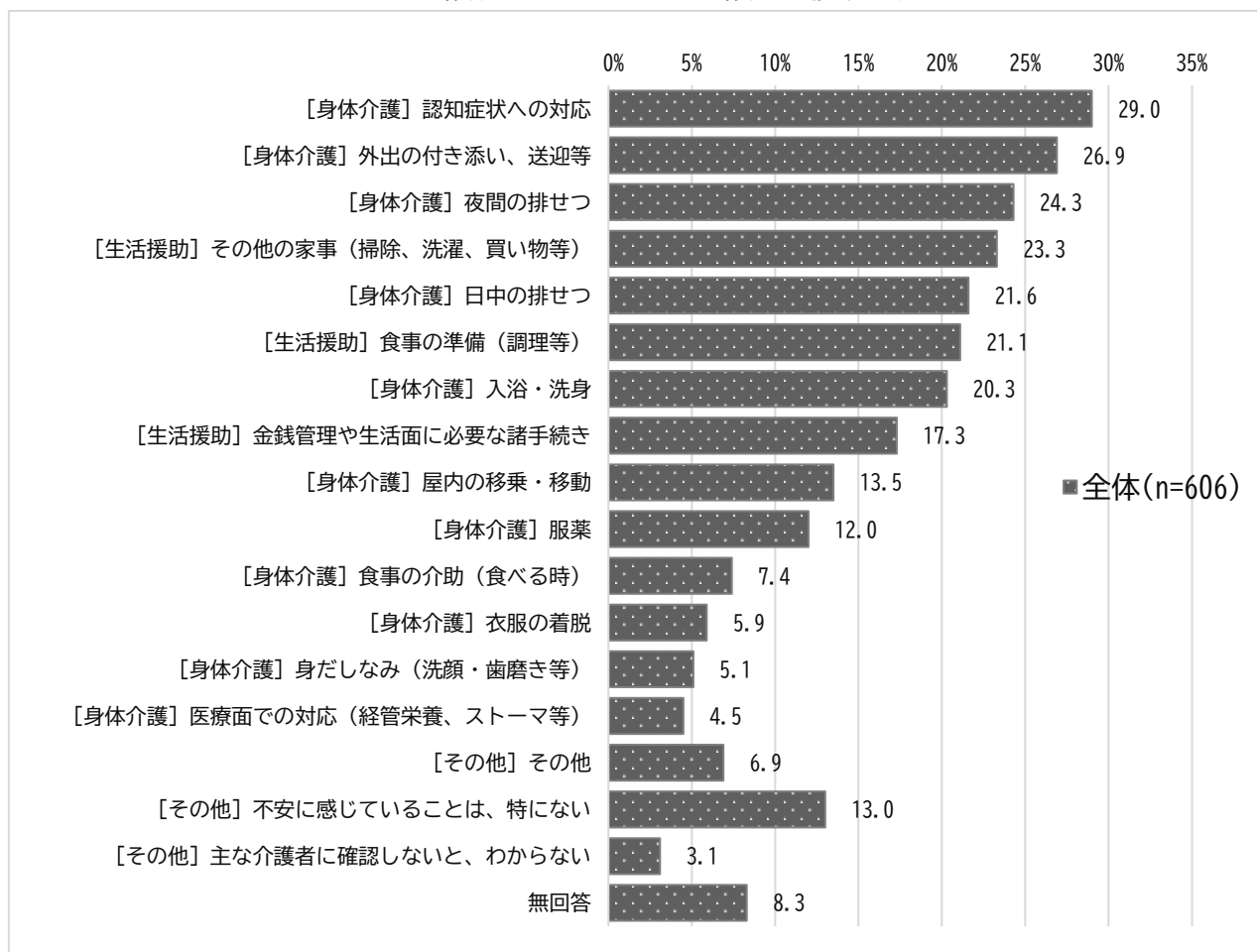
■働きながらの介護の継続見込 (調査対象者の要介護度別)



(5) 主な介護者が不安に感じる介護等 (B票・問5)

主な介護者が不安に感じる介護等は、「認知症状への対応」が29.0%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が26.9%、「夜間の排せつ」が24.3%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が23.3%、「日中の排せつ」が21.6%となっている。

■主な介護者が不安に感じる介護等 (複数回答)



【要介護度別】

調査対象者の要介護度別にみると、要支援1・2では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(33.7%)、「外出の付き添い、送迎等」(26.8%)が多く、要介護1・2では「認知症状への対応」(34.5%)、「夜間の排せつ」(27.8%)、要介護3～5では「認知症への対応」(45.9%)、「日中の排せつ」(41.8%)が多い。

■主な介護者が不安に感じる介護等（調査対象者の要介護度別）

(単位:%)

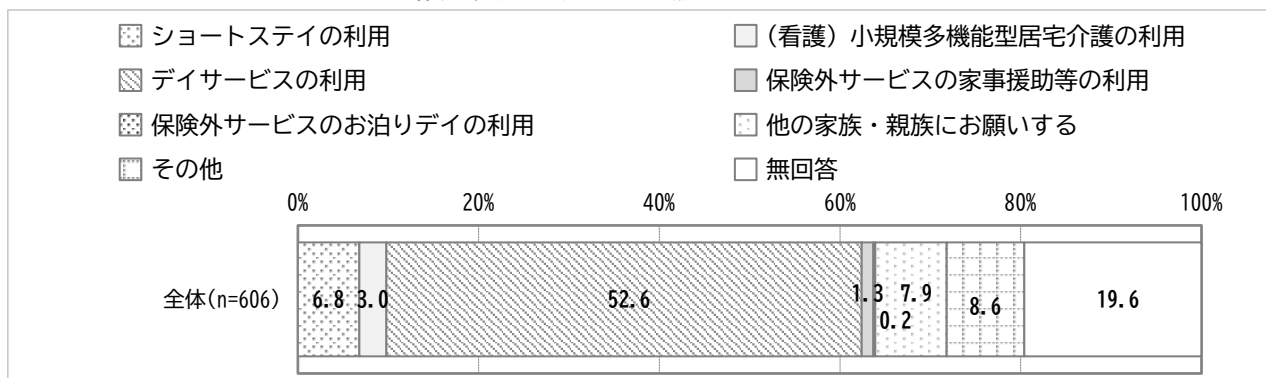
	回答者数 (人)	日中の排せつ	夜間の排せつ	食事の介助(食 べる時)	入浴・洗身	身だしなみ(洗 顔・歯磨き等)	衣服の着脱	屋内の移乗・移 動	外出の付き添 い、送迎等	服薬
全体	606	21.6	24.3	7.4	20.3	5.1	5.9	13.5	26.9	12.0
要支援1・2	205	5.9	7.8	3.9	16.6	3.9	3.9	7.8	26.8	5.9
要介護1・2	255	22.7	27.8	7.5	21.6	6.3	5.9	14.5	27.5	15.7
要介護3～5	146	41.8	41.1	12.3	23.3	4.8	8.9	19.9	26.0	14.4
	認知症 症状への 対応	医療面での対 応(経管栄養、 ストーマ等)	食事の準備(調 理等)	その他の家事 (掃除、洗濯 買い物等)	金銭管理や生 活面に必要な 諸手続き	その他	不安に感じて いることは、特 にない	主な介護者に 確認しないと わからない	無回答	
全体	29.0	4.5	21.1	23.3	17.3	6.9	13.0	3.1	8.3	
要支援1・2	10.2	2.9	22.0	33.7	17.6	7.3	22.0	3.4	13.2	
要介護1・2	34.5	3.9	22.0	20.0	18.0	7.1	9.8	4.7	5.1	
要介護3～5	45.9	7.5	18.5	14.4	15.8	6.2	6.2	-	6.8	

(6) 在宅介護の負担を軽減する援助サービス等の利用状況 (B票・問6)

①在宅介護の負担を軽減する援助サービス等の利用状況

在宅介護の負担を軽減する援助サービス等の利用状況は、「デイサービスの利用」が52.6%と最も多く、次いで「その他」が8.6%、「他の家族・親族にお願いする」が7.9%となっている。

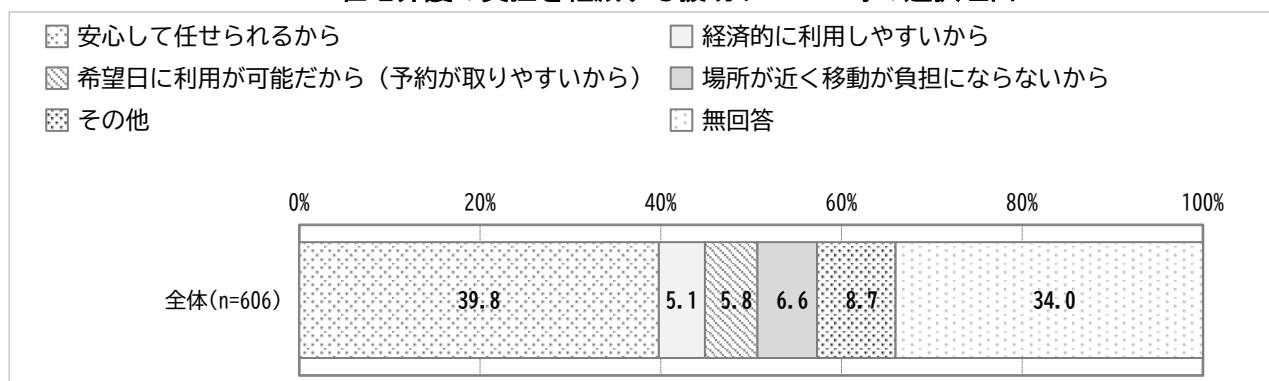
■在宅介護の負担を軽減する援助サービス等の利用状況



②在宅介護の負担を軽減する援助サービス等の選択理由

在宅介護の負担を軽減する援助サービス等の選択理由は、「安心して任せられるから」が39.8%と最も多い。

■在宅介護の負担を軽減する援助サービス等の選択理由



第4章

自由回答のまとめ

本調査では、高齢者福祉や介護保険について、さまざまな意見を自由記述形式で伺い、内容ごとに分類・整理を行った。主な意見は以下のとおりである。

1. 介護予防・日常生活圏域二一ス調査

◆高齢者とは・・・179件
ただ静かに暮りたい。他人に迷惑をかけたくない。子供もいない。夫もいない。もしかしたらヘルパーさんなどが迷惑かも知れないが部屋で朝、亡くなっていたという状態が、私の理想である。
健康で、家族と楽しくすごして、福祉や介護保険にほどほどにお世話になって、暮らしていければ、私は最高である。
現在元気であるのであまり心配していないが今後お世話になる事があると思う。家族だけでは心配である。そのために今から気をつけて行きたいと思う。
健康寿命をがんばってのばしたい。でも先の事はわからない。一人娘に苦労はかけたくない。まずは安心して年をとれる環境になってほしい。
夫が要介護であるが、今の生活リズムについては一応満足している。今後、夫の介護度が重くなったり、私の具合が悪くなったりしたら、その中で、利用できる介護サービスを利用し、夫婦二人で自宅でがんばっていこうと思っている。
若い人の多い集合住宅に住んでいるが時々違和感を感じる時もある。幸い孫達もいるので気分はすぐに紛れるが・・・まあ、今の所幸せなのかなと自分に言い聞かせている。
人のお世話になりながら生きておらず、自分の終末を選択できる制度を期待している。
今のままで十分、介護の事はまだ考えたことがなかった、特に要望はない(69件)。
現在の暮らしで十分。
特別養護老人ホームでのボランティアの実施は自分自身にとって非常に社会のつながり、人と人との学びになった。
高齢者が不安なく安心して暮らせる社会環境づくりが大切なので費用がかかるかもしれないが、誰もがたどることなので、時代の特徴を考え、行政がしっかりとし対応できるように進めてほしい。
いつまでも元気で「ピンピンコロリ」でいきたいと思う(2件)。
窓口が多すぎて、例えばボランティアをしたいと思ってもいろいろなお知らせがあつて、どれに声をかけていいのかとまどう。
自宅で死にたい。
現在、施設に入居している人を2人知っている。1人はグループホーム、1人は補佐人として世話をしている。2人とも施設で十分なケアを受けている。1人で自宅で住まれるより良い生活ができています。1人になったらこの様な生活ができればと思っている。
◆低廉な介護保険料と利用料、介護保険財政・・・84件
介護保険料が高すぎる(60件)。
元気なうちに、高齢者住宅(みまもり)があるところを探し、パンフレット等集めたが、高額であり、条件に合わず、むずかしく感じる場所である。
年金の額内で適切なケアが受けられる事が望ましいと思う。
自分が認知症、身体不自由になった場合、現在の高齢者施設は高価で今の自分の年金ではとても無理なので、子供に負担をかけたくないことが、一番心配である。
介護保険が高すぎる。一生に一度も使わない人もいるのに良い制度とは思えない。
やはり介護保険料である。都営団地に住み、パートで月3万円位、年金が1月9万円位、通院等で生活はぎりぎりである。質問に友人との食事・外出が有ったがとても無理である。お金のかかる行事はNGである。
介護保険料が高すぎる。年金から勝手に引かれるのは本当に困る。
死にいたるまで、一度も保険を使わずに健康で過ごせたらうれしいが、“思いやり”と思いながらも、保険料を払っていたのが・・・年ごとに少しでも割引があるといいと思う。
介護保険料が高額になって来ている。国民年金のみの収入では、大変である。保険料も二割になる、くすり代も。収入がないのに支払いが多い。税金など。高齢者が安心して生活できる社会を切望する。

◆行政、区の公共の施設・場・催し物・・・44件
役所、町会役員の方々に感謝して毎日をすごしている。老人医療助かる。
高齢者の散歩を補助する為の町中にベンチを設置したらいかがでしょう。
南部地区(本所)には公共施設が少ない。みどりコミュニティセンター、本所 BIG SHIP の二つしかない。あまりにも向島地区との格差がありすぎる。区のおしらせを見ても向島地区に多くの教室や講習があるが本所地区からの交通の便が悪く行くのが困難である。
現在、民生児童委員をしている。他区とくらべることはわからないので比較できないが、墨田区は高齢者福祉に手厚いと思う。少しでも民生児童委員として、高齢者福祉やその他福祉についても地区の方々のお力になればと思う。まだまだ介護保険についても勉強不足を感じている。
墨田区は北部に区の施設が片寄っている為、墨田区のイベントに参加しづらい。中央区や江東区の施設を利用している。区の小学校・中学校のイベントを多く企画し、参加につなげられればと思っている。
学校等のプールなどが使用できる場所があれば(すみだスポーツ健康センターはしている)。
墨田区に住んで、40年、周りの環境親水公園も近く、とても住みやすい所。東駒形コミュニティも5分、とても便利感謝している。
長寿社会において、介護期間の短い人生を送りたいと思っている。その為には、日々の生き甲斐と健康管理が大切だと思っている。行政として、どのようなことが出来るか、個人々のニーズに出来るだけ添えるような取り組みの検討をお願いする。
長年自宅で介護をしていた母が亡くなり、難病のため医療費の負担が少なく、デイサービス、訪問看護及び訪問リハビリを利用し、老老介護で最後までやり遂げられた。区をあげての援助、ケアマネージャーさんの助言は大変助かった。
イベントに参加するための送迎の仕組みを考えてほしい。
◆アンケート調査・・・43件
人生の最終段階に正面から向き合わされた思いである。
高齢者には、あまり沢山のアンケートの為疲れた。もっと簡単にしてほしい。
このアンケートを記入しながら改めて高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室を訪ねてみようと思った。活動内容を周知しておくべきと考えた。
このようなアンケートを配布していることは、墨田区の「やる気！」を感じた。
アンケートを記入するに当たり、自身に知らない事が多い事がたくさんあり、今後少しでも勉強したいと思う。
高齢者と貧困の関係性は深い。すべての問いは、その解をもってより現実へと迫ることができるでしょう。アンケートが調査のためだけで終ることなく、より多い結果を願っている。
アンケートを記入して「私の生きがいって何だろう」とつくづく考えさせられた。
◆介護保険制度の周知・・・43件
もっと情報を発信してほしい(22件)。
知らない事が多過ぎるのかも？わかり易く教えてもらえる処、または、簡単に知らせてもらえる処があればと思う。
介護保険はどの様に使われているか知りたい。
介護保険の使い道がよくわからない。
福祉や介護に関する情報を得る機会はどのような方法があるかそもそもわからない。
高齢者福祉や介護保険の内容がまったくわからないので、いつ、どのようにして申請するのが不明である。もう少し一般の人にも普段からわかるような、つまりもっと普通に理解できる状態にならない。
福祉・介護保険など利用した事がないので良く分からないが施設が墨田区にどこにあるのか、入居金額など予約出来るのか知りたい。最終は自宅とは考えていないので。
介護になった時に「これだけの支援が受けられる」という説明、案内がほしい。知らない高齢者が沢山いると思う。
今迄2人で他人様に迷惑をかけない様に支え合って来たが、これからは2人共、年齢を重ね色々な事が不安になって、良く考えてみると高齢者福祉や、介護保険の事等、何も知らない事に気が付き、これからは勉強しなくてはと思う。
福祉・介護のことを高齢者にも分かりやすいように教えてもらった。10年前に比べ、いろいろ改善されていると思う。

◆各種サービスの充実、介護人材の確保・育成・・・41件
身体が不自由になった場合、電話で対応出来るシステムの構築があってほしい。
義母を介護した約10年前にくらべたら色々改善されていると思う。私達が介護が必要になったら安心してサービスを受けられるようお願いしたい。
大変だと思うが訪問介護の充実かと思う。
人生100年といわれている高齢化社会の中で、高齢者一人一人が毎日を健やかに笑顔で過ごせる様に日々努力しなければならない。その中で何かあった時には気軽に頼める福祉サービスの充実化を望む。
父や母、兄弟が介護を受けた時のことを考えると、その人の人格を尊重する介護は、まだまだ出来ていないように感じた。
外出や隣県等に出掛ける際、割引率を増やして欲しい。都バスは70才以上でパスが有るが…。地方へ行く時の飛行機、電車、バス等の割引、緊急の時(病院)のタクシー等の割引の拡充を希望。
自宅でできる限り過ごしたいので手助けサポートを充実して欲しい。
高齢者施設でのサービス低下が指摘されている由、技術的な点での(不満)指導不足による問題、よく聞か事が有る(全国的なマニュアルによる実務指導の徹底によるレベルアップが必要と思う。)
◆集いの場の整備・・・35件
高齢者が気軽に参加出来る勉強会や社会見学などの企画を沢山作って欲しい。
高齢者が集まれる場所が少ないように思う。
この3年、コロナで町会の集会所など利用出来ていないが、コロナが終息したら歌や踊り、ゲームなどしてみたいが、人によって、足腰が悪いので、二階に広間があり、そこまで階段の登り下りが出来ないので残念だといっている人達が沢山いる。この問題何とかなると嬉しい。
高齢者だけのコミュニティーではなく、さまざまな年齢層とのコミュニティーが必要。例)保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校などの機関、施設と、共同ワーク、コミュニティー場所とメニューを考えてみては？子供達には高齢者を大事に！！高齢者は子供達に元気をもらおう！！
高齢者が散歩の途中など気軽に立ち寄れる、場所(お茶が飲める、軽食が取れるような所)が各町会に有ると良い。
スポーツでもおしゃべりでも自分の居場所があって楽しく友人と交流出来ているので、生きがいがある。そういう場所がたくさんあると良いと思う。
マンション住いになり10年になるが、ほとんど交流がない。下町とはいえ、まわりの方に聞いてもご近所さんとの付き合いはあまりないようである。マンションが増えても、公園は少なく、ましてや年寄りが散歩して集う場所はない。
高齢者の特技をいかせる場所があれば生きがいになると思う。
◆入所施設等の整備・・・35件
特別養護施設を増やし低料金で入居出来る様にしてほしい(26件)。
身体が不自由になっても、気持ち的に楽な生活が出来る様に子供に対する態度では無く、1人の人間として取り組んでほしい。父が行っていた老人施設は保育施設に行ってる様な感じで、大人の人の世話と言った感じでは無かった。皆んなで楽しむにしても個人の事を考え、尊重した対応をしてもらいたいと思う。最後まで成人としての扱いをお願いしたい。
老人を対象とした病院や特護老人ホームの実態を見て来たが、私はそれらの施設は絶対に利用したくないと思っている。他人の老人を親身に世話を出来る人はいない。現世に「ナイチンゲール」はいません。悲しきかな。
介護を受けつつ楽しく暮らせる施設があると良いと願う。寝たきりになる前に入所したい。
介護が必要になった時、高齢者施設にすぐに入居できる様また料金も低額で！
養護施設が低額で、すぐに入所できるようになれば安心できる。
将来高齢者向け住宅(サービス付き高齢向け住宅・有料老人ホーム)に入居出来れば幸せと思う。相談出来る窓口が増えると良い。

◆さまざまな不安・・・27 件
介護保険料が高く生活不安(4 件)
年金生活のみで不安(4 件)
現状では、特に毎日の生活に困っていないが年齢的にいつ自分の身にと不安はある。息子と二人暮らし故、住宅ローンを抱えて、息子に全て面倒かける事は出来ずそれが今一番の悩みである。また、娘とちがい息子とはなかなか老後の話しが出来ない。息子は何とかなるといつも流すばかりで困る。
今、現在、要介護者をかかえているので自分の事まで考えられない。収入がなければ保険料も払えないし医療もケアも受けられない。不安でならない。
介護士等の暴力・虐待がないか不安。
今のところは夫と生活できているが、この先、どちらかが介護が必要になると思われる。子供達に世話をかけるのだけが、心配である。入院、介護無く、自然に逝きたい。自分が残された時、事後手続きとか、行政にかかわる事がわずらわしく思われる。
私達家族は3人共後期高齢者である。年金生活なので経済的な不安もあり1人が病気になった時、家族に負担をかける事が心配である。そうした時福祉施設への入居、介護保険による負担軽減がなされるようにしていただきたいと思う。
年齢と共に一年一年、体力が無くなってきていることが感じられる。子供の生活もあるので負担にはかけたくない。今は一人で身の廻りは出来るが年々不安に思う。
お風呂に入る時が1番不安。
◆年金、医療費、生活費・・・24 件
私は収入が年金だけで支払う金額が多いのでもう少し安くならないのかなと思う。今現在は元気だがこれからは高齢になって行くので支払が多いと貯金も出来ない。老後どうしてよいか不安である。
医療費の低額化と負担を軽くして欲しい。
頼みの年金がこんなに低額であつたら安心して暮すことはなかなか難しいものと思う。高齢者が集まって何かをやったとしてもそれが生きがいにつながりにくいことである。高齢者を担当なさる方々の意識の改革も必要ではないかと思う。安心して暮らせることができる収入面のサポート、これからとても大事と思う。
現役世代もいつかは年金暮らしになるが年金から健康保険、介護保険、住民税等々引かれる事を知っていた方が良い「年金イコール住生活費ではない」。後で困らない為に。
年金はどんどん減額していくのに介護保険料はどんどん高くなっていく。物価も高く、生活しにくい。若い頃に思っていた老後とはほど遠い。
少しでもお金に余裕があればいいと思う。でも現実には、年金暮らしで、1ヶ月生活するのもやっとだしクーラーなど使いすぎると、生活がやっていけない。介護保険や、高齢者に安い金利で、10万以下までなら貸してもらえるような制度があってもいいと思う。お金にこまってる人は、いっぱいいるから。
人生の最後に、知人・友人と共に暮らせる様な住環境ができると良いと思っている。国、都、区でも安心して(医療・お金・人)高齢者が暮らせる年金だけで生きていける世の中になって欲しいと思っているが夢でしょうか？
これ以上年金を減らさないでほしい。今でも通院で大変なのに高齢者にやさしい町になってほしい。
◆生きがい・・・23 件
生きがいを持てるには、生活が安定している事。それ以外は、生きがいは、持てない。
毎日、やることがあると生きがいに通づる(2件)。
各々の体力によって違ってくると思う。生きがいが持てるような、何かは人によって違うので。色々な文化的な教室などをと思う。
90才の高齢になったら生きがいも希望もないが、人様の世話にならずに、人生を全うしたいと思っている。医療だけは、十分なケアを受けたいと思っている。現在はテレビだけが幸せの日々である。
自分はまだ元気で仕事も周りの方とも良い関係でいるのでもう少し先の事かと思う。90才過ぎの母が元気でひとりで生活してくれることが今のところ生きがいであり、私自身しあわせだなと思っている毎日である。何かあった時ご近所の方は、大切だと思う。今はコロナにならない事に気を付けている。

◆介護保険事業・・・18件
もしも介護保険を受ける立場になった時認定に時間をあまりかけず、早めに認定して介護保険を受けられる状態を希望したい。
毎月高額な保険料を支払っているのにいざ介護の時には、すぐ入居出来ない。それに高額な料金がかかるのは不自然だと思う。何年も介護保険料を支払っているのにおかしいと思う。
要介護段階が改善した時は、改善に努力した本人と介護を受け持った側の双方にメリットのある体制になっているのだろうか。「良くなって、良かったね」と皆で喜べる福祉であってほしい。
介護従事者への負担軽減
最近、姉を亡くしたが、その間、介護サービスの方々にお世話になり大変助かった。
デイサービスに行っている。こんな事までするのかと感謝で一杯である。
かなり行き届いているように感じる。受ける方の積極性、柔軟性、対応力が重要だと思う。
◆健康づくり、介護予防・・・13件
健康体操の施設はあるが人数制限が有り、抽選で当たらないと受けられない。また、今はコロナで休んでいるため健康保持の為に週2-3回通いたいと思っている。施設を増して対応して欲しい。
健康作りのための体操等近くで手軽に利用できる施設を増やして欲しい(2件)。
1年間続けてできる体操教室を増やしてほしい。期間が短いものが多い。
介護保険も認定されないとデイサービス等受けられず、認定までいかなくても予防のためのデイサービスが受けられたら良いと思う。
出来るだけ家族迷惑をかけないよう自宅で健康面に注意して、体操など行っている。
指導者の不在、謝礼、会場確保と問題が山積している。
◆思うこと、要望・・・12件
病院に緩和ケアが充実していると安心出来る(がん患者として最終段階に近づき、都内に緩和病棟が非常に少ないことに不安を感じた。)
健康保険と介護保険を一緒にして集金したらどうか、保険料と予算配分をしっかりと行えば高齢者が多い、少ないとか色々対応可能。
協会けんぽ、厚生年金の扶養家族の保険料が無料なので20才以上の扶養家族から100円でもいいので保険料を徴収すれば加入者の保険料や年金保険料を値上げしなくてもよくなると思う。
マイナンバーカード保険証の義務化反対である。メリットが全く感じられないからである。一体化した時、失くした時リスクが怖い。医療機関に一時かかれない。現在の保険証だと区役所ですぐ再発行してもらえるので。
母の看取りを経験した。介護施設(病気になると病院に連れて行かなければならない)と末期の医療の診察を併設してほしい。
◆福祉のまちづくりの推進・・・12件
役所の色々な手続を一つの窓口ですべて出来るように年寄りがお茶をのみながら話せるスペースをたくさん作って頂きたい。高齢者は楽しみがないように思える。公共の喫茶店など気軽に入れるステキな所を提供して欲しい。
福祉がもっと身近にあってほしい。
墨田区福祉保健センターに通っているが、今現在、満足している。
高齢者が安心して暮らせる、住みよい「すみだ」にしてほしい。
これから高齢者が増え続けると思う。お元気で活躍できる場所があると良いと思う。若い方の希望となれるよう努力したいと思う。
「明るく、楽しく、元気良く」日々を過ごせる墨田区であってほしい。生きがいはそれぞれの心の中にあるものと思うので、安心・安全な地域であることを願う。

◆住宅の確保・・・8件
低所得者でも安心して生活できる住環境(4件)。低所得者も持ち家でも暮らしていける福祉住宅にお金をあまりかからない生活をしたい。単身でも、都営住宅に入れたい(3件)。
現在賃貸住宅に住んでいる。家賃が大変である。都営や区営に申し込んでもなかなか入れない。2年ごとに更新があり一度に10万円も取られる。今は葬儀代もない。年金は、どんどん減らされている。これで、もし、入院する様なことがあったら、死にたい気持ちになる。前回はアンケートを出したが、どの様なことが変わったのか。
公営アパートの空室をリフォームして高齢者施設にする。
◆就労の促進・・・7件
私は今現在介護を必要としていないが、介護制度の勉強もかねてバイトとして介護に関わる仕事がしやすいシステムがあればうれしい。
いつまでも現役で働けることが私の健康の秘けつだと思っている。シルバーでも働ける場所が沢山あると有り難いし、生活も安定する。80才位まで働ける場所があると有り難い。
高齢になっても働ける職場があると元気になれると思う。本人次第であるけれど、働いている人は生き生きとしている。
◆新型コロナウイルス感染症・・・7件
コロナのためあまり自由がないのでまずは自分が健康で家族に迷惑をかけないようにしているので特に記すことはない。
コロナで町内や老人クラブで何も出来ず楽しみが少ない。
コロナ禍で友人、親戚、兄弟、姉妹、仕事関係など人との交流をどんどん無くしている状況である。このまま高齢者になっていく不安は図り知れない。自分で動いていかないとと思う。
墨田区はコロナの適正な指導力にすぐれていて安心出来るので終活を準備している。出来るかぎり介護の世話にならないで自立生活を心がけている。100才時代に地域でゆったりと生活して豊かな人生を送りたいと思っている。
コロナ禍により自由な行動が制限され、コーラスも3年練習していない。人のお付き合いも変わり高齢者には痛い。
◆近所付き合い・・・6件
マンションに居住していると町内会から20年間呼びかけが全くない。子供会はあるようである。
長い間、この墨田区で暮らしていて、人情深い方等が、側にいる。身近で、お互いが信頼し合い、励まし合う事が、非常に大事だと、思う。困った時は、お互い様で定着をして、隣近所の方々が、もっと身近に、会って行かれる、そんな町会で、あってほしい。
マンションが立ち近所の人がいなくなっている。地域の中で生きがいをもって暮らせるすみだ区にはなっていない気がする。町づくりにも工夫が必要ではないかと思う。
◆入浴、買い物・・・4件
銭湯の廃業が多く、銭湯が少なくなってきたので、高齢者を対象にした身守りの有る安心して利用できる公営の小規模の入浴施設など必要かと思う。
デイサービスも主人の付き添いで(リハビリ等)見学、参加させてもらったが、設備・人手・時間の使い方で、大変かと思うが入浴も週1回でもできたらと思った。
◆デジタル・・・3件
超高齢者は、認知症でなくても急速な社会のデジタル化に順応するには大変である。
無料か若しくは低額で受けられるパソコン教室やネット、スマートフォンの使い方を教えてくれる所があれば良いと思う。
一人暮らしの高齢者にはスマホを持たせるのが必要であると考え。コロナ対策、見守りなど多面的に活用できるはず。
◆在宅医療の充実・・・3件
在宅医療の充実を墨田区でも速やかに行ってほしい。

2. 在宅介護実態調査

1. 本人（高齢者、要介護者）について
◆社会参加について
高齢者が気楽に集合して、話などができる場所がほしい。食事など子ども食堂のような所があるとよい。
同世代の人たちと、おしゃべりを楽しみたい。
囲碁や将棋、おりがみ、歌の会など、もっと身近に自由に行ける場所があるとよい。高齢者の歩行範囲や距離を考えて、数多く設置してほしいと思う。
低額でできる趣味（折り紙、絵、スポーツ系）のサークルが近くにあるとよい。
高齢者や障害者であっても、内職でも何でもよいので人に役立つ存在でいたいと思っている。そのような可能性を否定しないでほしい。
高齢者＝福祉と考えないで、元気な高齢者の活躍の場を提供してほしい。
◆自立・自助について
サロンの利用以外に、例えばプールなど、2～3か所で健康増進のために運動をすることに対して補助をすることが、結果的に高齢者医療保険の支出を少なくすることになるのではないかと思う。
自分のことは自分でできているので、現在介護は受けていない。重い物は、夫が買い物してくれる。近所への買い物は、自分で行くようにしている。
本人は自立のために頑張っている。就労は無理だが、生活面では頑張れるのではないかと思っている。行政の支援に感謝している。
介護保険の利用による介護器具の貸し出しによって、外出して人と接する機会が得られている。人と接することで刺激を受け、楽しい人生を送る事ができる。このような機会を今後も生きがいとし、活動をしていきたいと思う。
なるべく周りの人たちに世話にならないよう心がけて過ごしている。
自宅で、最後まで自身のことができるなら、それが一番よいと思う。
何でもやってもらうのではなく、できる限り自分でやる余裕が、社会に認識されるとよい。
以前住んでいたところで、医療にかからないということで、表彰と記念品をいただいたことがある。健康で元気に過ごしている人にも何かこのようなものがあると、励みになると思う。

2. 介護者の生活、不安等について
◆介護者の現状等について
デイサービスには助けられている。自分の生活をデイサービスの時間に合わせている。
要介護者である家族3人を1人で介護しながら、ヘルパー職として正社員で週5日働いている。金銭的にも厳しく助けを求めたい。
本人（要介護者）・介護者ともに体力が衰えていく中、今の介護サービスは助かる。介護する側の負担が少しでも減る社会にしてほしい。最後は自宅で生涯を終えられれば幸いと思う。
屋内の移動が困難になった時の排せつや、認知症が進んだ時の対応（セールスの電話対応やタクシーで遠くまで行く等）について、24時間付き添うことはできないので、今後、心身の状況が悪化した場合を考えると心配である。
同居家族への負担がまだまだ大きい。要支援・要介護度に関わらず、同居家族のレスパイトにも力を入れてほしい。介護をする者も、うつや腰痛などでしんどいので、そのサポートがほしい。
◆老老介護について
（家族が）デイサービス、ショートステイを利用させていただき、大変助かっている。82才と高齢でもあるので、日々認知症が進んでいるように感じる。この先、どれだけお世話ができるかと不安である。
最近パートの仕事を辞めた。私は81才になるが、94才の姉の介護が大変で、このままだと共倒れになるのではと不安である。
老老介護は肉体的にも大変である。年月が長くなると介護する人も体力が衰えていくので本当に辛い。デイサービスが週3～4回位受けられればよいと思う。
老老介護で、要介護者の身体が大きく、介護者は身体が小さいので、何をするにも大変である。無理をすると介護者の方が先に倒れてしまう。
介護をする方も高齢になってくるので、いつまでも元気という訳にいかない。何かあったとき、すぐに要介護者を預けられる所があるとありがたい。
91才の自分が94才の夫の介護をしている。年々老いて行くので、これからどうなるのかと不安になることがある。今のところ、ほとんど自分1人で夫の面倒を見ているが、それが健康のもとと思ひ毎日を過ごしている。
◆一人暮らし等による不安について
自分（介護者）が病気等で夫をみられなくなったらどうなるのかと考えてしまう。
一人暮らしなので、何かあったらと思うとすごく不安になる。
一人暮らしの生活をいつまで続けていけるか心配である。
◆働きやすい職場環境づくりについて
介護者が働く会社に助成金等の支給をしたら、休みやすくなるのではないかな。
仕事と介護の両立が難しい。介護をしている親と意見が合わないことが多く、困っている。
職場において、育児休暇は1年以上の年単位で複数年あるのに対し、介護休暇は90日から180日と格差がある。介護休暇も育児休暇と同程度にならないものかと思う。
介護休暇は年に5日あるが、無給のため自分の有給休暇を介護に使っており、自分のための休みがほとんど取れない。育児休暇のように有給扱いになるとよいと思う。
パートタイムで働いているが、病院の付き添いなどのときは仕事を休まなければならない、その日の収入が無くなるので生活に響く。経済的な支援があると助かる。
◆介護離職等について
親の介護により仕事を辞めたが、介護者も高齢者になっていく。様々な支援を望むところであり、合わせて区がより住みよいまちを作してほしい。
夫の介護で10年前に仕事を辞めたが、その際は仕事と介護の両立が大変だった。今であれば良い方法があったかと思う。
介護離職を減らすことが重要なので、そのためには介護サービスが充実することが必要であると思う。

3. 介護サービス全般について
◆介護サービス等の充実について
高齢者のタクシー乗車料の割引等、移動の支援を充実してほしい。
見守りがあれば、心配することが少なくなると思う。
介護と育児の両方を行う人への家事援助サービスや、介護者が体調不良になった時の支援があるとよい。
要介護者を日中1人にしておく時間があるので、その際、誰かに1～2回様子を見てもらいたい。
入所施設を利用したいが、高額であり困難である。一方で、それ以上に家でなるべく家族と過ごしたい思いが強い。
看護小規模多機能型居宅介護施設をもっと増やしてほしい。また、ショートステイの枠を増やしてほしい。
高齢者向けのサービスは、利用者の都合よりも業者の人員体制等によりサービスの質が決まってしまうので、利用者には選択する権利がないように思う。
急な体調不良時や本人の生きがいのための外出の支援など、保険外の支援が充実するとよい。また、インシュリン対応や在宅医療の支援がないと日中独居の介護は難しく、医療面の制度の充実が必要だと思う。
◆介護サービス利用料について
介護者は、仕事をしていなくても負担が多いので、もう少し料金の負担を少なくして、色々な介護を受けられるようにしてほしい。
歩行器や車椅子の利用代は安くて感謝している。デイサービスの利用代金は1回約5千円と高いと思う。
日々介護量が増えると、仕事と私生活が減り、支出が増え収入が減ることになるので、支援していただきたい。経済的に厳しく、父の介護ですでに自分の老後費用もなくなり、母の介護をしている状態である。
デイサービスの費用が安ければ助かる。
年金生活者としては、介護費用の増加が不安である。年金の手取り額が減少すること、また、介護について、保険料やサービス料の増加は、緩やかであって欲しい。
経済面に多少不安があるので、その点のケアがあればありがたい。
◆介護人材の確保・育成について
家族に任せるのではなく、社会が誇りを持って介護する制度へと向うべきである。その際、金銭だけではなく、人としての誇りなどを再考する必要がある。すべて金銭で解決しようとすることは困難であり、介護職に誇りを持たせることが大切である。
ケアマネジャーやヘルパーの方々は、皆、一生懸命に世話をしてくれるので、もっと報酬をもらえるようになってほしい。
介護保険サービスに携わるスタッフ職員の、利用者に対する心使いやレベルアップを期待する。
介護スタッフが安定しない時が多い。人材確保と教育育成、介護の経験者が必要だと思う。
安くて質の高いサービスがもちろん望まれるが、自分（介護を受ける人）の周りの方々の協力は欠かせないと思う。こうした方への教育、アドバイスなどが必要だと思う。
◆介護サービス事業所・従事者等への感謝について
今の状態で満足しており、いつもありがたく思う。
デイサービス（週5回通っている）での生活に満足しているので、このまま継続できれば良いと思う。
いつも皆様にお世話になっており、ありがたく思う。
デイサービスでお世話になっており、助かっている。大変ありがたく思う。
火・木曜日のデイサービスが楽しい。

4. 介護保険制度、墨田区の介護施策について
◆介護サービス等のPRについて
相談窓口を充実してほしい。
介護保険サービスはどのようなときに使えるか教えてほしい。
今後認知症が進んだときにどのようなサービスを利用できるのか、アドバイスをしてくれる方がいない。経済的に負担が少なく利用できるサービスがあるのか不安である。
将来の生活や病気、死亡時のことについて、相談できる場所や人を知りたい。また、成年後見人のことを知りたい。
問 21、問 22 で災害時の避難について質問があったが、母は認知症であり、また少しの距離しか歩けないため、母を避難所に連れて行くこと自体難しいと思う。こうした方を対象としたガイドラインがあれば教えてほしい。
介護者も高齢になると体力に限界がある。本人は施設に入所することに対して良い印象を持っておらず、理解を得ることも難しい。もっと施設のPRをしてほしい。現状の在宅介護はかなり厳しい。
◆介護保険料について
介護保険料を安くしてほしい。
難しいと思うが、収入が少ないので、介護保険料をなるべく抑えたいので、手厚くサービスを提供していただけたらよいと思う。区役所は親切に色々答えてくれるので、感謝している。
◆入所施設の整備について
妻が認知症のため、デイサービスを利用している。先日、グループホーム見学に行ったが、入所は2年位待つと聞いた。
(親族が) 高齢で単身住まいのため不安である。ショートステイを利用しているが、昼間・夜の見守りができない時間があり、特養に入れるまでの生活をどうするか不安である。
特養など老人ホームの施設を充実させてほしい。低料金で利用できれば経済的負担も少なくよい。
介護者本人も離職が近いと思われる。認知の程度が進み、本人の自覚がなくなったら、施設への入居を考えざるを得ないと思う。スムーズな入居が可能になればと思う。
自営で二人で居住しているため、ショートステイを申し込んでいる。まだ連絡がないが、期待しているところである。
老人ホームなどの施設に空きがなく、なかなか入所できない。民間の施設だと料金が高く入れない。もう少し介護保険から料金を援助して、施設を利用しやすいようにしてほしい。
以前老健を見学したが、元気になって家に帰る施設には思えず、特養への入所待ちをしてるような様子であった。短期入所でリハビリなどができ、元気になって家に帰れる施設があれば良いと思う。
特養ホームの施設を増設し、希望すればそれほど待たずに入居できるようになってほしい。
◆要介護認定について
身体的機能は退院時とまったく変わらず歩行困難の状態なのに、要介護4から要介護3に介護度が変わった。調査員の方は元気そうだからと話していたが、どうなのか。
介護認定の基準がわかりにくい。“最近判定が厳しくなった”という説明だけでは納得できない人もいるのではないかと。
私の夫は90才で、認知症になり、がんで6回手術をした。大腿骨頸部骨折により人工骨頭が入っている。歩いても足が上がらなくて転んだり、つまずいたりするので、要支援1では軽いと思う。
現在要介護1で、かなり認知症が進んでいるが、自力歩行可能で持病なしの状態である。区の担当者が調査に来る時はまともに対応できてしまうので、介護度が上がらない。判定基準に不満がある。
今回、要介護2から要介護1になった。介護認定の方法について問題があると思う。第三者のみで判断すべきではないと思う。
◆行政への評価、感謝等について
区の福祉行政に、とても感謝している。
2人とも年金で生活している為、高齢者施策のオムツの支給は、たいへんありがたく利用している。

資料

使用した調査票

